

Quest®



KACE® システム導入アプライアンス9.0

管理者ガイド



目次

KACEシステム展開アプライアンスについて.....	11
はじめに.....	12
アプライアンスの使用を開始するためのタスク.....	12
アプライアンスコンポーネントについて.....	13
管理者コンソールへのログイン.....	14
リストのフィルタと情報の検索.....	16
製品ドキュメントへのアクセス.....	17
言語設定の構成.....	19
アプライアンスのデフォルトテーマの変更.....	19
ダッシュボードの使用.....	21
ダッシュボードのカスタマイズ.....	21
アプライアンスの設定.....	22
ネットワークの初期設定の構成.....	22
ネットワークの初期設定の修正.....	23
デフォルトパスワードの変更.....	25
コマンドラインコンソールを使用した管理者パスワードのリセット.....	26
Samba共有パスワードの変更.....	27
VNC®パスワードの設定.....	28
起動マネージャの認証を有効にする.....	28
iPXEコンソールへのカスタムバックグラウンドイメージの追加.....	29
アプライアンスの日付と時刻設定の構成.....	29
日付と時刻の設定.....	29
アプライアンス上のファイルの管理.....	30
Eメール通知の設定.....	31
ユーザーインターフェイス通知の設定.....	34
リンクアグリゲーションを有効にする.....	36
集約リンクの作成.....	36
データ共有の基本設定の構成.....	37
基本的なアプライアンスデータ使用率の共有.....	37
詳細な使用率データの共有.....	37
KACEベータプログラムへの参加.....	38
Quest KACEアプライアンスのリンク.....	38
アプライアンスリンクの有効化.....	39
KACEリンキングハッシュの生成.....	40
名前とキーのアプライアンスへの追加.....	40
リンク先アプライアンスを無効にする.....	41

アプライアンスの移行.....	41
アプライアンスデータの移行.....	41
ユーザーアカウントおよびユーザー認証のセットアップ.....	44
ローカル管理者アカウントの追加または編集.....	44
LDAPサーバーでのユーザー認証の設定.....	45
LDAPサーバーのテスト.....	47
ユーザーアカウントの削除.....	47
ユーザーセッションのレビュー.....	47
ロケーションデータベースのインストールと設定.....	48
ユーザーセッションのリストを表示.....	49
セキュリティ設定項目の設定.....	50
SNMP監視の有効化.....	50
既存の証明書を使用するのSSL有効化.....	50
新しいSSL証明書プライベートキーの生成.....	51
SSLの無効化.....	52
データベースアクセスを有効にする.....	52
SSHルートログインの有効化（KACEサポート）.....	52
総当たりログイン攻撃の防止.....	53
展開の準備.....	54
展開環境のセットアップ.....	54
オンボードDHCPサーバーを有効にする.....	54
オフボードDHCPサーバーの設定.....	55
KACEメディアマネージャのダウンロードおよびインストール.....	55
メディアマネージャについて.....	56
Windows ADKのダウンロードおよびインストール.....	62
KACEメディアマネージャを使用してファイルをアップロードする.....	62
共有ディレクトリからファイルをアップロードする.....	63
ソースメディア詳細の表示.....	64
ソースメディアOSのフィンガープリント.....	64
ソースメディアのメタデータの表示または更新.....	64
展開のタイプの選択.....	65
サポートされるイメージのタイプ.....	65
デバイスインベントリの管理.....	67
ネットワークスキャンの構成と実行.....	67
ネットワークインベントリのアプライアンスへの追加.....	67
ネットワーク上のアクティブデバイスと非アクティブデバイスのスキャン.....	68
デバイスの手動追加.....	68
ドメインへのデバイスの参加.....	69

Wake On LAN要求の発行.....	69
KACEシステム管理アプライアンスインベントリ内のデバイスに展開する.....	70
ネットワークスキャンからのデバイスの詳細の表示.....	70
KACEエージェントへのKUIDの適用.....	71
デバイスインベントリからのデバイスの削除.....	72
ネットワークインベントリからのデバイスの削除.....	72
デバイスの登録解除.....	72
デバイスアクションアイコンについて.....	73
デバイスアクションの実行.....	74
VNCセッション経由でのリモートデバイスへのアクセス.....	74
ラベルの使用.....	75
ラベルの作成および適用.....	75
ラベルからのコンポーネントの削除.....	75
アプライアンスからのラベルの削除.....	76
ラベルに割り当てられているコンポーネントの表示.....	76
Windows または Linux ブート環境を作成する.....	77
Windowsブート環境の作成.....	77
Linux ブート環境の作成.....	78
Windows ドライバの更新.....	79
新しい KBE をアプライアンスのデフォルトとして設定.....	79
PXEブートメニューから起動環境を非表示にする.....	79
ベストプラクティス : Windows 用の KACE ブート環境 (KBE) の作成.....	80
ドライバの管理.....	82
システムイメージへのドライバの追加.....	83
スクリプト形式のインストール展開へのドライバの追加.....	83
ドライバフィードを有効にしてドライバ更新を自動化する.....	84
アプライアンスへのドライバパッケージのインストール.....	84
ドライバフィードを無効にする.....	85
デバイス固有のドライバを追加するフォルダの作成.....	85
アプライアンスパッケージを生成して大きいドライバファイルをインポートする.....	85
アプライアンスへのドライバパッケージのインポート.....	86
KACEブート環境ドライバの理解.....	86
ネットワークドライバとストレージドライバの手動による追加.....	86
ネットワークドライバおよびストレージドライバのディレクトリの再キャッシュ.....	87
ポストインストールタスクとしてのドライバの追加.....	88
不足しているドライバのリストの表示.....	88
ネットワークドライバの管理.....	88
ネットワークドライバとストレージドライバのダウンロード.....	89

ドライバパッケージのインポート.....	90
デバイスの互換性の表示.....	90
ドライバの互換性詳細の表示.....	90
ドライバのエクスポート.....	91
ドライバの再キャッシュ.....	91
オペレーティングシステムドライバの管理.....	92
スクリプト形式のインストール用のドライバフィードを有効にする.....	92
システムイメージ用のドライバフィードを有効にする.....	93
ドライバフィードを無効にする.....	93
オペレーティングシステムのドライバパッケージのダウンロード.....	94
ポストインストールタスクとしての、OSへのドライバの追加.....	94
イメージのキャプチャ.....	95
キャプチャの準備.....	95
システムイメージのキャプチャ.....	95
シングルパーティションの作成.....	97
CドライブをNTFSとしてフォーマット.....	97
UEFIパーティションの作成.....	97
UEFIパーティションの適用.....	98
システム提供のWIMイメージのキャプチャ.....	98
システムイメージの編集.....	99
WIM イメージのインポート.....	100
Sysprep実行済みイメージの応答ファイルの管理.....	102
Sysprep実行済みイメージの応答ファイルの作成.....	102
応答ファイルの設定の表示と編集.....	105
Windowsシステムイメージ作成のためのベストプラクティス.....	106
ユーザープロファイルのキャプチャ.....	110
アプライアンスからのUSMTソフトウェアのアップロード.....	110
メディアマネージャからのUSMTソフトウェアのアップロード.....	110
USMTスキャンテンプレートの作成.....	111
ユーザープロファイルのスキャン.....	112
ユーザープロファイルのオフラインスキャン.....	113
ターゲットデバイスへのユーザープロファイルの自動展開.....	114
ターゲットデバイスへのユーザープロファイルの手動展開.....	115
スクリプト形式のインストールを作成する.....	116
スクリプト形式のインストールの作成.....	116
スクリプト形式のインストールの編集.....	116
設定ファイルの作成.....	117
登録データ設定.....	119

Administratorアカウント設定.....	120
一般設定.....	120
ネットワーク設定.....	121
Windowsコンポーネント設定.....	122
スクリプト形式のインストールを変更してソースメディアを変更する.....	122
展開オプションの指定.....	122
スクリプト形式のインストールセットアップ構成ファイルの修正.....	123
Vista MBRのインストール.....	123
XP 2003 MBRのインストール.....	123
タスクシーケンスの作成.....	124
タスクの追加.....	124
アプリケーションの追加.....	125
BATスクリプトの追加.....	126
カスタムHAL置換タスクの追加.....	127
DiskPartスクリプトの追加.....	128
共通のDiskPartコマンドラインオプション.....	129
管理対象インストールタスクの追加.....	129
アプライアンスのリンク.....	130
管理対象インストールの表示とインポート.....	130
管理対象インストールタスクの編集.....	131
命名規則の追加.....	133
PowerShellスクリプトの追加.....	136
プロビジョニングパッケージの追加.....	136
サービスパックの追加.....	137
シェルスクリプトの追加.....	138
KACEエージェントインストーラーの追加.....	138
Windowsスクリプトの追加.....	139
タスクグループの操作.....	140
タスクグループの追加.....	140
ファイルのアップロードについて.....	141
実行時環境について.....	141
タスクのエラー処理オプションの設定.....	142
システム展開へのタスクの割り当て.....	142
スクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当て.....	144
カスタム展開へのタスクの割り当て.....	145
展開タスクの編集.....	146
展開の自動化.....	148
ブートアクションの作成.....	148

次回のネットワーク起動での展開の実行.....	149
ブートアクションの修正.....	149
デフォルトのブートアクションの設定.....	150
新しい WIM イメージをサーバとの間で直接ストリーミングする設定.....	150
展開オプションの指定.....	151
展開のスケジュール.....	152
ブートアクションの削除.....	152
マルチキャストWIMイメージの展開の作成.....	152
デフォルトマルチキャスト設定の編集.....	153
進行中の自動展開の表示.....	154
完了した自動展開の表示.....	154
失敗したタスクの編集.....	154
自動展開イメージ詳細の表示.....	155
手動展開の実行.....	156
ブート環境を起動可能なISOファイルとしてダウンロード.....	156
ターゲットデバイスのネットワーク起動.....	157
イメージの手動展開.....	157
進行中の手動展開の表示.....	158
完了した手動展開の表示.....	159
カスタム展開の管理.....	160
カスタム展開の作成または変更.....	160
オフライン展開の管理.....	162
オフライン展開の作成.....	162
Macデバイスのイメージ作成.....	164
Mac OS X用のメディアマネージャのダウンロード.....	164
NetBoot環境イメージの作成.....	165
NetBootサーバーを有効にする.....	165
キャプチャ実行前のイメージのカスタマイズ.....	166
Mac OS Xイメージのキャプチャ.....	166
展開実行前のイメージのカスタマイズ.....	167
シングルHFS+パーティションの作成.....	168
Mac OS X ByHost環境設定の適用.....	168
Mac OS Xコンピューター名の収集.....	168
Mac OS Xコンピューター名の適用.....	169
Mac OS Xコンピューター名の変更.....	169
Active Directoryドメインへのデバイスの参加.....	169
ユニキャストMac OS Xイメージ展開の実行.....	170
すべてのスクリプト用の環境変数.....	170

マルチキャストMac OS Xイメージ展開の実行.....	170
マルチキャストDMGイメージの展開の作成.....	171
Mac OS Xマルチキャスト展開の進行状況の表示.....	171
Mac OS Xマルチキャスト展開のログファイルの表示.....	172
リモートサイトアプライアンスについて.....	173
リモートサイトアプライアンスセットアップの要件.....	173
ホストデバイスへのRSAのインストール.....	174
RSAのネットワーク設定の構成.....	174
KACEシステム展開アプライアンスのRSAへのリンク.....	175
RSA用のデフォルトのKBEの設定.....	175
RSA設定の確認.....	176
次の手順.....	177
アプライアンスコンポーネントのインポートとエクスポート.....	179
コンポーネントのエクスポートのスケジュール.....	179
オフボードパッケージ転送の使用.....	180
インポート対象のパッケージのアップロード.....	181
アプライアンスコンポーネントのインポート.....	181
エクスポート対象のコンポーネントのパッケージ.....	182
パッケージファイル名.....	183
ディスク容量の管理.....	185
使用可能なディスク容量の確認.....	185
デバイスに関連付けられていないイメージの削除.....	185
デバイスに関連付けられたイメージの削除.....	186
未割り当てのスクリプト形式のインストールの削除.....	186
未割り当てのブート環境の削除.....	186
ソースメディアの削除.....	187
未割り当てのプレインストールタスクの削除.....	187
未割り当てのポストインストールタスクの削除.....	187
オフボードストレージの有効化.....	187
オフボードストレージ用の仮想ディスクの追加.....	188
オフボードデータをオンボードストレージに戻す.....	188
オフボードストレージデバイスの設定.....	189
外付けストレージを使用するためのベストプラクティス.....	190
アプライアンスの問題のトラブルシューティング.....	192
ネットワーク上でのデバイス接続のテスト.....	192
Quest KACEテクニカルサポートへのtetherを有効にする.....	193
サポートチケットを開く.....	194
起動マネージャのトラブルシューティング.....	194

ターゲットデバイスがネットワーク起動できるかどうかをテストする.....	195
起動マネージャのタイムアウトの設定.....	195
ローカルハードディスク起動方法の選択.....	195
デバイスの回復.....	196
破損したデバイスの回復.....	196
アプライアンスログファイルのダウンロード.....	196
すべてのアプライアンスログファイルのダウンロード.....	196
アプライアンスログファイルの表示.....	197
アプライアンスログのタイプと説明.....	197
アプライアンスのシャットダウンと再起動.....	200
アプライアンスの電源をオフにする.....	201
アプライアンスの再起動.....	201
アプライアンスデータをバックアップするためのベストプラクティス.....	202
アプライアンスソフトウェアの更新.....	204
アプライアンスバージョンの表示.....	204
自動更新の確認および適用.....	204
アプライアンスの手動更新.....	205
用語集.....	207
A.....	207
B.....	207
C.....	207
D.....	207
H.....	208
I.....	208
G.....	208
K.....	208
L.....	208
M.....	209
O.....	209
P.....	209
R.....	209
S.....	210
T.....	210
U.....	210
V.....	210
W.....	211
当社について.....	212
テクニカルサポートのリソース.....	212

法的情報.....	213
索引.....	214

KACEシステム展開アプライアンスについて

Quest KACEシステム展開アプライアンスは、イメージのキャプチャと展開を行うためのネットワーク中心のソリューションを提供します。このアプライアンスはシームレスなクロスプラットフォームのイメージ処理ソリューションを提供するので、ユーザーは1台の管理者コンソールからMicrosoft® Windows®プラットフォームおよびApple® Mac®プラットフォームをプロビジョニングできます。また、ユーザーは1台のデバイスまたは同時に複数のデバイスに、設定ファイル、ユーザープロファイル、およびアプリケーションをイメージとして展開できます。

このアプライアンスは、同種および異種の両方のハードウェア環境における展開を自動化するのに必要なツールを提供し、マルチキャスト機能とタスクエンジン機能により、大規模なイメージ展開を高い信頼性で実現できます。ビルトインのドライバフィードにより、Questのドライバモデルが自動的にダウンロードされ、パッケージ管理機能を使用することにより、サードパーティ製のドライバパッケージをアップロードすることもできます。アプライアンスをKACEシステム管理アプライアンスと統合して、KACEシステム管理アプライアンスインベントリをイメージングすることもできます。KACE システム展開アプライアンスは、仮想アプライアンスとして使用できます。

このアプライアンスの、シリアルナンバー、付随するエージェントのバージョン、およびサードパーティのライセンスとオープンソースの著作権などの情報を表示するには、アプライアンスのダッシュボード ページの左下にあるバージョン番号をクリックしてください。

はじめに

アプライアンスをセットアップするには、アプライアンスをネットワークに接続し、初期設定コンソールからネットワーク設定を構成します。アプライアンスをネットワークに接続したら、ブート環境を構築するのに必要なツールのダウンロード、デフォルトパスワードの変更、ドライバの追加、および他の展開タスクの設定を行うことができます。

アプライアンスの使用を開始するためのタスク

アプライアンスをインストールして環境を設定することにより、オペレーティングシステムの展開を準備できます。

アプライアンスの使用を開始するためのタスク

タスク	方法
アプライアンスのインストールとセットアップ	モニタとキーボードを使用してアプライアンスをネットワークに接続し、ネットワーク設定を構成します。
管理者コンソールへのログイン	Webブラウザを開き、アプライアンスのURLである <code>http://appliance_hostname</code> を入力します。ここでライセンスキーを入力し、アプライアンスを登録できます。
パスワードの保護	デフォルトのパスワードを変更します。必須のタスクではありませんが、Quest KACE では、アプライアンスの最初のセットアップ時にデフォルトのパスワードを変更することをお勧めします。
管理者デバイスとしてのデバイスの使用	アプライアンスがインストールされているデバイスの管理者権限を所有していることを確認します。
KACE ブート環境 (KBE) または NetBoot 環境を構築するためにアプライアンスで必要なツールのダウンロード	Microsoft Windows ADK、KACE メディアマネージャ、および Microsoft .NET 4 をダウンロードします。
KACE ブート環境の作成	メディアマネージャを使用して、ブート環境を作成します。ブート環境には、オペレーティングシステムを展開するためのドライバとツールが含まれています。
デフォルトの KBE の設定	デフォルトのブート環境を選択し、ターゲットデバイスをアプライアンスから起動できるようにします。

タスク	方法
ドライバの更新	KBEで必要なドライバを追加し、ドライバを自動更新するためにドライバフィードを有効にします。
DHCPサーバーの設定	アプライアンスからターゲットデバイスをネットワーク起動するために、DHCPサーバをセットアップします。
ブート環境のテスト	アプライアンスからターゲットデバイスを起動できることを確認します。
ユーザーファイルと設定の移行	Windows User State Migrationツール (USMT) のバージョン5.0を使用して、デバイスからユーザープロファイルをキャプチャします。
オペレーティングシステムのソースファイルのアップロード	メディアマネージャを使用して、アプライアンスにOSソースファイルをアップロードします。
OSの展開	スクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開を使用してOSを展開します。

アプライアンスコンポーネントについて

イメージ展開をサポートするアプライアンスコンポーネントには、仮想アプライアンス、ブート環境を構築するユーティリティ、サポートポータル、およびリモートデバイスをネットワーク起動するための仮想リモートサイトアプライアンス (RSA) があります。

アプライアンスは、以下のコンポーネントで構成されています。

オプション	説明
仮想アプライアンス	KACE システム展開アプライアンスは、仮想アプライアンスとして使用できます。VMware または Microsoft Hyper-V インフラストラクチャを使用します。技術仕様については、 https://support.quest.com/kace-systems-deployment-appliance/technical-documents を参照してください。
コマンドラインコンソール	アプライアンスへのターミナルウィンドウのインターフェイスはコマンドラインコンソールです。これは主にアプライアンスのネットワーク設定を構成するためのインターフェイスです。
管理者コンソール	管理者コンソールは、アプライアンスを操作するために使用するWebベースのインターフェイスです。管理者コンソールにアクセスするには、 <a href="http://<appliance_hostname>/admin">http://<appliance_hostname>/admin に移動します (<appliance_hostname>はアプライアンスのホスト名です)。
サポートポータル	サポートポータルは、ヘルプを依頼したり、問題を報告したりするためのチケットを送信できるように

オプション

説明

KACEメディアマネージャ

するWebベースのインターフェイスです。また、ネットワーク接続をテストしたり、問題をトラブルシューティングするためにQuest KACEテクニカルサポートが一時的にお客様のアプライアンスにアクセスすることを可能にしたりできます。

リモートサイトアプライアンス (RSA)

KACEシステム展開アプライアンスライセンスを使用して仮想リモートサイトアプライアンス (RSA) にリンクすることにより、リモートデバイスをネットワーク起動できます。リモートサイトアプライアンスは読み取り専用です。

管理者コンソールへのログイン

ネットワーク設定を構成し、アプライアンスを再起動すると、ローカルエリアネットワーク (LAN) 上のすべてのデバイスから管理者コンソールにログインできます。

この時点でデフォルトの管理者アカウントはアプライアンス上で唯一のアカウントになります。Quest KACEテクニカルサポートのアクセスを有効にしていないときにパスワードを忘れた場合は、設定画面からSSHルートログインを有効にしてテクニカルサポートにお電話でお問い合わせをして、パスワードをリセットしてください。

1. Webブラウザを開き、アプライアンスの管理者コンソールのURL (<http://ホスト名>) を入力します。例 : <http://appliance>。
初期設定ウィザード ページが表示されます。
2. 初期設定ウィザード で、次のオプションのいずれかを選択してアプライアンスモードを選択します。
 - **KACE SDA**として使用
 - **リモートサイトアプライアンス**として使用する
3. **次へ** をクリックします。
4. 次の情報を入力します。

設定

説明

ライセンスキー

Quest KACEからの案内のEメールに記載されているライセンスキーを入力します。ダッシュも含めてください。ライセンスキーがない場合は、Quest KACEテクニカルサポート (<https://support.quest.com/contact-support>) までご連絡ください。

管理者パスワード

デフォルトのadminアカウントのパスワードを入力してください。アプライアンスの管理者コンソールにログインするには、このアカウントを使用します。このパスワードを忘れないでください。このパスワードがないと、管理者コンソールにログインできません。

	<p>i 注: 複数のアプライアンスを使用する場合には、すべてのアプライアンスのadminアカウントに同じパスワードを使用することをお勧めします。これにより、後でアプライアンス同士をリンクすることが可能になります。</p>
登録データ	アプライアンスからのログと通知を受け取る会社またはグループの名前、および担当者またはグループのEメールアドレスを入力します。
ネットワーク接続	KACEシステム展開アプライアンスは、ライセンス情報を検証するためにネットワーク接続されている必要があります。
デフォルトのアプライアンステーマ	アプライアンスのデフォルトのカラーテーマ。ライトテーマがデフォルトですが、必要に応じてダークまたはハイブリッドテーマを選択できます。デフォルトのアプライアンステーマがニーズに合わない場合、ユーザーは、別のテーマをアカウントに関連付けることもできます。詳細については、『管理者ガイド』を参照してください。
タイムゾーン	アプライアンスが設置されている場所のタイムゾーンを選択します。ブラウザのタイムゾーンはデフォルトで選択されています。
<p>5. (オプション) 考えが変わり、KACEシステム展開アプライアンスまたはRSA (リモートサイトアプライアンス) モードに切り替えなくなった場合は、仮想アプライアンスモードの変更 をクリックしてアプライアンスの種類を選択します。</p>	
<p>i 重要: アプライアンスを設定および再起動したら、その他の仮想アプライアンスモードに切り替えることはできません。</p>	
<p>6. 設定を保存して続行する をクリックします。</p>	
<p>7. 表示された データストレージ ページで、提供された情報を確認し、必要に応じて次のオプションのいずれかを選択することにより、アプライアンスが収集したデータを保存する場所を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 仮想アプライアンス上 (オンボードストレージ) ◦ オフボードストレージデバイス: 仮想ディスク 	
<p>8. 次の手順のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 設定を完了するには、アプライアンスを設定して再起動する をクリックします。アプライアンスが再起動します。次の手順に進みます。 ◦ 設定を完了させたくない場合は、アプライアンスの電源をオフにする をクリックします。アプライアンスの電源がオフになります。 	
<p>9. アプライアンスが再起動したら、ブラウザページを更新します。</p>	
<p>10. STA (ソフトウェア取引契約書) (EULA、エンドユーザー使用許諾契約と呼ばれることもあります) に同意し、次に、ログインID admin とパスワード (初期設定 ページで選択したもの) を使用してログインします。</p>	
<p>11. (オプション) ユーザーアカウントの管理コンソールのテーマを選択します。コンソールは、デフォルトのライトテーマで表示されます。デフォルトのテーマが明るすぎると思われる場合は、必要に応じて、別のテーマを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 別のテーマを選択するには、右上隅にあるユーザー名をクリックしてから、テーマの選択 をクリックし、必要に応じて ハイブリッド または ダーク を選択します。ここで選択したテーマはユーザーアカウントに関連付けられ、ログインするたびに適用されます。アプライアンスのデフォルトテーマを 	

設定することもできます。詳細については、「[アプライアンスのデフォルトテーマの変更](#)」を参照してください。

- もう一度 ライト テーマに戻すには、テーマの選択 > ライト の順に選択します。



注: どのテーマを選択したかにかかわらず、レポートは常に白色の背景で表示されます。

設定が完了してKACEシステム展開アプライアンスにログインすると、管理者コンソールで使用可能なすべてのページにアクセスできます。ただし、RSAで提供されるリモートサイトコンソールでは、RSAモードに適用されるページのみにアクセスが制限されています。たとえば、リモートサイトコンソールでは、左側のナビゲーションペインに ホーム、設定、サポート メニューオプションのみが表示されて、そこから関連ページにアクセスできます。

リストのフィルタと情報の検索

管理コンソールには、一連の設定ページ、詳細ページ、およびリストページがあります。必要に応じて、リストのフィルタと検索を実行できます。

リストページでは、関連する一連のアイテムを調べ、特定のアイテムをドリルダウンし、必要に応じて、そのアイテムに関する特定の情報を詳細ページで確認したり、そのアイテムに変更を加えたりできます。

例えば、ブート環境 ページには、アプライアンスにアップロードまたはインポートされた、KACE ブート環境 (KBE) および NetBoot 環境のリストが表示されます。このページでは、特定のオペレーティングシステムを使用するブート環境のみを表示することや、KBE 名による検索を行うことができます。

1. 管理コンソールにログインします。
2. リストページに移動します。例えば、左側のナビゲーションバーで、展開 > ブート環境 の順に選択します。
3. リストページで特定のテキスト文字列を検索します。
 - a. ページの右上隅にある 検索 フィールドに、検索テキストを入力します。
 - b. Enter キーまたは Return キーを押して、ページレベル検索を開始します。

リストページに、指定したテキスト文字列を含むアイテムのみが表示されます。

4. 特定の条件に基づいてリストをフィルタします。
 - ページ上部にある 特定基準で表示 の右側で、選択したオプションをクリックして、必要に応じて特定の条件を選択します。例えば、ブート環境 ページで、64 ビット版 Microsoft Windows OS を使用しているブート環境を見つけるには、オペレーティングシステム > KBE (Windows x64) の順に選択します。

リストページに、選択した条件を満たすアイテムのみが表示されます。

5. (オプション) リストに確実に最新の情報が表示されるように、リストページごとに 自動更新 設定を指定できます。これは、リストを確認するときにリストの内容が変わっていることが予想される場合に便利です。



注: 自動更新 設定は、デフォルトでは無効になっています。ユーザーごとに、異なるリストページに独自の 自動更新 設定を指定できます。

- ページ上部にある 特定基準で表示 の左側で、自動更新 をクリックして、ページを更新する頻度を指定します。例えば、15 秒ごとにページを更新するには、自動更新 > 15 秒ごと の順に選択します。

製品ドキュメントへのアクセス

管理コンソールでは、ヘルプコンテンツおよびドキュメント検索を利用できます。関連サポート技術情報記事の参照や必要な場合は製品のスペシャリストとチャットすることもできます。

1. 管理コンソールにログインします。
2. 管理者コンソールの右側の右上隅にある、サポートが必要な場合 をクリックします。

右側に表示されるヘルプペインには、関連する 管理者コンソール ページの概要が表示されます。ヘルプペインの下部には、以下のボタンがあります。

-  : KACEシステム展開アプライアンスヘルプコンテンツにアクセスできます。
 -  : 関連するページに関連付けられたサポート技術情報記事を参照できます。
 -  : KACEシステム展開アプライアンス製品スペシャリストとのチャットを開始します。
 -  : サービスリクエストを作成できる サポート ページ (<https://support.quest.com/create-service-request>) にリンクします。
 -  : 設定 > サポート ページにリンクします。このページには、システム管理の問題をトラブルシューティングし、Questサポートに問い合わせるためのリソースが表示されます。
 -  : KACEシステム展開アプライアンスのインストールに関する情報が表示されます。
3. ページレベルのヘルプトピックのリンクをクリックします。
メインの ヘルプ システムが表示され、選択したトピックが表示されます。
 4. ヘルプシステムの左のペインで、検索 タブをクリックします。

検索キーワードはすべて、暗黙のブール型ANDステートメントを使用します。例えば、Windowsプロビジョニングで検索すると、このキーワードが2つとも含まれる検索結果が表示されます。

 **ヒント:** ヘルプシステムのPDFバージョンの場合、ヘルプシステムのメインナビゲーションバー () の右側の Acrobat ボタンをクリックします。

5. 関連するページに関連付けられているサポート技術情報記事を検索します。
 - a. ヘルプペイン下部の  をクリックします。

ヘルプペインには、管理者コンソールで表示しているページに関連付けられているサポート技術情報記事のリストが表示されます。

 **注:** サポート技術情報記事は現在のところ英語でのみ利用できます。

- b. 特定の記事を検索するには、ナビゲーションボタンを使用します。
- c. 検索フィールドにキーワードを入力し、**Enter**を押します。検索文字列は3文字以上である必要があります。

検索では、表示しているページに関連しない記事を含め、指定したキーワードを含むすべてのKACEシステム展開アプライアンスサポート技術情報記事のリストが返されます。ページに関連する記事のみを表示するには、検索フィールドをクリアして、**Enter**を押します。

- d. 目的の記事を見つけたら、ヘルプペインでリンクをクリックします。

選択したサポート技術情報記事がブラウザの新しいタブに表示されます。

i **重要:** 記事のコンテンツを見るには、Questユーザー名およびパスワードを使用してQuestサポートサイトにログインする必要があります。

6. 製品スペシャリストとチャットします。

i **注:** この機能は、アプライアンスがアクティブメンテナンス中である場合にのみ使用できます。

- a.  をクリックします。

サポートとのチャット ダイアログボックスが表示されます。

- b. 必要に応じて、氏名、Eメールアドレス、チャットの目的 を入力し、チャットの開始 をクリックします。

サポートとのチャット ダイアログボックスが更新され、指定したトピックに関する情報が含まれている可能性のある既存のナレッジベース (KB) 記事のリストが表示されます。トピックのリストは、要求された情報のタイプに応じて、複数のページに表示される場合があります。

- c. KB 記事のリストを確認します。必要に応じて、リストの下部にあるページナビゲーションコントロールを使用します。KB 記事を読むには、リスト内のタイトルをクリックします。
- d. 表示されている KB 記事のいずれにも必要な情報が記載されていない場合は、上記の解決策のどれも問題を解決しませんでした。チャットを続行します をクリックします。

i **注:** この機能は、質問に答えられる製品スペシャリストが対応できるときにのみ利用できます。ライブチャットが利用できない場合は、ダイアログボックスに示されます。

ライブチャット ダイアログボックスが表示されます。サポートとのチャット ダイアログボックスで指定した情報を使用して、氏名、Eメールアドレス、製品、チャットの目的 の各ボックスに値が入力されます。

- e. チャットの開始 をクリックします。

ライブチャット ダイアログボックスが更新されます。

- f. ライブチャット ダイアログボックスに質問を入力し、送信 をクリックして製品スペシャリストとのチャットを開始します。

7. サポートチケットを開きます。

- a.  をクリックします。

ブラウザの新しいタブまたはウィンドウに サービスリクエストの送信 ページ (<https://support.quest.com/create-service-request>) が表示されます。

- b. このページを使用し、必要に応じてサービスチケットを開きます。

8.  をクリックします。

設定 > サポート ページが表示されます。このページには、システム管理の問題をトラブルシューティングし、Questサポートに問い合わせるためのリソースが表示されます。

9. KACEシステム展開アプライアンスのインストールに関する情報を確認します。

- a.  をクリックします。

製品情報が記載されているダイアログボックスが表示されます。

- b. このダイアログボックスを閉じるには、閉じる をクリックします。

10. ヘルプペインを閉じるには、サポートが必要な場合 をクリックします。

言語設定の構成

アプライアンスコンソールのテキスト用に使用する言語の設定、日付などの数値用に使用するデフォルト文字セットを決定するための地域設定の構成、およびWindows用のKACEブート環境（KBE）で使用するテキスト用のフォントの選択を行うことができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **言語設定** をクリックして言語設定 ページを表示します。



注: スクリプト形式のインストールの地域設定は、スクリプト形式のインストールのソースメディアの言語と一致する必要があります。それ以外の場合、メッセージは正しい言語で表示されません。

2. 言語 ドロップダウンリストで、アプライアンスコンソールのテキスト用に使用する言語のロケールを選択します。

デフォルト オプションを選択すると、管理者コンソールの言語は、ブラウザの言語と一致します。

3. 地域 ドロップダウンリストで、日付などの数値用に使用するデフォルト文字セットを決定するためのロケールを選択します。
4. KBEオプションフォントサポート で、Windows用のKACEブート環境（KBE）でテキスト用に使用する言語を決定するためのロケールを選択します。

アジア系フォントを追加する場合は、メディアマネージャを使用してKBEを再構築してください。

5. オプション : **キャンセル** をクリックして、ページを閉じます。
6. **保存** をクリックします。

選択した言語が適用されます。管理者コンソールにログインする管理者には、ローカライズバージョンが表示されます。これは、ターゲット言語もブラウザ設定で選択されている場合に限りです。

アプライアンスのデフォルトテーマの変更

デフォルトのインストールでは、管理コンソールは、ログインしたすべてのユーザーに対してデフォルトのライトテーマで表示されます。必要に応じて、アプライアンスおよび使用可能なRSAのデフォルトテーマを変更できます。例えば、ご使用のアカウントがダークテーマを表示するように設定されていて、アプライアンスがライトテーマを使用している場合、ログイン画面は白色の背景で表示されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **一般設定** をクリックします。
2. 表示される **一般設定** ページの **テーマ** で **デフォルトのアプライアンステーマ** をクリックし、次のオプションのいずれかを選択します。ライト、ハイブリッド、またはダーク。

デフォルトのアプライアンステーマとしてライトまたはハイブリッドテーマを選択すると、ログインページは白色の背景で表示されます。デフォルトのアプライアンステーマとしてダークテーマを適用すると、暗色背景が適用されます。ログイン画面の色は、ユーザーアカウントに関連付けられたテーマではなく、設定されたアプライアンスのテーマが常に反映されます。例えば、管理コンソールでダークテーマを選択した場合、このテーマはユーザーアカウントと関連付けられ、ログインするたびに適用されます。ただし、アプライアンスのデフォルトテーマがライトテーマの場合、ログイン画面は常に白色の背景で表示されます。ログインに成功すると、ダークテーマが適用されます。



注: どのテーマを選択したかにかかわらず、レポートは常に白色の背景で表示されます。



注: 新しく作成したユーザーの場合、管理コンソールにはデフォルトのテーマが使用されます。これは、次回ログイン時に変更できます。詳細については、「[管理者コンソールへのログイン](#)」を参照してください。

3. オプション：キャンセル をクリックして、ページを閉じます。
4. 保存 をクリックします。

デフォルトのテーマが適用されます。デフォルトのアプライアンステーマがニーズに合わない場合、ユーザーは、別のテーマをアカウントに関連付けることもできます。詳細については、「[管理者コンソールへのログイン](#)」を参照してください。

ダッシュボードの使用

ダッシュボードは、アプライアンスのアクティビティの概要、共通タスクへのリンク、およびライブラリソースを提供します。警告と、ニュース記事およびサポート技術情報記事へのリンクも提供します。ダッシュボードは、必要に応じて、ウィジェットを表示または非表示にするようにカスタマイズできます。

ダッシュボードのカスタマイズ

ダッシュボードは、必要に応じてカスタマイズして、ウィジェットを追加できます。

1. KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールにログインします。
2. 左側のナビゲーションペインで、ホーム > ダッシュボード を選択します。
3. ダッシュボードで、ウィジェットをマウスでポイントし、次のオプションのいずれかを使用します。
 - ウィジェットの情報を更新します。
 - ウィジェットに関する情報を表示します。
 - ウィジェットを非表示にします。
 - ウィジェットをページ上の別の場所にドラッグします。
 - ウィジェットのサイズを変更します。
4. ページの右上隅にある **カスタマイズ** ボタンをクリックすると、使用可能なウィジェットが表示されます。
5. 現在非表示のウィジェットを表示するには、**インストール** をクリックします。

アプライアンスの設定

アプライアンスのネットワークの初期設定には、モニタとキーボードが必要です。アプライアンスをネットワークに接続した後に、デフォルトパスワードの変更、アプライアンスへのリンク、リンクの集約、データ共有の基本設定およびその他の設定の構成を実行できます。

ネットワークの初期設定の構成

モニタとキーボードをアプライアンスに直接接続して、アプライアンスを初めて起動した後に、アプライアンスネットワークセットアップコンソールからアプライアンスのネットワーク設定を構成できます。

仮想KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールから仮想アプライアンスのネットワーク設定を構成し、仮想RSA管理者コンソールからRSAを設定します。

1. アプライアンスにモニタとキーボードを直接接続します。
2. アプライアンスの電源をオンにします。初回のスタートアップは5分から10分かかります。
ログイン画面が表示されます。
3. ログインプロンプトの ログイン と パスワード の両方にkonfigと入力します。
4. コンソールで使用する言語を選択します。上矢印キーと下矢印キーを使用してフィールド間を移動します。
5. 以下のネットワーク設定を構成します。フィールド内のオプションを選択するには、右矢印キーと左矢印キーを使用します。フィールド間を移動するには、上矢印キーと下矢印キーを使用します。

フィールド	説明
ホスト名	アプライアンスのホスト名を入力します。デフォルトはk2000です。
ドメイン名	アプライアンスが参加しているドメインを入力します。例：example.com。
IPアドレス	アプライアンスの静的IPアドレスを入力します。
ネットワーク速度	ネットワークの速度を選択します。LANスイッチの設定と同じ速度にする必要があります。自動ネゴシエートを選択した場合、システムは最適の値を自動的に決定します。ただし、LANスイッチがオートネゴシエーションに対応している場合に限りです。
デフォルトゲートウェイ	アプライアンスのネットワークゲートウェイを入力します。
サブネットマスク	アプライアンスが参加しているサブネット（ネットワークセグメント）を入力します。例：255.255.255.0
プライマリDNS	アプライアンスがホスト名の解決に使用するプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。

フィールド	説明
セカンダリDNS	オプション：アプライアンスがホスト名の解決に使用するセカンダリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。
プロキシ	<p>オプション：プロキシサーバーの情報を入力します。</p> <p>i 注: このアプライアンスでは、ユーザー名とパスワードを要求するレルムベースの基本認証を使用するプロキシサーバーをサポートしています。プロキシサーバーが他の種類の認証を使用する場合は、プロキシサーバーの例外リストにアプライアンスのIPアドレスを追加してください。</p>

アプライアンスデータを保存	<p>アプライアンスデータを保存 設定を使用すると、新たに仮想アプライアンスおよびリモートサイトアプライアンスの初期設定を行う際に、アプライアンスデータをオフボード仮想ディスクに保存できます。また、管理者コンソールを使用して、仮想KACEシステム展開アプライアンスおよびRSA用のオフボードストレージを後から設定することもできます。</p> <p>物理KACEシステム展開アプライアンスの場合は、初期設定時に アプライアンスデータを保存 設定を使用できません。物理アプライアンスを設定して、管理者コンソールからオフボードストレージデバイスにアプライアンスデータを保存します。</p> <p>次のいずれかのチェックボックスをオンにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮想アプライアンス上（オンボードストレージ） オフボードストレージデバイス（仮想ディスク） <p>i 注: 接続できる仮想ディスクは1つだけです。</p>
---------------	---

6. 下矢印キーを使用してカーソルを **保存** に移動し、**Enter**キーまたは**Return**キーを押します。

アプライアンスが再起動します。

7. ネットワークケーブルを以下のポートに接続します。



ネットワークの初期設定の修正

アプライアンスネットワークセットアップコンソールから設定したネットワークの初期設定を修正できます。

- 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **ネットワーク設定** をクリックして **ネットワーク設定** ページを表示します。
- 以下のネットワーク設定を構成します。

フィールド	説明
ホスト名	アプライアンスのホスト名を入力します。デフォルトはk2000です。
ドメイン名	アプライアンスが参加しているドメインを入力します。例：example.com。
プライマリDNS	アプライアンスがホスト名の解決に使用するプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。
セカンダリDNS	オプション：アプライアンスがホスト名の解決に使用するセカンダリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。
デフォルトゲートウェイ	アプライアンスのネットワークゲートウェイを入力します。

3. インターフェイス設定 で、必要に応じて各インターフェイスに対して以下の設定を行います。

オプション	説明
インターフェイス	読み取り専用フィールドです。インターフェイスの名前が表示されます。
IPアドレス	インターフェイスの静的 IP アドレスを入力します。
ネットワーク速度	インターフェイスの速度を選択します。LANスイッチの設定と同じ速度にする必要があります。自動ネゴシエート を選択した場合、システムは最適な値を自動的に決定します。ただし、LANスイッチがオートネゴシエーションに対応している場合に限りです。
ネットマスク	インターフェイスが存在するサブネット（ネットワークセグメント）を入力します。例： 255.255.255.0
MTU	インターフェイスの最大転送単位（MTU）を入力します。MTU は、単一ネットワーク層のトランザクションで通信できる最大プロトコルデータユニット（PDU）のサイズを表します。このオプションを設定する際は、ハードウェアとネットワークの仕様を考慮してください。推奨される範囲は、ネットワーク仕様に応じて 1500～9000 です。
ステータス	読み取り専用フィールドです。ネットワークケーブルがインターフェイスに接続されているかどうかを示します。
導入インターフェイス	このインターフェイスを導入インターフェイスとして使用する場合は、このオプションを選択します。

4. 使用可能なリンクアグリゲーションインターフェイス で、使用可能なインターフェイスを設定または有効にします。リンクアグリゲーションを使用すると、複数のネットワークインターフェイスを結合して 1 接

続で維持できる以上のスループットを実現し、またリンクエラー時に備えた冗長性を提供できます。最大8つのネットワークインターフェイスを集約できます。

オプション	説明
インターフェイス	読み取り専用フィールドです。リンクアグリゲーションインターフェイスの名前が表示されます。
IPアドレス	リンクアグリゲーションインターフェイスの静的 IP アドレスを入力します。
ネットマスク	リンクアグリゲーションインターフェイスのサブネット（ネットワークセグメント）を入力します。 例: 255.255.255.0
ブロードキャスト	読み取り専用フィールドです。リンクアグリゲーションインターフェイスのブロードキャストアドレスが表示されます。
メンバー	読み取り専用フィールドです。このリンクアグリゲーションインターフェイスに属するネットワークインターフェイスの名前が表示されます。
有効	このリンクアグリゲーションインターフェイスを有効にする場合は、このオプションを選択します。有効にした場合、プライマリ/導入インターフェイスがこのリンクアグリゲーションインターフェイスに関連付けられているときは、プライマリインターフェイスになります。有効な各リンクアグリゲーションインターフェイスがアクティブリンクアグリゲーションインターフェイスに表示されます。

5. オプション：オンボードDHCPサーバーを有効にする チェックボックスをオンにします。
6. オプション：NetBootサーバー（Mac OS Xクライアント用）を有効にする チェックボックスをオンにします。
7. オプション：プロキシサーバーの使用 チェックボックスをオンにします。
8. 保存 をクリックします。

デフォルトパスワードの変更

Quest KACEでは、アプライアンスの初期セットアップ時に、管理者、アプライアンスSamba共有ディレクトリ、および起動マネージャのデフォルトパスワードを変更することをお勧めします。

以下のパスワードはアプライアンスに関連付けられています。

パスワード	説明
管理者	デフォルトパスワードはadminです。新しいパスワードは、6文字以上にする必要があります。
Samba共有パスワード、KACEメディアマネージャ、KACEブート環境（KBE）	デフォルトパスワードはadminです。ドライバのアップロード、およびライブラリコンポーネント、スクリプト形式のインストール、システムイメージ、ブート環境、ネットワークインベントリ、そして

i 注: すべて同じパスワードを使用します。

パスワード	説明
	<p>ネットワークスキンのバックアップと復元で使用されます。</p> <p>i 注: KACEメディアマネージャの KACE SDA ホスト名 フィールドには、このパスワードを入力する必要があります。</p>
起動マネージャ	<p>デフォルトでは、起動マネージャの認証は無効です。</p> <p>起動マネージャには、KACE起動環境での最初のデバイスPXE起動中にWindowsクライアント起動マネージャがダウンロードするブートストラップファイルが含まれています。ターゲットデバイスに起動マネージャインターフェイスが表示されます。</p>
VNC	<p>ネットワーク起動されたターゲットデバイスへの接続を有効にします。</p>
NetBoot	<p>Macデバイスにのみ使用されます。</p>

i 注: KBEリモートVNCパスワードには7ビットのASCII文字のみを使用できます。

コマンドラインコンソールを使用した管理者パスワードのリセット

管理者のパスワードを変更して、何らかの理由でアプライアンス 管理者コンソール からロックアウトされたしまった場合、コマンドラインコンソール を使用して、パスワードをリセットできます。

管理者パスワードを変更するには、アプライアンスのライセンスキーの、ダッシュを含む末尾16文字を（指定どおりに大/小文字を区別して）入手する必要があります。KACEのレガシーライセンスキー、またはQuestのライセンスキーを使用できます。アプライアンスへのターミナルウィンドウはコマンドラインコンソールです。コマンドラインコンソールにnetdiagユーザーとしてログインすると、管理者パスワードを変更できるreset_admin_passwordを含む、一部の基本的なネットワーク診断コマンドにアクセスできます。

完全なライセンスキーは、Quest KACEからの案内のEメールに記載されています。また、管理者コンソール（アクセスできる場合）の登録とライセンス ページでも入手できます。ライセンスキーがない場合は、Quest KACEテクニカルサポート（<https://support.quest.com/contact-support>）またはライセンスチームに問い合わせ、<https://support.quest.com/licensing-assistance>で新しいキーを入手してください。登録とライセンス ページの詳細については、このページに関連するヘルプトピックを参照してください。

i ヒント: 製品ドキュメントおよび特定のページに関連するその他のリソースには、ヘルプが必要をクリックしてアクセスできます。詳細については、「製品ドキュメントへのアクセス」を参照してください。

1. 物理バージョンのアプライアンスがある場合：
 - a. アプライアンスにモニタとキーボードを直接接続します。
 - b. ネットワークケーブルを以下のポートに接続します。



- c. アプライアンスの電源をオンにします。

アプライアンスに接続したモニタに、コマンドラインコンソールのログイン画面が表示されます。

2. 仮想バージョンのアプライアンスがある場合は、仮想マシンの電源をオンにして、アプライアンスを起動します。

コマンドラインコンソールのログイン画面が表示されます。

3. プロンプトで、次のように入力します。

ログイン : `netdiag`

パスワード : `netdiag`

管理者パスワードを変更できる `reset_admin_password` を含む、ネットワーク診断コマンドのリストが表示されます。

4. コマンドラインプロンプトで、`reset_admin_password` と入力します。
5. プロンプトが表示されたら、ライセンスの末尾16文字（ダッシュを含む）を入力します。大/小文字を区別する必要があります。

メッセージが表示され、6文字で構成される新しいパスワードが二重引用符で囲まれて示されます。例：

管理者パスワードが「GTYKpa」にリセットされました。すぐにログインして、より安全なパスワードを設定してください。

6. 新しいパスワードを記録します。
7. 新しく変更したパスワードを使用して、アプライアンス管理者コンソールにログインします。
 - a. Webブラウザを開き、構文 `http://<host_name>` を使用して、アプライアンス管理者コンソール URL に移動します。

`<host_name>` は、アプライアンスが実行されている物理マシンまたは仮想マシンの名前または IP アドレスです。

- b. KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソール ログイン画面で、次の値を入力します。

- ・ ログインID : `admin`
- ・ パスワード : 新しく変更された管理者パスワードの6文字（引用符は含みません）を入力します。

- c. **ログイン** をクリックします。

アプライアンス管理者コンソールが表示され、ダッシュボード ページが表示されます。

8. セキュリティ上の目的で、管理者パスワードを変更します。パスワードには小文字と大文字、数字、記号を組み合わせて使用することをお勧めします。パスワードは、ユーザー詳細 ページで更新できます。詳細については、「[ローカル管理者アカウントの追加または編集](#)」を参照してください。

Samba共有パスワードの変更

KACEシステム展開アプライアンスまたはリモートサイトアプライアンスのSamba共有のパスワードを変更できます。Samba共有のdriversとrestoreディレクトリはドライバのアップロード、およびライブラリコンポーネント、スクリプト形式のインストール、システムイメージ、ブート環境、ネットワークインベントリ、およびネットワークスキャンのバックアップと復元に使用します。clientdrop共有は、アプリケーションタスクで大きいファイルのアップロードに使用します。



注: デフォルトのアカウント名はadminで、デフォルトのパスワードもadminです。

1. **KACEシステム展開アプライアンスのみ。**
 - a. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定 ページ** を表示します。

- b. SDA Samba共有パスワードのサーバオプションに、新しいパスワードを入力します。
2. リモートサイトアプライアンスのみ。
 - a. 左側のナビゲーションペインで、設定 > コントロールパネル をクリックして コントロールパネル を表示し、次に リモートサイト設定 をクリックして リモートサイト設定 ページを表示します。
 - b. SDA Samba共有パスワードのSambaオプションに新しいパスワードを入力します。
3. Samba共有が、NTLM (NT LAN Manager) v.1 を使用している Windows システム上にある場合、これらのディレクトリにアクセスするために、NTLM v.1 の設定も有効にする必要があります。このためには、**Samba 設定で NTLMv1 を有効にする** を選択します。
4. **保存** をクリックします。

これでSamba共有のアカウントパスワードが変更されました。Windows KACE のブート環境が自動的に更新され、新しいパスワードが追加されます。このプロセスには、KBE ごとに数分かかる場合があります。

VNC®パスワードの設定

KACEブート環境 (KBE) には、Java® VNCクライアントが含まれているため、KACEシステム展開アプライアンスとリモートサイトアプライアンスからリモートデバイスに接続して起動できます。Mac OS X®デバイスにNetBoot環境を作成すると、VNCパスワードがMac OS X NetBoot環境に保存されます。

1. **KACEシステム展開アプライアンスのみ。**
 - a. 左側のナビゲーションペインで、設定 > コントロールパネル をクリックして コントロールパネル を表示し、次に **一般設定** をクリックして 一般設定 ページを表示します。
 - b. ブート環境オプションのVNCパスワードにパスワードを入力します。
2. **リモートサイトアプライアンスのみ。**
 - a. 左側のナビゲーションペインで、設定 > コントロールパネル をクリックして コントロールパネル を表示し、次に **リモートサイト設定** をクリックして リモートサイト設定 ページを表示します。
 - b. ブート環境オプションのVNCパスワードにパスワードを入力します。
3. **保存** をクリックします。

次回、アプライアンスからデバイスが起動する際は、新しいVNCパスワードを使用して接続します。

起動マネージャの認証を有効にする

KACE起動マネージャは、アプライアンスからPXE起動したターゲットデバイスに表示されます。起動マネージャの認証を使用すると、ユーザーが適切なユーザー資格情報による認証なしで、手動でKBEを選択することは不可能になります。デフォルトでは、起動マネージャの認証は無効です。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 > コントロールパネル をクリックして コントロールパネル を表示し、次に **一般設定** をクリックして 一般設定 ページを表示します。
2. PXEオプションの **起動マネージャの認証を有効にする** を選択して、起動マネージャのユーザー名とパスワードを指定します。



注: 起動マネージャのデフォルトのパスワードはadminです。

3. **保存** をクリックします。

起動マネージャのユーザー名とパスワードはPXE起動の要求があるたびに設定されます。認証が既に有効になっている場合、アクティブなセッションでは前回のパスワードが使用されます。

iPXEコンソールへのカスタムバックグラウンドイメージの追加

iPXEコンソールは、選択したバックグラウンドイメージを含むように設定できます。

PNG、JPG、JPEG、BMP、またはGIFファイルをアップロードできます。アプライアンスはアップロードされたグラフィックファイルをPNG形式に変換します。必要なイメージサイズは1024 x 768ピクセルで、それ以外のサイズは必要なサイズに自動的に拡大縮小されます。RSAがリンクされている場合は、イメージをRSAにコピーするために同期を実行する必要があります。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定** ページを表示します。
2. PXEオプションで **カスタムバックグラウンドイメージの使用** を選択し、ファイルを選択するか、指定された領域にドラッグアンドドロップして目的のイメージファイルを指定します。



注: このオプションをオフにすると、バックグラウンドイメージがデフォルトのKACE®ロゴに戻ります。

3. **保存** をクリックします。

アプライアンスの日付と時刻設定の構成

アプライアンスの展開動作、定期バックアップ、エクスポート、およびオフボード転送は、システムクロックの日付と時刻に基づいて実行されます。アプライアンスシステムクロックは、デフォルトでQuest KACEタイムサーバと同期するように設定されています。システムクロック設定はタイムゾーンに一致するよう変更できません。

日付と時刻の設定

アプライアンスは、アプライアンスのシステムクロックの日付と時刻に基づいて展開操作をログに記録します。タイムゾーンに一致するようシステムクロックを設定すると、リソースを大量に使用するバックアップ処理をネットワーク活動の多い時間帯に実行するような予期しない動作を防ぐことができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **日付と時刻の設定** をクリックして **日付と時刻の設定** ページを表示します。
2. 次の設定を指定します。

オプション	説明
タイムゾーン	ドロップダウンリストでタイムゾーンを選択します。
時刻設定	オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">• インターネットタイムサーバとの自動同期: インターネットタイムサーバを使用します。このオプションを選択した場合、サーバーフィールドにサーバーのWebアドレスを入力します。• アプライアンス上でクロックを手動で設定: アプライアンスのクロックを手動で設定します。ドロップダウンリストで時間と日付を

指定します。時間 ドロップダウンリストでは、24時間制が使用されています。

タイムサーバー

インターネットタイムサーバーを使用して、アプライアンスの時間を設定します。テキストボックスにタイムサーバーのWebアドレスを入力します。
例：time.example.com。

システムクロックは、デフォルトで Quest KACE タイムサーバーと同期するように設定されています。



注: <http://tf.nist.gov/tf-cgi/servers.cgi>でNISTインターネットタイムサーバーを使用して、システムクロックの同期プロセスで使用可能なタイムサーバーを検索できます。

3. **保存** をクリックします。

Webサーバーが再起動し、設定が適用されます。

アクティブな接続は、再起動中にドロップされる場合があります。変更を保存すると、15秒後にページが自動的に更新されます。アプライアンスWebサーバーの再起動後、更新された日付と時刻が管理者コンソールの右下に表示されます。

アプライアンス上のファイルの管理

アプライアンスにはファイルシステムマネージャが付属しており、アプライアンス上のファイルとディレクトリを管理できます。

ファイルシステムマネージャ ページを使用して、ファイルシステムの内容を簡単に表示できます。また、petemp、drivers、restore、drivers_postinstall、clientdropディレクトリなどの適用可能な場所にファイルやディレクトリを追加することもできます。



注: このページで、アプライアンスファイルシステムからファイルをダウンロードすることはできません。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ツール > ファイルシステムマネージャ** をクリックして、ファイルシステムマネージャ ページを表示します。
2. ファイルシステムマネージャ ページの **現在のディレクトリ** で、**変更を加えるディレクトリ** に移動します。

たとえば、インストール後のドライバディレクトリにファイルまたはディレクトリを追加するには、`/peinst/drivers_postinstall` に移動します。



注: 選択したディレクトリにのみ変更を加えることができます。peinst などの読み取り専用ディレクトリに移動すると、ページに表示されません。

3. ディレクトリを追加するには、アクションの **ディレクトリ名 フィールド** にディレクトリ名を入力し、**ディレクトリの追加** をクリックします。
4. ファイルを追加するには、アクションで次の手順を実行します。



注: `/peinst/drivers/*`などの一部のディレクトリでは、.zip、.cab、および.msiファイルを自動的に抽出できます。該当するディレクトリに移動すると、ページに注釈が表示されます。

- a. 次の手順のいずれかを実行します。
 - **ファイルの選択** をクリックし、追加するファイルに移動します。
 - 指定した場所にファイルをドラッグアンドドロップします。

- b. **ファイルのアップロード** をクリックします。
5. ファイルまたはディレクトリを削除するには、ファイルまたはディレクトリ名の右側にあるごみ箱アイコンをクリックします。



注: 空のディレクトリのみ削除できます。

Eメール通知の設定

SMTPサーバを使用してEメール通知を送信するようにアプライアンスを設定できます。

通知 ページでは、SMTPサーバ設定を指定できます。また、必要に応じて編集または無効化できる一連のEメール通知テンプレートが含まれています。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **通知** をクリックします。
2. 通知 ページで **Eメール通知** をクリックします。
3. Eメール通知 タブの **SMTP設定 セクション** で、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
オンボードSMTPサーバの使用	アプライアンスに存在する内部SMTPサーバを使用する場合は、このオプションを選択します。
オフボードSMTPリレーの使用	<p>外部SMTPリレーを介して認証されたEメールを送信する場合は、このオプションを選択します。SMTPリレーを使用すると、サードパーティのメールサーバを使用してEメールトラフィックをルーティングできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リレーホスト。SMTPリレーホストの完全修飾ドメイン名を入力します。
オフボードSMTPサーバの使用	<p>外部SMTPサーバを使用する場合は、このオプションを選択し、次の設定を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー名。外部SMTPサーバにアクセスするアカウントのEメールアドレスを入力します（「your_account_name@gmail.com」など）。 • パスワード。指定したユーザーアカウントのパスワードを入力します。 • ホスト。外部SMTPサーバのホスト名またはIPアドレスを指定します（「smtp.gmail.com」など）。外部SMTPサーバでは、匿名（認証なし）のアウトバウンドEメール転送を許可する必要があります。ネットワークポリシーで、アプライアンスがSMTPサーバに直接問い合わせられることを確認します。また、メールサーバは、アプライアンスからのEメールのリレーを、認証なしで許可するように設定する必要があります。IPアドレスを指定する場合は、アドレ

オプション

説明

ス括弧で囲みます。例えば、[10.10.10.10]と入力します。

- **ポート**。外部 SMTP サーバーに使用するポート番号を入力します。標準的な SMTP にはポート 25 を使用します。セキュアな SMTP の場合は、ポート 587 (デフォルト値) を使用します。
- **暗号化**。クリックし、必要に応じて次の使用する暗号化タイプを選択します。なし (安全性が低い)、TLS、自己署名証明書による TLS (安全性が低い)、SMTPS、または自己署名証明書による SMTPS (安全性が低い) を選択します。

設定をテストするには、テスト受信者 フィールドに Eメールアドレスを入力し、テストメールの送信をクリックします。設定が正常に完了すると、アプライアンスは指定された Eメールアドレスに Eメールを送信し、件名には、KACE システム展開アプライアンスからのテストメールが含まれます。



注: いずれかのフィールドを空白のままにして変更を保存しようとする、入力が必要な各フィールドの横に通知が表示されます。

4. 通知テンプレート セクションで、使用可能なテンプレートのリストを確認します。

オプション

アプライアンスは、次の場合にこの通知を送信します。

使用可能なアプライアンスアップグレード

お使いのバージョンのアップグレードが使用可能です。

アプライアンスアップグレードが完了しました

アップグレードが正常にインストールされました。

アプライアンスアップグレードが失敗しました

アップグレードが開始されましたが、インストールに失敗しました。

リモートサイトアプライアンスの同期が完了しました

リモートサイトアプライアンス (RSA) の同期が正常に完了しました。複数の RSA がある場合、この通知はリモートアプライアンスごとに生成されます。

リモートサイトアプライアンスの同期が失敗しました

リモートサイトアプライアンス (RSA) の同期が開始されましたが、障害が原因で完了しませんでした。複数の RSA がある場合、この通知はリモートアプライアンスごとに生成されます。

ドライバフィード更新ダイジェスト

新しいドライバ、更新されたドライバ、インストールされて更新されたドライバ、既にインストールされていて自動的にアップデートされたドライバのリスト。

展開の開始されたダイジェスト

展開プロセスが開始されます。通知には、適用可能なプロビジョニング済みデバイスのリストが含まれます。



注: Eメール本文の先頭に次の行が表示されません。{{appliance_email_styles|raw}}。この行を削除または変更しないでください。変更すると、Eメールスタイル セクションで定義されているテキストの書式設定は、送信されたEメールに適用されません。

通知を有効にする

Eメールテンプレートを有効にするには、このチェックボックスがオンになっていることを確認します。

- c. ダイアログボックスで **保存** をクリックします。または、変更を破棄するには、**デフォルトに戻す** をクリックします。

ダイアログボックスが閉じます。

- d. テンプレートをテストするには、通知テンプレート セクションで、編集するテンプレートを含む行の **アクション** 列で、[**テストテンプレート**] ボタンをクリックします。

テンプレートで指定された各受信者にEメールが送信されます。テンプレートで指定された変数の名前は、大文字で表示されます。テストEメールの送信時に関連するアクション（展開など）が実行されなかったため、これらの名前は実際の値に置き換えられません。

- 7. 通知 ページで、**保存** をクリックします。

ユーザーインターフェイス通知の設定

特定のタイプの手動タスクが実行されたときに管理者コンソールに通知を表示するようにアプライアンスを設定できます。

管理者は、通知が生成される対象の通知グループとユーザーを設定できます。通知ベルアイコンは、画面の右上隅にあります。新しい通知が利用可能になると、オレンジ色のインジケータが表示されます。

ユーザーインターフェイス通知は、管理者アカウントに対してはデフォルトで有効になっています。他のすべてのユーザーは、通知を表示するには、通知をサブスクライブする必要があります。右側の通知パネルの表示と非表示を切り替えるには、ベルアイコンを使用します。各通知にはタイムスタンプがあります。リスト内の各エントリの右上隅にある削除アイコンをクリックすると、個々の通知を削除できます。通知のリストをクリアするには、**すべて非表示** をクリックします。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **通知** をクリックします。
2. 通知 ページで **UI通知** をクリックします。
3. 一定の期間を過ぎたすべての通知を削除する場合は、**通知の自動削除後** をクリックして、希望する日数を選択します。デフォルト設定は **無効** で、すべての通知が保持される、管理者に適したオプションです。頻繁にログインしないユーザーの場合は、一定の期間後に削除することを選択できます。既存のオプションから選択するか、**カスタム** を選択して、該当する日数を入力します。
4. UI通知 タブで、設定可能な通知のグループを確認します。

グループ	説明
ソースメディアの通知	これらの通知は、次の場合に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ソースメディアのアップロードは、メディアマネージャまたはソースメディアのインポートページで実行します。 アプライアンスは、KACEブート環境（KBE）、ソースメディア、またはUSMT（Microsoft Windowsユーザー状態移行ツール）ファイルをインポートします。 Windowsイメージ形式（WIM）ファイルは、アプライアンスのシステムイメージのインポートページを使用してインポートされます。 USBシステムイメージのインストールが作成されます。 Samba共有パスワードはすべてのKBEで変更および更新されます。

オフボードストレージ通知
これらの通知は、オフボードストレージが有効または無効になったときにユーザーに通知します。

ドライバフィード通知
これらの通知は、ユーザーがドライバフィードの1つ以上のドライバを手動でインストールまたは削除したときに表示されます。通知には、操作の結果が反映され、成功、失敗、またはエラーが示されます。

RSA通知
これらの通知は、新しいRSA（リモートサイトアプライアンス）がシステム展開アプライアンスに追加されたときに表示されます。

展開の通知
これらの通知は、手動による展開が正常に完了したか、失敗したか（該当する場合）を示します。成功通知には、手動の展開の詳細ページへのリンクが含まれ、失敗通知には手動展開の進行状況ページへのリンクが含まれます。

パッケージ管理通知
これらの通知は、操作の開始、終了、インポートまたはエクスポートの失敗、ファイルの破損、無効な内容、手動パッケージのインポートまたはエクスポートの状態など、パッケージのインポートまたはエクスポートの状態を示すために表示されます。

5. 各通知グループの列に表示される情報を確認します。

オプション	説明
受信者	このグループに関連付けられた通知を受信するすべてのユーザーのリスト。
有効	このグループの通知が、アプライアンスで有効になっているかどうかを示します。

オプション

説明

アクション

グループに変更を加えることができます。

6. グループを編集するには：

- a. 選択したグループのアクション列でテンプレートの編集ボタンをクリックします。
- b. 表示されるダイアログボックスで、受信者ボックスをクリックし、1人または複数のユーザーを選択します。



注: アプライアンスですでに定義されている既存のユーザーアカウントからのみ選択できません。adminユーザーは常にすべてのUI通知に割り当てられ、受信者として削除することはできません。

- c. 通知を有効にするチェックボックスをオンまたはオフにして、このグループからの通知の表示を許可または禁止します。

UI通知はデフォルトで有効になっています。

- d. 保存をクリックして変更を確認し、ダイアログボックスを閉じます。

7. 通知ページのUI通知タブで、保存をクリックします。

リンクアグリゲーションを有効にする

デフォルトでは、アプライアンスのリンクアグリゲーションは有効になっていません。アプライアンスでリンクアグリゲーションを使用するには、ご使用のスイッチがLACP (802.3ad) 接続に対応している必要があります。

リンクアグリゲーションを有効にする前に、LACPネゴシエーションをアクティブに行うようにスイッチを設定します。詳細については、スイッチベンダのマニュアルを参照してください。パッシブネゴシエーションモードは機能しません。パッシブモードで動作するようにスイッチを設定した場合、スイッチはアプライアンスLACP接続ネゴシエーションを行うことができません。IOSオペレーティングシステムを実行し、アクティブモードに設定されているCisco®スイッチの設定の例は、オンライン ([FreeBSD® Handbook](#).) で確認できます。

各EtherChannelのすべてのインターフェイスは、速度と通信方式が同一である必要があります。

集約リンクの作成

物理アプライアンスには、2つのポートがあります。両方のポートをネットワーク (LAN) に接続して、リンクアグリゲーションを有効にできます。オフボードストレージが設定されていると、リンクアグリゲーションを有効にできません。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 > コントロールパネル をクリックして コントロールパネル を表示し、次に ネットワーク設定 をクリックして ネットワーク設定 ページを表示します。
2. リンクアグリゲーションを有効にする チェックボックスをオンにします。
3. 保存 をクリックします。
4. リンクアグリゲーションのIPアドレス を入力します。

アプライアンスが再起動し、IPアドレスが入力したリンクアグリゲーションのIPアドレスに変更されます。



注: サブネットマスクがNICと一致するよう変更されます。

データ共有の基本設定の構成

データ共有の基本設定により、アプライアンスの情報がどれくらいQuest KACEと共有されるかが決まります。また、データ共有の基本設定により、ITNinjaからの情報が管理者コンソールに表示されるかどうかが決まります。

エンドユーザー使用許諾契約（EULA）に同意すると、Questがユーザーのアプライアンスの使用に関する情報を収集、保存、集計、および分析できることに同意したことになります。

アプライアンスはデフォルトでは、以下のデータを収集および保存して、Questと共有します。

- サーバーフィールド: MACアドレス、会社名、シリアルナンバー、モデル、ネットワークアドレス（外部カスタマ）、ネットワークアドレス（内部カスタマ）。
- ライセンス: 製品バージョン、有効なモジュール、ノード数、ネットワークアドレス（内部カスタマ）、ライセンスキー。
- EULA同意ログ
- ステータス/稼働時間/負荷の平均
- 現在のテーブル使用状況: スクリプト形式のインストール、システムイメージ、プレインストールタスク、ポストインストールタスク、ユーザープロファイルなどの数。
- マシン/製造元/モデル: 製造元、モデル、およびマシンの数。
- アプライアンスディスク情報: RAIDステータス、物理ドライブ、アダプタ情報など。ディスク情報は、物理アプライアンスでのみ提供されます。

基本的なアプライアンスデータ使用率の共有

Questとアプライアンス使用率サマリデータを共有するか、基本的なアプライアンス使用率データのみを共有するようにアプライアンスを設定できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定> コントロールパネル をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
2. データ共有 で、最初のチェックボックスをオフにします。ハードウェア、ソフトウェア、およびアプライアンスの使用率サマリデータをQuestと共有する をオフにします。

最初のチェックボックスをオフにすると、2番目のチェックボックス詳細な使用率データとクラッシュレポートを共有する（ITNinjaコミュニティ機能が必要）が自動的に無効になります。

3. 保存 をクリックします。

アプライアンスは以下の基本的な使用率データを収集します。

- サーバーフィールド: MACアドレス、会社名、シリアルナンバー、モデル、ネットワークアドレス（外部カスタマ）、ネットワークアドレス（内部カスタマ）。
- ライセンス: 製品バージョン、有効なモジュール、ノード数、およびライセンスキー。
- EULA同意ログ

詳細な使用率データの共有

アプライアンスの詳細な使用率データを共有することにより、Questでは、お客様の環境で製品がどのように稼働しているかを理解することができます。これによって、問題のトラブルシューティングに役立つより多くの情報をサポートチームに提供できるほか、製品の改善にも役立ちます。

ITNinjaコミュニティとの統合には、すべてのレベルのデータに対するアクセスが必要です。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定> コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定 ページ** を表示します。
2. **データ共有** で、最初の2つのチェックボックスをオンにします。（ハードウェア、ソフトウェア、およびアプライアンスの使用率サマリデータをQuestと共有すると **詳細な使用率データとクラッシュレポート** を共有する（ITNinjaコミュニティ機能が必要））をオンにします。
3. **保存** をクリックします。

詳細な使用率データを共有する場合、アプライアンスはデフォルトの情報に加えて、以下のデータを収集します。

- ・ **アプライアンスサーバクラッシュログ**
- ・ **UIアクセスの統計**

KACEベータプログラムへの参加

KACEベータプログラムを使用すると、新製品の機能とアップデートを早期に利用できます。プログラムへの参加を選択し、KACEシステム展開アプライアンスのベータ版が利用可能になったときに通知を受け取ることができます。

ベータ版の通知は、特定の設定を対象とする場合があります。これらを有効にしても、ベータ版への自動アップグレードはトリガされず、また、このアプライアンスはベータプログラムに自動的に登録されません。ベータ版の登録には引き続き参加する必要があり、詳細は通知に記載されています。

i **注:** 右側のペインに通知が表示されます。アプライアンスが適用されるアラートを設定に合わせてこの場所に表示します。通知 ペインの表示と非表示を切り替えるには、ベルアイコンを使用します。通知のリストをクリアするには、**すべて非表示** をクリックします。このペインに表示される情報の管理の詳細については、「[ユーザーインターフェイス通知の設定](#)」を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定> コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定 ページ** を表示します。
2. **データ共有** で KACEからベータ通知を有効化 を選択します。
3. **保存** をクリックします。

Quest KACEアプライアンスのリンク

複数のQuest KACEアプライアンスがある場合は、これらのアプライアンスをリンクできます。アプライアンスをリンクすることで、管理者コンソールの右上隅にあるドロップダウンリストから1つのアプライアンスにログインしたり、各アプライアンスに個別にログインすることなく、リンクされたすべてのアプライアンスにアクセスしたりできます。

各Kシリーズアプライアンスでリンクを有効にして、各アプライアンスでリンク接続の名前およびキーなどを設定する必要があります。追加するアプライアンスでSSLが有効になっている場合は、SSLを使用して正常な接続を確立します。

リモートサイトアプライアンス（RSA）にリンクすることで、アプライアンスのリンク相手としてRSAを確立します。これにより、リモートサイトで使用するコンポーネントを同期できます。また、ネットワーク起動、システムイメージおよびスクリプト形式のインストールの展開、リモートサイトのデバイスへのユーザープロファイルの移行を実行できます。

リンク先アプライアンス間では、リソースまたはコンポーネントは転送できません。詳細については、「[アプライアンスコンポーネントのインポートとエクスポート](#)」を参照してください。

i **注:** K3000アプライアンスにリンクするには、各アプライアンスにLDAP認証をセットアップする必要があります。詳細については、「[LDAPサーバーでのユーザー認証の設定](#)」を参照してください。

アプライアンスリンクの有効化

各アプライアンスの管理者ユーザーアカウントのパスワードが同じであれば、リンクを有効にして1つのアプライアンスにログインし、1つの管理者コンソールから複数のリンク先KACEシステム管理アプライアンス、KACEシステム展開アプライアンス、またはリモートサイトアプライアンスにアクセスできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **KACEリンク** をクリックして KACEリンク ページを表示します。
2. **KACEリンクを有効にする** チェックボックスをオンにして、接続設定を表示します。
3. **ホスト名** で、このKACEシステム展開アプライアンスまたはリモートサイトアプライアンスを識別する固有のロジカルネームを入力します。アプライアンスがリンクされている場合、この名前がページの右上隅にあるドロップダウンリスト（ログイン情報の隣）に表示されます。
4. **リモートログインの有効期限** に、リンクを開いたままにする期間を分単位で入力します。この期間が終了した後にリンク先アプライアンスに切り替える場合は、ログイン資格情報を入力します。デフォルトは120分です。
5. **要求タイムアウト** に、リンク先アプライアンスがリンク要求に応答するまで、このアプライアンスが待機する時間を秒単位で入力します。デフォルトは10秒です。
6. **保存** をクリックします。

システム導入アプライアンス

KACEリンクキーフィンガープリント と KACEリンクキー（このサーバー）が表示されます。

7. **ホスト名** フィールドのテキストと **KACEリンクキー**（このサーバ）フィールドのテキストをコピーして、メモ帳ファイルなどの中央の1つの場所に貼り付けます。

i **ヒント:** リンクキーをコピーするには、KACEリンクキー（このサーバ）の内容をそのままクリックします。テキストが正常にコピーされたことを示すメッセージがフィールドの下部に短時間表示されます。

メモ帳に貼り付けるテキストは、1つのアプライアンスの **名前** および **キー** からコピーして、別のリンク先アプライアンスの対応するフィールドに貼り付けるテキストです。

8. リンク先の各アプライアンスで、上記の手順を繰り返します。

リンクを有効にしたすべてのアプライアンスに対して、名前とキーを追加します。詳細については、「[名前とキーのアプライアンスへの追加](#)」を参照してください。

i **注:** 各KACEシステム管理アプライアンスにはデフォルトの組織があらかじめ設定されています（名前はDefaultです）。ご使用のアプライアンスがKACEシステム管理アプライアンス上のDefault組織とリンクされていて、組織名が変更される場合、新しい組織名を指定する必要があります。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル > リンク先アプライアンス** をクリックします。
2. 表示される **リンク先アプライアンス** ページで、リンク先のKACEシステム管理アプライアンスの名前またはIPアドレスをクリックします。
3. 表示される **リンク先アプライアンス詳細の編集** ページの **デフォルト組織名** フィールドに組織名を入力し、**保存** をクリックします。

KACEリンクングハッシュの生成

KACEリンクングハッシュ文字列を使用すると、RSAのインストール中に、プライマリKACEシステム展開アプライアンスをリモートサイトアプライアンス（RSA）にリンクできます。生成されたハッシュ文字列は、5分間だけ有効になります。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **KACEリンク** をクリックして KACEリンク ページを表示します。
2. **KACEリンクを有効にする** チェックボックスをオンにして、接続設定を表示します。
3. **ハッシュの生成** をクリックします。
4. KACEリンクングハッシュ（5分間有効）フィールドのテキストをコピーして、メモ帳ファイルなどの中央的な場所に貼り付けます。

i **ヒント:** リンクキーをコピーするには、フィールドの内容をクリックします。テキストが正常にコピーされたことを示すメッセージがフィールドの下部に短時間表示されます。

このキーは5分間のみ有効です。期限切れになったときは、新しいキーを生成できます。現在のハッシュ文字列がまだ有効な間に、ハッシュ文字列を再生成できます。これは、ハッシュが生成された時間がわからない場合に役に立ちます。

ハッシュ文字列の生成後にページから離れて、その後にページに戻ると、ページがレンダリングされるまでに5分間が経過していない限り、リンクングハッシュフィールドは入力されたままになっています。

メモ帳に貼り付けるテキストは KACEリモートサイトアプライアンス初期設定ウィザードの **親SDAリンクングハッシュ** フィールドにコピーして貼り付けるテキストです。詳細については、『KACEシステム展開アプライアンスセットアップガイド』を参照してください。

名前とキーのアプライアンスへの追加

アプライアンスでリンクを有効にした後、各アプライアンスでリンクを設定するには、リモートアプライアンスの KACEリンク ページからリンクキーを中央サイトにコピーして、リンク先アプライアンスにそのキーを貼り付ける必要があります。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **KACEリンク** をクリックして **KACEリンクを有効にする** チェックボックスをオンにします。

リンク先アプライアンスの**管理 オプション**が **コントロールパネル** から使用できるようになります。

2. **アクションの選択 > 新規作成** の順に選択して、リンク先アプライアンスの追加 ページを表示します。
3. **ホスト名** に、リンク先アプライアンスのIPアドレスを入力します。

RSAとアプライアンスがリンクしている場合、ホスト名はRSAの ネットワーク設定 ページで設定したホスト名と一致する必要があります。

4. **リンクキー** で、中央的な場所にコピーしたキーをリンク先アプライアンスに貼り付けます。
5. **保存** をクリックします。
6. 両方のリンクが作成されたら、リンク先アプライアンス詳細の**編集** ページに移動し、**接続のテスト** をクリックして、2つのリンク先アプライアンス間の接続を確認します。

リンク先アプライアンス ページが表示されます。

アプライアンスに次回ログインすると、ページの右上隅にあるドロップダウンリスト（ログイン情報の隣）にリンク先アプライアンスが表示されます。別のアプライアンスに切り替えるには、切り替えるアプライアンスの名前をドロップダウンリストで選択してください。

リンク先アプライアンスを無効にする

必要に応じて、リンクを無効にできます。アプライアンスリンクを無効にした後でも、ログオフするまでは、リンクされたKACEシステム展開アプライアンスまたはRSA間での切り替えを継続できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **KACEリンク** をクリックして KACEリンク ページを表示します。
2. KACEリンクを有効にする **チェックボックス** をオフにします。
3. **保存** をクリックします。

アプライアンスの移行

設定とイメージをアプライアンス間で移行する場合は、アプライアンス移行ウィザード を使用して簡単に移行できます。これは、たとえば、仮想アプライアンス間でデータを迅速に移動する場合に便利です。

i **注:** ソースとターゲットのアプライアンスの両方でリンクを有効にする必要がありますが、アプライアンス接続を設定する必要はありません。アプライアンス移行ウィザード では、アプライアンスを接続し、移行後にアプライアンスの接続を切断します。アプライアンスリンクの詳細については、「[アプライアンスリンクの有効化](#)」を参照してください。

アプライアンスデータの移行

アプライアンス移行ウィザード を使用すると、設定とイメージをアプライアンス間で簡単に移動できます。移行は、関連するリモートサイトアプライアンス (RSA) では動作しません。ただし、ソースアプライアンスに関連付けられているRSAへのリンクはすべて、ターゲットアプライアンスに移行されます。ソースアプライアンスとターゲットアプライアンスは同じバージョンであることが必要です。この移行プロセスでは、ターゲットアプライアンスのすべてのデータが上書きされ、ソースアプライアンスのデータに置き換えられます。ターゲットアプライアンスのホスト名、IP アドレス、およびライセンスキーは、移行の影響を受けません。

i **重要:** Quest Software では、同じネットワーク、同じサブネット上にあるソースアプライアンスとターゲットアプライアンスの両方で移行を実行することを強くお勧めしています。必要に応じて、移行完了後にターゲットアプライアンスを適切なサブネットに移動できます。

1. Web ブラウザで 2 つのタブを開きます。各タブで、ソースアプライアンスおよびターゲットアプライアンスの管理者コンソールにログインします。
2. アプライアンスリンクが各アプライアンスで有効であることを確認します。アプライアンスリンクは、KACE リンク ページ、または アプライアンス移行ウィザード のリンクで有効にできます。アプライアンスリンクの詳細については、「[Quest KACEアプライアンスのリンク](#)」を参照してください。

i **注:** 移行プロセスを開始する前にアプライアンスリンクを有効にする必要がありますが、ソースアプライアンスとターゲットアプライアンスを実際にリンクする必要はありません。アプライアンス移行ウィザード では、アプライアンスを接続し、移行後にアプライアンスの接続を切断します。

3. 各アプライアンスの管理者コンソールの左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **アプライアンスの移行** をクリックして アプライアンス移行ウィザード を表示します。



注: このウィザードを実行すると、Web ブラウザでソースアプライアンスとターゲットアプライアンスを切り替える必要があります。2つのアプライアンスを簡単に区別できるように、それぞれに異なるテーマを適用できます。たとえば、ソースアプライアンスにダークテーマを適用し、ターゲットアプライアンスにライトテーマを適用できます。さまざまなテーマの選択についての詳細は、「[アプライアンスのデフォルトテーマの変更](#)」を参照してください。

4. アプライアンスリンクが各アプライアンスで有効でない場合は、その旨がウィザードに表示されます。アプライアンス移行ウィザードで KACE リンク をクリックし、KACE リンク ページを使用してアプライアンスリンクを有効にします。終了したら、アプライアンス移行ウィザードに戻り、移行を完了します。
5. ソースアプライアンスおよびターゲットアプライアンスを指定します。
 - a. ソースアプライアンスの アプライアンス移行ウィザード の アプライアンスの種類の選択 ページで、移行ソース を選択し、次へ をクリックします。
 - b. ターゲットアプライアンスの アプライアンス移行ウィザード の アプライアンスの種類の選択 ページで、移行ターゲット を選択し、次へ をクリックします。
6. ソースアプライアンスおよびターゲットアプライアンスをリンクします。

標準プロセスを使用してアプライアンスをリンクする必要はありません。その代わりに、アプライアンス間でカスタムリンクキーをコピーします。アプライアンスキーでは、アプライアンスのバージョン、ホスト名または IP アドレス、およびリンクキーを指定します。このキーは、暗号化された形式でウィザードに表示されます。カスタムリンクは、移行プロセス中にのみ使用できます。

標準プロセスを使用したアプライアンスのリンクの詳細については、「[Quest KACEアプライアンスのリンク](#)」を参照してください。

- a. ソースアプライアンスの アプライアンス移行ウィザード の ソースキーのコピー ページで、キーをコピーするフィールドを左クリックします。
 - b. ターゲットアプライアンスの アプライアンス移行ウィザード の ソースキーの適用 ページで、キーをフィールドに貼り付け、次へ をクリックします。
 - c. ソースアプライアンスの アプライアンス移行ウィザード の ソースキーのコピー ページで、次へ をクリックします。
 - d. ターゲットアプライアンスの ターゲットキーのコピー ページで、キーをコピーするフィールドを左クリックします。
 - e. ソースアプライアンスの ターゲット キーの適用 ページで、フィールドにキーを貼り付け、次へ をクリックします。
 - f. ターゲットアプライアンスの ターゲットキーのコピー ページで 次へ をクリックします。
7. ターゲット アプライアンスの アプライアンス移行ウィザード の 移行の承認 ページで、移行の承認 をクリックします。
8. アプライアンスの移行を承認します。
 - a. ターゲット アプライアンスの アプライアンス移行ウィザード の 移行の承認 ページで、移行の承認 をクリックします。
 - b. 表示される 確認 ダイアログボックスで、はい をクリックします。

ターゲットアプライアンスが移行モードになります。ブラウザのウィンドウに SDA 移行 ページが表示されます。

9. アプライアンスの移行を開始します。
 - a. ソースアプライアンスの アプライアンス移行ウィザード の 移行の開始 ページで、移行プロセスの完了後にソースアプライアンスで実行するアクションを指定します。そのためには、ページで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - ・ ダッシュボードに戻る：ダッシュボードページが表示されます。
 - ・ シャットダウン：アプライアンスがシャットダウンします。
 - ・ 再起動：アプライアンスが再起動します。
 - b. 移行の開始 をクリックします。



注: 移行プロセスを開始するには、前の手順で説明したように、ターゲットアプライアンスで移行を承認する必要があります。ターゲットアプライアンスで移行が承認されていない場合は、移行の開始の代わりに 承認を待機しています ボタンが表示されます。

c. 表示される 確認 ダイアログボックスで、はい をクリックします。

ソースアプライアンスが移行モードになります。ブラウザのウィンドウに SDA 移行 ページが表示されます。移行プロセスのログがアプライアンスごとに表示されます。このログの内容は、プロセスの各終了時に何が起こるかを反映しているため、アプライアンスごとに異なります。移行プロセスが完了すると、ターゲットアプライアンスが再起動し、ログインページが表示されます。

ユーザーアカウントおよびユーザー認証のセットアップ

アプライアンスにユーザーアカウントを追加して、ローカル認証を使用するようにセットアップできます。LDAPサーバーやActive Directory®サーバーなど外部のユーザー認証が必要な場合、外部サーバーを設定して、ユーザーがそれらのドメイン資格情報を使用して管理者コンソールにログインできるようにすることができます。

ローカル認証

デフォルトのローカル認証法は、使用している環境でActive DirectoryなどのLDAPサービスを使用できない場合に使用してください。

外部LDAPサーバー認証

ドメイン資格情報を使用して管理者コンソールにログインします。詳細については、「[認証でのLDAPサーバーの使用](#)」を参照してください。



注: リンク先アプライアンスがあり、すべてのリンク先アプライアンスで同じログインIDとパスワードを使用している場合、シングルサインオンを使用できます。

ローカル管理者アカウントの追加または編集

ローカル管理者ユーザーアカウントを作成および編集できます。ユーザーをアプライアンスデータベースに追加すると、ユーザー情報がローカルに保存されます。ユーザーを追加する操作では、ユーザー名、Eメールアドレス、パスワード、および権限のみが必要です。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **ユーザー** をクリックして **ユーザー ページ** を表示します。
2. **アクションの選択 > 新規作成** の順に選択して、**ユーザー詳細 ページ** を表示します。
3. **ユーザーアカウント フォーム** に入力します。

オプション	説明
ユーザー名	必須: ログインIDを入力します。
フルネーム	必須: ユーザーの姓名を入力します。
Eメール	必須: ユーザーのEメールアドレスを入力します。
ドメイン	ユーザーが使用しているドメインを入力します。
予算コード	オプション: ユーザーが所属している部門の予算コードを入力します。
場所	オプション: ユーザーのサイトまたは場所を入力します。

オプション	説明
パスワード	必須: ユーザーのデフォルトパスワードを入力します。パスワードはユーザーをアクティブにするのに必要です。パスワードフィールドが空白の場合、ユーザーは管理者コンソールにログインできません。
パスワードの確認入力	パスワードを再入力します。
権限	このアプライアンス上でのユーザーの役割。管理者は、すべての読み取り/書き込み権限を持ちます。読み取り専用管理者は、ログインして設定を表示したり、レポートを実行したりできますが、管理者コンソールにアクセスできません。 権限を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 管理者: 管理者コンソールに対する読み取り/書き込み権限。 読み取り専用管理者: すべてのページを表示する権限があります。ただし変更権限はありません。

4. オプション: キャンセル をクリックして、ページを閉じます。
5. 保存 をクリックします。

ユーザーがローカルアカウントリストに表示されます。これで、ユーザーは管理者コンソールにログインできます。

ユーザーグループにラベルを適用できます。

LDAPサーバーでのユーザー認証の設定

LDAP認証を使用するには、アプライアンス用のログインアカウントをLDAPサーバーに作成する必要があります。アプライアンスは、このアカウントを使用して、LDAPサーバーからユーザー情報を読み取り、インポートします。このアカウントには、LDAPサーバーの ベースDNの検索 フィールドに対する読み取り専用のアクセス権が必要です。アプライアンスはLDAPサーバーに書き込みを行わないため、このアカウントに書き込み権限は必要ありません。

ユーザーアカウントをアプライアンスに追加する方法の詳細については、「[ローカル管理者アカウントの追加または編集](#)」を参照してください。



注: LDAPが有効になっているときには、管理者アカウントを除くローカルアカウントはすべて、アクティブでなくなります。

ログイン時に、アプライアンスはリストされた外部サーバーを自動的に照会します。サーバーのタイムアウトは約10秒です。ログイン遅延を短縮するために、サンプル LDAP サーバを削除することをお勧めします。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックし、次に ユーザー認証 をクリックして 認証設定 を表示します。
2. 外部LDAPサーバ認証 を選択して、新しいサーバの追加 をクリックします。
すべてのサーバーが有効なIPアドレスまたはホスト名を所有している必要があります。そのようにしないと、LDAP認証を使用するときにアプライアンスでタイムアウトが発生し、ログインに時間がかかります。
3. 次の情報を入力して、サーバーを追加します。

フィールド	説明
サーバーの分かりやすい名前	サーバーを識別するための名前。
サーバーのホスト名（またはIP）	<p>LDAPサーバーのIPアドレスまたはホスト名。IPアドレスが有効でない場合は、タイムアウトするまで待たなければならず、その結果LDAP認証中にログイン遅延が発生します。</p> <p>i 注: SSL経由で接続するには、IPアドレスまたはホスト名を使用します。例: ldaps://hostname。</p> <p>非標準のSSL証明書（社内で署名された証明書や VeriSign のような大手の証明書プロバイダから発行されていないチェーン証明書など）がLDAPサーバにインストールされている場合、サポートのために Quest KACE テクニカルサポート（https://support.quest.com/contact-support）に問い合わせてください。</p>
LDAPポート番号	LDAPポート番号。通常は、389（LDAP）または636（セキュアLDAP）です。
ベースDNの検索	<p>アプリケーションがユーザーの検索を開始するLDAPツリーの領域。例えば、ITグループを検索する場合、次を指定します。</p> <p>OU=it,DC=company,DC=com。</p>
検索フィルタ	<p>検索フィルタです。例えば、<code>LDAP_attribute=KBOX_USER</code>。ここで、<code>LDAP_attribute</code>は、固有のユーザーIDを含む属性の名前です。<code>KBOX_USER</code>は、実行時にユーザーが入力したログインIDに置き換えられる変数です。例えば、Active Directoryを使用する場合は、<code>samaccountname=KBOX_USER</code>と入力します。その他のLDAPサーバーの場合は通常、<code>UID=KBOX_USER</code>と入力します。</p>
LDAPログイン	<p>アプリケーションがLDAPサーバにログインして、アカウントを読み取るために必要なアカウントの資格情報です。例: LDAP Login:CN=service_account,CN=Users,DC=company,DC=comユーザー名を指定していない場合は、匿名のバインドが試みられます。</p>
LDAPパスワード（必要に応じて）	アプリケーションがLDAPサーバーにログインするために必要となるアカウントのパスワードです。
ユーザー権限	<p>ユーザー権限です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理者：管理者コンソールに対する読み取り/書き込み権限。 読み取り専用管理者：すべてのページを表示する権限があります。ただし変更権限はありません。

フィールド	説明
ユーザーパスワードのテスト	LDAPサーバーでテストするためのLDAPユーザー名およびパスワードです。詳細については、「 LDAPサーバーのテスト 」を参照してください。
	ベースDNの検索条件と検索フィルタ条件を書き留めます。これと同じ情報を、ユーザーデータをインポートし、ユーザーインポートをスケジュールする際に使用します。
	<ol style="list-style-type: none"> 推奨：環境内の実際のサーバーに対して設定されていない各外部サーバーの隣にある削除アイコンをクリックします。 保存 をクリックします。
	ユーザーの次回ログイン時に、リストに表示された順序でLDAPサーバーに対してユーザーが認証されます。
	<p>i 注: 管理者アカウントは、同じ名前を持つアカウントが外部LDAPに存在する場合でも、常に内部データベースに対して認証されます。</p>
	外部LDAPで認証をテストします。詳細については、「 LDAPサーバーのテスト 」を参照してください。

LDAPサーバーのテスト

LDAPサーバーが認証を正常に実行できるかどうかを確認するために、有効なユーザー名とパスワードを使用して、LDAPサーバーで認証をテストできます。

- LDAPプロファイルを選択します。
- 検索フィルタで、**KBOX_USER**変数を、テストするのに有効なログインIDに置き換えます。構文は、samaccountname=usernameです。
- LDAPアカウントに対応するパスワードを入力します。
- 設定のテスト をクリックします。

このテストに成功すれば、テスト対象のユーザーおよび同じLDAPコンテナに属する他のユーザーに対する認証の設定が完了します。

- 検索フィルタのユーザー名をシステム変数**KBOX_User**に戻します。

ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントは削除できます。

- 左側のナビゲーションペインで、設定 > コントロールパネル をクリックして コントロールパネル を表示し、次に ユーザー をクリックして ユーザー ページを表示します。
- 1つ以上のアカウントの隣のチェックボックスをオンにします。
- アクションの選択 > 削除 の順に選択します。
- はい をクリックして確定します。

ユーザーセッションのレビュー

KACEシステム展開アプライアンスとリモートサイトアプライアンスは、ユーザーセッションを追跡します。最新のセッションのリストを確認したり、特定のアプライアンスのすべてのセッションを表示したりできます。

アプライアンスでログインしているユーザーのパブリックIPアドレスに関連付けられている場所を表示できるようにするには、場所データベースをインストールする必要があります。詳細については、「[ロケーションデータベースのインストールと設定](#)」を参照してください。

最新のセッション ページには、すべてのユーザーセッションが表示されます。最新のセッションのクイックリストを表示するには、自分の最新のセッション ペインを使用します。詳細については、「[ユーザーセッションのリストを表示](#)」を参照してください。

ロケーションデータベースのインストールと設定

ユーザーセッションの詳細には、現在ログインしているユーザーのIPアドレスが含まれます。この情報は、最新のセッション ページに表示されます。パブリックIPアドレスの場合は、特定のIPアドレスに関連付けられた地理的な場所を表示することもできますが、これには、ロケーションデータベースをKACEシステム展開アプライアンスおよびリモートサイトアプライアンスにインストールする必要があります。MaxMindジオロケーションデータベースは無料でインストールでき、任意のパブリックIPアドレスのユーザーの場所を表示できます。

MaxMindでは、国と都市のデータベースが利用できます。都市データベースは通常、サイズが大きく、インストールに時間がかかります。国データベースでは、各パブリックIPアドレスに関連付けられた国の名前のみが提供され、都市データベースでは、アプライアンスで都市、州または都道府県（該当する場合）、および国を表示できます。

更新されたバージョンをインストールすることで、ロケーションデータベースを定期的に更新できます。複数のデータベースを時間の経過とともにインストールすることは可能ですが、最後にインストールされたデータベースは、以前のバージョンの内容を上書きします。たとえば、国データベースがすでにインストールされていて、アプライアンスに都市データベースをインストールした場合、最新のセッション ページの 場所 列に新しくインストールされた都市データベースの情報が反映されます。

MaxMindジオロケーションデータベースの詳細については、<https://www.maxmind.com/>を参照してください。



注: アプライアンスへのアクセスにプライベートIPアドレスが使用されている場合、場所を表示することはできません。

1. <https://www.maxmind.com/>からロケーションデータベースをダウンロードしてください。



注: MaxMindからデータベースファイルをダウンロードするには、まずユーザープロファイルを作成します。CSVファイルではなく、MMDB形式を使用するファイルをダウンロードする必要があります。

2. KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールまたはリモートサイト管理コンソールにログインします。
3. 必要に応じて、次のいずれかの手順を完了します。
 - **KACEシステム展開アプライアンスのみ。**
 1. システム展開アプライアンス管理者コンソールにログインします。
 2. **設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定 ページ** を表示します。
 - **リモートサイトアプライアンスのみ。**
 1. リモートアプライアンスのコンソールにログインします。
 2. **設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **リモートサイト設定** をクリックして **リモートサイト設定 ページ** を表示します。
4. 表示されたページの MaxMindジオロケーションデータ で、ダウンロードしたZIPファイルをポイントします。

これを行うには、**ファイルの選択** をクリックしてダウンロードしたファイルへのパスを指定するか、ファイルを指定した領域にドラッグアンドドロップします。
5. **データベースの更新** をクリックします。

インストールするデータベースのタイプによっては、データベースのインストールが完了するまでに数分かかる場合があります。インストールが完了すると、データベースタイプ および データベースバージョンフィールドに関連する詳細情報が表示されます。

i 注: 都市データベースのインストールと更新には、通常、ファイルサイズのため、国データベースよりも長い時間がかかります。

次に、最近のセッション ページに移動して、現在のユーザーの場所データを確認します。詳細については、「[ユーザーセッションのリストを表示](#)」を参照してください。

ユーザーセッションのリストを表示

最近のセッション ページを使用して、アカウントに関連付けられているすべてのセッションを表示します。必要に応じて、KACEシステム展開アプライアンスまたは各リモートサイトアプライアンスでユーザーセッションを確認できます。または、最新のセッションを表示するには、右上隅にある 最近のセッション アイコンをクリックし、表示される 自分の最近のセッション ペインのリストを確認します。

アプライアンスが現在のユーザーに対して複数のセッションを検出した場合、アイコンには赤色の感嘆符が表示されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、[監査ログ](#) をクリックしてセクションを展開し、次に [最近のセッション](#) をクリックして 最近のセッション ページを表示します。
2. ユーザーセッションのリストを確認します。

各エントリには、ユーザー名、使用しているブラウザ、オペレーティングシステム、IPアドレス、セッション期間、最後のアクティビティの日時、および適用可能なアクションが表示されます。パブリックIPアドレスを持つユーザーの場合、ロケーションデータベースがインストールされている場合は、場所も表示されます。詳細については、「[ロケーションデータベースのインストールと設定](#)」を参照してください。

セキュリティ設定項目の設定

SSHを有効にすることにより、Quest KACEテクニカルサポートチームがリモートサポート用にアプライアンスにアクセスすることを許可できます。他のセキュリティ設定には、リモート管理を可能にするSNMPの有効化および外部プログラムからアプライアンスデータベースを利用できるようにするオフボードデータベースアクセスの有効化があります。オフボードデータベースアクセスはレポート作成に役立ちます。SSLを有効にすることにより、セキュアWebブラウザでアプライアンスを実行できます。

SNMP監視の有効化

アプライアンスのSNMPエージェントは、アプライアンスのリモート管理を可能にします。

内部SNMPエージェントは標準のUDPポート161を使用します。TRAPおよびINFORM要求を使用して設定することはできません。別のデバイスにプライマリSNMPエージェントが設定されている場合、このエージェントは、アプライアンスにGET、GETNEXT、およびGETBULKの要求を送信して、アプライアンスが要求された情報を返せるようにすることができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 > コントロールパネル をクリックして コントロールパネル を表示し、次に セキュリティ をクリックして セキュリティ設定 ページを表示します。
2. **SNMP監視を有効にする** をクリックして、SNMPコミュニティ文字列 フィールドを表示します。
3. 固有のコミュニティ文字列（newStringなど）を入力します。

コミュニティ名にスペースが含まれる場合は、引用符でコミュニティ名を囲みます。固有の文字列を作成することをお勧めします。デフォルトは KaceSDA です。

i **注:** 7.0 より前のバージョンでは、コミュニティ文字列はデフォルトで public に設定されます。7.0 より前のバージョンからアップグレードし、SNMP監視が無効な場合、コミュニティ文字列は public から KaceSDA に変更されます。SNMP監視が有効な場合、コミュニティ文字列は public のままになります。セキュリティ面の問題を防ぐために、このコミュニティ文字列は更新する必要があります。ダッシュボードとセキュリティ設定 ページに警告が表示され、コミュニティ文字列を更新するように求められます。

4. **保存** をクリックします。

既存の証明書を使用してのSSL有効化

デフォルトでは、SSLは無効になっています。既存のSSL証明書、中間証明書、または自己署名証明書を使用して、アプライアンスをセキュアWebブラウザ上で実行できます。既存の証明書を使用するには、SSLプライベートキーを所有している必要があります。さらにポート80が開いている必要があります。



注: 有効な証明書を取得していない場合、アプライアンスで証明書署名要求（CSR）を生成し、証明書署名機関に送信することができます。プライベートキーをダウンロードして、安全な場所に保存できます。詳細については、「[新しいSSL証明書プライベートキーの生成](#)」を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **セキュリティ** をクリックして **セキュリティ設定** ページを表示します。
2. **SSLを有効にする** をクリックし、**取得済みのSSL証明書を使用する** をクリックします。
3. **マイ証明書の使用** をクリックします。
4. SSL設定（オプション）で、次の証明書タイプのいずれかを選択します。
 - **プライベートキーと証明書（最も一般的）。**
 - **中間証明書もある場合の対処**
 - **PKCS-12（.pkcs12、.pfx、.p12）**

PKCS-12 SSL形式の証明書のパスワードを入力します。
5. **キーまたは証明書を参照し、証明書の適用** をクリックします。

これで、httpsを使用するセキュアWebブラウザを使用できます。

新しいSSL証明書プライベートキーの生成

デフォルトでは、SSLは無効になっています。新しい証明書を生成した後で、プライベートキーを生成してSSLを有効にできます。プライベートキーファイルまたはPKCS-12ファイルを所有しており、プライベートキーと証明書が同じ証明書署名要求（CSR）から生成されている場合、有効な自己署名証明書を使用できます。

アプライアンスによるキー生成を停止する必要があるエラーが発生した場合に備えて、アプライアンスコンポーネントを別の場所にエクスポートし、SSHを有効にします。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **セキュリティ** をクリックして **セキュリティ設定** ページを表示します。
2. **SSLを有効にする** をクリックして、新しい証明書または有効な自己署名SSL証明書を使用します。Quest KACEでは、自己署名証明書の使用をお勧めしていないことに注意してください。
 - **新しいSSL証明書の生成:**
 1. **新しいSSL証明書の取得** をクリックして、SDAの高度なSSL設定 ウィザードを表示します。
 2. フィールドに値を入力して、CSRを生成します。
 3. プライベートキーをダウンロードして安全な場所に保存し、証明書署名機関から有効な証明書を取得したときにSSLを有効にするために使用します。
 4. 生成したCSRをコピーするかダウンロードして、証明書署名機関に送信します。
 - **自己署名証明書の使用:**
 - **自己署名証明書を使用する** をクリックして、**保存してApacheを再起動** をクリックします。

SSLの無効化

SSL (Secure Sockets Layer) を無効にすることで、アプライアンスが動作しているセキュアWebブラウザを無効にすることができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **セキュリティ** をクリックして **セキュリティ設定** ページを表示します。
2. **有効化されたポート: 80、443 (変更)** をクリックします。
3. 次のチェックボックスをオフにします。
 - ポート443を有効にする (HTTPS)
 - ポート80からポート443へ転送する
4. **変更の適用** をクリックします。

これで、HTTPSブラウザは使用できなくなります。

データベースアクセスを有効にする

データベースアクセスを有効にすることにより、Crystal ReportsやExcel®などの外部プログラムからアプライアンスデータベースを照会して、独自のレポートを作成できます。デフォルトでは、アプライアンスはデータベースへの外部接続を許可しません。

データベースへの外部アクセスのアカウントは、ユーザー名 : report、パスワード : box747 です。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **セキュリティ** をクリックして **セキュリティ設定** ページを表示します。
2. データベースアクセスを有効にする **チェックボックス** をオンにします。
3. レポートユーザーのデータベースパスワードとパスワードの確認入力 で、アプライアンスデータベースにアクセスするときに外部リソースが使用するデータベースパスワードを指定します。

パスワード文字列を入力すると、レポートユーザーのデータベースパスワードフィールドの下のインジケータの色が変わり、パスワードの強度が示されます。赤は最も低いレベルを示し、緑は最も複雑度の高いレベルを示します。権限のないユーザーがデータベースレコードにアクセスできないようにするには、強力なパスワードを選択します。

レポートユーザーのパスワードを指定しない場合、アプライアンスを照会するプログラムはデフォルトのパスワードを使用します。これにより、攻撃者が機密データを公開する可能性があります。ホームダッシュボードに警告アラートが表示され、データベースのパスワードを変更するよう求められます。ダッシュボードの詳細については、「[ダッシュボードの使用](#)」を参照してください。

4. **保存** をクリックします。

外部プログラムからアプライアンスデータベースを照会できるようにするには、アプライアンスの再起動が必要になる場合があります。

SSHルートログインの有効化 (KACEサポート)

SSHを有効にすることで、Quest KACEサポートチームがアプライアンスにリモートアクセスできるようになります。Quest KACEでは、アプライアンスを使用し始める前にSSHを有効にすることをお勧めします。アプライ

アンスからの応答がなくなった場合、サポートチームにとって、SSHリモートアクセスを使用するほかに問題を診断して解決する手段はありません。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **セキュリティ** をクリックして **セキュリティ設定 ページ** を表示します。
2. SSHルートログインの許可 (KACEサポート) チェックボックスをオンにします。
3. **保存** をクリックします。

総当たりログイン攻撃の防止

複数の連続的な攻撃でアプライアンスの資格情報が複数回連続して取得されないようにアプライアンスを設定できます。

セキュリティ設定 ページの **総当たり検出** 設定では、指定した期間内に失敗した認証試行の回数を設定できません。以降、アプライアンスでは該当ユーザー名のログインが阻止されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **セキュリティ** をクリックして **セキュリティ設定 ページ** を表示します。
2. セキュリティ設定 ページの **総当たり検出** では、次の項目を指定します。
 - ログイン試行の失敗回数の上限です。3 回から 10 回までの任意の回数を指定できます。デフォルトの設定は 3 回です。
 - アプライアンスが特定のユーザーのログインを禁止する期間 (分)。1 ~ 60 の任意の分数を指定できます。デフォルトの設定は 5 分です。

アプライアンスでユーザーのログインが無効になった場合でも、他のユーザーは影響を受けず、有効な資格情報を入力すれば、指定された期間アプライアンスにログインできます。

3. **保存** をクリックします。

展開の準備

アプライアンス展開は、20 %のディスク領域を必要とします。ブート環境を構築するために必要なツールのダウンロードとインストール、オペレーティングシステムのインストールソースメディアのアップロード、およびアプライアンスでのターゲットデバイスへの接続の有効化を行うことができます。

展開環境のセットアップ

ターゲットデバイス間のアプライアンスネットワーク接続をセットアップして、ターゲットデバイスからアプライアンスへのPXEブート要求の送信、KACEブート環境 (KBE) を構築するのに必要なツールのダウンロード、およびソースメディアとユーザープロファイルのアプライアンスへの読み込みを行うことができます。

1. 管理者用のデバイスをセットアップします。
2. DHCPサーバを使用して、ターゲットデバイスとアプライアンス間のネットワーク接続を作成し、ターゲットデバイスからアプライアンスにPXEブート要求を送信します。詳細については、「[オンボードDHCPサーバーを有効にする](#)」を参照してください。
 - a. ネットワーク上に既存のDHCPサーバが存在しない場合、および閉じられた試験用環境でアプライアンスを使用している場合は、組み込みのアプライアンスDHCPサーバを使用します。
 - b. アプライアンスが企業ネットワーク上にある場合は、既存のDHCPサーバを使用します。
3. メディアマネージャをダウンロードします。詳細については、「[KACEメディアマネージャのダウンロードおよびインストール](#)」を参照してください。
 - a. メディアマネージャを使用して、KACEブート環境を作成するために必要なWindows ADKをダウンロードし、インストールします。詳細については、「[Windows ADKのダウンロードおよびインストール](#)」を参照してください。
 - b. OSソースメディアをメディアマネージャにアップロードします。詳細については、「[KACEメディアマネージャを使用してファイルをアップロードする](#)」を参照してください。
4. ユーザープロファイルをデバイスからキャプチャし、アプライアンスにアップロードして、ターゲットデバイスに移行します。詳細については、「[アプライアンスからのUSMTソフトウェアのアップロード](#)」を参照してください。

デバイスを準備してイメージをキャプチャします。詳細については、「[システムイメージのキャプチャ](#)」を参照してください。

オンボードDHCPサーバーを有効にする

DHCPサーバの存在しないプライベートネットワークまたは小規模な環境でアプライアンスをテストする場合、このオプションをアプライアンスで有効にすることにより、アプライアンスをDHCPサーバとして動作させることができます。

ネットワーク上にDHCPサーバーは1台だけ存在することと、DHCP要求をアプライアンスに転送するようにルーターを設定していることを確認します。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **ネットワーク設定** をクリックして **ネットワーク設定 ページ** を表示します。
2. オンボードDHCPサーバーを有効にする **チェックボックス** をオンにします。

DHCPの範囲のフィールドが表示されます。

3. DHCPプール開始 で、範囲内の最下位のIPアドレスを入力します。
4. DHCPプール終了 で、範囲内の最上位のIPアドレスを入力します。
5. 保存 をクリックします。

DHCPが有効になります。

オフボードDHCPサーバーの設定

デバイスの電源を初めてオンにしたときには、BIOSのブートメニューからNICまたはネットワーク起動オプションを選択できます。Windows展開では、ターゲットデバイスをローカルドライブ以外の場所から起動する必要があります。NICまたはネットワーク起動オプションを選択すると、デバイスはPXE要求をDHCPサーバーに送信して、iPXEサーバーを見つけます。この場合、アプライアンスがPXEサーバです。オフボードDHCPサーバを設定してアプライアンスを認識させ、ターゲットデバイスをアプライアンスからUEFIブートすることができます。

手順は、使用しているサーバーによって異なる場合があります。任意のDHCPサーバー上で、066と067のオプションに次の設定を使用します。

Microsoft DHCPを使用しない場合は、追加情報については次のサポート技術情報記事を参照してください。

<https://support.quest.com/kace-systems-deployment-appliance/kb/112037>

1. DHCPサーバー用の設定アプリケーションを開きます。
2. アプライアンスで起動できるようにする必要のあるターゲットデバイスが存在する各サブネットまたはスコープに対して次のオプションを設定します。

- Option 066 にアプライアンスのIPアドレスを設定します。

このオプションは、Next-Server、起動サーバーホスト名、または TFTPサーバー名 として表示されることがあります。

i | **注:** 一部のCiscoネットワーク機器では、Option 66 を設定できない場合があります。代替の設定として、sname オプションと 244 オプションをアプライアンスのIPアドレスに設定できます。

- Option 067 を次の文字列に設定します。ipxe.efi (UEFIデバイスの場合)、およびundionly.kpxe (BIOSデバイスの場合)。

このオプションは、起動ファイル名 として表示されることもあります。ipxe.efi または undionly.kpxe 文字列をコピーして、起動ファイル名 オプションとして貼り付けます。

i | **注:** 1つのサブネットに1つのPXEサーバーまたはTFTPサーバーのみを設定できます。アプライアンスをテストするサブネット上で他のイメージ処理ツールを無効にします。

これで、PXE準拠のWindowsデバイスが次回にネットワーク接続中に起動した場合、DHCPサーバーによって自動的にアプライアンスに転送されます。デバイスはブートストラップファイルをダウンロードし、環境セットアップを使用して起動します。

KACEメディアマネージャのダウンロードおよびインストール

KACEメディアマネージャをアプライアンスからWindows ADKがインストールされているデバイスにダウンロードして、インストールできます。KACEメディアマネージャは、Windows ADKを使用してKACEブート環境 (KBE) をアップロードします。

メディアマネージャにはMicrosoft .NET 4.0の完全インストールが必要です。<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=17851>から.NET 4.0をダウンロードしてインストールします。

アプライアンスは、メディアマネージャの更新バージョンを定期的にチェックします。新しいバージョンが利用可能になると、ホームダッシュボードに警告アラートが表示されます。管理対象デバイスでKACEメディアマネージャの最新バージョンを使用することをお勧めします。ダッシュボードの詳細については、「[ダッシュボードの使用](#)」を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックし、次に **ライブラリの概要** をクリックして、**ライブラリの概要** ページを表示します。
2. **ソースメディア** で、**アクションの選択** > **メディアマネージャのダウンロード** を選択して **メディアマネージャ** ページを表示します。
3. **Windows用のダウンロード** をクリックします。
ファイルのダウンロード ウィンドウが表示されます。
4. **実行** または **保存** をクリックして、デバイスにインストールファイルをダウンロードし、そのファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。
よろこそ ウィンドウが表示されます。
5. **スタート** > **すべてのプログラム** > **Quest** > **KACEメディアマネージャ** からメディアマネージャを実行します。
詳細については、「[メディアマネージャについて](#)」を参照してください。

KACEブート環境を構築します。詳細については、「[Windowsブート環境の作成](#)」を参照してください。

メディアマネージャについて

KACEメディアマネージャは、KACEブート環境（KBE）を構築し、OSに関連するファイルをアプライアンスにアップロードするためのユーティリティです。

メディアマネージャには、以下のページが含まれています。左側のペインで該当するボタンをクリックして、各ページを選択できます。

- [KBE ページの作成](#)
- [ソースメディアのアップロード ページ](#)
- [USMT のアップロード ページ](#)
- [一般設定 ページ](#)

KBE ページの作成

このページには複数のタブがあり、それぞれに KBE の作成に使用できる設定グループが含まれています。

タブ	オプション	説明
一般	名前	KBE の名前です。この値は自動的に生成されますが、必要に応じて変更できます。
	アーキテクチャ	Windows のみ 。KBE の OS アーキテクチャ。必要に応じて、 32 ビット または 64 ビット のアーキテクチャを選択します。
	言語	KBE の言語です。
	KBE のアップロード	クリックして、KBE をアプライアンスにアップロードできます。

タブ	オプション	説明
	カスタム ISO のアップロード	クリックして、カスタム ISO をアプライアンスにアップロードできます。
	カスタム WIM のアップロード	クリックして、カスタム WIM をアプライアンスにアップロードできます。
サーバ構成	DHCP を使用した SDA の検索	メディアマネージャが DHCP サーバを使用してアプライアンスを検出できるようにします。
	SDA 固定 IP アドレスを使用する	アプライアンスが配置されているネットワークで DHCP 経由での配置が不可能な場合は、このオプションを使用してアプライアンスの静的 IP アドレスを指定します。このオプションを使用して作成されたブート環境は、RSA（リモートサイトアプライアンス）では動作しません。
	RSA の静的 IP アドレスを使用する	RSA のブート環境を作成するために RSA の静的 IP アドレスを指定する場合は、このオプションを選択します。
デバイス設定	DHCP によりデバイス IP アドレスを検索	DHCP を使用してターゲットデバイス（KBE でブートするデバイス）を特定することができます。これはデフォルト設定ですが、ターゲットデバイスが DHCP を使用している場合にのみ動作します。
	静的 IP アドレスの割り当て	ターゲットデバイスの静的 IP アドレス。アプライアンスデバイスとターゲットデバイスの両方が静的 IP アドレスまたは DHCP のいずれかを使用していることが必要です。静的 IP アドレスをデバイスに割り当てたうえで、DHCP を使用するようにアプライアンスを設定することはできません。このオプションを選択した場合、一度に起動できるデバイスは 1 つだけです。
	静的 IP アドレスの範囲の設定	このオプションを使用して、静的 IP デバイスの範囲を指定します。複数のデバイスを同時に起動することもできます。このオプションを選択すると、ブート環境が起動したときに、各デバイスに割り当てられるアドレスを選択できます。

タブ	オプション	説明
詳細設定		<p>注: .NET/Powershell、安全なスタートアップ、およびプラットフォームIDは、すべての新しいKBEに自動的にインストールされます。</p>
	スクラッチスペース (MB)	<p>ターゲットデバイスのスクラッチスペースのサイズを選択します。デフォルト値は 64 MB です。ドライバやアプリケーションを追加した場合など、さらにスペースが必要な場合は、必要に応じてこの値を 128、256、または 512 MB に増やします。</p>
	ADSI ドライバの追加	<p>Active Directory サービスインターフェイス (ADSI) ドライバを追加します。たとえば、ターゲットデバイスの起動中に Active Directory をクエリする場合は、このオプションを選択します。</p>
	ODBC ドライバの追加	<p>ODBC (Open Database Connectivity) ドライバを追加します。ターゲットデバイスでデータベース接続を確立する場合は、このオプションを選択します。</p>
	DCCTK / コマンド設定	<p>Dell Client Configuration Toolkit (コマンド設定とも呼ばれます) がインストールされているかどうかを示します。このツールを使用すると、Dell BIOSes がインストールされ、KBE に追加されている場合にそれを操作したり、BIOS パスワードの変更やブート順序の変更など、デバイス BIOS を設定するためのコマンドを発行したりすることができます。</p>
	UEFI ISO	<p>KBE が Unified Extensible Firmware Interface 準拠デバイスを作成できるようにします。このオプションは 64 ビットシステムでのみサポートされています。</p>
	KBE 時間をサーバと同期	<p>KBE システム時刻をアプライアンスで設定されている時刻と同期します。</p>
	KBE タイムゾーンを設定	<p>KBE タイムゾーンを設定します。このオプションがオフの場合 (デフォルト設定)、KBE タイムゾーンは PST (太平洋標準時) に設定されます。このオプションを選択した場合、KBE はメディアマ</p>

タブ	オプション	説明
		ネージャを実行しているシステムのタイムゾーンを使用しますが、必要に応じて別のタイムゾーンを選択することもできます。
	KBE にファイルを追加	KBE にカスタムファイルを追加できます。たとえば、アンチウイルススキャナなどのポータブルアプリケーションを KBE に追加できます。
	UltraVNC を起動	ターゲットデバイスで UltraVNC を起動する場合は、このオプションを選択します。このオープンソースツールを使用すると、ターゲットデバイスがネットワーク接続を介してリモートで別のコンピュータにアクセスできます。
	KACE 導入メニュー	ターゲットデバイスの起動時に KACE 導入メニューを表示する場合はこのオプションを選択し、メニューを表示しない場合はクリアします。
	ドライバーフィードアドバイザを実行	ターゲットデバイスモデルのドライバフィードへのパスを指定します。
	拡張ストレージを追加	拡張ストレージをターゲットデバイスに追加できます。この機能により、Windowsでは追加ストレージ機能を検出し、ターゲットシステム上のストレージデバイスを管理できます。拡張ストレージの詳細については、Windowsのマニュアルを参照してください。
	ISO サイズ制限のオーバーライド	組織で ISO ファイルサイズ制限が設定されていない場合は、このオプションを使用して、より大きな ISO イメージを作成できます。
	SMB v.1 の有効化	この古いバージョンの SMB プロトコルをターゲットデバイスで使用する場合は、このオプションを使用します。
	KBE 背景を変更	KBE の背景画面にカスタムイメージを適用し、デフォルトの Quest の背景を置き換えます。
ドライバオプション	SDAからのドライバの挿入	ダウンロードした最新のドライバをKBEに追加します。これは新しいKBEのデフォルト設定です。

タブ	オプション	説明
	ローカルディレクトリからのドライバの挿入	ローカルマシンからKBEにドライバを追加します。 参照 をクリックしてディレクトリを指定します。
フォントのサポート		必要に応じて、インストールするフォントを選択します。
DOS コマンド		KBE の開始後に実行するコマンドを入力します。
	DOS コマンドを記憶	KBE を開始するたびにコマンドを実行する場合に選択します。

ソースメディアのアップロード ページ

このページでは、ソースメディアファイルを指定してアプライアンスにアップロードすることができます。

オプション	説明
ソースメディア名	アプライアンスにアップロードするソースメディアの名前です。
ソースメディアタイプ	選択したソースメディアの OS を自動的に検出するか（ほとんどのオペレーティングシステムで使用可能）、必要に応じてリストから OS を選択できます。
ソースメディアのパス	ISO ファイルへのパス。
ソースメディアのアップロード	クリックして、ソースメディアをアプライアンスにアップロードできます。

USMT のアップロード ページ

このページでは、USMT（ユーザー状態移行ツール）ファイルを指定してアプライアンスにアップロードできます。

オプション	説明
WAIK パスまたは WADK パス	表示されるパスでは、 一般設定 ページ の WAIK パスまたは WADK パスの設定が反映されます。
USMT のアップロード	クリックして、USMT（ユーザー状態移行ツール）をアプライアンスにアップロードできます。

一般設定 ページ

このページでは、メディアマネージャがアプライアンスにアクセスするために必要な一般設定を指定できます。これは、初めてメディアマネージャを実行したときに表示される最初のページです。

セクション	オプション	説明
SDA 設定	SDAホスト名	アプライアンスが実行しているシステムの IP アドレス。

セクション	オプション	説明
	SDA IP アドレス	アプライアンスが実行しているシステムの IP アドレスセグメント。
	Samba 共有パスワード	アプライアンス上の Samba 共有のパスワード。Samba 共有は、ファイルの保存とバックアップに使用されます。このパスワードは、一般設定 ページの SDA Samba 共有パスワード フィールドに入力したパスワードと一致する必要があります。
	パスワードを記憶	Samba 共有パスワードを記憶する場合に選択します。
	SDA接続のテスト	クリックして、アプライアンスへの接続をテストし、Samba共有パスワードを確認します。接続に失敗すると、「接続に失敗しました」が読み取りに表示されます。同様に、接続が成功すると、緑色の「正常に接続されました」が表示されます。
その他の設定	WAIK パスまたは WADK パス	Windows のみ。 アップロードする Windows アセスメント&デプロイメントキット (WADK) または Windows 自動インストールキット (WAIC) ファイルへのパス。
	テーマ	メディアマネージャのテーマ: ダーク または ライト。
	DISMログレベル	DISM (展開イメージのサービスと管理) ログに表示される最大出力レベルを指定します。デフォルトのログレベルは3です。次のログ記録レベルが使用可能です。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 - エラーのみ • 2 - エラーと警告 • 3 - エラー、警告、情報 • 4 - 以前リストされたすべての情報とデバッグ出力

Windows ADKのダウンロードおよびインストール

KACEブート環境を構築するには、Windows 7以上およびWindows Server® 2012デバイス用のWindowsアセスメント&デプロイメントキット (Windows ADK) をインストールする必要があります。

ISOマウントソフトウェアまたは空のDVD、および管理者権限を使用できるWindowsデバイスまたはWindowsサーバーが必要です。

1. Windows ADKをダウンロードし、インストールする手順の詳細については、<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=30652>を参照してください。
2. インストールする機能を選択します。リストにある機能をすべて選択します。

Windows ADKをインストール済みのデバイスにKACEメディアマネージャをダウンロードして、インストールします。手順については、[KACEメディアマネージャのダウンロードおよびインストール](#)を参照してください。

KACEメディアマネージャを使用してファイルをアップロードする

KACEメディアマネージャを使用して、オペレーティングシステムのソースファイルとインストールファイルをアプライアンスにアップロードできます。

ソースメディアのアップロードには以下が必要です。

- KACEメディアマネージャおよび.NET 4.0
- インストールディスクまたはマウントするISOイメージ

このページの詳細については、「[メディアマネージャについて](#)」を参照してください。

または、ソースメディアのインポート ページを使用して、Windows およびLinux .isoファイルをアプライアンスにアップロードすることもできます。Microsoft Windowsではファイル名が切り捨てられるため、一部のプラットフォーム (CentOSなど) の.isoファイルをアップロードする場合は、このページを使用することをお勧めします。詳細については、「[共有ディレクトリからファイルをアップロードする](#)」を参照してください。



注: ソースファイルのアップロードは数時間かかる場合があります。

1. メディアマネージャがインストールされているデバイスのメディアドライブに、オペレーティングシステムのディスクを挿入します。
2. スタート、すべてのプログラム、Quest、KACEメディアマネージャ の順にクリックして、KACEメディアマネージャを表示します。
3. メディアマネージャの左ウィンドウ枠で、一般設定 をクリックします。

右側に 一般設定 ページが表示されます。



注: メディアマネージャを初めて実行する場合は、このページがデフォルトで表示されます。

4. 一般設定 ページの SDAホスト名 フィールドに、アプライアンスのIPアドレスを入力します。
5. SDAのIPアドレス フィールドに、アプライアンスのIPアドレスセグメントを入力します。
6. SDA Samba 共有パスワード フィールドに、パスワードを入力します。このパスワードは、一般設定 ページの SDA Samba 共有パスワード フィールドに入力したパスワードと一致する必要があります。

i 注: Samba 共有パスワードを変更する場合は、新しいパスワードを使用して KBE を作成します。

- メディアマネージャの左ウィンドウ枠で、ソースメディアのアップロード をクリックします。
ソースメディアのアップロード ページが右側に表示されます。
- ソースメディアのアップロード ページの ソースメディア名 に、固有の論理名を入力します。
この名前によりアプライアンス上でイメージが識別されます。この名前を使用して、スクリプト形式のインストールおよびブートアクションにイメージが割り当てられます。
- ソースメディアタイプ で、選択したソースメディアの OS をメディアマネージャで自動的に検出するか (ほとんどのオペレーティングシステムで使用可能)、必要に応じてリストから OS を選択できます。
- ソースメディアのパスの 参照 をクリックし、イメージの場所を選択します。
メディアをRSA (リモートサイトアプライアンス) にアップロードしようとする、メディアマネージャに次のエラーが表示されます。「無効な応答です。指定したホスト名を確認してください。」
IPアドレスが、RSAではなく、KACEシステム展開アプライアンスの実際のIPアドレスであることを確認してください。
- ソースメディアのアップロード をクリックします。

プロセスが完了すると、KACEシステム展開アプライアンスの ソースメディア ページにイメージが表示されます。ユーザーアカウントでソースメディアの通知 が有効になっている場合は、新しい通知が表示されます。詳細については、「[ユーザーインターフェイス通知の設定](#)」を参照してください。

共有ディレクトリからファイルをアップロードする

ソースメディアのインポート ページを使用して、WindowsおよびLinux .isoイメージをアプライアンスにアップロードできます。

または、KACEメディアマネージャを使用してファイルをアップロードすることもできます。ただし、Microsoft Windowsではファイル名が切り捨てられるため、一部のプラットフォーム (CentOSなど) の.isoファイルをアップロードする場合は、このページを使用することをお勧めします。詳細については、「[KACEメディアマネージャを使用してファイルをアップロードする](#)」を参照してください。

i 注: ファイルのコピーとアップロードには数時間かかる場合があります。

- アプライアンスのclientdrop Samba共有にアップロードする.isoファイルをコピーします。
- 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ソースメディア をクリックして ソースメディア ページを表示します。
- アクションの選択 > Clientdropからインポート を選択して、ソースメディアのインポート ページを表示します。
- ソースメディアのインポート ページの ソースメディア名 フィールドに、.isoファイルとの関連付けに使用する名前を入力します。例: Windows 10 2004 September Update。
- ソースメディアISO をクリックし、アップロードする.isoファイルを選択します。
- インポート をクリックします。

プロセスが完了すると、KACEシステム展開アプライアンスの ソースメディア ページにイメージが表示されます。ユーザーアカウントでソースメディアの通知 が有効になっている場合は、新しい通知が表示されます。詳細については、「[ユーザーインターフェイス通知の設定](#)」を参照してください。

ソースメディア詳細の表示

ファイルサイズやファイルがアプライアンスにアップロードされた日付など、ソースメディアについての情報を表示できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ソースメディア** をクリックして **ソースメディア ページ** を表示します。
2. **名前** で、**イメージ** を選択して、**ソースメディア詳細 ページ** を表示します。

i | **注:** イメージの名前を修正し、イメージへの変更を示すメモを追加できます。

3. **オプション** : **キャンセル** をクリックして、ページを閉じます。
4. **削除** をクリックして、ソースメディアをアプライアンスから削除します。
5. **保存** をクリックします。

ソースメディアOSのフィンガープリント

OSをフィンガープリントすると、OSのプラットフォームとカテゴリを確認できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ソースメディア** をクリックして **ソースメディア ページ** を表示します。
2. OSをフィンガープリントするソースメディアを選択します。
3. **ソースメディア > フィンガープリント** を選択します。

ページの上部にアラートが表示され、選択したソースメディアがフィンガープリントされようとしていることを示します。しばらくすると、選択したソースメディアの **オペレーティングシステム** と **カテゴリ** 列に関連情報が入力されます。ソースメディアがまだ認識されない場合は、**オペレーティングシステム** 列に表示されます。

ソースメディアのメタデータの表示または更新

サポートされているオペレーティングシステムのバージョンとアーキテクチャを確認し、必要に応じて定期的にメタデータを更新できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定 ページ** を表示します。
2. サポートされている各 OS で使用可能なバージョンとアーキテクチャを確認するには、**ソースメディアメタデータ** で **メタデータの表示** をクリックします。

サポートされているオペレーティングシステムのリストを示すダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを閉じるには、**閉じる** をクリックします。

3. **ソースメディアのメタデータを最新の情報で更新するには、メタデータの更新** をクリックします。

ソースメディアのメタデータの詳細については、<https://support.quest.com/kace-systems-deployment-appliance/kb/278470> を参照してください。

展開のタイプの選択

オペレーティングシステムを異なるデバイスモデルに展開できます。また、アプライアンスは、スクリプト形式のインストールの展開用に、リソースライブラリからドライバを取得します。システムイメージの展開を実行するために、デバイスの状態についてドライブ、OSとシステム設定、プログラム、およびファイルなどのすべてをコピーできます。

スクリプト形式のインストールの展開

OS用にISOを使用する場合はスクリプト形式のインストールを使用し、展開用の応答ファイルを作成します。

システムイメージの展開

デバイスドライブ、OS、システム設定、プログラム、およびファイルなどのすべてを含むデバイスから、イメージをキャプチャします。

展開方法

- **自動展開:** ブートアクションを使用して、スクリプト形式のインストールとシステムイメージの展開を開始します。ユニキャスト展開とマルチキャスト展開をサポートします。
- **手動展開:** ソースメディアから直接展開する場合、USBイメージ展開の場合、およびターゲットデバイスがネットワークに接続していない場合は、手動展開を使用します。

i **注:** いずれの展開方法でも、KACE環境またはNetBoot環境にデバイスが読み込まれて、展開が開始されます。Macデバイスの場合は、[Macデバイスのイメージ作成](#)を参照してください。

サポートされるイメージのタイプ

Windows 7以上が動作するデバイスからWIMおよびK-Imageを、Windows 8以上が動作するデバイスからUEFIイメージをキャプチャできます。また、Mac OS XデバイスからDMGイメージをキャプチャできます。

イメージのタイプ

WIMイメージ

- WIMイメージファイルベースの形式では、情報がセクターではなくファイルとして保管されます。1つのWIMイメージに複数のファイルを追加できます。
- WIMイメージは、高速なOSインストールを実現します。
- マルチキャストWIMイメージ展開では、1つのイメージを同時に複数のデバイスにブロードキャストし、使用するネットワーク帯域幅を削減できます。ただし、ネットワークのルーターがマルチキャストをサポートしている場合に限り、ターゲットデバイスは、イメージ伝送に必要な帯域幅を持つ必要があります。
- 4 GBを超えるイメージをUSBフラッシュデバイスから展開することはできないため、4 GBを超えるUEFI WIMイメージを展開する場合は、ネットワークリソースからプロビジョニングする必要があります。
- WIMイメージの展開はハードウェアに依存しません。

K-Image

- K-Imageファイルベースの形式では、ファイルがセクターとして保管されます。これにより簡単に編集ができ、さらに重複除外が使用されるため、イメージの再構築が不要になります。
- K-Imageにより、イメージ全体を再送信したり、イメージの再キャプチャや展開を行ったりすることなく、頻繁に変更されるベースイメージを編集することができます。
- K-Imageの展開はハードウェアに依存しません。

UEFIイメージ

- WIM UEFIイメージとUEFI K-Imageをキャプチャできます。
- 4 GBを超えるイメージをUSBフラッシュデバイスから展開することはできないため、4 GBを超えるUEFI K-Imageの場合は、ネットワークリソースからプロビジョニングする必要があります。
- ターゲットデバイスはUEFI互換である必要があり、UEFIパーティションの作成 プレインストールタスクを使用してUEFIパーティションが作成される必要があります。

デバイスインベントリの管理

デバイスが KACE ブート環境 (KBE) で起動すると、アプライアンスはデバイスをその MAC アドレスで識別し、デバイスインベントリ ページにリストし、ハードウェアインベントリ情報をアプライアンスにアップロードします。MAC アドレスとデバイスに関するその他の情報がリストに表示されます。アプライアンスは、ネットワーク上には存在するが、そのアプライアンスで起動していないデバイスを ネットワークインベントリ ページにリストします。

デバイスをアプライアンスインベントリに追加する手順について：

- デバイスをコンマ区切り値 (CSV) 形式のファイルにリストし、そのファイルをアプライアンスにアップロードできます。
- ネットワークスキャンを実行して、ネットワーク上のデバイスを検出できます。
- Wake On LAN要求を発行して、リモートデバイスの電源をオンにすることができます。
- MACアドレスを入力して、デバイスをブートアクション展開に追加できます。
- デバイスアクションを実行できます。デバイスアクションは、管理対象デバイスで実行できるスクリプト形式のアクションです。
- デバイスを登録解除できます。

ネットワークスキャンの構成と実行

ネットワークスキャンを設定するか、既存のスキャンを選択して実行することより、ネットワーク上に存在するデバイスを検出できます。スキャンを実行すると、設定されているIP範囲で検出が行われ、範囲内のアドレスごとに1つのアイテムがアプライアンスの ネットワークインベントリ 内に作成されます。MACアドレスとポートステータスは、アプライアンスと同じサブネット上に存在するデバイスに対してのみ検出できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**デバイス** をクリックしてセクションを展開し、次に **ネットワークスキャン** をクリックして ネットワークスキャン ページを表示します。
2. 次のオプションを使用して、ネットワークスキャンを管理します。
 - **アクションの選択 > 新規作成** の順に選択して ネットワークスキャン詳細 ページを表示し、スキャンの IP 範囲を設定します。プロセスにより、設定したIP範囲がスキャンされ、範囲内のアドレスごとに1つのアイテムが ネットワークインベントリ 内に作成されます。
 - **リストからスキャンを選択し、次に アクションの選択 > 今すぐ実行** の順に選択します。
3. **保存** をクリックします。

ネットワークインベントリのアプライアンスへの追加

デバイスをコンマ区切り値 (CSV) 形式のファイルにリストし、そのCSVファイルをアプライアンスにアップロードすることにより、デバイスをアプライアンスに追加できます。アプライアンスはファイルにリストされているデバイスを、IPアドレス、MACアドレス、およびホスト名の順序で識別します。

CSVファイルの各行で、IPアドレス、MACアドレス（コロン付き）、およびホスト名（オプション）をコンマ区切り形式で指定する必要があります。例：192.168.2.44,00:22:5f:51:eb:df,appliance。

1. 左側のナビゲーションペインで、**デバイス** をクリックし、次に **ネットワークインベントリ** をクリックして、**ネットワークスキャンインベントリ** ページを表示します。
2. **アクションの選択** > **アップロード** の順に選択して、**ネットワークインベントリのアップロード** ページを表示します。
3. **参照** をクリックし、CSVファイルを選択します。
4. **インベントリのアップロード** をクリックして、**ネットワークスキャンインベントリ** ページでデバイスのリストを表示します。

アクションの選択 > **Wake On LANの送信** の順に選択して、デバイスの電源をオンにし、その後ブートアクションを作成します。詳細については、「[ブートアクションの作成](#)」を参照してください。

ネットワーク上のアクティブデバイスと非アクティブデバイスのスキャン

ネットワークスキャンの実行時に、デバイスがアクティブであるかないかに関係なくすべてのIPアドレスのリストをスキャンが表示するかどうかを指定できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** > **コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定** ページを表示します。
2. **サーバオプション** で、**ネットワークスキャンのインベントリ内の空のスキャン結果の表示** チェックボックスをオンにして、デバイスがアクティブであるかないかに関係なく、指定した範囲内のすべてのIPアドレスについてレコードを作成して表示します。インベントリ内の空のスキャン結果の表示 チェックボックスをオンにしない場合、ネットワークスキャンは、そのIPアドレスが存在する範囲内で接続中のもののみを表示します。

デバイスの手動追加

ブートアクションを作成または修正した場合、デバイスのMACアドレスを入力することにより、デバイスをシステムイメージおよびスクリプト形式のインストールの展開に追加できます。デバイスは、展開が開始されたときに、アプライアンスインベントリに追加されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **自動展開** をクリックして、**自動展開** ページを表示します。
2. デバイスの追加先となる展開の名前を選択して、**自動展開の詳細** ページを表示します。
3. **オプション** > **スケジュール** で、次のいずれかを選択して展開を実行します。
 - a. 次のブートで実行する: 次のネットワーク起動で展開を開始します。
 - b. 後で実行するようにスケジュールする: 日付と時刻を指定します。一度実行: 毎(日)、特定時刻に実行: H(時)、M(分)。繰り返し実行する を選択すると、指定した時間に展開が毎日実行されます。
4. **展開のタイプ** を選択します。

マルチキャスト展開の場合は、**デフォルトマルチキャスト設定の編集** をクリックして、この展開のマルチキャスト設定を変更します。すべてのマルチキャスト展開の設定を変更するには、**デフォルトマルチキャスト設定の編集** を参照してください。

5. デバイスで、1つ以上のMACアドレスをクリックまたは入力して、インベントリに存在しないデバイスを追加し、**次へ** をクリックします。**複数のMACアドレスの貼り付け** を選択して複数のアドレスを追加したり、すべて表示 ドロップダウンリストからタイプ別にデバイスを追加したりすることもできます。
6. **保存** をクリックします。

ドメインへのデバイスの参加

デバイスを設定し、名前を割り当てた後、ビルトインの例: ドメインへの参加 ポストインストールタスクを使用して、デバイスをドメインに参加させることができます。

コマンドラインパラメータ **my_domain**、**admin_user**、**admin_password**、および **primary_dns_IP** を使用してスクリプトをカスタマイズできます。

i **注:** ビルトインの例: ドメインへの参加 ポストインストールアプリケーションタスクでは、`join_domain.vbs` Visual Basicスクリプトが使用されます。`join_domain.vbs`スクリプトは、Windows 7以上のバージョンを実行しているデバイスを参加させます。

ドメインに参加させるためのコマンドラインパラメータ

パラメータ	説明
my domain	スクリプトがデバイスを参加させる先のドメイン名。
admin user	デバイスをドメインに参加させる権限を持つドメイン管理者のUID。
admin password	ドメイン管理者のアカウントのパスワード。
primary dns IP	オプション: プライマリDNSサーバーのIPアドレス。

1. ファイルで、**置換** をクリックして、別のスクリプトをアップロードします。
2. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ポストインストールタスク** をクリックして **ポストインストールタスク** ページを表示します。
3. **例: ドメインへの参加** をクリックします。
ポストインストールタスク詳細 ページが表示されます。
4. ページの一番下で **複製** をクリックします。
例: **ドメインへの参加のコピー** という名前の新しいタスクが作成されます。
5. 名前 に、タスクの論理名 (**Join MyCompany Domain** など) を入力します。
6. コマンドライン で、**my_domain**、**admin_user**、および **admin_password** を変更します。
7. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、**再起動が必要です** のチェックボックスを選択します。
8. **保存** をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストールまたはSysprepを実行済みのシステムイメージの展開に、タスクを割り当てることができるようになりました。

Wake On LAN要求の発行

Wake On LANを使用すると、アプライアンスからリモートにあるデバイスの電源をオンにすることができます。ネットワークに接続しているがアプライアンスで起動していないデバイスおよびアプライアンスで起動しているデバイスの電源をオンにすることができます。これは、デバイスに、Wake On LAN対応のネットワークインターフェイスカード (NIC) とBIOSが装備されている場合に限りです。

デバイスは、ラベル内のグループ単位で、または個別に電源をオンにすることができます。詳細については、「[ラベルの作成および適用](#)」を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、デバイス > デバイスインベントリ の順に選択してアプライアンスで起動しているデバイスの電源をオンにするか、または ネットワークインベントリ を選択してアプライアンスで起動していないデバイスの電源をオンにします。
2. 電源をオンにするデバイスを選択します。
3. アクションの選択 > Wake On LAN の送信 の順に選択します。

デバイスの電源がオンになったら、左側のナビゲーションペインに移動し、展開 をクリックしてブートアクションを作成し、展開を今すぐ実行するか、展開を後で実行するようにスケジュールできます。

KACEシステム管理アプライアンスインベントリ内のデバイスに展開する

アプライアンスが1台以上のKACEシリーズ管理アプライアンス（v5.4以上）にリンクされている場合、KACE SMAインベントリ ページにリストされているデバイスにOSを展開できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、デバイスをクリックし、次に KACE SMAインベントリ をクリックして、イメージを展開するデバイスを選択します。
2. アクションの選択 > 新しいブートアクション の順に選択します。
3. ブートアクションを作成します。詳細については、[ブートアクションの作成](#)を参照してください。

ネットワークスキャンからのデバイスの詳細の表示

アプライアンスがデバイスに到達できたかどうかの情報、デバイスがアプライアンスからのネットワーク起動を要求したかどうかの情報、TCPとUDPポートのステータス、および使用可能なドライバとデバイスが要求するドライバの対比を表示できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、デバイスをクリックし、次に ネットワークインベントリ をクリックして、ネットワークスキャンインベントリ ページを表示します。
2. デバイスを選択して、次の詳細を表示します。

オプション	説明
pingステータス	アプライアンスがこのデバイスに到達できたかどうかを示します。
PXEのステータス	このデバイス（MACアドレスにより識別）がアプライアンスにネットワーク起動を要求したことがあるかどうかを示します。
TCPポートステータス	このデバイスを含む前回のネットワークスキャン時にスキャンされたTCPポートの状態を示します。 開いています ステータスは、デバイス上で動作するネットワークサーバへの接続をアプライアンスが開始できたことを示します。

オプション

説明

UDPポートステータス

このデバイスを含む前回のネットワークスキャンによってスキャンされたUDPポートの状態を示します。



注: 開いています/フィルタリングされていません 状態は、アプライアンスがデバイスから「ポートが閉じた」というメッセージを受信せず、ステータスを決定できないことを示します。ほとんどのファイアウォールソフトウェアは、デバイスからの「ポートが閉じた」ことを知らせるメッセージを送信しません。したがって、結果が正しくないように見える場合があります。

ドライバ互換性レポート

スクリプト形式のインストールで使用可能なドライバとデバイスが要求するドライバの対比をリストします。

KACEエージェントへのKUIDの適用

ターゲットデバイスの固有の識別子 (KUID) を維持することにより、複数のデバイスが同じKUID番号でアプライアンスにチェックインするのを防ぐことができます。KUIDを維持するためのビルトインの KUIDをKACEエージェントに適用 ポストインストールタスクを使用できます。KUIDは、ターゲットデバイスにインストールされているKACEエージェントを識別します。ビルトインの KUIDをKACEエージェントに適用 ポストインストールタスクのスクリプトを変更することもできます。

Windowsシステムの場合、アプライアンスはシステムのKUIDを取得し一時的に保存してから、展開後にワークステーションにコピーします。

Macシステムの場合、アプライアンスにはこのプロセスを実装するために使用できるスクリプトがいくつか含まれています。詳細については、「<http://www.itninja.com/blog/view/maintain-kuid-of-a-macintosh-system-using-the-k200>」を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ポストインストールタスク** をクリックして **ポストインストールタスク** ページを表示します。
2. **KUIDをKACEエージェントに適用** をクリックして **ポストインストールタスク詳細** ページを表示します。
3. 名前に、タスクを識別するための論理名を入力します。
4. 実行時環境を選択します。詳細については、「[実行時環境について](#)」を参照してください。
5. **ファイル** で、**置換** をクリックして、別のスクリプトをアップロードします。

アップロードファイルは1つのファイルでも、複数のファイルが含まれるZIPアーカイブでも構いません。ZIPアーカイブは、展開の開始前にアプライアンス上で解凍されます。

6. ファイルのアップロードの隣にある **参照** をクリックして、該当するファイルを選択します。
7. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要ですので **チェックボックス** を選択します。

[システム展開へのタスクの割り当て](#)または[スクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当て](#)を参照してください。

デバイスインベントリからのデバイスの削除

デバイスをデバイスインベントリから削除できます。デバイスインベントリには、アプライアンスで起動されたすべてのデバイスが一覧表示されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**デバイス** をクリックし、次に **デバイスインベントリ** をクリックして、デバイスインベントリ ページを表示します。
2. 削除するデバイスを選択します。
3. **アクションの選択 > 削除** の順に選択してから、**はい** をクリックして確認します。

ネットワークインベントリからのデバイスの削除

デバイスをネットワークインベントリから削除できます。ネットワークインベントリには、ネットワークスキャン時に検出されたデバイス、KBEで起動しているデバイス、インベントリファイルからアップロードされたデバイス、およびMACアドレスを使用して追加されたデバイスを含む、すべての既知のデバイスが一覧表示されます。

KBEで起動しているデバイスをネットワークインベントリから削除すると、対応するデバイスインベントリデバイスも削除されます。MACアドレスをネットワークインベントリから削除すると、レコードがデバイスインベントリから削除され、対応するすべてのブートアクションも削除されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**デバイス** をクリックし、次に **ネットワークインベントリ** をクリックして、ネットワークスキャンインベントリ ページを表示します。
2. 削除するデバイスを選択します。
3. **アクションの選択 > 削除** の順に選択してから、**はい** をクリックして確認します。

デバイスの登録解除

デバイスをデバイスインベントリから削除することにより、デバイスを登録解除し、ライセンスされたシートを解放できます。

デバイスをデバイスインベントリから削除すると、ネットワークインベントリの対応するデバイスも削除されます。ただし、ネットワークインベントリのデバイスがKBEで起動している場合に限りです。MACアドレスをネットワークスキャンから削除すると、レコードがデバイスインベントリから削除され、対応するすべてのブートアクションも削除されます。

ライセンスに関連付けられているデバイス制限に達すると、ホームダッシュボードに警告アラートが表示されます。追加のシートを購入するには、<https://support.quest.com/contact-us/licensing> にアクセスして、登録およびライセンス ページに移動し、ライセンスキーを更新します。ダッシュボードの詳細については、「[ダッシュボードの使用](#)」を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、**デバイス** をクリックし、次に **デバイスインベントリ** をクリックして、登録解除するデバイスを選択します。
2. **アクションの選択 > 削除** の順に選択してから、**はい** をクリックして確認します。

デバイスアクションアイコンについて

アプライアンスは、デバイスアクションアイコンを提供します。これらのアクションは、管理対象デバイスで実行できるスクリプト形式のアクションです。事前にプログラムされた複数のアクションがあります。デバイスアクションを実行するには、管理者コンソールをインターネットブラウザで開く必要があります。

デバイスアクションアイコン

リモートアクセスプログラム	ホストの要件	クライアントの要件	説明
SecureCRT	crt.exe	SSHクライアント	デフォルトでSSHをポート8443で使用してデバイスに接続します。
DameWare® Mini Remote Control	dwrcc.exe	DMRCクライアント	初めて接続が開いたときにデバイスにインストールされます。
Microsoft Remote Desktop	mstsc.exe	リモートデスクトップ	デバイスでリモートデスクトップセッションを開始します。Windowsデバイスのみをサポートします。
ping	ping.exe	なし	デバイスがオンラインのときに接続要求を処理します。
PuTTY	putty.exe	なし	ブラウザのホストからターゲットデバイスへのSSH接続を開始します。
Telnet	telnet.exe	なし	ブラウザのホストからターゲットデバイスへのセッションを開始します。
TightVNC	vncviewer.exe	なし	ブラウザのホストからターゲットデバイスへのセッションを開始します。
VNC-Javaリモートコントロール	なし	VNC Javaクライアント	ブラウザホストから、KBEでネットワーク起動しているターゲットデバイスにセッションを開きます。Java仮想マシン (JVM) が必要です。

デバイスアクションの実行

リモートからデバイス上で実行できるスクリプト形式のコマンドであるデバイスアクションを実行できます。リモートデバイスでデバイスアクションを実行するには、そのプログラムがデバイスにインストールされている必要があります。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定> コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定** ページを表示します。
2. **サーバオプション** で、**アイコン** から次のプログラムを選択します。**アクション**: ドロップダウンリスト (1の隣) から選択するか、独自のアクションを追加します。
3. 独自のアクションを入力し、**アイコン**: **デバイスアクション** (2の隣) で、次のように入力します。

`executable_name appliance_host_name | appliance_host_IP`

ここで、`appliance_host_name`と`appliance_host_IP`は、アプライアンスのホスト名とIPアドレスです。一部のプログラムでは、プロトコル、ポート、またはURLが必要になります。例えば、Microsoft Edgeでは、ネットワークアドレスを表すために、先頭にスラッシュが必要です (例: `\appliance_host_name`)。

`executable_name`は、コマンドラインパラメータを含む、ブラウザホスト上のプログラム起動ファイルへのフルパスです。セッションを開始するには、ブラウザホストおよびターゲットデバイスにソフトウェアが存在する必要があります。



注: 静的なホスト名またはIPアドレスを指定した場合、アイコンをクリックすると指定アドレスのセッションのみが開始されます。

4. **保存** をクリックします。

デバイスインベントリ ページのデバイスのホスト名またはIPアドレスの隣に、デバイスアクションアイコンがアプライアンスにより表示されます。

VNCセッション経由でのリモートデバイスへのアクセス

事前にプログラムされたVNC-Javaリモートコントロールデバイスアクションを使用することにより、リモートデバイスにアクセスできます。

VNCプログラムを、**アイコン**: **アクション**: ドロップダウンリスト (一般設定 ページ) から選択している必要があります。詳細については、「[デバイスアクションの実行](#)」を参照してください。

1. ターゲットデバイスをKACEブート環境で起動します。
2. KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールにログインします。
3. 左側のナビゲーションペインで、**デバイス** をクリックし、次に **デバイスインベントリ** をクリックして、**デバイスインベントリ** ページを表示します。
4. メニューバーの **ホスト/IPアドレス** で、**デバイスアクション** をクリックします。

新たにブラウザが起動され、デバイスのホスト名またはIPアドレスが表示されます。デバイスが使用可能な場合は、パスワードのプロンプトが表示されます。

5. 正しいVNCパスワードを入力し、**OK** をクリックします。

VNCパスワードは変更できます。詳細については、「[VNC@パスワードの設定](#)」を参照してください。

ターゲットデバイスに起動マネージャが表示されます。展開とデバイスのトラブルシューティングを行うことができます。

ラベルの使用

ラベルを使用すると、アプライアンスコンポーネントを整理できます。ラベルは、新しいデバイスのグループ化と、展開タイプ、ユーザー、ユーザープロファイルテンプレート、およびユーザープロファイルとデータによるデバイスのグループ化を行うのに役立ちます。同じラベルを複数のコンポーネントに適用できます。

ラベルの作成および適用

ユーザー、デバイス、スクリプト形式のインストール、システムイメージ、ユーザープロファイル、またはUSMTスキャンテンプレートに対して、環境固有の基準に基づいてラベルを手動で適用できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **ラベル** をクリックして **ラベル ページ** を表示します。
2. **アクションの選択 > 新規作成** を選択して、**ラベル詳細 ページ** を表示します。
3. 名前をラベルに割り当てて、ラベルを識別するメモを追加します。

既存のラベルの名前を修正した場合は、そのラベルが適用されているすべてのコンポーネントについて、アプライアンスによってラベルが自動的に更新されます。

4. **保存** をクリックします。
5. ラベルを適用するコンポーネントのページに移動します。
6. ラベルを適用するコンポーネントの隣のチェックボックスをオンにします。
7. **アクションの選択 > ラベルの適用** を選択して、**ラベルの適用 ページ** を表示します。
8. 適用する1つ以上のラベルを選択してこれらのラベルを適用 セクションにドラッグし、**ラベルの適用** をクリックします。

ラベル名がコンポーネントの隣に表示されます。

特定基準で表示 ドロップダウンリストからラベルを選択して、コンポーネントをフィルタリングできます。

ラベルからのコンポーネントの削除

ラベルから、ユーザー、デバイス、スクリプト形式のインストール、システムイメージ、ユーザープロファイル、およびUSMTスキャンテンプレートを削除できます。

1. コンポーネントのページに移動し、ラベルから削除するコンポーネントを選択します。例えば、ラベルからデバイスを削除する場合は、次の手順を実行します。
 - a. 左側のナビゲーションペインで、**デバイス、デバイスインベントリ** の順にクリックして **デバイスインベントリ ページ** を表示し、ラベルが適用されているデバイスを表示します。
 - b. ラベルから削除するデバイスを選択します。
2. **アクションの選択 > ラベルの除去** の順に選択して **ラベルの除去 ウィンドウ** を表示します。次にラベルを選択して、**ラベルの除去** をクリックします。

アプライアンスからのラベルの削除

ラベルをアプライアンスから削除すると、そのラベルが割り当てられていたすべてのコンポーネントが自動的に削除されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **ラベル** をクリックして **ラベル** ページを表示します。
2. 削除するラベルの隣にあるチェックボックスをオンにします。
3. **アクションの選択 > 削除** を選択し、**はい** をクリックして確定します。

また、ラベル詳細 ページからラベルを削除することもできます。

ラベルに割り当てられているコンポーネントの表示

ラベルに割り当てられているコンポーネントを表示できます。

1. ラベルを表示するコンポーネントのページに移動します。
2. **特定基準で表示 > ラベル** を選択し、グループの下のラベル名をクリックします。

そのラベルに割り当てられているコンポーネントがリストに表示されます。

Windows または Linux ブート環境を作成する

KACEメディアマネージャを使用して、Windowsシステム用のKACEブート環境（KBE）を作成できます。Linuxシステムの場合、Linux ソースメディアをアップロードすると、アプライアンスが自動的に Linux ブート環境を作成します。

Windowsブート環境では、Windows ADKとKACEメディアマネージャを、アプライアンスがインストールされている管理者デバイスにインストールします。Windows ADKは、KBEがターゲットデバイスを起動するために必要なネットワークカード用のドライバを提供します。ターゲットデバイスはアプライアンスと同じネットワーク上に存在する必要があります。

KBEを別の場所からインポートできます。これを行うには、別のアプライアンスからKBEをエクスポートし、アプライアンスrestoreディレクトリに、エクスポートした.pkgファイルを保存します。詳細については、「[アプライアンスコンポーネントのインポート](#)」を参照してください。



注: Windows用のKBEには、ほとんどのスクリプトに対応するフォント（ラテン文字、ギリシャ文字、キリル文字など）が含まれています。KBEを構築した後にアジア系フォントを追加する場合、アプライアンスではKBEの再構築が必要になります。KBEの埋め込み型フォントサポートは、デフォルトで無効になっています。言語 ページの言語オプションを使用して、フォントサポートを有効にすることができます。

Windowsブート環境の作成

KACEメディアマネージャを使用して起動デバイスにWindows KACEブート環境（KBE）またはNetBoot環境を作成し、イメージのキャプチャとオペレーティングシステムの展開を行うことができます。

KACEメディアマネージャをダウンロードして、インストールします。詳細については、「[KACEメディアマネージャのダウンロードおよびインストール](#)」を参照してください。このページの詳細については、「[メディアマネージャについて](#)」を参照してください。

1. スタート > すべてのプログラム > Quest > KACEメディアマネージャ からメディアマネージャを実行します。
2. メディアマネージャの左ウィンドウ枠で、**一般設定** をクリックします。

右側に **一般設定 ページ**が表示されます。



注: メディアマネージャを初めて実行する場合は、このページがデフォルトで表示されます。

3. 一般設定 ページの SDAホスト名 フィールドに、アプライアンスのIPアドレスを入力します。
4. SDAのIPアドレス フィールドに、アプライアンスのIPアドレスセグメントを入力します。
5. SDA Samba 共有パスワード フィールドに、パスワードを入力します。このパスワードは、一般設定 ページの SDA Samba 共有パスワード フィールドに入力したパスワードと一致する必要があります。



注: 一般設定 ページで Samba 共有パスワードを変更すると、すべての Windows ブート環境が自動的に更新され、新しいパスワードが使用されます。

6. WAIK パスまたは WADK パス フィールドに、該当する Windows AIK または ADK ファイルへのパスを入力します。例：
 - WinPE 10 Win10 x86 ADK C:\Program Files\Windows Kits\10
 - WinPE 4 Win8 x64 ADK C:\Program Files(x86)\Windows Kits\8.1

Windows ADKを別の場所にインストールした場合は、正しいパスを参照して、選択します。

7. メディアマネージャの左ウィンドウ枠で、**KBE の作成** をクリックします。

KBE の作成 ページが右側に表示されます。

8. KBE の作成 ページの 一般 タブの 名前 で、KBE 名を確認します。この自動的に生成された文字列により、アプライアンス上で KBE が識別されます。必要に応じて KBE 名を更新できます。

KBE をアプライアンスにアップロードすると、まずその名前がアプライアンスで一意であるかどうかを確認されます。アプライアンスにすでに同じ名前を持つ KBE がある場合は、エラーメッセージが表示され、KBE 名を変更するように指示されます。このプロセスでは、指定された KBE 名の検証に成功した後にのみ、KBE を作成します。

9. アーキテクチャ で、起動する KBE アーキテクチャを選択します（例：32 ビット または 64 ビット）。
10. 言語 ドロップダウンリストで、地域の言語を設定します。
11. アップロードを開始する前に、ターゲットデバイスを KBE で起動するために必要な WinPE 関連のドライバを更新します。詳細については、「[Windows ドライバの更新](#)」を参照してください。
12. **KBE のアップロード** をクリックします。

新しい KBE が ブート環境 ページと ソースメディア ページに表示されます。

新しいデフォルトの KBE を設定します。

Linux ブート環境の作成

Linux ソースメディアをアップロードすると、アプライアンスが自動的に Linux ブート環境を作成します。

1. CD-ROM やネットワークインストールなど、導入時に OS のインストールに使用するソースメディアを指定します。そのためには、この KBE の ブート環境詳細 ページを開き、適切な **PXE Initrd ファイル オプション** を選択します。
2. この OS に関連付けられている 1 つまたは複数のパッケージリポジトリを指定します。そのためには、この KBE に関連付けられている ソースメディア詳細 ページを開き、パッケージリポジトリ で必要に応じて URL を指定します。
3. （オプション）インストール時に使用した Linux パッケージをアプライアンスに保存するには、一般設定 ページで（KACE システム展開アプライアンスのみ）、または リモートサイト設定 ページで（リモートサイトアプライアンスのみ）、Linux リポジトリ キャッシュ オプション の下にある **リポジトリキャッシングを有効にする** を選択します。このオプションを選択すると、多数の管理デバイスを使用している組織で展開が高速化され、全体的な帯域幅の使用量が減少します。

新しく作成された Linux ブート環境の名前は、Linux ソースメディアの名前と同じであり、BE サフィックスが付きます。たとえば、CentOS という Linux ソースメディアをアップロードすると、アプライアンスでは CentOS BE がブート環境名として割り当てられます。

Windows ドライバの更新

KACEブート環境 (KBE) を構築するのに必要な、Windowsのプレインストール環境 (WinPE) に関連するドライバを更新し、それらのドライバをアプライアンスの該当するkbe_windows_x64共有ディレクトリまたはkbe_windows_x86共有ディレクトリに追加できます。

1. ドライバをダウンロードする方法については、<https://support.quest.com/kb/111717>を参照してください。サポート用の資格情報を使用してログインし、**KBEドライバパック** を選択します。
2. <appliance>/driver_packsフォルダに移動し、適切なWinPEドライバパックをダウンロードします。
3. 次のディレクトリのいずれかにドライバを手動でコピーします。
 - \\<appliance_IP>\drivers\kbe_windows_x86
 - \\<appliance_IP>\drivers\kbe_windows_x64
4. ドライバを再キャッシュします。詳細については、「**ドライバの再キャッシュ**」を参照してください。

新しいデフォルトのKBEを設定します。

新しい KBE をアプライアンスのデフォルトとして設定

KACEブート環境 (KBE) を、アプライアンスのデフォルトの KBE として設定できます。



注: また、リンク先の各 RSA にもデフォルトの KBE を設定できます。詳細については、「[RSA 用のデフォルトの KBE の設定](#)」を参照してください。

共有パスワードを変更する場合は、新しいパスワードを使用して新しいKBEを作成します。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定> コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定 ページ** を表示します。
2. **ブート環境オプション** で、新しいKBEを選択します。
3. **保存** をクリックします。



ヒント: ブート環境詳細 ページで KBE の詳細を確認すると、デフォルト フィールドに、選択した KBE がデフォルトのブート環境であるかどうかが表示されます。

PXEブートメニューから起動環境を非表示にする

PXE (Preboot Execution Environment) は、管理者がネットワークサーバに保存されているファイルのコレクションを使用してPXE対応システムを起動できる標準のクライアント/サーバ環境です。デフォルトのインストールでは、PXEブートメニューに、アプライアンスに存在するすべてのWindowsおよびLinuxのブート環境が一覧表示されます。ブート環境には、ターゲットデバイスがアプライアンスからネットワーク起動するために必要なドライバ、およびその他のリソースが用意されています。

場合によっては、アプライアンスに1つ以上の古いKACEブート環境 (KBE) があり、それをPXE (Preboot Execution Environment) ブートメニューに表示したくないことがあります。KACEシステム展開アプライアンス

または関連するすべてのリモートサイトアプライアンスで使用可能な選択したブート環境を表示または非表示にすることができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **ブート環境** をクリックして、ブート環境 ページを表示します。
2. USBフラッシュデバイスにインストールするブート環境を選択して、ブート環境詳細 ページを表示します。
3. このブート環境をKACEシステム展開アプライアンスのPXEブートメニューから非表示にするには、**SDA PXEブートメニューからブート環境を非表示にする** を選択します。
4. 関連するすべてのリモートサイトアプライアンスのPXEブートメニューからこのブート環境を非表示にするには、**すべてRSA PXEブートメニューからブート環境を非表示にする** を選択します。

このオプションを選択した後、このブート環境を特定のリモートサイトアプライアンスに表示し、他のすべてのリモートサイトアプライアンスで非表示のままにするには、リモートサイト詳細 ページのブート環境の下にある、新しく非表示になったブート環境を含む行で、**非表示** チェックボックスをオフにする必要があります。この変更は、他のリモートサイトアプライアンスには影響しません。

5. **保存** をクリックします。
6. 関連付けられたアプライアンスでPXEブートメニューを起動し、新しく非表示になったブート環境がリストに表示されなくなったことを確認します。

ベストプラクティス：Windows 用の KACE ブート環境（KBE）の作成

ビジネス環境によっては、厳しいポリシーやソフトウェアのために、KACEメディアマネージャがKACEブート環境（KBE）を正常に作成できない場合があります。

KBEを作成する目的で、分離されたシステムをセットアップすることが必要になる場合があります。推奨されるアクションフローは次のとおりです。

- 以下のソフトウェアでアプライアンスに到達できるシステムまたは仮想マシン（VM）をセットアップします。
 - Windows 7、8、8.1、または10
 - Windows AIK、Windows ADK 8、Windows ADK 8.1、または Windows 10 ADK
 - 最新バージョンのKACEメディアマネージャ
- i**
- そのシステムをドメインに追加しないでください。
 - セキュリティソフトウェアまたはウイルス対策ソフトウェアをインストールしないでください。

新しいKBEを作成するための推奨プロセスは次のとおりです。

1. KBEドライバを準備します。
 - a. アプライアンスドライバ共有（`\\appliance\drivers`）にあるkbe_windows_xXXディレクトリ内のすべてのアイテムを移動（または削除）します。
 - b. 目的のWinPEバージョンに対応するKBEドライバパックをダウンロードします。詳細については、<https://support.quest.com/kb/SOL111717>を参照してください。
 - c. ダウンロードしたドライバパックを解凍し、その内容を、目的のアーキテクチャのフォルダから、アプライアンスドライバ共有にあるkbe_windows_xXXディレクトリにコピーします。

i

注: kbe_windows_xXXディレクトリに置くWinPEバージョンのドライバは、一度に1つのみです。
2. KBEを構築します。
 - a. KACEメディアマネージャを開きます。

- b. 一般設定 ページで、アプライアンスのIPアドレスを入力します。
- c. Samba 共有パスワードを入力します。
- d. WAIK パスまたは WADK パス フィールドに、正しいバージョンの Windows AIK または Windows ADK が示されていることを確認します。
 - WinPE 3では、Windows AIKのインストールディレクトリを示している必要があります。
 - WinPE 4では、Windows ADK 8.0のインストールディレクトリを示している必要があります。
 - WinPE 5では、Windows ADK 8.1のインストールディレクトリを示している必要があります。
 - WinPE 10では、Windows ADK 10のインストールディレクトリを示している必要があります。
- e. KBE の作成 ページの 全般 タブで、自動的に生成されたブート環境の名前を確認します。この値は編集できますが、KBE 名は一意であることが必要です。この名前には、アーキテクチャ、WinPE バージョン、および日付を含めることをお勧めします。例：WinPE 5 x64 4-5-2019。
- f. 目的のアーキテクチャを選択します。
- g. 目的の言語を選択します。
- h. **KBE のアップロード** をクリックします。

ご使用のモデルを機能させるために他のドライバを追加する必要がある場合は、Questサポートにお問い合わせ、必ずドライバパックをこれらのドライバで更新してください。

ドライバの管理

KACEブート環境を構築するのに必要なネットワークドライバと大容量ストレージドライバをdrivers共有ディレクトリで管理できます。ドライバフィードを有効にすることにより、オペレーティングシステムが必要とするドライバを管理できます。ドライバフィードは、ドライバをdriver_postinstallディレクトリにダウンロードしてインストールします。

アプライアンスのドライバライブラリは、アプライアンスおよびリモートサイトアプライアンスの展開で使用されるネットワーク共有です。アプライアンスは展開の一環として自動的にドライバをインストールし、ソースメディアまたはKACEブート環境（KBE）に含まれていない周辺機器やハードウェア用のドライバをアップロードできます。アプライアンスはSamba共有をホストし、ドライバの管理に役立つ3つのディレクトリを提供します。

ダウンロードしたドライバは、次のフォルダ構造を使用してdrivers_postinstall共有ディレクトリに保存されます。

- 仮想デバイス : <OS_name>/<OS_version>/<OS_platform>/any/vmware|hyperv/。例 : /windows/7/x64/any/vmware/。
- 物理デバイス : <OS_name>/<OS_version>/<OS_platform>/<build_version>|any/<manufacturer>/<system_ID>/。例 : /windows/7/x64/any/dell/049a/。

一般設定 ページでアプライアンスSamba共有パスワードを設定していることを確認します。

drivers_postinstallディレクトリへのドライバの追加について

- ドライバフィードからアップデートされないデバイスドライバをdrivers_postinstallディレクトリに追加できます。
- 上記のフォルダ構造を使用して、drivers_postinstallディレクトリの下にドライバを整理できます。

driversディレクトリへのドライバの追加について

- driversディレクトリには任意のタイプのドライバを追加できます。Questでは、KACEブート環境（KBE）を構築するのに必要なネットワークドライバとストレージドライバのみを追加することをお勧めします。
- driversディレクトリはサブディレクトリ（2つのブート環境とそれぞれの対応オペレーティングシステムについて1つのディレクトリ）に整理されます。KBEおよびオペレーティングシステムタイプは、それぞれ独自のドライババージョンを必要とします。drivers共有ディレクトリの下にフォルダを作成して、ドライバを整理できます。
- 追加したドライバは使用しているWinPEのバージョンと一致する必要があります。
- 単一の.exeまたは.msiファイルに含まれるドライバでは、ドライバをフォルダに追加する前にファイルを解凍する必要があります。

restoreディレクトリへのドライバの追加について

- 1.5 GBより大きいドライバパッケージはrestoreディレクトリに追加できます。



注: パッケージ管理エクスポート機能では、ドライバをアプライアンスで利用できるようにするために、restoreディレクトリから適切なdrivers共有ディレクトリにインポートできる、大きなサイズのドライバファイルのためのパッケージを作成できます。

システムイメージへのドライバの追加

KACEシステム展開アプライアンスおよびリモートサイトアプライアンス (RSA) からキャプチャされた Sysprep を実行済みのシステムイメージに対してドライバフィードを有効にすると、イメージの展開時にドライバが自動的に追加されます。イメージをキャプチャしたデバイスで不足しているドライバをインストールし、イメージを再キャプチャして、イメージをアプライアンスにアップロードできます。

Microsoft Sysprep ツールを使用してイメージを汎用化し、重複したデバイス名や重複したセキュリティ ID (SID) を解決します。イメージをキャプチャするためのベストプラクティスの詳細については、<https://support.quest.com/kb/121734> を参照してください。

RSA からキャプチャされた Sysprep を実行済みのシステムイメージの場合、対応するドライバが KACE システム展開アプライアンスで利用でき、KACE システム展開アプライアンスから RSA に同期されている必要があります。

Windows K-Image および WIM イメージの場合、システムイメージ詳細 ページの Sysprep 実行済み フィールドに、イメージで sysprep が実行済みかどうかが表示されます。

1. 左側のナビゲーションバーで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. イメージを選択して、システムイメージ詳細 ページを表示します。
3. **展開 オプション** で、**ドライバフィードを使用 (Sysprep を実行済みのイメージでのみ)** チェックボックスをオンにします。

(オプション) このオプションは、一般設定 ページでデフォルトで有効にできます。

- a. 新しいブラウザインスタンスまたはタブで管理者コンソールを開きます。
 - b. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定 ページ** を表示します。
 - c. **イメージ作成オプション** で、新たにキャプチャされた sysprep された画像のドライバフィードを有効にする **チェックボックス** をオンにします。このオプションをオンにすると、新しくキャプチャした sysprep 実行済みシステムイメージを使用して展開されたターゲットシステムにドライバが自動的に追加されます。
 - d. **保存** をクリックし、システムイメージ詳細 ページの **展開オプション** に戻ります。
4. **オプション: 複製** をクリックしてイメージをコピーし、必要に応じて編集します。
 5. **保存** をクリックします。

スクリプト形式のインストール展開へのドライバの追加

ドライバフィードを有効にして、アプライアンスを自動的に最新のデバイスに固有のドライバパッケージでアップデートできます。この機能を有効にすると、検出された古いバージョンのドライバがアプライアンスから削除され、最新バージョンに置き換えられます。また、ドライバをメーカーのウェブサイトまたは異なるリソースからダウンロードして、スクリプト形式のインストール展開に手動でドライバを追加することもできます。

スクリプト形式のインストール展開の間、アプライアンスは自動的にすべてのドライバを drivers ディレクトリからスクリプト形式のインストールに取り込みます。デバイスドライバまたはその他のドライバが drivers ディレクトリにある場合、スクリプト形式のインストール展開は失敗する可能性があります。

ドライバフィードを有効にしてドライバ更新を自動化する

ドライバフィードを有効にすると、アプライアンスにより、デバイス固有の最新ドライバの夜間チェックが実行されます。新しいバージョンがある場合、フィードによってデータベースが更新され、使用可能なドライバがドライバフィードページに表示されます。

アプライアンスからキャプチャされたイメージ、およびリモートサイトアプライアンス (RSA) からキャプチャされたイメージに対するドライバフィードを有効にできます。

1. 左側のナビゲーションバーで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ドライバフィード をクリックします。
2. アクションの選択 > ドライバフィード設定の管理 を選択して、ドライバフィード設定 ページを表示します。
3. ドライバフィードを有効にする チェックボックスをオンにして、保存 をクリックします。
4. (オプション) 更新されたドライバが利用可能になったときにダウンロードする場合は、更新済みドライバの自動ダウンロード を選択します。このオプションを無効にするには、チェックボックスをオフにします。
5. 更新の確認 をクリックします。
6. 保存 をクリックします。

ドライバフィードステータスに、更新を確認しています が表示されます。使用可能なドライバパッケージのリストをドライバフィードページで表示し、パッケージをアプライアンスにダウンロードしてインストールできます。また、ドライバフィードアクティビティのEメール通知をサブスクライブすることもできます。詳細については、「[Eメール通知の設定](#)」を参照してください。



注: ダッシュボードでドライバフィードウィジェットをインストールできます。このウィジェットには、新しいドライバ、更新されたドライバ、およびインストール内容に基づいて更新されたドライバが表示されます。

アプライアンスへのドライバパッケージのインストール

特定のドライバパッケージを選択してドライバフィードからダウンロードおよびインストールし、アプライアンスでスクリプト形式のインストールやシステムイメージの展開に使用することができます。

1. 左側のナビゲーションバーで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ドライバフィード をクリックします。
2. ダウンロードしてインストールするパッケージを1つ以上選択します。

ドライバは、`drivers_postinstall`共有ディレクトリにインストールされます。

3. アクションの選択 > ダウンロード を選択します。

プロセスが完了したら、ステータス 列に ドライバ共有にインストールされました。 と表示されます。インストールされたドライバは、ドライバ ページで確認できます。

4. 左側のナビゲーションバーで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ドライバ をクリックして ドライバ ページを表示します。

ドライバフィードを無効にする

ドライバフィードを無効にすると、新たに追加したドライバがフィードによってオーバーライドされるのを防止できます。アプライアンスからキャプチャされたイメージ、およびリモートサイトアプライアンス (RSA) からキャプチャされたイメージに対するドライバフィードを無効にできます。

ドライバは手動で追加および削除できます。例えば、ドライバフィードから更新されないデバイスドライバやデバイスドライバを、drivers_postinstallディレクトリに追加できます。ネットワークドライバとストレージドライバの追加および削除を、driversディレクトリに対して行うことができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ドライバフィード** をクリックします。
2. **アクションの選択 > ドライバフィード設定の管理** を選択して、**ドライバフィード設定** ページを表示します。
3. **ドライバフィードを有効にする** チェックボックスをオフにします。
4. **保存** をクリックします。

デバイス固有のドライバを追加するフォルダの作成

ドライバを手動で追加すると、フォルダを作成して製造元の名前を割り当ててデバイス固有のドライバを整理したり、製造元の名前の下にサブフォルダを追加してさらに細かく整理したりすることができます。

アプライアンスドライバ互換性レポートを確認します。このレポートには、デバイスに必要なドライバとソースメディアで使用可能なドライバの比較が一覧表示されます。

1. アプライアンスのdrivers_postinstall共有ディレクトリには、UNCパス\\<アプライアンス>\drivers_postinstallを使用してアクセスします。ここで<アプライアンス>は、アプライアンスのIPアドレスまたはDNS名です。
2. 製造元名\OS名\モデル名という構造でフォルダを作成します。

ドライバへのパスは、ドライバ名を含めて255文字を超えることはできません。また、ディレクトリとドライバの名前に特殊文字は使用できません。デバイスでdriver_feed_discovery_tool.vbsスクリプトを実行して、デバイスモデルおよび製造元の名前を取得できます。スクリプトはdrivers_postinstall\feeds_toolsディレクトリにあります。

アプライアンスパッケージを生成して大きいドライバファイルをインポートする

製造元のWebサイトや他のソースからダウンロードしたファイル、および1.5 GBより大きいファイルのパッケージを生成できます。アプライアンスのrestore共有ディレクトリは、アプライアンスにインポートできるパッケージとファイルを格納するためのリポジトリです。

パッケージ管理エクスポート機能により、.pkgファイルが作成されます。.pkgファイルにはドライバと、.pkgファイルと同じ名前の.xmlファイルが含まれます。.xmlファイルには、ドライバのメタデータが含まれます。選択したドライバパッケージごとに、個別にパッケージが作成されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **パッケージ管理** をクリックして **パッケージ管理** ページを表示します。
2. **SDAパッケージのエクスポート** をクリックして、**エクスポートリスト** ページを表示します。
3. エクスポートするドライバパッケージを選択します。
4. **アクションの選択 > 選択内容をエクスポート** を選択します。

エクスポートが完了していることを確認してから、次のエクスポートを選択してください。

エクスポートプロセスの進行中にパッケージのエクスポートを開始すると、後続のパッケージはキューで待機します。パッケージングプロセスは、パッケージ内のアイテムのサイズと個数により、数分で完了することもある場合、数時間かかることもあります。各エクスポートが完了すると、ステータス 列に完了したことが表示されます。

続いて、ドライバパッケージをアプライアンスにインポートします。

アプライアンスへのドライバパッケージのインポート

デバイス固有のネットワークドライバまたはストレージドライバのパッケージを、restore共有ディレクトリからアプライアンスにインポートできます。インポート機能は、ドライバパッケージが1.5 GBより大きい場合、およびドライバパッケージを製造元のWebサイトからダウンロードする必要がある場合（設定や依存関係が複雑なオーディオ、ビデオ、チップセットドライバなど）に役立ちます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **パッケージ管理** をクリックして **パッケージ管理** ページを表示します。
2. **SDAパッケージのインポート** をクリックして **インポートリスト** ページを表示します。このページには、restore共有ディレクトリのすべてのパッケージがリストされます。

詳細については、「[アプライアンスコンポーネントのインポート](#)」を参照してください。

3. インポートするドライバパッケージを選択します。

ネットワーク起動にドライバが必要な場合は、**WinPEパッケージ**を追加します。

4. **アクションの選択 > 選択内容をインポート** を選択します。

ドライバがネットワークドライバまたはストレージドライバの場合は、ドライバを再キャッシュします。詳細については、「[ネットワークドライバおよびストレージドライバのディレクトリの再キャッシュ](#)」を参照してください。

KACEブート環境ドライバの理解

KACEブート環境（KBE）にネットワークおよびストレージドライバを追加するとき、drivers共有ディレクトリでは、対応するドライバフォルダの再キャッシュと新しいKBEの構築が必要です。

drivers共有ディレクトリには、2つのブート環境フォルダと、サポート対象のオペレーティングシステムごとに1つのフォルダがあります。KBEおよびオペレーティングシステムタイプは、それぞれ独自のドライババージョンを必要とします。

drivers共有ディレクトリは、次のディレクトリ構造を持ちます。

- kbe_windows_x86
- kbe_windows_x64

driversディレクトリにはすべてのタイプのドライバを格納できますが、Questは、ネットワークドライバだけはこのディレクトリに格納することをお勧めします。

ネットワークドライバとストレージドライバの手動による追加

ネットワークおよびストレージドライバを製造元のWebサイトまたは別のリソースから取得して、手動でドライバを追加できます。

競合を避けるため、driversディレクトリに現在格納されているすべてのドライバを別のソースまたはデバイスに移動します。WinPE KBEを低いバージョンから高いバージョンに（またはその反対に）切り替える場合、ドライバが類似しているため、ドライバフィードによりダウンロードされたすべてのドライバを削除します。また、展開速度が低下するのを防ぐために、環境に存在しなくなっているデバイス用のドライバを削除します。

製造元のサイトから入手できるドライバファイルは、通常.infファイル、.sysファイル、および.catファイルで構成されます。.infファイルがドライバを読み込むために必要な従属ファイルがある場合があります。

1. アプライアンスのdrivers共有ディレクトリには、UNC（Universal Naming Convention、汎用命名規則）パス\\<アプライアンス>\driversを使用してアクセスします。ここで、<アプライアンス>は、アプライアンスのIPアドレスまたはDNS名です。
2. ドライバを製造元のWebサイトまたは別のリソースからダウンロードして、アプライアンスのdrivers共有ディレクトリにアクセスできるデバイスに解凍します。
3. ドライバを使用可能にするプロセスに対応するフォルダに、ドライバファイルを追加します。例えば、KBE_driver_pack/kbe_windows_x86ディレクトリをアプライアンスの対応するkbe_windows_x86ディレクトリに追加します。また、KBE_driver_pack/kbe_windows_x64ディレクトリのコンテンツをアプライアンスの対応するkbe_windows_x64ディレクトリにコピーします。

i **注:** Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、およびWindows 10のドライバを同じKBEフォルダにまとめないでください。Windows 8.1用のドライバを使用するWinPE 5.0のドライバは、Windows 8.0用のドライバを使用するWinPE 4.0のフォルダに追加できません。Windows ADK 8.0はWinPE 4.0をサポートします。Windows ADK 8.1はWinPE 5.0をサポートします。

Quest KBEドライバパックの詳細については、<https://support.quest.com/kb/111717>を参照してください。

4. ドライバを再キャッシュします。詳細については、「[ネットワークドライバおよびストレージドライバのディレクトリの再キャッシュ](#)」を参照してください。

ドライバを追加する場合は、ドライバを再キャッシュし、KBEを再構築して、新しく追加されたドライバを使用できるようにする必要があります。

KACEメディアマネージャとWindows ADKの最新バージョンを使用して、Windows 7以降用のWinPE KBEを構築します。メディアマネージャは既存のKBEを上書きできません。KBEに既存の名前を付けしないでください。

ネットワークドライバおよびストレージドライバのディレクトリの再キャッシュ

ドライバを再キャッシュすると、ドライバが更新されたことがアプライアンスに通知され、メディアマネージャでドライバを使用して、スクリプト形式のインストール専用のブート環境を構築できるようになります。再キャッシュは、変更されたドライバを含むディレクトリのみでも、ドライバデータベース全体でも行うことができます。

再キャッシュを行う前に、drivers/kbe_windows_x86またはdrivers/kbe_windows_x64のディレクトリに、ドライバが存在することを確認します。

i **注:** ドライバの再キャッシュでは、drivers共有ディレクトリのみがスキャンされ、drivers_postinstallディレクトリはスキャンされません。

1. 左側のナビゲーションバーで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ドライバ** をクリックしてドライバページを表示します。
2. **アクションの選択 > ドライバの管理** を選択して、**すべてのドライバの再キャッシュ** をクリックします。変更が発生したディレクトリのみを選択して、アプライアンスの更新にかかる時間を短縮することもできます。

i **注:** 再キャッシュを行う前にドライバを削除すると、起動、インストール、リカバリでエラーが発生し、システム障害が発生したり、ドライバ互換性レポートの結果に問題が生じたりする可能性があります。

ポストインストールタスクとしてのドライバの追加

ドライバの.zipファイルを作成してから、ポストインストールタスクとして.zipファイルをアプライアンスにアップロードできます。

ポストインストールタスクとしてドライバを追加すると、デバイス固有のドライバがドライバフィードにないときにドライバを追加したり、スクリプト形式のインストール中にオペレーティングシステムの一部としてインストールされないドライバを追加したりする場合に便利です。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ポストインストールタスク** をクリックして **ポストインストールタスク** ページを表示します。
2. 表示されるリストページで、**アクションの選択 > アプリケーションの追加** の順に選択します。
3. 名前 に、Install Dell E6410 Chipset Driversなど、タスクを識別する論理名を入力します。
4. 実行時環境を選択します。詳細については、「[実行時環境について](#)」を参照してください。
5. ファイルのアップロードの隣にある **参照** をクリックして、該当するファイルを選択します。
6. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要です のチェックボックスを選択します。
7. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
8. **保存** をクリックします。

詳細については、「[タスクの追加](#)」を参照してください。

不足しているドライバのリストの表示

KACEブート環境 (KBE) でデバイスがネットワーク起動した後に、アプライアンスは自動的にデバイスのハードウェアインベントリを詳細に記録します。ドライバ互換性レポートでは、デバイスで必要なドライバと、ソースメディアで使用可能なドライバを比較して一覧表示します。

1. アプライアンス管理者コンソールにログインします。
2. 左側のナビゲーションペインで、**デバイス** をクリックし、次に **デバイスインベントリ** をクリックして、**デバイスインベントリ** ページを表示します。
3. デバイスのホスト名またはIPアドレスをクリックして、**デバイスの詳細** ページを表示します。
4. **ドライバ互換性レポート** で、**オペレーティングシステム** を選択し、**互換性の表示** をクリックします。

ネットワークドライバの管理

ドライバをdrivers共有ディレクトリに手動でダウンロードできます。このディレクトリは、サブディレクトリにまとめられます。driversディレクトリにはすべてのタイプのドライバを格納できますが、Quest KACEは、ネットワークドライバだけをこのディレクトリに格納することをお勧めします。

drivers共有ディレクトリには、2つのブート環境フォルダと、サポート対象のオペレーティングシステムごとに1つのフォルダがあります。KBEおよびオペレーティングシステムタイプは、それぞれ独自のドライババージョンを必要とします。

drivers共有ディレクトリは、次のディレクトリ構造を持ちます。

- kbe_windows_x32
- kbe_windows_x64

KBEフォルダの下にサブディレクトリを作成して、新しく追加したドライバをまとめることができます。

ドライバを追加するためのベストプラクティス

- デバイスのブランド名を使用してフォルダに名前を割り当て、次にドライバの名前を使用してサブフォルダを作成してドライバファイルを追加します。
- ドライバへのパスは、ドライバ名を含めて255文字を超えることはできません。また、ディレクトリとドライバの名前に特殊文字は使用できません。
- アプライアンスは、.exeファイルまたは.msiファイルをインストールしません。ファイルを抽出し、その後、ドライバをフォルダに追加します。
- Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、およびWindows 10のドライバを同じKBEフォルダにまとめないでください。1つのプラットフォームタイプのドライバのみを1つのフォルダに追加できます。Windows 8.1用のドライバを使用するWinPE 5.0のドライバは、Windows 8.0用のドライバを使用するWinPE 4.0のフォルダに追加できません。

i 注: Windows ADK 8.0はWinPE 4.0をサポートします。Windows ADK 8.1はWinPE 5.0をサポートします。Windows ADK 10はWinPE 10.0をサポートします。

- 追加したドライバを再キャッシュし、メディアマネージャを使用して新しいKBEを構築します。メディアマネージャは、デバイスにインストールされているWindows ADKを使用してKBEを再構築し、自動的にドライバをKBEフォルダに追加します。
- すでに存在する名前を使用してKBEに名前を割り当てないでください。メディアマネージャは既存のKBEを上書きできません。

ネットワークドライバとストレージドライバのダウンロード

Quest KACEサポートサイトにアクセスして、KACEブート環境 (KBE) を構築するのに必要なネットワークドライバと大容量ストレージドライバをダウンロードできます。

1. drivers共有ディレクトリに現在格納されているすべてのドライバを別の場所に移動します。

i 注: WinPE KBEをあるバージョンから別のバージョンに切り替える場合、ドライバが類似しているのに、ドライバフィードによりダウンロードされたすべてのドライバを削除します。展開速度が低下するのを防ぐために、環境に存在しなくなっているデバイス用のドライバを削除します。

2. ドライバの追加、再キャッシュ、および新しいKBEの構築の手順については、<https://support.quest.com/kace-systems-deployment-appliance/kb/111717>を参照してください。

抽出プロセスでは、KBE_driver_packディレクトリと、その下にkbe_windows_x86ディレクトリとkbe_windows_x64ディレクトリが作成されます。kbe_windows_x86ディレクトリとkbe_windows_x64ディレクトリには、それぞれdell-winpe-a0xディレクトリとkaceディレクトリが作成されます。

3. アプライアンスのdrivers共有ディレクトリには、UNCパス\\<アプライアンス>\driversを使用してアクセスします。ここで、<アプライアンス>は、アプライアンスのIPアドレスまたはDNS名です。
4. KBE_driver_pack/kbe_windows_x86ディレクトリのコンテンツをアプライアンスの対応するkbe_windows_x86ディレクトリにコピーします。また、KBE_driver_pack/kbe_windows_x64ディレクトリのコンテンツをアプライアンスの対応するkbe_windows_x64ディレクトリにコピーします。
5. ドライバタイプ (例えば、.inf、.sys、および.cat) のディレクトリ構造を作成します。

.infファイルがドライバを読み込むために必要な従属ファイルがある場合があります。または、ドライバパッケージにないドライバを追加することができます。Quest KACEでは、すべてのファイルを.infファイル、.sysファイル、および.catファイルと同じディレクトリに配置することをお勧めします。

Windowsからのコマンドラインタスクが完了したら、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールにログインして、ドライバを追加したドライバディレクトリを再キャッシュすることができます。

6. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次にドライバ をクリックしてドライバ ページを表示します。
7. アクションの選択 > ドライバの追加 の順に選択して、ドライバを追加したディレクトリを再キャッシュします。

ドライバの再キャッシュでは、drivers共有ディレクトリだけがスキャンされます。drivers_postinstallディレクトリを再キャッシュする必要はありません。

KACEメディアマネージャとWindows ADKの最新バージョンを使用して、Windows 7以上用のWinPE KBEを構築します。新しいKBEには、新しいドライバが含まれます。

ドライバパッケージのインポート

ドライバを別のデバイスにインポートしたり、KACE SDA間で共有したりできます。アプライアンスは、restoreディレクトリで、拡張子.pkgでエクスポートされ保存されたドライバパッケージを一覧表示します。

ドライバのエクスポートの詳細については、[ドライバのエクスポート](#)を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に パッケージ管理 をクリックして パッケージ管理 ページを表示します。
2. SDAパッケージのインポート をクリックしてインポートリスト ページを表示します。このページには、restore共有ディレクトリのすべてのパッケージがリストされます。
3. インポートするパッケージを選択します。
4. アクションの選択 > 選択内容をインポート の順に選択します。

ドライバがネットワークドライバまたはストレージドライバの場合は、ドライバを再キャッシュします。詳細については、「[ドライバの再キャッシュ](#)」を参照してください。

デバイスの互換性の表示

有人のスクリプト形式のインストールの場合は、ビルトインの デバイスの互換性の表示 プレインストールタスクを追加できます。このタスクでは、オペレーティングシステムの展開先であるデバイスのハードウェア用のすべてのドライバが、スクリプト形式のインストールを実行する前にアプライアンスに存在するかを確認できます。ドライバが不足している場合、ドライバのないハードウェアのリストが表示され、スクリプト形式のインストールは停止します。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に スクリプト形式のインストール をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
2. 該当するスクリプト形式のインストールを選択し、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。
3. インストールプラン で、デバイスの互換性の表示 タスクを実行するプレインストールタスク 列に追加します。次に、ハードウェアインベントリをアップロードして、互換性のないデバイスのリストをターゲットデバイスのコンソールに表示します。
4. 保存 をクリックします。

ドライバの互換性詳細の表示

アプライアンスのKACEブート環境 (KBE) でデバイスがネットワーク起動した後に、アプライアンスは自動的にデバイスのハードウェアインベントリを詳細に記録します。デバイスの詳細と ドライバ互換性レポート を表示できます。このレポートは、スクリプト形式のインストールで使用可能なドライバとデバイスが要求するドライバの対比をリストします。

デバイスをネットワーク起動します。

ドライバ互換性レポートはドライバを再キャッシュした後に構築されるので、レポートはdrivers共有ディレクトリのドライバのみを対象にします。

1. KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールにログインします。
2. 左側のナビゲーションペインで、**デバイス** をクリックし、次に **デバイスインベントリ** をクリックして、**デバイスインベントリ** ページを表示します。
3. デバイスのホスト名またはIPアドレスをクリックして、**デバイスの詳細** ページを表示します。
4. **ドライバ互換性レポート** で、**オペレーティングシステム** を選択し、**互換性の表示** をクリックします。

互換性レポートでは、デバイスに必要なドライバと、ソースメディアで使用可能なドライバが比較されます。不足しているドライバを追加できます。

ドライバのエクスポート

アプライアンスは、ドライバを含む.pkgファイルと、.pkgファイルと同じ名前の.xmlファイルを作成します。.xmlファイルには、ドライバのメタデータが含まれます。.pkgファイルと.xmlファイルは、\appliance_hostname\restoreディレクトリに保存されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **パッケージ管理** をクリックして **パッケージ管理** ページを表示します。
2. **アプライアンスパッケージのエクスポート** をクリックして、**エクスポートリスト** ページを表示します。
3. エクスポートするドライバパッケージを選択します。
4. **アクションの選択 > 選択内容をエクスポート** を選択します。

エクスポートが進行しているときに別のパッケージのエクスポートを開始すると、後続のパッケージはキューで待機します。

パッケージングプロセスは、パッケージのサイズと個数により、数分で完了することもあれば、数時間かかることもあります。各エクスポートが完了すると、ステータス 列に完了したことが表示されます。

ドライバの再キャッシュ

ドライバを再キャッシュすると、ドライバに対して更新が行われたことがアプライアンスに通知されます。

再キャッシュを行う前に、drivers/kbe_windows_x86 または drivers/kbe_windows_x64 の drivers ディレクトリに、ドライバが存在することを確認します。ドライバの再キャッシュでは、drivers共有ディレクトリのみがスキャンされ、drivers_postinstallディレクトリはスキャンされません。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **アプライアンスのメンテナンス** をクリックして **アプライアンスのメンテナンス** ページを表示します。

i **注:** アプライアンスは、ライセンスが最新の場合にのみアップデートできます。ライセンスの有効期限が切れると、ページ上部にライセンスを更新するよう指示するメッセージが表示されます。このページの **ライセンスのメンテナンスステータス** フィールドには、ライセンスの状態が示されます。ライセンスを更新するには、KACE の営業担当者から新しいキーを入手し、登録とライセンス ページで更新します。1つ以上のリモートサイトアプライアンス (RSA) がこのアプライアンスに関連付けられている場合は、同期後に新しいライセンスキーがこれらのRSAで自動的に更新されます。

2. ユーティリティの **ドライバの再キャッシュ** セクションで、**すべてのドライバの再キャッシュ** をクリックします。

特定のディレクトリを選択することにより、変更されたドライバのみを再キャッシュすることもできます。

オペレーティングシステムドライバの管理

ドライバフィードを有効にすると、オペレーティングシステムに必要な最新のドライバを取得できます。その後、ダウンロードするドライバを選択できます。モデルに固有のパッケージには、Windowsのスクリプト形式のインストール用のドライバが含まれています。

Windowsオペレーティングシステムドライバについて

- デバイスで\`\your_appliance_box>\drivers_postinstall\feed_tools\copy_drivers_debug.vbs`スクリプトを実行して、システムIDおよび製造元の名前を取得できます。
- ドライバフィードは、次のフォルダ構造を使用して、オペレーティングシステムおよび他のハードウェア関連のドライバをdrivers_postinstallディレクトリに追加します。
 - 仮想デバイス : `<OS_name>/<OS_version>/<OS_platform>/any/vmware|hyperv/`。例 : `/windows/7/x64/any/vmware/`。
 - 物理デバイス : `<OS_name>/<OS_version>/<OS_platform>/<build_version>|any/<manufacturer>/<system_ID>/`。例 : `/windows/7/x64/any/dell/049a/`。

スクリプト形式のインストール用のドライバフィードを有効にする

最新のドライバを取得するためにドライバフィードを有効にすると、ダウンロードするドライバを選択できます。アプライアンスは、スクリプト形式のインストール展開でオペレーティングシステムが必要なドライバをデバイスモデル別に整理します。

Sysprepを実行済みのシステムイメージ用にドライバフィードを有効にすることもできます。詳細については、「[システムイメージ用のドライバフィードを有効にする](#)」を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ドライバフィード** をクリックします。
2. **アクションの選択 > ドライバフィード設定の管理** を選択して、**ドライバフィード設定 ページ** を表示します。
3. **ドライバフィードを有効にする** チェックボックスをオンにして、**保存** をクリックします。
4. (オプション) 更新されたドライバが利用可能になったときにダウンロードする場合は、**更新済みドライバの自動ダウンロード** を選択します。このオプションを無効にするには、チェックボックスをオフにします。
5. **更新の確認** をクリックします。
6. オプション : **キャンセル** をクリックして、ページを閉じます。
7. **保存** をクリックします。

ドライバフィードステータスに、**更新を確認しています** が表示されます。使用可能なドライバパッケージのリストをドライバフィード ページで表示し、パッケージをアプライアンスにダウンロードしてインストールできます。

システムイメージ用のドライバフィードを有効にする

Sysprepを実行済みのシステムイメージ用のドライバフィードを有効にして、不足しているドライバを取得できます。イメージをキャプチャしたデバイスにドライバをインストールし、イメージを再キャプチャして、イメージをアプライアンスにアップロードできます。Quest KACEは、システムイメージのドライバのインストールを回避するため、イメージをキャプチャするためのベストプラクティスを使用することをお勧めします。

Microsoft Sysprepツールを使用してイメージを汎用化し、重複したデバイス名や重複したセキュリティID (SID) を解決します。

イメージをキャプチャするためのベストプラクティスの詳細については、<https://support.quest.com/kace-systems-deployment-appliance/kb/121734>を参照してください。

Windows K-Image および WIM イメージの場合、システムイメージ詳細 ページの Sysprep 実行済み フィールドに、イメージで sysprep が実行済みかが示されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. 展開するイメージを選択して、システムイメージ詳細 ページを表示します。
3. 展開 オプションで、**ドライバフィードを使用 (Sysprepを実行済みのイメージでのみ)** チェックボックスをオンにします。

(オプション) このオプションは、一般設定 ページでデフォルトで有効にできます。

- a. 新しいブラウザインスタンスまたはタブで管理者コンソールを開きます。
 - b. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定 ページ** を表示します。
 - c. **イメージ作成オプション** で、新たにキャプチャされた sysprep された画像のドライバフィードを有効にする **チェックボックス** をオンにします。このオプションをオンにすると、新しくキャプチャした sysprep 実行済みシステムイメージを使用して展開されたターゲットシステムにドライバが自動的に追加されます。
 - d. **保存** をクリックし、システムイメージ詳細 ページの **展開オプション** に戻ります。
4. オプション: **キャンセル** をクリックして、ページを閉じます。
 5. オプション: **複製** をクリックしてイメージをコピーし、必要に応じて編集します。
 6. **保存** をクリックします。

ドライバフィードを無効にする

ドライバフィードを無効にすることにより、ドライバ、別のアプライアンスからのドライバ、および別のデバイスに格納されているドライバを手動でダウンロードしてインストールできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ドライバフィード** をクリックします。
2. **アクションの選択 > ドライバフィード設定の管理** を選択して、**ドライバフィード設定 ページ** を表示します。
3. **ドライバフィードを有効にする** チェックボックスをオフにします。
4. オプション: **キャンセル** をクリックして、ページを閉じます。
5. **保存** をクリックします。

オペレーティングシステムのドライバパッケージのダウンロード

ドライバフィードを有効にすると、利用できる最新のドライバパッケージのリストをドライバフィードから表示し、ドライバをアプライアンスにダウンロードしてインストールできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ドライバフィード** をクリックします。
2. ダウンロードしてインストールするパッケージを選択します。

ドライバは、**drivers_postinstall**共有ディレクトリにインストールされます。

3. **アクションの選択 > パッケージのダウンロードとインストール** の順に選択します。

プロセスが完了したら、ステータス列に **ドライバ共有にインストールされました** が表示されます。インストールされたドライバは、**ドライバ** ページで確認できます。

4. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ドライバ** をクリックして **ドライバ** ページを表示します。

ポストインストールタスクとしての、OSへのドライバの追加

複雑な設定または依存関係のあるドライバ用のドライバインストールファイルをアップロードできます。このようなドライバには、ハードウェア命令語を提供するチップセットドライバなどがあります。ドライバの.zipファイルを作成すると、ポストインストールタスクを使用してドライバをオペレーティングシステムに追加できます。

Quest KACEでは、ドライバフィードを有効にして最新のドライバを取得し、ダウンロードするドライバを選択することをお勧めします。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ポストインストールタスク** をクリックして **ポストインストールタスク** ページを表示します。
2. **アクションの選択 > アプリケーションの追加** の順に選択し、**ポストインストールタスク** 詳細 ページを表示します。
3. 名前 に、**Install Dell E6410 Chipset Drivers**など、タスクを識別する論理名を入力します。
4. 実行時環境を選択します。詳細については、「**実行時環境について**」を参照してください。
5. ファイルのアップロードの隣にある **参照** をクリックして、該当するファイルを選択します。
6. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、**再起動が必要です** のチェックボックスを選択します。
7. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
8. **保存** をクリックします。

詳細については、「[タスクの追加](#)」を参照してください。

イメージのキャプチャ

KACEブート環境 (KBE) にキャプチャするイメージを使用してデバイスを起動した後に、UEFIイメージ、WIMイメージ、およびK-Imageをキャプチャできます。KBEからデバイスを起動すると、KBEのメインメニューがデバイスに読み込まれます。KBEのメインメニューを使用して、デバイスからイメージをキャプチャします。アプライアンスにイメージ用の十分なディスク領域があるかどうかの検証と、キャプチャ用のイメージの準備が行えます。

キャプチャの準備

イメージが最新のものであること、アプライアンスにイメージ用の十分なディスク領域があることの確認など、イメージをキャプチャするためのベストプラクティスに従います。

Quest KACEサポートチームは、イメージをキャプチャするためのベストプラクティスを提供します。詳細については、<https://support.quest.com/kace-systems-deployment-appliance/kb/121734>を参照してください。

展開用のイメージをキャプチャするための準備に関するベストプラクティス。

- アプライアンスに20%の空き領域があることを確認します。
- OEMメディアではなくボリュームライセンスメディアのみを使用します。
- 管理者プロファイルを作成し、デフォルトの管理者ユーザーとしてセットアップします。
- イメージを元のデバイスに復元する必要がある場合は、Sysprepを実行していないバージョンのプライマリイメージを最初にキャプチャします。
- イメージにSysprepを実行します。
- Sysprepを実行済みのイメージをアプライアンスにキャプチャして、アプライアンスにイメージ用の十分な領域があるかどうかを確認します。

システムイメージのキャプチャ

KACEブート環境 (KBE) でデバイスを起動してから、KACEシステム展開アプライアンスまたはリモート (RSA) アプライアンスを使用してイメージをキャプチャできます。

KBE からデバイスを起動する前に、イメージに Sysprep ツールを実行してシステム固有のすべての設定を削除できます。イメージを元のデバイスに復元する必要がある場合、Quest KACEでは、Sysprepを実行していないバージョンのゴールドイメージを最初にキャプチャすることをお勧めします。

デバイスをKBEから起動した後、ビルトインのVNCリモートコントロールソフトウェアにアクセスして、リモートデバイスからKACEシステム展開アプライアンスにイメージをキャプチャできます。

i **重要:** キャプチャ元以外のマシンに展開することを目的としたOEMイメージのキャプチャは、Microsoftライセンス契約の違反になります。複数のマシンへの展開用にイメージを作成する場合は、必ずMicrosoftボリュームライセンスメディアを使用してください。KB 135252で詳細を確認するか、イメージの再作成権限に関するMicrosoftのライセンス概要へのリンクを参照してください。

1. KBEにキャプチャするイメージを使用してデバイスを起動します。デバイスのKBEのメインメニューから、イメージ作成 をクリックします。



ヒント: この画面の下に表示される情報には、このKBEに接続したKACEシステム展開アプライアンスまたはRSAの詳細（IPアドレス、OSバージョン、アーキテクチャ、ブートモード、Macアドレス、およびその他の関連データ）が含まれます。

デバイスがKBEからではなくハードドライブから起動する場合は、KBEからデバイスを起動します。

2. このデバイスのイメージをキャプチャ をクリックします。
3. イメージ名 に、アプライアンス上でイメージを識別する名前を入力します。
4. イメージのタイプ で、必要に応じて、作成するイメージファイルのタイプを選択します。
5. イメージをサーバに直接キャプチャする場合は、サーバに直接キャプチャ を選択します。

イメージは、ローカルにキャプチャされると、ネットワークソケットを介してサーバに送信されます。一部のネットワーク設定では、ファイルをこのように転送すると、問題が発生することがあります。イメージをサーバに直接ストリーミングすると、そのファイルは、ネットワークソケットを使用するのではなく、サーバ共有に直接コピーされます。

サーバから直接キャプチャされたイメージについてのみ、サーバから直接展開することもできます。

- また、サーバに直接キャプチャされた WIM イメージは、サーバから直接展開する必要もあります。このオプションは、イメージの詳細ページでは変更できません。
 - このオプションを選択しない場合に、ローカルに十分なディスク容量がないと、イメージは直接サーバにストリーミングされます。
6. エラー発生時に操作を続行 をクリックして、警告や致命的なエラーが発生しても、キャプチャとアップロードプロセスが続行されるようにします。
 7. ログにデバッグ出力を含める をクリックして、デバッグレベルのログ記録を有効にし、アプライアンスログ ページにログがアップロードされるようにします。

デバッグを有効にすると、イメージのキャプチャとアップロードにかかる時間が長くなる場合があります。

8. キャプチャの開始 をクリックします。
 - ページ下部に進行状況表示バーが表示され、選択した各パーティションのタスクがどの程度進行しているかが示されます。必要に応じて、キャプチャをキャンセルできます。
 - キャプチャプロセスが完了すると、KACE システム展開アプライアンス管理者コンソールの システムイメージ ページに新しいシステムイメージエントリが表示されます。イメージが RSA を使用してキャプチャされた場合は、リモートサイトコンソールにも追加されます。
 - ユーザーがこのUI通知をサブスクライブした場合、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールおよびリモートサイトコンソールに通知アイコンが表示され、イメージキャプチャがいつ開始され、失敗したか終了したかが示されます。
 - KACEシステム展開アプライアンスは、キャプチャされた各システムイメージにIDを割り当てます。



ヒント: KACEシステム展開アプライアンスでキャプチャした各システムイメージまたはリンク先RSAには一意のIDがあります。これにより、リンク先（KACEシステム展開アプライアンス）またはリモート（RSA）アプライアンスでキャプチャしたすべての異なるシステムイメージを追跡し、それらを編集する際、任意のイメージを同期できます。特定のシステムイメージのIDを確認するには、システムイメージ ページでシステムイメージ名をマウスオーバーします。IDは左下隅に表示されます。



注: RSA でキャプチャされたイメージは RSA のみで保存され、同期しません。RSAからキャプチャされたイメージを設定した後、KACEシステム展開アプライアンスでは展開前にそのRSAを同期します。

展開タスクシーケンスを使用して、すべての必要なファイル、ツール、およびソフトウェアでイメージを設定します。必要に応じて、いくつかのイメージを編集したり、展開タスクを指定したりできます。詳細については、次のトピックをお読みください。

- [システムイメージの編集](#)
- [システム展開へのタスクの割り当て](#)

シングルパーティションの作成

ビルトインのシングルパーティションの作成 プレインストールタスクを追加して、プライマリパーティションを1つ作成できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **プレインストールタスク** をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. **シングルパーティションの作成** を選択して、プレインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. **オプション** : 名前 で、タスクを識別するために名前を変更します。
4. スクリプトを入力してパーティションを作成します。
5. **メモ** に、タスクを識別するためのメモを追加します。
6. **保存** をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、**Sysprep**を実行済みのシステムイメージ、および**Sysprep**を実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

CドライブをNTFSとしてフォーマット

ビルトインの C:をNTFSとしてフォーマット プレインストールタスクを追加して、CドライブをNTFSファイルシステムとしてフォーマットし、設定できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **プレインストールタスク** をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. **C:をNTFSとしてフォーマット** を選択して、プレインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. **オプション** : 名前 で、タスクを識別するために名前を変更します。
4. **保存** をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、**Sysprep**を実行済みのシステムイメージ、および**Sysprep**を実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

UEFIパーティションの作成

DiskPartスクリプトを使用するビルトインの UEFIパーティションの作成 プレインストールタスクを追加して、Windows 7 x64 SP1以降のx64 UEFI対応デバイス上でUnified Extensible Firmware Interface (UEFI) ハードドライブパーティションを作成できます。

NTFS形式はUEFI対応デバイスでは動作しません。UEFI対応デバイスはGUIDパーティションテーブル (GPT) を使用します。GPTはBIOSで一般的に使用されるマスターブートレコード (MBR) パーティションスタイルとは異なるグローバル一意識別子をデバイスに使用します。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **プレインストールタスク** をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. リストから **UEFIパーティションの作成** を選択して、プレインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. **オプション** : 名前 で、タスクを識別するために名前を変更します。
4. DISKPARTスクリプト で、コマンドラインオプションが、使用するコマンドラインオプションと一致していることを確認します。

KACEブート環境 (**KBE**) では、**UEFI**イメージをキャプチャしている間に非表示の**EFI**パーティションが自動的に識別され、キャプチャ時にドライブ文字**S**が割り当てられます。

DiskPartコマンドの詳細については、共通のDiskPartコマンドラインオプションを参照してください。

5. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

中レベルのタスク UEFIパーティションの適用 を使用して、パーティションを適用します。

UEFIパーティションの適用

プレインストールタスクとして作成したUEFIパーティションを適用できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. UEFIパーティションの適用 をクリックして、ポストインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前 に、タスクを識別するための論理名を入力します。
4. 実行時環境を選択します。詳細については、「実行時環境について」を参照してください。
5. BATスクリプトで、スクリプトを確認し、必要な変更を行います。
6. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

システム提供のWIMイメージのキャプチャ

高速な展開のために、自動マルチキャスト展開を使用してWIMイメージをキャプチャし、同じWIMイメージを同時に複数のデバイスに送信できます。また、企業内のすべてのデバイス、およびKACEブート環境 (KBE) のすべてのサイズのハードディスクにWIMイメージを展開できます。

キャプチャするイメージのあるデバイスは、展開用のターゲットデバイスと一致する必要はありません。ただし、イメージを展開する各デバイスモデルにはドライバが必要です。

1. KBEにキャプチャするイメージを使用してデバイスを起動します。デバイスの KBEのメインメニュー から、イメージ作成 をクリックします。

デバイスがKBEからではなくハードドライブから起動する場合は、KBEからデバイスを起動します。

2. このマシンのイメージキャプチャ をクリックします。
3. イメージ名 に、イメージを識別する名前を入力します。
アプライアンスは、.wim拡張子を自動的に追加します。
4. イメージソースで、イメージをキャプチャするドライブ文字を選択します。

アプライアンスにより、ドライブ文字に自動的にコロンが追加されます (C:など)。

5. イメージタイプとして Windows Imaging Format (高速圧縮) を選択します。
6. キャプチャの開始 をクリックして、イメージをシステムイメージ ページにアップロードします。

ページ下部に進行状況表示バーが表示され、選択した各パーティションのタスクがどの程度進行しているかが示されます。必要に応じて、キャプチャをキャンセルできます。

システムイメージの編集

K-ImageおよびWIMイメージは、名前変更、置き換え、削除、または編集することができます。

システムイメージを修正する前に、バックアップコピーを作成します。

システムイメージ詳細 ページでは、イメージ設定の表示、ブートアクションの追加、イメージのログファイルのダウンロード、およびアプライアンスでのエラー対応方法のオプションの設定を行うことができます。Windows K-Image および WIM イメージの場合、イメージで sysprep が実行済みかどうかも示されます。

システムイメージは、キャプチャしたアプライアンス上でのみ編集できます。たとえば、アプライアンスによってキャプチャされたシステムイメージの詳細を表示した場合、アプライアンス管理者コンソールのシステムイメージ詳細 ページで該当イメージを編集できますが、KACEリモートアプライアンスコンソールでは編集できません。システムイメージがアプライアンスでキャプチャされRSAと同期されている場合、KACEリモートアプライアンスコンソールのシステムイメージ詳細 ページでは、システムイメージの詳細を確認するだけで、編集することはできません。このページには、アプライアンス管理者コンソールのシステムイメージ詳細 にすばやく移動して、必要に応じてシステムイメージを編集できるリンクが表示されます。

インストールプラン では、展開用に配置した順序でタスクを実行するよう、使用可能なプレインストールタスク、中レベルのタスク、およびポストインストールタスクを追加することでタスクシーケンスを作成できます。

システムイメージには、ファイルの参照 オプションのみが使用できます。

1. イメージの名前を選択し、システムイメージ詳細 ページを表示してイメージを編集します。
2. ファイルの参照 をクリックして、ファイルを参照しています ダイアログボックスを開き、次のオプションを使用してイメージを編集します。
 - **K-Imagesのみ。**
 - パーティションを追加するには、**ドライブの追加** をクリックします。ドライブ名は、大文字1文字と末尾のコロンで構成する必要があります。
 - ドライブの名前変更または削除を行うには、目的のドライブ文字の横にある適切なアイコンをクリックします。
 - **Windows K-Images WIMイメージのみ。**
 - ZIPファイルの内容を追加するには、ファイルを追加するディレクトリに移動し、**zipファイルの追加** をクリックして目的のZIPファイルに移動し、**送信** をクリックして、**コミット** をクリックします。圧縮されたファイルの内容が、選択した場所に抽出されます。変更のコミット後にシステムイメージの内容を確認するには、ダイアログボックスが閉じたときに、システムイメージ詳細 ページで **ファイルの参照** をクリックし、ファイルのリストを確認します。
 - ドライブの名前変更または削除を行うには、目的のドライブ文字の横にある適切なアイコンをクリックします。
 - **すべてのイメージ。**
 - ディレクトリを追加するには、**ディレクトリの作成** をクリックして、追加する新しいディレクトリの名前を入力します。
 - ファイルを追加するには、**ファイルの追加** をクリックし、目的のファイルに移動して **送信** をクリックします。
 - ZIPファイルの内容を追加するには、ファイルを追加するディレクトリに移動し、**zipファイルの追加** をクリックして目的のZIPファイルに移動し、**送信** をクリックして、**コミット** をクリックします。圧縮されたファイルの内容が、選択した場所に抽出されます。変更のコミット後にシ

テムイメージの内容を確認するには、ダイアログボックスが閉じたときに、システムイメージ詳細ページで **ファイルの参照** をクリックし、ファイルのリストを確認します。

- ファイルの名前変更、削除、または置き換えを行うには、ファイル名の上にマウスのカーソルを移動して、適切なアイコンをクリックします。
- ディレクトリの名前変更、削除、またはダウンロードを行うには、目的のディレクトリの横にある適切なアイコンをクリックします。
- ファイルをダウンロードするには、ファイル名をクリックします。
- ディレクトリの内容にドリルダウンするには、ディレクトリ名をクリックします。

i **注:** ファイルを別のファイルに置き換えた場合、アプライアンスによってファイルの内容は置き換えられますが、ファイル名は元のまま維持されます。

3. **オプション：WIMイメージのみ。** Windowsレジストリから追加のシステムイメージ情報を取得します。
 - a. レジストリ情報の横にある **表示** をクリックします。
 - b. 選択したシステムイメージのWindowsレジストリ項目の内容を確認します。
4. (オプション) 該当する場合は、システムイメージキャプチャ中に記録された最新のログファイルを確認します。
 - **サーバログ** をクリックして、イメージのキャプチャ中にサーバが記録した内容を確認します。
 - **クライアントログ** をクリックして、イメージのキャプチャ中にサーバが記録した内容を確認します。

ログファイルのサイズが500 kbを超える場合は、ログファイルをダウンロードすることもできます。

5. **オプション：設定ファイルのみ。**
 - a. XMLの設定の横にある **表示** をクリックし、表示されるファイルの内容を確認します。ファイルの内容は読み取り専用です。
 - b. ファイルをダウンロードするには、ファイルの内容の下で **XMLファイルのダウンロード** をクリックします。
6. **オプション：タスクファイルのみ。**

i **注:** 読み取り専用ユーザーはこのフィールドにアクセスできません。

- a. タスクXMLの横にある **表示** をクリックし、表示されるファイルの内容を確認します。ファイルの内容は読み取り専用です。
 - b. ファイルをダウンロードするには、ファイルの内容の下で **XMLファイルのダウンロード** をクリックします。
7. **オプション：元のイメージをデバイスに復元する場合、および元のイメージにないデバイスでファイルが追加または修正されている場合、展開 オプションで、イメージ内にはないローカルファイルの削除** を選択します。
 8. 必要に応じて、タスクをシステムイメージに割り当てます。詳細については、「[システム展開へのタスクの割り当て](#)」を参照してください。
 9. 編集が終了したら、**キャンセル** をクリックして変更内容を元に戻すか、**保存** をクリックして、変更内容をイメージに適用します。

WIM イメージのインポート

既存の WIM イメージをアプライアンス上のシステムイメージのコレクションにインポートできます。これにより、サードパーティベンダーが作成したシステムイメージを管理できます。

WIM イメージをインポートするには、イメージファイルのコピーをアプライアンスの Samba clientdrop 共有に配置します。

i **注:** インポートできるのは、単一の WIM ファイルに含まれ、単一のパーティションで構成されているイメージのみです。

WIM イメージのインポート中は、OS アーキテクチャを指定する必要があります。インポートされたイメージが sysprepped であるかどうかを検出されます。

i **注:** アプライアンスでシステムイメージのインポートが開始されると、unattend ファイルの検出時にイメージには sysprepped としてフラグが設定されます。イメージに該当ファイルが含まれていない場合は、アプライアンスでは該当ファイルが sysprepped としてフラグが設定されます。

この機能は、KACEシステム展開アプライアンスおよびリモートサイトアプライアンス (RSA) で使用できません。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. **アクションの選択 > インポート** の順に選択して、システムイメージのインポート ページを表示します。
3. 次のオプションを指定します。

オプション	説明
イメージ名	このシステムイメージに割り当てる名前を入力します。
オペレーティングシステム	WIM イメージで使用される OS アーキテクチャを選択します。
Wim ファイル	Samba clientdrop 共有上の WIM イメージファイルの名前を選択します。

4. **インポート** をクリックします。

システムイメージのインポート ページが閉じ、システムイメージ リストページが更新され、リストに新しくインポートされた WIM イメージが表示されます。インポートされたイメージを含む行のステータス列に、インポート操作のステータスが示されます。

5. (オプション) インポートが完了したら、インポートされたイメージの詳細を確認し、必要に応じて変更を加えます。
 - a. システムイメージ ページで、インポートされたイメージを含む行の **名前** 列をクリックし、システムイメージ詳細 ページを表示します。
 - b. ページの内容を確認します。
 - c. WIM イメージをダウンロードするには、WIM 管理 セクションのダウンロードするパーティションを含む行の **アクション** 列で、**ダウンロード アイコン** をクリックします。表示されるダイアログボックスで、WIM ファイルに付ける名前を指定します。**保存** をクリックします。
 - d. インポートした WIM イメージを別のイメージに置き換えます。これは、間違った WIM イメージをインポートした場合や、WIM イメージに変更を加え、更新されたイメージをインポートする場合などに便利です。

i **注:** 元のWIMイメージと同様に、置き換えるイメージも、アクセス可能にするために、関連付けられたKACEシステム展開アプライアンスまたはRSAのSamba clientdrop共有に保存されている必要があります。

このためには、置き換えるパーティションを含む行の **アクション** 列で、**置換 アイコン** をクリックします。表示されたダイアログボックスで、目的のイメージファイルを選択し、**置換** をクリックします。

システムイメージ詳細 ページが閉じ、システムイメージ リストページが更新されます。そして、インポートされたイメージを含む行のステータス列で WIM イメージが置き換えられていることが示されます。

- e. イメージのインポート中に作成されたログファイルの内容を確認するには、このシステムイメージのログを表示 をクリックします。

ログの内容がページに表示されます。この情報により、イメージがアプライアンスでキャプチャされたか、それとも clientdrop 共有からインポートされたか、そしてイメージをインポートしたユーザーと日時、イメージを置換したユーザーを確認できます。イメージが複数のパーティションで構成されている場合、このログには特定のパーティションで実行された操作が示されます。

Sysprep実行済みイメージの応答ファイルの管理

アプライアンスを使用すると、Sysprep実行済みWindowsイメージの応答ファイルを作成および管理できます。

Sysprep (システム準備) は、OSイメージをキャプチャするためのMicrosoftツールです。Windowsインストーラーからデバイス固有の情報を削除し、他のターゲットデバイスに展開できるようにします。

i | **注:** このツールにアクセスするには、ライブラリの概要 ページの Sysprep 作成ウィザード リンクをクリックします。

システム管理者は通常、応答ファイル (unattend.xml) を使用して、Windowsシステムの構成と展開を完全に自動化します。各応答ファイルには、Windowsシステムのインストールに必要な一連の定義済みの値が含まれているため、インストール時にユーザーが操作する必要がありません。

Sysprep実行済みイメージの応答ファイルの作成

Sysprep 作成ウィザード では、イメージのSysprepを実行するための応答ファイルを作成する手順をガイドします。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に **Sysprep無人ファイル** をクリックして Sysprep無人ファイル ページを表示します。
2. アクションの選択 > **Sysprep 作成ウィザード** を選択します。

i | **注:** ライブラリの概要 ページのリンクをクリックして、ウィザードを開始することもできます。

3. 表示される Sysprep 作成ウィザード のシステム情報 ページで、次の手順を実行します。
 - a. 次の情報を入力します。

オプション	説明
名前	unattend.xml ファイル設定の名前。ここで指定した名前は、Sysprep無人ファイル ページでこの設定を識別します。
オペレーティングシステム	ターゲットオペレーティングシステム。
アーキテクチャ	オペレーティングシステムアーキテクチャ。

- b. **次へ** をクリックします。
4. 設定 ページで、次の手順を実行します。
 - a. 次の情報を入力します。

オプション	説明
登録データ	
所有者	インストールされているオペレーティングシステムを使用するユーザーの名前。
組織	オペレーティングシステムがライセンス供与されている組織の名前。
一般設定	
タイムゾーン	システムが使用されるタイムゾーン。
場所	システムが使用される国。
一次言語	オペレーティングシステムが使用する言語。
フォールバック言語	選択した言語が使用できない場合のオペレーティングシステムのフォールバック言語。
Local Administratorアカウント	
ユーザー名	このシステムのローカル管理者のアカウントの名前。
パスワード	管理者ユーザーのパスワード。
ビルドインAdministrator accountを有効にする	ターゲットシステムでビルトインAdministrator accountを有効にする場合は、このオプションを選択します。これは、ユーザーアカウントを作成する前に、ターゲットシステムでプログラムやアプリケーションを実行またはインストールする場合に役に立ちます。
自動ログインの回数	ネットワーク領域で定義したアカウントにシステムが自動的にログインする回数を指定します。
ネットワーク	
ワークグループへの参加	ターゲットシステムを特定のワークグループに参加させる場合は、このオプションを選択し、ワークグループ名 フィールドでグループの名前を指定します。

オプション

説明

ドメインへの参加

ターゲットシステムを特定のドメインに参加させる場合はこのオプションを選択し、次の情報を指定します。

- 完全修飾ドメイン名 (FQDN) : 完全修飾ドメイン名。
- ドメインに参加するための資格情報 : このドメインにアクセスするための ユーザー名 と パスワード を指定します。

b. 次へ をクリックします。

5. Windows設定 ページで、次の手順を実行します。

a. 次の情報を入力します。

セクション

説明

アウトオブボックスエクスペリエンス

このセクションでは、必要に応じてWindowsアウトオブボックスエクスペリエンス (OOBE) 設定を指定します。たとえば、アイコンのサイズの選択、自動夏時間の無効化、ワイヤレス設定を非表示にする操作などを実行できます。これらの設定の詳細については、Windowsのマニュアルを参照してください。

Windowsのライセンス認証

Windowsの更新プログラムをインストールするかどうかおよびそのタイミング、Sysprepを実行しているユーザーのプロファイルを複製するかどうか、ユーザーアクセスコントロール (UAC) を無効にするかのかなどの、Windowsシステム設定を指定します。詳細については、Windowsのマニュアルを参照してください。

b. 次へ をクリックします。

6. その他の設定 ページで、次の手順を実行します。

a. 以下の各設定を有効または無効にし、必要に応じて、各設定グループに表示される関連情報を指定します。詳細については、Windowsのマニュアルを参照してください。

オプション

説明

Internet Explorerのオプション

IEオプションを有効にする

Internet Explorerのオプションを有効にして、ポップアップをブロックするかどうか、初回実行ウィザードを無効にするかのかなど、表示される関連設定を指定する場合に選択します。

OEM情報

OEM情報を有効にする

OEMオプションを指定し、製造元名やデバイスモデルなどの表示される関連設定を指定する場合に選択します。

タスクバーのリンク

オプション	説明
タスクバーリンクを有効にする	Windowsタスクバーにリンクを指定する場合に選択して、関連するリンクを指定します。
詳細設定	
詳細設定オプションを有効にする	インストールしたすべてのプラグアンドプレイデバイスが存在するかどうか、ライセンス認証猶予期間タイマーをリセットするかなど、Windowsの詳細オプションを有効にする場合に選択します。
<p>b. 保存 をクリックします。</p> <p>Sysprep実行済みイメージの応答ファイルを作成するための設定が完了しました。Sysprep 作成ウィザードが閉じ、Sysprep 作成ウィザードのオプション ページが表示されます。</p> <p>7. Sysprep 作成ウィザードのオプション ページに表示されているオプションを確認し、必要に応じて選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sysprep無人ファイルの詳細の表示：クリックすると、新しく作成した設定を使用して生成できない unattend.xml ファイルの内容が表示されます。Sysprep 無人ファイルの詳細 ページが表示され、unattend.xml ファイルの詳細が表示されます。このページの詳細については、「応答ファイルの設定の表示と編集」を参照してください。 • Sysprep無人ファイルリストの表示：クリックすると、Sysprep 無人ファイル リストページが表示されます。このページには、Sysprep 実行済みの unattend.xml ファイルの生成に使用できるアプライアンスで定義されたすべての設定が表示されます。 • 無人ファイルのダウンロード：クリックして、この新しく作成された設定を使用して生成された unattend.xml ファイルをダウンロードします。 • Sysprep Executorを使用した無人ファイルのダウンロード：クリックして、この新しく作成された生成を使用して生成された unattend.xml ファイルとともに KACE Sysprep Executor をダウンロードします。 • Sysprep Executorのダウンロード：クリックして、KACE Sysprep Executor をダウンロードします。 <p>i 注: Sysprep 無人ファイル ページで [アクションの選択] メニューを使用して Sysprep Executor をダウンロードすることもできます。</p>	

応答ファイルの設定の表示と編集

Sysprep 無人ファイル ページには、Sysprep 実行済みファイルの生成に使用できるアプライアンスで定義されたすべての応答ファイル設定が一覧表示されます。ここから、特定の応答ファイル設定を開き、Sysprep 無人ファイルの詳細 ページで関連する詳細を確認および編集できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **Sysprep 無人ファイル** をクリックして Sysprep 無人ファイル ページを表示します。
2. Sysprep 無人ファイル ページの **名前** 列で、設定名をクリックします。
Sysprep 無人ファイルの詳細 ページが表示されます。
3. Sysprep 無人ファイルの詳細 ページの内容を確認します。
4. メモ フィールドを使用して、この設定に関する特定の情報を入力します。
5. **オプション**。この設定を使用して作成された unattend.xml の内容を変更する場合は、XML フィールドで変更できます。

基本的なXML検証を使用できます。XML構文を破棄すると、変更を保存しようとしたときにエラーメッセージが表示されます。

- 必要に応じて、次のいずれかのリンクをクリックして関連コンポーネントをダウンロードします。
 - 無人ファイルのダウンロード：クリックして、この新しく作成された設定を使用して生成されたunattend.xmlファイルをダウンロードします。
 - Sysprep Executorを使用した無人ファイルのダウンロード：クリックして、この新しく作成された生成を使用して生成された unattend.xmlファイルとともにKACE Sysprep Executorをダウンロードします。
 - Sysprep Executorのダウンロード：クリックして、KACE Sysprep Executorをダウンロードします。

i | 注: Sysprep無人ファイル ページで [アクションの選択] メニューを使用してSysprep Executorをダウンロードすることもできます。

- 保存 をクリックします。

Sysprep無人ファイルの詳細 ページが閉じ、Sysprep無人ファイル ページが表示され、すべての応答ファイルの設定が一覧表示されます。

i | 注: これらの設定は表示専用で、編集できません。

Windowsシステムイメージ作成のためのベストプラクティス

このトピックでは、Windowsゴールデンシステムイメージを作成するためのKACE推奨ベストプラクティスについて説明します。

開始前のアプライアンスの監査

- アプライアンスで20 % (以上) の利用可能な領域を保持します。
- 未使用のイメージをバックアップして削除し、復元共有ディレクトリからそれらのイメージをコピーして削除します。
- テストイメージ、またはアップデートされたイメージを削除します (アップデートされたイメージまたは古くなったイメージ)。

! | 注意: 不要なシステムイメージファイルの削除は実行しないでください。また、イメージをキャプチャ中にイメージを削除しないでください。

新たな開始

- ゴールデンイメージを仮想マシンで作成し、余分なドライバがないクリーンな状態にします。これは、定期的にイメージをアップデートするためにも役立ちます。
- メーカーから直接来たマシンをイメージ化したりゴールデンマスターイメージを作成したりしないでください。ボリュームライセンスメディアのみを使用してください。OEMメディアは使用しないでください。詳細については、<https://support.quest.com/kb/135252>を参照してください。
- イメージをキャプチャした後に発生したアップデートを適用する場合、Sysprepを実行していないイメージのみを元のマシンに展開します。
- 2〜3か月ごとにイメージをアップデートし、イメージでクリーンアップを実行します。

ワークステーションの設定

以下のKB記事は、システムイメージキャプチャのベースOSインストールの作成において推奨されるベストプラクティスの方法です。レガシー対応BIOSを使用している場合は、シングルパーティションゴールデンイメージKBを使用します。BIOSがUEFIモードの場合は、UEFI KBを使用します。Kaceでは、ベースOSのパーティション数を最小にすることを強くお勧めします。

- **UEFI対レガシーBIOSイメージング** : <https://support.quest.com/kb/190265>
- **シングルパーティションゴールデンイメージ** : <https://support.quest.com/kb/187971>
- **UEFIイメージング** : <https://support.quest.com/kb/186950>
- **イメージングについて、KKEビデオ** : <https://support.quest.com/kb/video-articles?k=understanding%20imaging>

上記のKB記事に従っていない場合は、次のガイドラインを使用します。

- アプライアンス（スクリプト形式のインストールまたはイメージ）で展開されたマシンから作業している場合は、必ずドライブのルートにあるKACEディレクトリと%allusersprofile%\quest\kaceを削除します。
- 以前にSysprepを適用済みのマシンで作業している場合は、必ずsysprep_succeeded.tagをwindows\system32\sysprepから削除します。
- すべてのパッチと更新プログラムをインストールします。
- 管理者プロファイルを作成し、デフォルトとしてセットアップするプロファイルをカスタマイズします。
- KACEでは、ベースイメージを作成し、ポストインストールタスクを使用して後でソフトウェアを展開することをお勧めします。これにより、多数の部門またはさまざまなタイプのユーザーに展開する必要がある場合に、イメージの柔軟性が向上します。
- フルイメージを作成する場合、定期的にアップデートされるソフトウェア（フラッシュ、リーダーなど）をインストールしないでください。これらはポストインストールタスクにして、KACEシステム管理アプライアンスを利用してアップデートします。

- **注意:** アンチウイルス、暗号化（Dell™ Data Protectionなど）、セキュリティ、仮想CDソフトウェア、ハードウェアをエミュレートするソフトウェア、またはKACEエージェントなどのアプリケーションをイメージにインストールすることはお勧めできません。これらは、イメージ展開プロセスに干渉する場合があります。

イメージがWIMフォーマットでキャプチャされている場合、各パーティションのドライブ容量の60%以上を空き/使用可能として保持します。

Sysprep、キャプチャおよび導入ガイドライン

- Sysprepを実行せずにイメージをキャプチャします。仮想マシン（VM）を使用している場合は、スナップショット機能を使用してSysprepを実行していないOSおよびカスタマイズをコピーします。Sysprepを実行していないイメージをキャプチャする場合は、まったく同じハードウェアに展開し直す必要があります。



注: 仮想マシンでゴールデンマスターを作成すると、Sysprepの実行前など、さまざまな段階でのスナップショットの作成を利用できます。このため、システムを再展開するよりはるかにすばやく以前のスナップショットに復元できます。また、他の仮想マシンへの展開を簡単にテストすることもできます。ドライバ導入のテストには、特定のモデルへの展開が必要になります。

- Sysprepに問題があり、これらの問題が頻繁に発生する場合は、Sysprepを実行していないイメージを元のマシンに展開することを推奨します。これでリセットの問題も回避できます。VMオプションにより、スナップショットに戻すとシステムのアップデートも可能になります。
- Sysprepを実行していないイメージをアプライアンスにキャプチャする場合、キャプチャしたイメージには説明的な名前を付けます。例えば、マシンでSysprepが実行されているかどうか、およびキャプチャのバージョンや日付を含めます。
- 説明的な名前を付けてあると、システム管理者がKBEのドロップダウンリストから展開する正しいイメージを選択できます。
- 変更および監査ログとして、アプライアンス管理者インターフェイスのメモフィールドを使用します。

Sysprep

- Sysprepは、異なるシステムに展開するOSイメージをキャプチャするために必要なMicrosoftのツールです。Microsoft Sysprepツールとコマンドラインを使用するか、unattend.xmlファイルがない場合は、[KACE Sysprep Creatorウィザード](#)を使用します。
- デフォルトのアカウントを設定した場合は、unattend.xmlファイルで必ずTrueに設定します。Sysprep Creatorウィザードには、現在のプロファイルでデフォルトのプロファイルにコピーするオプションがあります。
- Sysprep Creator/ExecutorではなくコマンドラインでSysprepを実行するときは、/generalize、/oobe、/shutdown、および/unattendの各スイッチを使用します。
- 再起動時にPXE起動が実行されないことがないようにするため、シャットダウンをお勧めします。このオプションを使用する場合は、Sysprepをカスタマイズしたアカウントから実行する必要があります。

キャプチャ

- アプライアンスに十分な領域があるかどうかを確認してから、Sysprepを実行済みのイメージをキャプチャします。
- キャプチャ後、Sysprepを実行済みのマシンを再起動して、ミニセットアップが正しく実行されていることを確認します。
- イメージがすべて正常に動作することをテストで確認します。
- WANを介してイメージをキャプチャすることはお勧めしません。イメージのキャプチャは、アプライアンスが物理的に存在するローカルLANに限定してください。

展開

- インストール前/中/後のタスクをアプライアンスでイメージに追加します。
- 異なるワークステーションで展開をテストして、検証します。
- イメージをリモートの場所に展開する場合は、最高のパフォーマンスを発揮できるように、リモートサイトアプライアンス(RSA)の使用を検討してください。WANを介してイメージを展開することは推奨されません。

ポストインストールタスク

- タスクには一貫性のある名前を付けてください。"App-"または"Script-"、"OSConfig-" "Mid-"などのプレフィックスを追加すると、タスクの整理に役立ちます。
- ポストインストールタスクは、それが必要なアプリケーションの前に前提条件を配置するという観点で順番を付けるようにします。
- VBスクリプトでcscriptを使用します。例：cscript myscript.vbs
- アプリケーションタスクのZIPファイルを作成するときは、呼び出すファイルがZIPファイルのルートに存在するように、アーカイブするコンテンツを選択します。
- .msi展開の場合は、インストールスイッチを最後に使用します。例：msiexec /qn /norestart /i agent.msi
- 次の再起動まで、エージェントが-check inおよびKUIDの作成を実行しないようにするには、.msiエージェントのインストールでCLONEPREP=1を使用します。例：msiexec /i agent.msi HOST=blah CLONEPREP=1
- 3.5 SP1以前を使用している場合：
 - アプライアンスのポストインストールタスクを介してソフトウェアを展開するときは、start /waitコマンドを使用します。
 - アプリケーションタスクで.batスクリプトを使用するときは、callを使用します。例：call myscript.bat

ユーザープロファイルのキャプチャ

アプライアンスは、Windowsユーザー状態移行ツール（USMT）を使用し、USMTの状態スキャンユーティリティと状態読み込みユーティリティを実行して、ユーザープロファイルを移行します。ユーザープロファイルに関してデバイスをスキャンする前に、USMTスキャンテンプレートを設定できます。USMTスキャンテンプレートは、状態スキャンユーティリティのパラメータを設定し、移行するデータおよびキャプチャから除外するデータの指定を可能にします。USMTは、アプライアンスから、またはKACEメディアマネージャからアップロードしてインストールできます。

USMTの状態スキャンユーティリティ（Scanstate.exe）は、デバイスのデータをスキャンして、情報を.migファイルにキャプチャします。USMTの状態読み込みユーティリティ（Loadstate.exe）は、データと設定を.migファイルからターゲットデバイスにインストールします。また、状態読み込みユーティリティを使用すると、ユーザープロファイルをデバイスに手動で移行できます。

ユーザープロファイルのオフラインスキャン: ユーザープロファイルのオフラインスキャン プレインストールタスクを使用して、すべてのデバイスでユーザープロファイルをスキャンして、アプライアンスにアップロードできます。

ユーザープロファイルの展開: ユーザープロファイルの展開 ポストインストールタスクを使用して、ユーザープロファイルをターゲットデバイスに展開できます。

アプライアンスからのUSMTソフトウェアのアップロード

ユーザープロファイルのスキャンでは、Windows ADK（自動展開キット）に含まれるWindowsユーザー状態移行ツールソフトウェア（USMT）が必要です。アプライアンスから、USMTソフトウェアバージョン5.0を直接アップロードできます。アプライアンスは、デバイスでUSMTの状態スキャンユーティリティを実行して、ユーザープロファイルをキャプチャします。

アプライアンスからUSMTバージョン3.0.1をアップロードすることもできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ユーザープロファイル** をクリックして **ユーザー状態** ページを表示します。
2. **アクションの選択 > アップロード** の順に選択します。
3. ユーザープロファイルの展開先となる適切なOSを選択し、**手順を表示** をクリックします。

メディアマネージャからのUSMTソフトウェアのアップロード

USMTソフトウェアバージョン5.0を最新バージョンのメディアマネージャからアップロードしてインストールできます。

1. KACEメディアマネージャがインストールされているデバイスで、**スタート > すべてのプログラム > Quest > KACEメディアマネージャ** からメディアマネージャを実行します。
2. メディアマネージャの左ウィンドウ枠で、**一般設定** をクリックします。



注: メディアマネージャを初めて実行する場合は、このページがデフォルトで表示されます。

3. SDA ホスト名 で、アプライアンスの IP アドレスを入力します。
4. SDA IP アドレス で、アプライアンスの IP アドレスセグメントを入力します。
5. Samba共有パスワード に、ログインに使用したパスワードを入力します。
6. **USMTのアップロード** をクリックします。
7. **参照** をクリックし、該当するWindows ADKのパスが正しいことを確認します。

例:

- WinPE 10 Win10 x86 ADK C:\Program Files\Windows Kits\10
 - WinPE 10 Win8 x64 ADK C:\Program Files(x86)\Windows Kits\10
8. **アップロードの開始** をクリックします。

USMTスキャンテンプレートの作成

スキャンテンプレートを作成して、移行するデータを指定できます。例えば、ユーザー固有のファイルおよび設定を含める、およびユーザープロファイルとデータを除外するなどを指定できます。アプライアンスからのユーザープロファイルのオンラインおよびオフライン移行に対してテンプレートを使用できます。

1. KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールまたはKACEリモートサイトアプライアンスを開きます。
2. **KACEリモートサイトアプライアンスのみ**。次の手順が完了していることを確認します。
 - USMTツールキットがリンク先KACEシステム展開アプライアンスにアップロードされます。
 - RSAがKACEシステム展開アプライアンスと同期され、USMTツールキットがRSAにプッシュされます。
3. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **USMTスキャンテンプレート** をクリックして USMTスキャンテンプレート ページを表示します。
4. **アクションの選択 > スキャンテンプレートの追加** を選択して、USMTスキャンテンプレート詳細 ページを表示します。
5. 名前 に、テンプレートを識別する固有の名前を入力します。
6. **ユーザー選択 オプション**を設定します。
 - すべての使用可能なユーザープロファイルのスキャン チェックボックスをオンにして、デバイス上のすべてのユーザープロファイルのスキャンします。
 - 除外するユーザーの指定 チェックボックスをオンにして、ユーザープロファイルのセットをスキャンから除外します。除外するユーザープロファイルをコンマ区切りのリストでconfig.xmlファイルに記述できます。このファイルは、ScanStateツールの/genconfigオプションを使用して作成されます。
7. アプライアンスがスキャンを実行するために使用する **コマンドライン オプション**を設定します。ほとんどの場合で、デフォルトのコマンドラインオプションを使用します。
8. **コンテンツ設定 オプション**を設定し、カスタマイズしたconfig.xml設定ファイルを使用してキャプチャおよび移行するデータを制御します。この機能を使用すると、Windowsとドキュメントのコンポーネントのみを除外します。ユーザープロファイルのスキャン元のデバイスと同じファイルとフォルダ、アプリケー

ション、およびコンポーネントセットアップを使用して、ワークステーション上で設定ファイルを生成します。

- ファイルの除外 チェックボックスをオンにして、除外するファイルタイプを選択します。また、ファイル拡張子をコンマ区切りリストで指定することもできます。
- configファイルの指定 チェックボックスをオンにして、対象に含める、または対象から除外するWindowsコンポーネントを選択します。

9. 保存 をクリックします。

テンプレートは、USMTスキャンテンプレート ページのリストに表示されます。

ユーザープロファイルのスキャン

新しいユーザープロファイルのスキャン元のデバイスから移行する、または除外するデータと設定を指定できます。KACEシステム展開アプライアンスまたは任意のリンク先RSAアプライアンスを使用してユーザープロファイルをキャプチャできます。

リンクされたRSAをKACEシステム展開アプライアンスと同期すると、アプライアンス上のすべてのユーザープロファイルがKACEリモートアプライアンス管理者コンソールの ユーザープロファイル リストページにも表示されます。個々のユーザープロファイルの内容を確認する場合、該当するフィールドとログの内容を編集できるのは、ローカルでキャプチャされたユーザープロファイルだけで、リンクされたアプライアンスでキャプチャされたユーザープロファイルには適用できません。RSA上でキャプチャされたユーザープロファイルをエクスポートできます。

ユーザープロファイルのスキャンするには、クライアントシステムでSMB（サーバメッセージブロック）バージョン2.0以降を有効にする必要があります。

USMTスキャンテンプレートを作成または修正して、移行または除外するデータおよび設定を指定します。Windows 7以上が動作しているデバイスをスキャンする場合、次の設定を構成します。

- シンプルなファイル共有またはファイアウォールを無効にします。
 - デフォルトの管理者アカウントを有効にします。
 - Windows Defenderを無効にします。
 - ファイルおよびプリンタ共有を有効にします。
 - ユーザーアカウントコントロール（UAC）を 通知しない に設定します。
1. KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールまたはKACEリモートサイトアプライアンスを開きます。
 2. **KACEリモートサイトアプライアンスのみ**。次の手順が完了していることを確認します。
 - USMTツールキットがリンク先KACEシステム展開アプライアンスにアップロードされます。
 - RSAがKACEシステム展開アプライアンスと同期され、USMTツールキットがRSAにプッシュされます。
 3. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ユーザープロファイル** をクリックして **ユーザー状態** ページを表示します。
 4. **アクションの選択 > 新規作成** を選択して、新しいユーザープロファイルのスキャン ページを表示します。
 5. USMTのバージョンとテンプレートを選択します。
 6. クライアントデバイスの詳細 情報の設定を完了します。

オプション

説明

ホスト名/IP

スキャン先のデバイスの完全修飾ホスト名またはIPアドレス。一定範囲のデバイスを入力する場合は、

オプション	説明
	区切り文字としてコンマ、セミコロン、または改行を使用します。
ドメイン	スキャン先のデバイスがドメインに接続している場合は、ドメイン名。
ユーザー名	スキャン中のデバイスに対する管理者権限。
パスワード	スキャン中のデバイスに対する管理者権限。

7. 次へ をクリックします。

プロセスが正常に完了すると、プロファイルのリストが表示されます。

8. アプライアンスに移行するプロファイルを選択し、次へ をクリックします。

結果ログが表示されます。

9. 終了 をクリックします。

スキャンが失敗した場合、設定 > アプライアンスログ に移動して、USMTエラーログをチェックします。例えばWindows Defenderなど、実行する必要のないすべてのプロセスを停止します。

- キャプチャプロセスにより、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールの ユーザープロファイル ページにイメージへのユーザーエントリが追加されます。ユーザープロファイルがRSAを使用してキャプチャされた場合は、リモートサイトコンソールにも追加されます。
- KACEシステム展開アプライアンスはキャプチャされた各ユーザープロファイルにIDを割り当てます。



ヒント: KACEシステム展開アプライアンスでキャプチャされた各ユーザープロファイルまたはリンク先RSAには一意のIDがあります。これにより、リンク先KACEシステム展開アプライアンスまたはRSAでキャプチャしたすべての異なるユーザープロファイルを追跡し、それらを編集する際、任意のユーザープロファイルを同期できます。ユーザープロファイルのIDを確認するには、ユーザープロファイル ページでユーザープロファイルをマウスオーバーします。IDは左下隅に表示されます。

選択したユーザープロファイルがアプライアンスにアップロードされ、ユーザープロファイル ページのリストに表示されます。ユーザープロファイルの展開 ポストインストールタスクをスクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開に割り当てて、ユーザープロファイルをターゲットデバイスに展開できます。

ユーザープロファイルのオフラインスキャン

ユーザープロファイルのオフラインスキャンを使用することにより、展開に割り当てられているデバイスからユーザープロファイルをキャプチャできます。アプライアンスは、ユーザープロファイルのオフラインスキャンプレインストールタスクがスクリプト形式のインストールまたはシステムイメージに割り当てられているとユーザープロファイルをキャプチャし、ユーザープロファイルの展開 ポストインストールタスクを使用して、選択さ

れたユーザープロファイルを展開します。ユーザープロファイルのスキャン時には、アプライアンスで使用可能なその他のユーザープロファイルを読み込むことも選択できます。

1. 次の手順のいずれかを実行します。
 - 左側のナビゲーションペインで、展開 > システムイメージ を選択し、システムイメージ ページを表示します。次に、システムイメージ名をクリックして、システムイメージ詳細 ページを表示します。
 - 左側のナビゲーションペインで、展開 > スクリプト形式のインストール を選択し、スクリプト形式のインストール ページを表示します。次に、スクリプト形式のインストール名をクリックし、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。
 - 左側のナビゲーションペインで、展開 > カスタム展開 の順に選択し、カスタム展開 ページを表示します。次に、カスタム展開名をクリックし、カスタム展開の詳細 ページを表示します。
2. ユーザープロファイルの移行先のスクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開の名前を選択します。

スクリプト形式のインストール詳細 ページまたは システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. インストールプラン で、ユーザープロファイルのオフラインスキャン プレインストールタスクを使用可能なプレインストールタスク 列から 実行するプレインストールタスク 列に移動します。ユーザープロファイルのオフラインスキャン ガリストの先頭にあり、ユーザープロファイルの展開 ポストインストールタスクが追加されていることを確認します。

ターゲットデバイスのユーザープロファイルが既存のユーザープロファイルレコードのユーザープロファイルと一致すると、プロセスは既存のレコードを上書きします。
4. 保存 をクリックします。

アプライアンスにより、スクリプト形式のインストールまたはシステムイメージが再構築されます。

ターゲットデバイスへのユーザープロファイルの自動展開

アプライアンスは、ユーザープロファイルのオフラインスキャン プレインストールタスクがスクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開に割り当てられているとユーザープロファイルをキャプチャし、ユーザープロファイルの展開 ポストインストールタスクを使用して、キャプチャされたユーザープロファイルを読み込みます。

1. 次の手順のいずれかを実行します。
 - 左側のナビゲーションペインで、展開 > システムイメージ を選択し、システムイメージ ページを表示します。次に、システムイメージ名をクリックして、システムイメージ詳細 ページを表示します。
 - 左側のナビゲーションペインで、展開 > スクリプト形式のインストール を選択し、スクリプト形式のインストール ページを表示します。次に、スクリプト形式のインストール名をクリックし、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。
 - 左側のナビゲーションペインで、展開 > カスタム展開 の順に選択し、カスタム展開 ページを表示します。次に、カスタム展開名をクリックし、カスタム展開の詳細 ページを表示します。
2. ユーザープロファイルの展開先のスクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開の名前を選択します。

スクリプト形式のインストール ページまたは システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. インストールプラン で、ユーザープロファイルの展開 ポストインストールタスクを使用可能なポストインストールタスク 列から 実行するポストインストールタスク 列に移動します。
4. 保存 をクリックします。

アプライアンスにより、スクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開が再構築されま
す。

ターゲットデバイスへのユーザープロ ファイルの手動展開

デバイスをスキャンし、ユーザープロファイルをアプライアンスにキャプチャすると、USMTは、デバイスの
ユーザープロファイルを含む.migファイルを作成します。.migファイルをアプライアンスからダウンロードし
て、新しいユーザープロファイルを使用して更新するターゲットデバイスの任意の場所にコピーできます。

USMT ScanStateユーティリティは、バックアップを実行し、.migファイルを生成します。USMT LoadStateユー
ティリティは、.migファイルを使用して、復元プロセスを実行します。LoadStateユーティリティを管理者モー
ドで実行すると、ユーザープロファイルがターゲットデバイスに読み込まれます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ユーザープロファ
イル をクリックして ユーザー状態 ページを表示します。
2. プロファイルを選択して、ユーザープロファイル詳細 ページを表示します。
3. ユーザープロファイルファイルのダウンロード をクリックします。

USMT.MIGを開く ダイアログボックスが表示されます。

4. ファイルの保存 をクリックして、任意の場所にファイルを保存します。
5. .migファイル全体をターゲットデバイスにコピーします。
 - a. ターゲットデバイスにMyUserStatesのようなローカルストアを作成し、サブフォルダUSMTを作
成して、.migファイルをUSMTフォルダにコピーします。
 - b. ターゲットデバイスのUSMTフォルダで、loadstate.exeを実行します。

ユーザープロファイルを展開するには、次のコマンドラインオプションを使用します。

- ローカルアカウント : loadstate.exe StorePath /i:miguser.xml /i:migapp.xml /lac /lae
- ドメインアカウント : loadstate.exe StorePath /i:miguser.xml /i:migapp.xml

スクリプト形式のインストールを作成する

既存の応答ファイル (Windows) または preseed/kickstart ファイル (Linux) をアップロードするか、サーバベースの有人セットアップ (Windows または Linux) を実行できます。

スクリプト形式のインストールの準備:

- 旧式のデバイス用にPXEブートを手動で設定します。
- リモートサイトネットワークが調整を必要としないことを確認します。
- ドライバの互換性を確保するために、各デバイスモデルに個別にインストールする必要があることに注意してください。
- 同じデバイスモデルで異なるサイズのハードドライブが実装されている場合は、スクリプト形式のインストールをコピーおよび修正してハードドライブサイズを指定します。

スクリプト形式のインストールの作成

スクリプト形式のインストールの作成 ウィザードに表示される手順に従って、スクリプト形式のインストールを定義します。config.xmlファイルで指定する設定は、ハードウェアと互換性がある必要があります。**Windowsのみ**: ハードウェアがこの設定を処理できない場合に、Windowsインストーラを実行すると、無人のスクリプト形式のインストールが失敗します。

OSのISOファイルを独自のディレクトリに抽出し、メディアマネージャを使用してそのディレクトリをソースメディアとしてKACEシステム展開アプライアンスサーバにアップロードします。その後、必ずドライバを再キャッシュします。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **スクリプト形式のインストール** をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
2. **アクションの選択 > 新規作成** を選択します。

スクリプト形式のインストールの作成ウィザードにより示される手順に従います。

i **注:** UEFI対応のデバイスに対するスクリプト形式のインストールの展開では、UEFIパーティションの作成 プレインストールタスクを使用してUEFIパーティションを作成し、UEFIを起動可能なFAT32形式でフォーマットされたUSBフラッシュデバイスを使用して起動する必要があります。

次に、このウィザードを使用して、既存の応答ファイル (Windows) または preseed/kickstart ファイル (Linux) をアップロードするか、サーバベースの有人セットアップ (Windows または Linux) を実行できます。

スクリプト形式のインストールの編集

スクリプト形式のインストールの名前の変更、複製、削除、または編集を行うことができます。

スクリプト形式のインストール詳細 ページでは、イメージ設定の表示、ブートアクションの追加、イメージのログファイルのダウンロード、およびアプライアンスでのエラー対応方法のオプションの設定を行うことができます。

インストールプランでは、展開用に配置した順序でタスクを実行するよう、使用可能なプレインストールタスク、中レベルのタスク、およびポストインストールタスクを追加することでタスクシーケンスを作成できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **スクリプト形式のインストール** をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
2. リストからスクリプト形式のインストールを選択し、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。
3. オペレーティングシステムを格納しているインストールソースメディアを変更するには、「**スクリプト形式のインストールを変更してソースメディアを変更する**」を参照してください。
4. オペレーティングシステムの展開に使用するセットアップ設定ファイルを変更するには、「**スクリプト形式のインストールセットアップ構成ファイルの修正**」を参照してください。
5. **オプション：設定ファイルのみ。**
 - a. XMLの設定の横にある **表示** をクリックし、表示されるファイルの内容を確認します。ファイルの内容は読み取り専用です。
 - b. ファイルをダウンロードするには、ファイルの内容の下で **XMLファイルのダウンロード** をクリックします。
6. **オプション：タスクファイルのみ。**



注: 読み取り専用ユーザーはこのフィールドにアクセスできません。

- a. タスクXMLの横にある **表示** をクリックし、表示されるファイルの内容を確認します。ファイルの内容は読み取り専用です。
 - b. ファイルをダウンロードするには、ファイルの内容の下で **XMLファイルのダウンロード** をクリックします。
7. 必要に応じて、タスクをスクリプト形式のインストールに割り当てます。詳細については、「**スクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当て**」を参照してください。
 8. 編集が終了したら、**キャンセル** をクリックして変更内容を元に戻すか、**保存** をクリックして、変更内容をイメージに適用します。

設定ファイルの作成

有人スクリプト形式のインストールの実行中に一般的に応答が求められる設定タスクで、独自の設定ファイルを作成したり、既存の設定ファイルを修正したりすることができます。ファイルの種類と名前は、スクリプト形式のインストールで使用される OS によって異なります。たとえば、Microsoft Windows システムの場合、応答ファイル Unattend.xml を作成または変更するのに対して、Debian Ubuntu では preseed.cfg ファイルを使用します。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **スクリプト形式のインストール** をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
2. **アクションの選択 > 新規作成** の順に選択して、スクリプト形式のインストールの作成 ページを表示します。
3. 名前を入力し、ソースメディア ドロップダウンリストからソースファイルを選択して、**次へ** をクリックします。
4. 構成ファイルの作成に使用する方法を選択します。
 - 無人セットアップ用の **<設定>** ファイルの作成について説明する：**無人インストールウィザード**を使用して、設定ファイルを作成します。

i 注: これらのオプションに表示される設定ファイルの名前は、ターゲットプラットフォームによって異なります。たとえば、Windows では応答ファイル (unattend.xml) が使用され、Ubuntu では preseed ファイル (preseed.cfg) が使用されます。

- 無人セットアップ用の既存 <設定> ファイルのアップロード: 無人インストールの設定ファイルをアップロードします。
 - <設定> ファイルはありません。これはサーバベースの有人セットアップになります: インストールの完了に必要な情報の入力を要求する、基本的な設定ファイルを作成します。
5. 無人セットアップ用の <設定> ファイルの作成について説明する をクリックして、次へ をクリックします。
6. **Windows のみ**。応答フォームに入力します。
- 応答ファイルに次の値を設定して、ログイン時のWindows 8アニメーションを無効にします。値を設定すると、ターゲットデバイスにタスクエラー ページが表示されます。
- **EnableFirstLogonAnimation**レジストリキーを0 (ゼロ) に設定します。
7. **Linux のみ**。設定手順で、次の情報を入力します。

セクション	オプション	説明
Preseed テンプレートを選択		この設定に使用するテンプレートをクリックして、選択します。表示されるテンプレートのリストは、ソースメディア の下で以前に選択したプラットフォームによって異なります。
テンプレートデータ	ルートパスワード	この設定のルートパスワードを指定します。ターゲットシステムのルートログインを無効にする場合は、 rootログインを無効にする を選択します。
		i 注: サーバテンプレートを選択した場合は、このオプションだけが表示されます。これらのオプションはすべて、デスクトップテンプレートで使用できます。
	ユーザーアカウント	この方法を使用して新しいユーザーアカウントを追加するには、 ユーザーアカウントの作成 を選択します。この方法で作成されたユーザーアカウントには、sudoアクセス権が付与されず。 アカウントのフルネーム、ユーザー名、およびパスワードを入力します。
	タイムゾーン	ターゲットシステムのタイムゾーンを選択します。
	タイムゾーンサーバ	該当するタイムゾーンサーバのホスト名を指定します。
	言語	ターゲットシステムのロケールを選択します。

セクション	オプション	説明
	デスクトップGUI	ターゲットシステムで使用するグラフィカルユーザーインターフェイスを選択します。GNOMEデスクトップ環境、またはKDEデスクトップ環境（該当する場合）。
		<p>i 注: Ubuntu GNOMEおよびKDEデスクトップ展開では、リポジトリURLを有効にする必要があります。</p>

i 注: このページに入力した情報は変更できません。アップデートが必要な場合は、必要な設定で新しいスクリプト形式のインストールを作成する必要があります。

8. 次へ をクリックしてプレインストールタスクとポストインストールタスク ページを表示し、必要なプレインストールタスクとポストインストールタスクを追加します。
9. **Windows のみ**。タスクのエラー処理 オプションで、エラーが発生した場合のアプライアンスの動作を選択します。
10. 次へ をクリックします。
スクリプト形式のインストールの作成 ページにステータスが表示されます。
11. プロセスが完了したら、完了 をクリックします。
スクリプト形式のインストールの作成 ページが更新され、結果が表示されます。
12. (オプション) 応答ファイルまたは設定ファイルの内容を表示するには、新しく作成されたスクリプト形式のインストールの スクリプト形式のインストールの詳細 ページを開き、構成のセットアップ で表示をクリックします。必要に応じて、このファイルを編集できます。ファイルに加えた編集内容は、選択したスクリプト形式のインストールにのみ適用されます。

スクリプト形式のインストールを 自動展開 から自動展開するか、またはKBEメインメニューから手動で展開します。KBEメインメニューは、ターゲットデバイスがKBEで起動した後にターゲットデバイスに表示されます。

登録データ設定

登録データ設定は、オペレーティングシステムまたは使用したソースメディアにより異なります。

フィールド	説明
名前	ライセンスが割り当てられたユーザーを識別します。
組織	会社または組織を識別します。
プロダクトキー	製品のライセンス認証キーを入力します。
ボリュームライセンスまたはマルチライセンス認証	ボリュームライセンスの場合、MAK (Multiple Activation Key) またはKMS (Key Mgt System) セットアップキーを入力します。
イメージのインストール	Windows 10 のみ 。Windows 10 の ISO イメージには、すべての Windows エディションが含まれています。このフィールドをクリックして、インストールする Windows エディションを選択します。

フィールド

説明

サポートされているその他の Windows バージョン。プロダクトキーを使用してインストールイメージが自動的に検出されます。

Administratorアカウント設定

ローカルAdministratorアカウントをインストールプロセス中に作成し、デバイスの再起動後にデバイスがそのアカウントで自動的にログインするかどうかを設定します。デバイスの名前の変更やソフトウェアのインストールなどを実行するポストインストールタスクには、管理者アカウントを使用してデバイスに自動でログインし直すスクリプトが必要です。

フィールド

説明

ユーザー名

Administratorアカウントのユーザー名を入力します。このアカウントはインストールプロセス中に作成されます。

パスワード

Administratorアカウントのパスワードを入力します。パスワードがない場合、このフィールドを空白のままにします。起動後にAdministratorアカウントを使用してターゲットデバイスに自動的にログインします。

Administratorアカウントを使用してコンピューターが自動的にログイン

起動後にAdministratorアカウントを使用してターゲットデバイスに自動的にログインします。このチェックボックスをオンにすると、少なくとも最初の起動では、ポストインストールタスクが自動的に実行されます。

この後の自動ログインを無効にする: デバイスの起動

指定した回数の起動後に管理者アカウントの自動ログインを無効にします。

一般設定

言語とデバイス画面設定を構成します。

フィールド

説明

タイムゾーン

デバイスのタイムゾーンを選択します。

地域および言語オプション

デバイスのオペレーティングシステムのデフォルト言語を選択します。

画面色

デバイスの画面色を選択します。すべてのターゲットデバイスに同一の設定が必要であることが明確でない場合、推奨設定は Windows デフォルトです。

画面領域

デバイスの画面領域を選択します。すべてのターゲットデバイスに同一の設定が必要であることが明

フィールド	説明
	確でない場合、推奨設定は Windows デフォルトです。
更新頻度	デバイス画面のリフレッシュレートを選択します。すべてのターゲットデバイスに同一の設定が必要であることが明確でない場合、推奨設定は Windows デフォルトです。
ワイヤレスセットアップを非表示にする	デバイスのワイヤレスセットアップを無効にする場合は、このオプションを選択します。この設定を処理するポストインストールタスクがすでにある場合を除いて、ほとんどのケースでこのオプションを選択します。
コンシューマ機能を無効にする (Windows 10 の Enterprise Edition および Education Edition のみ)	Windows 10 のみ。展開の後に、Windows 10 タイルへのアプリのインストールを無効にする場合は、このオプションを選択します。

ネットワーク設定

ネットワーク設定は、ネットワーク関連の初期設定を制御します。推奨される設定は、ランダムな名前が生成されるように デバイス名 フィールドを空白のままにし、コンピューターを ワークグループ に参加させて、スク립ト形式のインストールをその他のターゲットデバイスで展開できるようにすることです。ポストインストールタスクを使用して、コンピューター名を変更し、コンピューターをドメインに参加させることができます。

フィールド	説明
デバイス名	デバイス名を入力するか、名前が自動で生成されるようにフィールドを空白のままにします。
ワークグループ	ワークグループにデバイスを参加させます。
ドメイン	ターゲットデバイスがドメインに参加している場合は、このチェックボックスをオンにします。
ドメイン内のコンピューターアカウントの作成	ドメイン内にデバイスアカウントを追加するには、このチェックボックスをオンにします。
ドメイン管理者	ドメイン管理者の名前を入力します。 <div style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px; margin-left: 20px;"> <p>i 注: この管理者には、デバイスをドメインに追加する権限が必要です。デバイスをドメインに参加させるときには、ローカル管理者を無効にします。</p> </div>
パスワード	ドメイン管理者のパスワード。

Windowsコンポーネント設定

自動更新を有効にする チェックボックスをオンにすると、インストール中にWindows更新機能が有効になります。

スクリプト形式のインストールを変更してソースメディアを変更する

オペレーティングシステムを格納しているインストールソースメディアを変更できます。

スクリプト形式のインストールには、インストール時にターゲットマシンに展開されるOSのISOファイルを格納しているソースメディアへの参照が含まれます。スクリプト形式のインストールに関連付けられているソースメディアを変更できます。これは、例えば、いくつかの重要なパッチを含む同じOSの新しいバージョンを使用したい場合などに役立ちます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **スクリプト形式のインストール** をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
2. リストからスクリプト形式のインストールを選択し、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。
3. **ソースメディア** をクリックして、このスクリプト形式のインストールに関連付ける新しいソースメディアを選択します。
4. **保存** をクリックします。

展開オプションの指定

必要に応じて、展開オプションを変更して、KACEブート環境 (KBE) からスクリプト形式のインストールを非表示にすることができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **スクリプト形式のインストール** をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
2. リストからスクリプト形式のインストールを選択し、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。
3. 必要に応じて、展開オプション で、**KBEからの展開を非表示にする** チェックボックスを選択または選択解除します。

選択すると、KBEで選択できるスクリプト形式のインストールは表示されません。

スクリプト形式のインストールセット アップ構成ファイルの修正

オペレーティングシステムの展開に使用されるセットアップ構成ファイルを修正できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **スクリプト形式のインストール** をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
2. リストからスクリプト形式のインストールを選択し、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。
3. 構成のセットアップの隣の **表示** をクリックして、変更を入力します。
4. **保存** をクリックします。

Vista MBRのインストール

ビルトインの Vista/2008/7/8/2012 MBRのインストール プレインストールタスクを追加して、Windows Vista、Windows 2008、Windows 7以上、およびWindows Server 2012を実行しているデバイスのブートセクターを復元できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **プレインストールタスク** をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. **Vista/2008/7/8/2012 MBR**のインストール を選択して、プレインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. **オプション**：名前 で、タスクを識別するために名前を変更します。
4. **メモ** に、タスクを識別するためのメモを追加します。
5. **保存** をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、**Sysprep**を実行済みのシステムイメージ、および**Sysprep**を実行していないシステムイメージにタスクを割り当てることができるようになりました。

XP 2003 MBRのインストール

ビルトインの XP 2003 MBRのインストール プレインストールタスクを追加して、Windows 2000、Windows XP、またはWindows Server 2003を実行しているデバイスのブートセクターを復元できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **プレインストールタスク** をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. **XP 2003 MBR**のインストール を選択して、プレインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. **オプション**：名前 で、タスクを識別するために名前を変更します。
4. **メモ** に、タスクを識別するためのメモを追加します。
5. **保存** をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、**Sysprep**を実行済みのシステムイメージ、および**Sysprep**を実行していないシステムイメージにタスクを割り当てることができるようになりました。

タスクシーケンスの作成

すべてのタスクを含めてタスクシーケンスを作成して、オペレーティングシステムイメージを構築およびキャプチャできます。アプライアンスタスクエンジンは、ターゲットデバイス上で信頼性の高い順序でタスクを実行し、アプライアンスおよびターゲットデバイスに関する展開のフィードバックをレポートします。タスクシーケンスを使用すると、どのイメージがどのデバイスに展開されたのかを表示し、デバイスで実行されているタスクの進行状況を表示できます。タスクが失敗した場合、ターゲットデバイスでそのタスクを編集できます。

ビルトインのプレインストールタスク、中レベルのタスク、およびポストインストールタスクを使用して、独自のタスクをスクリプトに追加してタスクシーケンスで実行できます。自動ブートアクションのスクリプト形式のインストール用、ならびにシステムイメージの展開、マルチキャスト展開、手動展開、およびカスタム展開用のタスクシーケンスを作成できます。

タスクシーケンスは、インストールプランのシステムイメージ詳細、スクリプト形式のインストール詳細、またはカスタム展開の詳細ページで作成します。タスクシーケンスを構築する場合、前提条件を必要とするアプリケーションの前に、前提条件を配置してください。

タスクの追加

ビルトインのプレインストールタスク、中レベルのタスク、およびポストインストールタスクを追加できます。また、アクションの選択メニューの選択肢を使用して、独自のタスクをスクリプトに追加し、プレインストールタスク、中レベルのタスク、およびポストインストールタスクとして実行するオプションもあります。アプライアンスは、指定したランタイム環境でタスクを実行します。また、1つのファイルまたは複数のファイルを含むZIPアーカイブをアップロードして、タスクとして実行することもできます。ビルトインタスクは複製およびカスタマイズできます。

タスクを実行するタイミングがイメージ展開の前、最中、または後であるかに応じて、追加できるタスクのタイプは異なります。次の表に、各ステージで使用可能なタスクのタイプを示しています。

タスクのタイプ	プレインストールタスク?	中レベルのタスク?	ポストインストールタスク?	参照トピック：
アプリケーション	はい	はい	はい	アプリケーションの追加
BAT スクリプト	はい	はい	はい	BATスクリプトの追加
カスタム HAL 置換	いいえ	はい	いいえ	カスタムHAL置換タスクの追加
DISKPART スクリプト	はい	いいえ	いいえ	DiskPartスクリプトの追加
管理対象インストールのインポート	いいえ	いいえ	はい	管理対象インストールタスクの追加
命名規則	はい	はい	はい	命名規則の追加

タスクのタイプ	プレインストール タスク?	中レベルのタスク?	ポストインストール タスク?	参照トピック :
Powershell スクリプト	はい	はい	はい	PowerShellスクリプトの追加
サービスパック	いいえ	いいえ	はい	サービスパックの追加
シェルスクリプト	はい	はい	はい	シェルスクリプトの追加
KACE エージェント インストーラー	いいえ	いいえ	はい	KACEエージェント インストーラーの 追加
Windows スクリプト	はい	はい	はい	Windowsスクリプトの追加

ZIPファイルを作成する場合に、1つ、または複数のファイルのファイル名にUnicode文字が使用されているときは、ZIPファイルを作成するために使用するツールがUnicode文字をサポートする必要があります。ZIPファイルをアップロードした後に、ファイル名にUnicode文字を含む1つ、または複数のタスクが見つからない場合は、以下のディレクトリの内容を確認します。

- `\\<appliance_hostname>\peinst\applications\<task_ID>\contents`
- `\\<appliance_hostname>\peinst\preinstall\<task_ID>\contents`

どちらのディレクトリにもファイルが見つからない場合、別のツールを使用してZIPファイルを作成し、プロセスを繰り返します。

タスクは、適切なタスクリストページに移動し、**アクションの選択** メニューを使用して追加できます。タスクを削除するには、リスト内でタスクを選択し、**アクションの選択** メニューから **削除** を選択します。また、タスクの詳細ページからタスクを削除することもできます。既存のシステムイメージ、スクリプト形式のインストール、またはカスタム展開に関連付けられているタスクを削除しようとすると、選択したタスクとその関連ファイルをすべて削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

アプリケーションの追加

1つのファイルまたは複数のファイルを含む ZIP アーカイブをアップロードして、プレインストールタスク、中レベルのタスク、またはポストインストールタスクとして実行できます。

1. 次の手順のいずれかを実行します。
 - a. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **プレインストールタスク** をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
 - b. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **中レベルのタスク** をクリックして中レベルのタスク ページを表示します。

- c. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ポストインストールタスク** をクリックして **ポストインストールタスク** ページを表示します。
2. 表示されるリストページで、**アクションの選択 > アプリケーションの追加** の順に選択します。
3. 表示されるページの **名前** に、タスクの論理名 (Install Adobe Reader 11 など) を入力します。
4. 実行時環境を選択します。
 - **プレインストールおよび中レベルのアプリケーション** : 必要に応じて、SDA ブート環境 (Windows)、SDA ブート環境 (Linux)、または SDA ブート環境 (Mac OS X) を選択します。
 - **ポストインストールアプリケーション** 必要に応じて、Windows、Linux、または Mac OS X を選択します。

詳細については、「[実行時環境について](#)」を参照してください。

5. 次のいずれかの手順を実行して、アップロードするファイルを選択します。
 - ファイルをアップロードするには、**ファイルのアップロード** で **参照** をクリックして適切なファイルを選択するか、ここにファイルをドロップ領域にファイルをドラッグアンドドロップします。進行状況バーが表示され、ファイルのアップロードプロセスの状態が示されます。
 - i** **注:** 最大 1.8 GB のサイズのファイルのみをアップロードできます。それより大きいファイルの場合は、clientdrop Samba 共有を使用します。
 - アプライアンスの clientdrop Samba 共有からファイルを選択するには、clientdrop 共有からファイルを選ぶで **clientdrop ファイルの選択** をクリックして、ファイルを選択します。
 - i** **注:** ファイルをアップロードするには、上記のいずれかの手順を実行します。両方の手順を実行した場合、後のほうが優先されます。
6. 完全なコマンドラインに、タスクのコマンドラインパラメータを入力します。
7. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要です のチェックボックスを選択します。
8. 該当する場合、予期されたリターンコードに、タスクが返すコードを入力します。それ以外の場合は、デフォルト値の「0」のままにします。

一般に、ほとんどのタスクは「0」のコードで終了し、成功を示しますが、必要に応じて任意の正の値に設定できます。インストールが成功した場合でも、一部のインストーラーは別のコードで終了します。たとえば、アンチウイルスインストーラーは通常、正常にインストールされていますが、デバイスの再起動が必要なため、別のリターンコードで終了します。

9. メモに、タスクを識別するためのメモを追加します。
10. **保存** をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

BATスクリプトの追加

オペレーティングシステムのインストールまたはターゲットデバイスのイメージの再作成を実行する前または後に、独自のバッチスクリプトを作成して、Windows用のKACEブート環境でプレインストールタスク、中レベルのタスク、またはポストインストールタスクとして実行できます。

1. 次の手順のいずれかを実行します。
 - a. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **プレインストールタスク** をクリックして **プレインストールタスク** ページを表示します。
 - b. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **中レベルのタスク** をクリックして **中レベルのタスク** ページを表示します。

- c. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ポストインストールタスク** をクリックして **ポストインストールタスク** ページを表示します。
2. 表示されるリストページで、**アクションの選択**、**BAT スクリプトの追加** の順に選択します。
3. 表示されるページの **名前** に、タスクを識別するための論理名を入力します。

タスクは**KACE**ブート環境 (**Windows**) で実行されます。

4. **BAT**スクリプト にスクリプトを入力します。

KACEブート環境 (**KBE**) 内から使用可能な、一般的に使用される次のコマンドを使用できます。

- bcdedit.exe
 - bootsect.exe
 - chkdsk.exe
 - format.com
5. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要であるのチェックボックスを選択します。
 6. 該当する場合、予期されたリターンコードに、タスクが返すコードを入力します。それ以外の場合は、デフォルト値の「0」のままにします。

一般に、ほとんどのタスクは「0」のコードで終了し、成功を示しますが、必要に応じて任意の正の値に設定できます。インストールが成功した場合でも、一部のインストーラーは別のコードで終了します。たとえば、アンチウイルスインストーラーは通常、正常にインストールされていますが、デバイスの再起動が必要のため、別のリターンコードで終了します。

7. **メモ** に、タスクを識別するためのメモを追加します。
8. **保存** をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、**Sysprep**を実行済みのシステムイメージ、および**Sysprep**を実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

システム展開へのタスクの割り当てまたはスクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当てを参照してください。

カスタムHAL置換タスクの追加

中レベルのタスクを使用して、ハードウェア抽象レイヤ (HAL) を置換し、ターゲットデバイスの HAL をカスタマイズできます。

HAL置換は、システムイメージのみをサポートします。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **中レベルのタスク** をクリックして **中レベルのタスク** ページを表示します。
2. **アクションの選択** > **カスタム HAL 置換タスクの追加** の順に選択し、**中レベルのタスク詳細** ページを表示します。
3. **名前** に、タスクの論理名を入力します。

タスクは**KACE**ブート環境 (**Windows**) で実行されます。

4. **参照** をクリックして、次のファイルをアップロードします。
 - HAL DLLのアップロード
 - NTKRNLP.A.EXEのアップロード
 - NTOSKRNL.EXEのアップロード



注: ファイル名がアップロードフィールドに表示されている名前と異なる場合、ファイルをアプライアンスにアップロードすると、ファイル名が変更されます。

これらのファイルは、この中レベルのタスクの一部としてターゲットデバイスの `Windows\System32` ディレクトリにコピーされます。

5. 該当する場合、予期されたリターンコードに、タスクが返すコードを入力します。それ以外の場合は、デフォルト値の「0」のままにします。

一般に、ほとんどのタスクは「0」のコードで終了し、成功を示しますが、必要に応じて任意の正の値に設定できます。インストールが成功した場合でも、一部のインストーラーは別のコードで終了します。たとえば、アンチウイルスインストーラーは通常、正常にインストールされていますが、デバイスの再起動が必要なため、別のリターンコードで終了します。

6. メモに、タスクを識別するためのメモを追加します。
7. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てるできるようになりました。

詳細については、「[システム展開へのタスクの割り当て](#)」を参照してください。

DiskPartスクリプトの追加

KACEブート環境 (KBE) から起動したWindowsデバイスに、DiskPartスクリプトを追加し、プレインストールタスクとして実行して、ハードドライブまたはパーティション上のすべてのデータを消去し、新しいパーティションを作成してドライブ文字を割り当てることができます。

このタスクの実行前に、保存するコンポーネントをバックアップします。

詳細については、「[共通のDiskPartコマンドラインオプション](#)」を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次にプレインストールタスク をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > **DISKPARTスクリプトの追加** を選択し、プレインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前 に、このタスクを識別するための名前を入力します。例: Single NTFS Partition C.

この名前は、スクリプト形式のインストール詳細 ページと システムイメージ詳細 ページに表示されるタスクの識別子です。

4. DISKPARTスクリプト で、次の例のように、デバイス上で作成するパーティションに従ってスクリプトを入力します。

- **select disk 0**

```
clean
create partition primary
select partition 1
active
assign
exit
```

5. 該当する場合、予期されたリターンコードに、タスクが返すコードを入力します。それ以外の場合は、デフォルト値の「0」のままにします。

一般に、ほとんどのタスクは「0」のコードで終了し、成功を示しますが、必要に応じて任意の正の値に設定できます。インストールが成功した場合でも、一部のインストーラーは別のコードで終了します。たとえば、アンチウイルスインストーラーは通常、正常にインストールされていますが、デバイスの再起動が必要なため、別のリターンコードで終了します。

6. メモに、タスクを識別するためのメモを追加します。
7. 保存 をクリックします。

[スクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当て](#)または[システム展開へのタスクの割り当て](#)を参照してください。

共通のDiskPartコマンドラインオプション

DiskPartスクリプトを使用すると、オブジェクトの選択、ディスクのパーティションの削除、パーティションの作成、パーティションのアクティブ化、およびドライブ文字の割り当てを実行できます。

オブジェクトの選択

- select disk=[n]
- select partition=[n]
- select volume=[{n|d}]

パラメータnを使用して、選択するオブジェクトの数を指定します。また、dのようにドライブ文字を指定して、ボリュームを選択することもできます。

ディスクのクリーンアップ

- clean [all]

ディスクからすべてのパーティションを削除します。allパラメータを指定すると、ディスク上のあらゆるセクターがゼロで埋められます。

パーティションの作成

- create partition primary [size=n] [offset=n]
- create partition extended [size=n] [offset=n]
- create partition logical [size=n] [offset=n]

プライマリ、拡張、または論理パーティションを作成します。sizeを指定しない場合は、残りの使用可能な領域がパーティションに使用されます。offsetを指定しない場合は、最初の使用可能な領域でパーティションが作成されます。パーティションの作成後、そのパーティションは選択されます。

起動パーティションのマーク

- active

現在選択されているパーティションはactive、つまり起動可能なパーティションとしてマークされます。

ドライブ文字の割り当て

- assign [letter=d]
- 現在選択されているパーティションにドライブ文字を割り当てます。letterを指定しない場合は、最初の使用可能な文字（Cから開始）が使用されます。

管理対象インストーलタスクの追加

KACEシステム管理アプライアンスでは、管理対象インストール（MI）が、管理下デバイスにアプリケーションを展開するためのプライマリメカニズムです。各管理対象インストールは、特定のアプリケーションタイトル、バージョン、およびそのコマンドラインと関連付けられます。管理対象インストールの詳細情報については、KACEシステム管理アプライアンスの『管理者ガイド』を参照してください。

KACEシステム展開アプライアンスには、展開プロセスの一環としてアプリケーションをインストールするメカニズムがあります。KACEシステム管理アプライアンスから管理対象インストールをインポートすると、必要なときにすばやくシステム展開タスクシーケンスに追加できます。

アプライアンスのリンク

管理対象インストールのインポートを有効にするには、KACEシステム展開アプライアンスと、インポートする管理対象インストールを含むKACEシステム管理アプライアンスをリンクさせる必要があります。

1. KACEシステム管理アプライアンスで、次の設定手順を実行します。

手順

詳細については、**KACEシステム管理アプライアンスの『管理者ガイド』**の次のトピックを参照してください。

- KACEシステム管理アプライアンスとKACEシステム展開アプライアンスをリンクさせ、フェデレーションAPI設定へのアクセスを有効にします。
 1. KACEシステム管理アプライアンスのシステム管理コンソールで、**設定**をクリックします。
 2. コントロールパネルで **リンク設定** をクリックします。
 3. リンク先アプライアンスの有効化 ページで、次のチェックボックスをオンにします。
 - **アプライアンスリンクを有効にする**
 - **フェデレーションAPIアクセス設定を有効にする**

アプライアンスリンクの有効化

- フェデレーションAPIがリンク先のKACEシステム展開アプライアンスにアクセスできるようにします。
 1. KACEシステム管理アプライアンスの **管理者コンソール** で、リンクされているKACEシステム展開アプライアンスと関連付けられている組織を選択し、**設定** をクリックします。
 2. コントロールパネルで **フェデレーションAPI設定** をクリックします。
 3. フェデレーションAPI設定 ページで、**アクセスを有効にする** を選択します。
 4. リンクされているKACEシステム展開アプライアンスに管理者役割を付与します。
 5. KACEシステム管理アプライアンスと関連付けられている各組織についてこれらの手順を繰り返します。

フェデレーションAPI設定のアクセスの有効化

管理対象インストールの表示とインポート

管理対象インストールのインポート ページを使用して、インポートするアプリケーションを確認します。

KACEシステム展開アプライアンスが、管理対象インストールのインポート元のKACEシステム管理アプライアンスにリンクされていることを確認します。詳細については、「[アプライアンスのリンク](#)」を参照してください。



注: 各KACEシステム管理アプライアンスにはデフォルトの組織があらかじめ設定されています（名前はDefaultです）。ご使用のアプライアンスがKACEシステム管理アプライアンス上のDefault組織とリンクされていて、組織名が変更される場合、新しい組織名を指定する必要があります。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 > コントロール パネル > リンク先アプライアンス をクリックします。
2. 表示される リンク先アプライアンス ページで、リンク先のKACEシステム管理アプライアンスの名前またはIPアドレスをクリックします。
3. 表示される リンク先アプライアンス詳細の編集 ページの デフォルト組織名 フィールドに組織名を入力し、保存 をクリックします。
4. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
5. ポストインストールタスク ページで、アクションの選択 > 管理対象インストールのインポート を選択します。
6. 管理対象インストールのインポート ページが表示されたら、管理対象インストールのリストのすぐ上にある KACEシステム管理アプライアンス をクリックして、このフィールドが正しいKACEシステム管理アプライアンスを示していることを確認します。



ヒント: アプライアンスは、複数のKACEシステム管理アプライアンスにリンクされる場合があります。

7. 特定基準で表示 をクリックして、管理対象組織と、管理対象インストールのタイプをソフトウェア または ソフトウェアカタログ から選択します。

選択する内容は、インポートするアプリケーションのタイプによって決まります。ソフトウェア を選択すると、KACEシステム管理アプライアンスの管理対象デバイスにインストールされているすべてのアプリケーションが一覧表示されます。これらのアプリケーションの一部は、ソフトウェアカタログにも含まれます。ソフトウェアカタログは、60,000超のWindowsとMacのアプリケーションおよびソフトウェアスイートに関する標準化された情報を格納しているデータベースです。ソフトウェアアプリケーションとソフトウェアカタログの詳細については、KACEシステム管理アプライアンスの『管理者ガイド』を参照してください。

8. 特定のアプリケーションを見つけるには、リストの検索 フィールドにアプリケーション名を入力します。
9. 管理対象インストールのリストを確認します。

管理対象インストールごとに次の情報を入手できます。

- ・ 名前：アプリケーションの名前。
- ・ バージョン：アプリケーションのバージョン。
- ・ 発行者：アプリケーションの発行者。
- ・ インポート済み：管理対象インストールがKACEシステム展開アプライアンスに既にインポートされているかどうかを示すインジケータ。

10. 管理対象インストールをアプライアンスにインポートするには、管理対象インストールを含む行を選択して、アクションの選択 > インポート を選択します。

管理対象インストールのインポート ページが更新され、インポートが進行中であることを示すメッセージがページの上に表示されます。インポート操作の進行状況は、パッケージ管理キュー ページで確認できます。このページの詳細については、「[アプライアンスコンポーネントのインポートとエクスポート](#)」を参照してください。インポートが終了すると、インポートされた管理対象インストールが ポストインストールタスク のリストに表示されます。

次に、インポートされた管理対象インストールを含むポストインストールタスクを編集します。詳細については、「[管理対象インストールタスクの編集](#)」を参照してください。

管理対象インストールタスクの編集

リンクされたKACEシステム管理アプライアンスから管理対象インストールを追加して中レベルのタスクとして実行する場合、必要に応じてそのタスクを編集できます。

表示または編集するタスクに関連付けられる管理対象インストールが、KACEシステム展開アプライアンスにインポートされていることを確認します。詳細については、「[管理対象インストールの表示とインポート](#)」を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **中レベルのタスク** をクリックして 中レベルのタスク ページを表示します。
2. 中レベルのタスク ページで、管理対象インストールを含むタスクの名前をクリックして、中レベルのタスク詳細 ページを表示します。
3. 以下のフィールドを適宜確認してアップデートします。

オプション	説明
作成日時 (読み取り専用)	タスクが作成された日付と時刻。
修正 (読み取り専用)	タスクが変更された日付と時刻。
バージョン (読み取り専用)	<p>KACEシステム展開アプライアンス上にあるタスクオブジェクトのバージョン番号。タスクが変更されるたびにこの数字が増えます。最新アップデートの後でタスクが変更されたかどうかを確認するために、リファレンスとして使用します。</p> <p>i 注: 例えば、アプリケーション実行可能ファイルに関連付けられているコマンドラインパラメータを変更すると、バージョンが変更されます。変更を上書きし、元の管理対象インストールを再インポートするには、管理対象インストールのインポートの詳細の下で、再度インポート をクリックします。</p>
名前	タスクの名前。
アプリケーション (読み取り専用)	タスクに関連付けられているアプリケーションの名前。
実行時環境	<p>アプリケーションをインストールできるOS。詳細については、「実行時環境について」を参照してください。</p> <p>i 注: KBEにPowerShellを含め、Windows KBE 実行時環境PowerShellタスクを期待通りに動作させるためには、5.0メディアマネージャまたはKBE Manipulator機能で構築されたKACEブート環境 (KBE) が必要です。</p>
完全なコマンドライン	管理対象インストールで定義される、コマンドラインパラメータを含む、タスク用コマンドライン。
予期されたリターンコード	タスクが返すコード (該当する場合)。一般に、ほとんどのタスクは「0」のコードで終了し、成功を示しますが、必要に応じて任意の正の値に設定できます。インストールが成功した場合でも、一部のインストーラーは別のコードで終了します。たとえば、アンチウイルスインストーラーは通常、正常にインストールされていますが、デバイスの再起動が必要なため、別のリターンコードで終了します。

オプション	説明
メモ	タスクに関する追加の情報。
管理対象インストールのインポートの詳細	<p>KACEシステム管理アプライアンス上の管理対象インストールに関する情報（読み取り専用）：</p> <ul style="list-style-type: none"> • KACE SMAサーバー：サーバーが実行されている場所の名前またはIPアドレス。 • KACE SMA組織：管理対象インストールが定義されている組織の名前。 • インポートされたバージョン：KACEシステム管理アプライアンス上にある管理対象インストールオブジェクトのバージョン番号。この数字を使用して、元のオブジェクトが変更されたかどうかを確認して、最新バージョンをインポートできます。 <p>管理対象インストールのインポート後にタスクに変更を加えた場合（コマンドラインパラメータの変更など）、元の状態に戻すには、再度インポートをクリックします。</p>
展開の詳細	<p>このタスクを参照する提供についての情報（読み取り専用）：</p> <ul style="list-style-type: none"> • スクリプト形式のインストール：このタスクを参照するスクリプト形式のインストールのリスト。 • システムイメージ：このアプリケーションを含むシステムイメージ。

4. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

命名規則の追加

命名規則を作成して、プレインストールタスクとしてコンピューター名を取得する、またはインストール中またはインストール後にデバイスに名前を付けることができます。デバイス名を自動的に割り当てるには、テキストファイルを使用してタスクに添付するか、アプライアンスデータベースを使用します。コンピューター名を指定するための追加オプションを使用できます。

アプライアンスには、コンピューター名を取得する、または割り当てるための2つのスクリプト（`getcomputername`と`setcomputername`）が含まれています。各スクリプトには32ビットおよび64ビットバージョンがあります。これらのスクリプトの詳細については、<https://www.itninja.com/blog/view/get-set-computername>を参照してください。

デフォルトでは、`/log`スイッチがスクリプトコマンドラインに追加され、アプライアンスはスクリプトを実行するたびにログファイルを作成できるようになります。実行時にスクリプトからのメッセージを表示する場合は、`/debug`スイッチを使用することもできます。

これらのタスクは、sysprep実行済みイメージ（無人ファイルが指定されている場合）およびスクリプト化されたWindowsインストールで機能します。

1. 次の手順のいずれかを実行します。

- a. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリをクリックしてセクションを展開し、次にプレインストールタスクをクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
 - b. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリをクリックしてセクションを展開し、次に 中レベルのタスク をクリックして 中レベルのタスク ページを表示します。
 - c. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリをクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > 命名規則の追加 を選択し、タスク詳細ページを表示します。
 3. 名前に、タスクの論理名 (Assign name to workstation など) を入力します。
 4. アーキテクチャの選択 で、命名規則が適用されるデバイスOSのアーキテクチャ (x64 (64ビット) または x86 (32ビット)) を選択します。
 5. プレインストールタスクでのみコンピューター名を取得します。

- a. 完全なコマンドライン の内容を確認します。

指定されたコマンドは、デバイスのWindowsレジストリからコンピューター名を収集し、コンピューターのMACアドレスの横に、テキストファイルで保存します。ユーザーに別の名前を入力するように求めるには、/dialogスイッチを使用します。

6. 中間レベルまたはポストインストールタスクでのみコンピューター名を割り当てます。各タスクタイプに用意されているオプションは、ポストインストールタスクにのみ表示される\in_windowsスイッチを除き、同じです。
 - a. 命名方法の選択 をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。
 - コンピューター名を現在のコンピューター名に設定します：コンピューター名は変更しません。
 - コンピューター名の入力を求めます。/dialogスイッチが完全なコマンドラインの内容に追加され、ダイアログボックスが表示されて、ユーザーにコンピューター名の指定を求めるプロンプトが表示されます。
 - 変数置換を使用して名前を変更します：/nameスイッチが完全なコマンドラインの内容に追加されます。必要に応じて、テキストと次の変数の組み合わせを使用し、<TEXT_AND_VARIABLES>を適宜置き換えます。
 - \$Serial：クライアントデバイスのシリアルナンバー。
 - \$Make：クライアントデバイスまたはマザーボードの製造元。
 - \$Model：クライアントデバイスまたはマザーボードのモデル。
 - \$Chassis：クライアントデバイスのシャーシタイプ。
 - \$FormFactor：デバイスタイプ：デスクトップの場合はD、ラップトップの場合はL、VMware仮想マシンの場合はVMです。
 - \$Asset：クライアントデバイスのアセットタグ。
 - \$OS：クライアントデバイスのOSバージョン (W7、WXP、W2K8など) 。
 - \$Arch：クライアントデバイスのOSアーキテクチャ。
 - \$Mac：アクティブなNICのMACアドレス。

例：

```
setcomputername_x64.exe /name:$OS$Arch-$Serial
```

- データファイルを使用して名前を変更します：データファイルを使用してデバイスの名前を変更します。

1. テキストファイルを作成し、次の構文を使用してエントリを一覧表示します。

```
<mac_address|serial_number> = <device_name>
```

例：

```
001122334455 = workstation55
```

```
001122334456 = workstation56
```

```
001122334457 = workstation57
```

2. ファイルをタスクに添付します。ファイルの選択 をクリックしてファイルを指定するか、ここにファイルをドロップ 領域にドラッグアンドドロップします。
3. 完全なコマンドライン フィールドの内容を設定します。
 - `/rdf` : 新しく作成されたファイルの名前。このスイッチは、添付ファイルの名前を自動的に表示します。
 - `/dfk` : ファイルで使用されるデバイス識別子のタイプ : \$Serialまたは\$Mac。

例 :

```
setcomputername_x64.exe /log /rdf:my_file.txt /dfk:$Mac
```

- **SMA/K1データベースを使用して名前を変更します。** KACEシステム管理アプライアンスデータベースを使用して、各デバイスのhost_nameフィールドの内容を取得します。これは、完全なコマンドライン フィールドの/k1mysqlスイッチによって示されます。追加の識別子が必要です。
 1. KACEシステム管理アプライアンスデータベースへのアクセスが有効になっていることを確認します。KACEシステム管理アプライアンスで、設定 > コントロールパネル > セキュリティ設定 に移動し、データベースアクセスを有効にする が選択されていることを確認します。このオプションが無効で、これを有効にする場合は、KACEシステム管理アプライアンスを再起動して、この変更を有効にする必要があります。詳細については、KACEシステム管理アプライアンスの『管理者ガイド』を参照してください。
 2. 完全なコマンドライン フィールドで、次のスイッチに情報を入力します。
 - `/k1ipaddress`: KACEシステム管理アプライアンスが実行されているマシンのIPアドレス。
 - `/k1dbname`: アプライアンス上の組織の名前。デフォルトはORG1です。
 - `/k1dbuser`: アプライアンス上のユーザーアカウントの名前。デフォルトはR1です。
 - `/k1dbpass`: ユーザーパスワード。デフォルトはbox747です。
- 例 :
- ```
setcomputername_x64.exe /log /k1mysql /k1ipaddress:192.0.2.0 /k1dbname:ORG1 /k1dbuser:R1 /k1dbpass:box747
```
- **SDA/K2データベースを使用して名前を変更します。** KACEシステム展開アプライアンスデータベースを使用してデバイス名を取得します。これは、完全なコマンドライン フィールドの/k2mysqlスイッチによって示されます。
    - KACEシステム展開アプライアンスデータベースへのアクセスが有効になっていることを確認します。KACEシステム展開管理アプライアンスで、設定 > セキュリティ に移動し、データベースアクセスを有効にする が選択されていることを確認します。
7. **ポストインストールタスクのみ。** アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要です のチェックボックスを選択します。
  8. 該当する場合、予期されたリターンコードに、タスクが返すコードを入力します。それ以外の場合は、デフォルト値の「0」のままにします。

一般に、ほとんどのタスクは「0」のコードで終了し、成功を示しますが、必要に応じて任意の正の値に設定できます。インストールが成功した場合でも、一部のインストーラーは別のコードで終了します。たとえば、アンチウイルスインストーラーは通常、正常にインストールされていますが、デバイスの再起動が必要のため、別のリターンコードで終了します。

9. **保存** をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

スクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当てまたはシステム展開へのタスクの割り当てを参照してください。

## PowerShellスクリプトの追加

KACE ブート環境 ( Windows ) の実行時環境または Windows 実行時環境で、PowerShell スクリプトをプレインストールタスク、中レベルのタスク、またはポストインストールタスクとして実行できます。

1. 次の手順のいずれかを実行します。
  - a. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **プレインストールタスク** をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
  - b. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **中レベルのタスク** をクリックして中レベルのタスク ページを表示します。
  - c. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ポストインストールタスク** をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. 表示されるリストページで、**アクションの選択 > PowerShell スクリプトの追加** の順に選択します。
3. 表示されるページの 名前 に、タスクの論理名 ( My PowerShell script など ) を入力します。
4. ファイルのアップロードで **ファイルの選択** をクリックし、PowerShellスクリプトに移動します。
5. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要です のチェックボックスを選択します。
6. 該当する場合、予期されたリターンコードに、タスクが返すコードを入力します。それ以外の場合は、デフォルト値の「0」のままにします。

一般に、ほとんどのタスクは「0」のコードで終了し、成功を示しますが、必要に応じて任意の正の値に設定できます。インストールが成功した場合でも、一部のインストーラーは別のコードで終了します。たとえば、アンチウイルスインストーラーは通常、正常にインストールされていますが、デバイスの再起動が必要のため、別のリターンコードで終了します。

7. メモに、タスクを識別するためのメモを追加します。
8. **保存** をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、**Sysprep**を実行済みのシステムイメージ、および**Sysprep**を実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。
9. リストページで、タスク名をクリックします。
10. 表示されるタスク詳細ページで、完全なコマンドライン フィールドの内容を確認し、必要に応じて変更を加えます。
11. コマンドラインに変更を加えた場合は、**保存** をクリックするか、**キャンセル** をクリックしてリストページに戻ります。

## プロビジョニングパッケージの追加

プロビジョニングパッケージには、設定のコレクションが含まれます。これらを使用すると、新しいイメージをインストールしなくても、Windowsデバイスをすばやく設定できます。プロビジョニングパッケージは、Windowsランタイム環境でポストインストールタスクとして実行できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ポストインストールタスク** をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. 表示されるリストページで、**アクションの選択 > プロビジョニングパッケージの追加** を選択し、**ポストインストールタスク詳細** ページを表示します。
3. 表示されるページの 名前 に、タスクの論理名 ( My Provisioning Package など ) を入力します。
4. ファイルのアップロードで **ファイルの選択** をクリックし、プロビジョニングパッケージファイルに移動します。

**再起動が必要です** オプションはデフォルトで選択されており、無効にすることはできません。これは、このタスクを実行するたびにデバイスが再起動するためです。

5. 該当する場合、予期されたリターンコードに、タスクが返すコードを入力します。それ以外の場合は、デフォルト値の「0」のままにします。

一般に、ほとんどのタスクは「0」のコードで終了し、成功を示しますが、必要に応じて任意の正の値に設定できます。インストールが成功した場合でも、一部のインストーラーは別のコードで終了します。たとえば、アンチウイルスインストーラーは通常、正常にインストールされていますが、デバイスの再起動が必要のため、別のリターンコードで終了します。

6. メモに、タスクを識別するためのメモを追加します。
7. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

8. リストページで、タスク名をクリックします。
9. 表示されるタスク詳細ページで、完全なコマンドライン フィールドの内容を確認し、必要に応じて変更を加えます。
10. コマンドラインに変更を加えた場合は、保存 をクリックするか、キャンセル をクリックしてリストページに戻ります。

## サービスパックの追加

サービスパックは、オペレーティングシステムで使用可能になると、ローカルネットワークおよびリモートネットワーク上のデバイスに自動的にインストールできます。別の場所にサービスパックを保存している場合、それらのサービスパックを参照し、手動でアップロードできます。

サービスパックタスクは、オペレーティングシステムから起動した後に、Windows環境で実行します。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > サービスパックの追加 を選択し、ポストインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前に、タスクを識別するための論理名を入力します。
4. サービスパックを自動または手動でダウンロードします。

- サービスパック ドロップダウンリストから、サービスパックを選択し、サービスパックを自動ダウンロード をクリックします。

コマンドライン フィールドには、サービスパックの選択に基づいて推奨パラメータが自動的に入力されます。このコマンドラインを修正する場合は、サービスパックのファイル名を含めます。

- サービスパックの手動アップロード を選択し、参照 をクリックしてファイルをアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロードについて](#)」を参照してください。

**i** 注: サービスパックを手動でアップロードする場合は、パラメータ でコマンドラインパラメータを入力してサービスパックを実行します。

5. 完全なコマンドライン に、タスクのコマンドラインパラメータを入力します。
6. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要のチェックボックスを選択します。
7. 該当する場合、予期されたリターンコードに、タスクが返すコードを入力します。それ以外の場合は、デフォルト値の「0」のままにします。

一般に、ほとんどのタスクは「0」のコードで終了し、成功を示しますが、必要に応じて任意の正の値に設定できます。インストールが成功した場合でも、一部のインストーラーは別のコードで終了します。たとえば、アンチウイルスインストーラーは通常、正常にインストールされていますが、デバイスの再起動が必要のため、別のリターンコードで終了します。

8. メモに、タスクを識別するためのメモを追加します。
9. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

スクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当てまたはシステム展開へのタスクの割り当てを参照してください。

## シェルスクリプトの追加

オペレーティングシステムの展開またはターゲットデバイスのイメージの再作成を実行する前に、独自のシェルスクリプトを作成して、KACE ブート環境 (Mac OS X) でプレインストールタスク、中レベルのタスク、またはポストインストールタスクとして実行できます。

1. 次の手順のいずれかを実行します。
  - a. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に プレインストールタスク をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
  - b. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に 中レベルのタスク をクリックして 中レベルのタスク ページを表示します。
  - c. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. 表示されるリストページで、アクションの選択、シェルスクリプトの追加 の順に選択します。
3. 表示されるページの 名前 に、タスクを識別するための論理名を入力します。
4. 実行時環境を選択します。
  - プレインストールおよび中レベルのシェルスクリプト : SDA ブート環境 (Mac OS X) を選択します。
  - ポストインストールシェルスクリプト : Mac OS X を選択します。

詳細については、「[実行時環境について](#)」を参照してください。

5. シェルスクリプト に、スクリプトを入力します。
6. 該当する場合、予期されたリターンコード に、タスクが返すコードを入力します。それ以外の場合は、デフォルト値の「0」のままにします。

一般に、ほとんどのタスクは「0」のコードで終了し、成功を示しますが、必要に応じて任意の正の値に設定できます。インストールが成功した場合でも、一部のインストーラーは別のコードで終了します。たとえば、アンチウイルスインストーラーは通常、正常にインストールされていますが、デバイスの再起動が必要のため、別のリターンコードで終了します。

7. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
8. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

## KACEエージェントインストーラーの追加

KACEエージェントファイルをローカルディレクトリにダウンロードして、インストーラーを1つのファイルまたはZIPアーカイブとしてアップロードし、ポストインストールタスクとして実行できます。アプライアンスは、指定したランタイム環境でタスクを実行します。

ターゲットデバイスにインストールしたKACEエージェントのKUIDが維持されていない場合、KUIDをKACEエージェントに適用 ポストインストールタスクを割り当てて、KACEシステム管理アプライアンスの資産の重複を防止できます。KACEエージェントソフトウェアは、`\KACE_Systems_Management_Appliance_host_name\client\agent_provisioning`ディレクトリにあります。使用できるコマンドラインオプションとエージェント設定のプロパティについては、KACEシステム管理アプラ

イアンスの『管理者ガイド』を参照してください。KACEエージェントでは、インストールに.NET 4.0は不要です。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に **ポストインストールタスク** をクリックして **ポストインストールタスク** ページを表示します。
2. **アクションの選択 > SMAエージェントインストーラーの追加** を選択し、KACEエージェントインストーラー詳細タスクページを表示します。
3. 名前 で、タスクを識別するために名前を変更します（例：KACE Agent for Windows）。
4. 実行時環境を選択します。詳細については、「[実行時環境について](#)」を参照してください。
5. アップロード の隣にある **参照** をクリックして、該当するファイルを選択します。
6. 完全なコマンドライン に、タスクのコマンドラインパラメータを入力します。
7. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要です のチェックボックスを選択します。
8. 該当する場合、予期されたリターンコード に、タスクが返すコードを入力します。それ以外の場合は、デフォルト値の「0」のままにします。

一般に、ほとんどのタスクは「0」のコードで終了し、成功を示しますが、必要に応じて任意の正の値に設定できます。インストールが成功した場合でも、一部のインストーラーは別のコードで終了します。たとえば、アンチウイルスインストーラーは通常、正常にインストールされていますが、デバイスの再起動が必要のため、別のリターンコードで終了します。

9. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
10. **保存** をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

[スクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当てまたはシステム展開へのタスクの割り当て](#)を参照してください。

## Windowsスクリプトの追加

KACE ブート環境（Windows）の実行時環境で、Windows スクリプトをプレインストールタスク、中レベルのタスク、またはポストインストールタスクとして実行できます。

1. 次の手順のいずれかを実行します。
  - a. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に **プレインストールタスク** をクリックして **プレインストールタスク** ページを表示します。
  - b. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に **中レベルのタスク** をクリックして **中レベルのタスク** ページを表示します。
  - c. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に **ポストインストールタスク** をクリックして **ポストインストールタスク** ページを表示します。
2. 表示されるリストページで、**アクションの選択 > Windows スクリプトの追加** の順に選択します。
3. 表示されるページの **名前** に、タスクの論理名（Collect computer information before formatting など）を入力します。
4. アップロード の隣にある **参照** をクリックして、VBScriptまたはJavaScriptなどの適切なファイルを選択します。
5. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要です のチェックボックスを選択します。
6. 該当する場合、予期されたリターンコード に、タスクが返すコードを入力します。それ以外の場合は、デフォルト値の「0」のままにします。

一般に、ほとんどのタスクは「0」のコードで終了し、成功を示しますが、必要に応じて任意の正の値に設定できます。インストールが成功した場合でも、一部のインストーラーは別のコードで終了します。たとえ

ば、アンチウイルスインストーラーは通常、正常にインストールされていますが、デバイスの再起動が必要なため、別のリターンコードで終了します。

7. メモに、タスクを識別するためのメモを追加します。
8. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

## タスクグループの操作

タスクグループを使用して、システムイメージを構築およびキャプチャするための共通するタスクのシーケンスを作成できます。

タスクグループを、必要ときに簡単に再利用して、同じタイプと機能のシステムイメージを作成できます。例えば、Microsoft Office スイートを含む Microsoft Windows 10 システムを構築するタスクグループを作成し、共通する展開シナリオを再作成するたびに、1つまたは複数のタスクグループをシステムイメージおよびスクリプト形式のインストールに関連付けることができます。

## タスクグループの追加

デフォルトのインストールには、Mac OS XおよびWindowsのドライブのパーティション作成およびフォーマット用の2つのサンプルタスクグループが含まれています。ビジネスニーズに最適なタスクグループを追加、管理して、共通する展開シナリオを簡単に再利用し、必要に応じて、タスクグループをシステムイメージ、スクリプト形式のインストール、またはカスタム展開に関連付けることができます。

Mac OS X、Windows、およびLinux用のタスクを作成するプロセスは同じですが、これら2つのオペレーティングシステムで使用可能な一連のタスクは異なり、それぞれの実行時環境に適用されるタスクのみが含まれます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に タスクグループ をクリックして タスクグループ ページを表示します。
2. 次の手順のいずれかを実行します。
  - a. Windowsタスクのグループを作成するには、アクションの選択 > 新しいWindowsタスクグループ の順に選択します。
  - b. Mac OS Xタスクのグループを作成するには、アクションの選択 > 新しい Mac OS Xタスクグループ の順に選択します。
  - c. Linuxタスクのグループを作成するには、アクションの選択 > 新しいLinuxタスクグループ の順に選択します。

タスクグループの詳細 ページが表示されます。

3. 名前 フィールドに、タスクグループの名前を入力します。
4. (オプション)メモ フィールドに、必要に応じて追加情報を入力します。
5. インストールプラン で、タスクを実行順に追加します。

インストールプランにタスクを追加するには、タスクを左の列にドラッグアンドドロップするか、プラス記号をクリックするか、または必要に応じて右の列のタスクをダブルクリックします。

右側の各リストでは、使用可能なタスクがアルファベット順に表示されます。リストで使用可能なタスクが6個を超える場合は必要に応じて、ドロワーを展開してリスト全体を表示するか、上下にスクロールします。

- a. 使用可能なプレインストールタスク 列から 実行するプレインストールタスク 列にタスクを追加します。



**注:** ドライブの内容を削除する場合は、Cのフォーマット タスクが シングルパーティションの作成 タスクの後にあることを確認してください。

- b. 使用可能な中レベルのタスク 列から 中レベルのタスクを実行する 列にタスクを追加します。
- c. 使用可能なポストインストールタスク 列から 実行するポストインストールタスク 列にタスクを追加します。



**ヒント:** フィルタは、タスクタイプごとに使用できます。たとえば、特定のプレインストールタスクを見つけるには、使用可能なプレインストールタスク 列の プレインストールタスクの フィルタ フィールドにタスク名を入力します。



**ヒント:** インストールプランからタスクを削除するには、タスクを右の列にドラッグアンドドロップするか、マイナス記号をクリックするか、または左側の列のタスクをダブルクリックします。



**ヒント:** 列からすべてのタスクを削除するには、右側の列ヘッダーのボタンをクリックします。たとえば、割り当てられたすべてのプレインストールタスクを削除するには、実行するプレインストールタスク 列の見出しバーで、すべてのプレインストールタスクの削除 をクリックします。

6. 次の手順のいずれかを実行します。
  - このタスクグループのコピーを作成するには、複製 をクリックします。
  - 変更内容を保存するには、保存 をクリックします。

## ファイルのアップロードについて

1つのファイルまたは複数のファイルを含むZIPアーカイブをアップロードして、プレインストールタスクまたはポストインストールタスクとして実行できます。アプライアンスは、指定したランタイム環境でタスクを実行します。

## 実行時環境について

アプライアンスタスクエンジンがいつタスクを実行するかは、実行時環境によって決定されます。

| 実行時環境                  | 説明                                        |
|------------------------|-------------------------------------------|
| KACEブート環境 ( Windows )  | オペレーティングシステムの初回起動前に実行します。                 |
| Windows                | Windowsオペレーティングシステムの初回起動後に実行します。          |
| KACEブート環境 ( Mac OS X ) | オペレーティングシステムの初回起動前に実行します。                 |
| Mac OS X               | ログインフックを使用して、Macオペレーティングシステムの初回起動時に実行します。 |
| KACE ブート環境 ( Linux )   | オペレーティングシステムの初回起動前に実行します。                 |
| Linux                  | Linux オペレーティングシステムの初回起動後に実行します。           |

# タスクのエラー処理オプションの設定

Windowsオペレーティングシステムを搭載したデバイスに、タスクのエラー処理を設定し、エラー発生時にプロンプトを表示するか、処理を続行するかを設定できます。また、キャンセル ボタンを有効にすると、ターゲットデバイスに表示して、失敗したタスクをキャンセルすることもできます。

1. 次の手順のいずれかを実行します。
  - 左側のナビゲーションペインで、展開 > システムイメージ を選択し、システムイメージ ページを表示します。次に、システムイメージ名をクリックして、システムイメージ詳細 ページを表示します。
  - 左側のナビゲーションペインで、展開 > スクリプト形式のインストール を選択し、スクリプト形式のインストール ページを表示します。次に、スクリプト形式のインストール名をクリックし、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。
  - 左側のナビゲーションペインで、展開 > カスタム展開 の順に選択し、カスタム展開 ページを表示します。次に、カスタム展開名をクリックし、カスタム展開の詳細 ページを表示します。
2. タスクのエラー処理 をクリックして、目的のオプションを選択します。
  - エラー発生時のプロンプト: タスクエラー ページを開きます。このページでは、キャンセルまたは続行するオプションを使用して、ターゲットデバイスの編集、タスクの再試行、展開の再開、またはデバイスの再起動を行うことができます。
  - エラー発生時に操作を続行: プロンプトを表示せずに展開を続行します。
3. クライアントに「キャンセル」ボタンを表示 チェックボックスをオンにして、ターゲットデバイスの タスクエンジン ページに キャンセル ボタンを表示します。

# システム展開へのタスクの割り当て

システムの展開を実行するために必要な（または必須の）、アプライアンスまたはリモート（RSA）アプライアンスで実行する手順を設定できます。プレインストールタスクは、オペレーティングシステムのセットアップを開始する前に実行され、中レベルのタスクは、オペレーティングシステムの展開後に実行されます。ポストインストールタスクは、オペレーティングシステムが再起動され、ターゲットデバイスへの最初のログインが行われた後に実行されます。

システムイメージは、キャプチャしたアプライアンス上でのみ編集できます。たとえば、アプライアンスによってキャプチャされたシステムイメージの詳細を表示した場合、アプライアンス管理者コンソールのシステムイメージ詳細 ページで該当イメージを編集できますが、KACEリモートアプライアンスコンソールでは編集できません。システムイメージがアプライアンスでキャプチャされRSAと同期されている場合、KACEリモートアプライアンスコンソールのシステムイメージ詳細 ページでは、システムイメージの詳細を確認するだけで、編集す

ることはできません。このページには、アプライアンス管理者コンソールのシステムイメージ詳細にすばやく移動して、必要に応じてシステムイメージを編集できるリンクが表示されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. イメージを選択して、システムイメージ詳細 ページを表示します。
3. タスクグループに指定されたタスクを追加する場合、インストールプラン の下で、**タスクグループの選択** をクリックし、目的のタスクグループを選択して、**適用** をクリックします。
  - 選択したシステムイメージの OS に関連付けられたタスクグループのみがリストに表示されます。例えば、Windows システムイメージを選択した場合、リストには、Windows システムに適用可能なタスクグループが表示されます。
  - システムイメージ、スクリプト形式のインストール、またはカスタム展開には、複数のタスクグループを追加できます。
  - タスクグループに関連付けられたタスクは、必ずシステムイメージ、スクリプト形式のインストール、またはカスタム展開におけるそれぞれの展開ステージに追加されます。例えば、1 つのタスクグループを追加すると、そのタスクグループのプレインストールタスクは、実行するプレインストールタスク の下に表示されます。
  - システムイメージ、スクリプト形式のインストール、またはカスタム展開に追加するタスクグループに関連付けられたタスクの順序は、そのタスクグループが追加された順序を反映します。つまり、1 つ目のタスクグループに追加されたタスクはリストの先頭に表示され、その後に追加されたタスクグループに関連付けられたタスクがその後に表示されます。以降も同様です。
4. 以前にシステム展開に追加されたすべてのタスク（タスクグループに関連付けられたタスクを含む）を削除する場合は、**すべてのタスクをクリア** をクリックします。
5. インストールプラン で、タスクを実行順に追加します。

インストールプランにタスクを追加するには、タスクを左の列にドラッグアンドドロップするか、プラス記号をクリックするか、または必要に応じて右の列のタスクをダブルクリックします。

右側の各リストでは、使用可能なタスクがアルファベット順に表示されます。リストで使用可能なタスクが 6 個を超える場合は必要に応じて、ドロワーを展開してリスト全体を表示するか、上下にスクロールします。

- a. 使用可能なプレインストールタスク 列から 実行するプレインストールタスク 列にタスクを追加します。

**i** **注:** ドライブの内容を削除する場合は、Cのフォーマット タスクが シングルパーティションの作成 タスクの後にあることを確認してください。

- b. 使用可能な中レベルのタスク 列から 中レベルのタスクを実行する 列にタスクを追加します。
- c. 使用可能なポストインストールタスク 列から 実行するポストインストールタスク 列にタスクを追加します。

**i** **ヒント:** フィルタは、タスクタイプごとに使用できます。たとえば、特定のプレインストールタスクを見つけるには、使用可能なプレインストールタスク 列の プレインストールタスクの フィルタ フィールドにタスク名を入力します。

**i** **ヒント:** インストールプランからタスクを削除するには、タスクを右の列にドラッグアンドドロップするか、マイナス記号をクリックするか、または左側の列のタスクをダブルクリックします。

**i** **ヒント:** 列からすべてのタスクを削除するには、右側の列ヘッダーのボタンをクリックします。たとえば、割り当てられたすべてのプレインストールタスクを削除するには、実行するプレイ

インストールタスク 列の見出しバーで、すべてのプレインストールタスクの削除 をクリックします。

6. **KACEシステム展開アプライアンスのみ**。保存 をクリックします。
7. **RSAのみ**。必要に応じて、次のいずれかの手順を選択します。
  - タスクをイメージに添付して、タスクをアプライアンスからRSAに同期するには、保存と同期 をクリックします。
  - タスクをイメージに添付して、後でタスクをアプライアンスからRSAに同期するには、保存 をクリックします。

システムイメージ詳細 ページが開いて、システムイメージ リストページが表示されます。保存と同期 を選択した場合、ページの上部にあるメッセージに、システムイメージに対する変更をアプライアンスと同期中であることが示されます。プロセスが完了すると、更新したシステムイメージをRSAから展開できるようになります。システムイメージの展開方法の詳細については、[イメージの手動展開](#)を参照してください。

## スクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当て

スクリプト形式のインストール展開を実行するためにアプライアンスが実行する手順を設定できます。プレインストールタスクは、オペレーティングシステムのセットアップを開始する前に実行され、中レベルのタスクは、オペレーティングシステムの展開後に実行されます。ポストインストールタスクは、オペレーティングシステムが再起動され、ターゲットデバイスへの最初のログインが行われた後に実行されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に **スクリプト形式のインストール** をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
2. スクリプト形式のインストールを選択して、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。
3. タスクグループに指定されたタスクを追加する場合、**タスクグループの選択** をクリックし、目的のタスクグループを選択して、適用 をクリックします。
  - 選択したシステムイメージの OS に関連付けられたタスクグループのみがリストに表示されます。例えば、Windows システムイメージを選択した場合、リストには、Windows システムに適用可能なタスクグループが表示されます。
  - システムイメージ、スクリプト形式のインストール、またはカスタム展開には、複数のタスクグループを追加できます。
  - タスクグループに関連付けられたタスクは、必ずシステムイメージ、スクリプト形式のインストール、またはカスタム展開におけるそれぞれの展開ステージに追加されます。例えば、1つのタスクグループを追加すると、そのタスクグループのプレインストールタスクは、実行するプレインストールタスクの下に表示されます。
  - システムイメージ、スクリプト形式のインストール、またはカスタム展開に追加するタスクグループに関連付けられたタスクの順序は、そのタスクグループが追加された順序を反映します。つまり、1つ目のタスクグループに追加されたタスクはリストの先頭に表示され、その後追加されたタスクグループに関連付けられたタスクがその後に表示されます。以降も同様です。
4. 以前にスクリプト形式インストールの展開に追加されたすべてのタスク（タスクグループに関連付けられたタスクを含む）を削除する場合は、インストールプラン の下で **すべてのタスクをクリア** をクリックします。
5. インストールプラン で、タスクを実行順に追加します。

インストールプランにタスクを追加するには、タスクを左の列にドラッグアンドドロップするか、プラス記号をクリックするか、または必要に応じて右の列のタスクをダブルクリックします。

右側の各リストでは、使用可能なタスクがアルファベット順に表示されます。リストで使用可能なタスクが6個を超える場合は必要に応じて、ドロワーを展開してリスト全体を表示するか、上下にスクロールします。

- a. 使用可能なプレインストールタスク列から実行するプレインストールタスク列にタスクを追加します。

**i** **注:** ドライブの内容を削除する場合は、Cのフォーマットタスクがシングルパーティションの作成タスクの後にあることを確認してください。

- b. 使用可能な中レベルのタスク列から中レベルのタスクを実行する列にタスクを追加します。
- c. 使用可能なポストインストールタスク列から実行するポストインストールタスク列にタスクを追加します。

**i** **ヒント:** フィルタは、タスクタイプごとに使用できます。たとえば、特定のプレインストールタスクを見つけるには、使用可能なプレインストールタスク列のプレインストールタスクのフィルタフィールドにタスク名を入力します。

**i** **ヒント:** インストールプランからタスクを削除するには、タスクを右の列にドラッグアンドドロップするか、マイナス記号をクリックするか、または左側の列のタスクをダブルクリックします。

**i** **ヒント:** 列からすべてのタスクを削除するには、右側の列ヘッダーのボタンをクリックします。たとえば、割り当てられたすべてのプレインストールタスクを削除するには、実行するプレインストールタスク列の見出しバーで、すべてのプレインストールタスクの削除をクリックします。

6. **保存** をクリックします。

## カスタム展開へのタスクの割り当て

カスタム展開を実行するためにアプライアンスが実行する手順を設定できます。プレインストールタスクは、オペレーティングシステムのセットアップを開始する前に実行され、中レベルのタスクは、オペレーティングシステムの展開後に実行されます。ポストインストールタスクは、オペレーティングシステムが再起動され、ターゲットデバイスへの最初のログインが行われた後に実行されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **カスタム展開** をクリックして、カスタム展開ページを表示します。
2. カスタム展開 ページでカスタム展開名をクリックし、選択したアイテムの **カスタム展開の詳細** ページを表示します。
3. タスクグループに指定されたタスクを追加する場合、**タスクグループの選択** をクリックし、目的のタスクグループを選択して、**適用** をクリックします。
  - 選択したシステムイメージの OS に関連付けられたタスクグループのみがリストに表示されます。例えば、Windows システムイメージを選択した場合、リストには、Windows システムに適用可能なタスクグループが表示されます。
  - システムイメージ、スクリプト形式のインストール、またはカスタム展開には、複数のタスクグループを追加できます。
  - タスクグループに関連付けられたタスクは、必ずシステムイメージ、スクリプト形式のインストール、またはカスタム展開におけるそれぞれの展開ステージに追加されます。例えば、1つのタスクグループを追加すると、そのタスクグループのプレインストールタスクは、実行するプレインストールタスクの下に表示されます。
  - システムイメージ、スクリプト形式のインストール、またはカスタム展開に追加するタスクグループに関連付けられたタスクの順序は、そのタスクグループが追加された順序を反映します。つまり、1

つ目のタスクグループに追加されたタスクはリストの先頭に表示され、その後に追加されたタスクグループに関連付けられたタスクがその後に表示されます。以降も同様です。

4. 以前にカスタム展開に追加されたすべてのタスク（タスクグループに関連付けられたタスクを含む）を削除する場合は、インストールプランの下で **すべてのタスクをクリア** をクリックします。
5. インストールプランで、タスクを実行順に追加します。

インストールプランにタスクを追加するには、タスクを左の列にドラッグアンドドロップするか、プラス記号をクリックするか、または必要に応じて右の列のタスクをダブルクリックします。

右側の各リストでは、使用可能なタスクがアルファベット順に表示されます。リストで使用可能なタスクが6個を超える場合は必要に応じて、ドロワーを展開してリスト全体を表示するか、上下にスクロールします。

- a. 使用可能なプレインストールタスク列から実行するプレインストールタスク列にタスクを追加します。

**i** **注:** ドライブの内容を削除する場合は、Cのフォーマットタスクがシングルパーティションの作成タスクの後にあることを確認してください。

- b. 使用可能な中レベルのタスク列から中レベルのタスクを実行する列にタスクを追加します。
- c. 使用可能なポストインストールタスク列から実行するポストインストールタスク列にタスクを追加します。

**i** **ヒント:** フィルタは、タスクタイプごとに使用できます。たとえば、特定のプレインストールタスクを見つけるには、使用可能なプレインストールタスク列のプレインストールタスクのフィルタフィールドにタスク名を入力します。

**i** **ヒント:** インストールプランからタスクを削除するには、タスクを右の列にドラッグアンドドロップするか、マイナス記号をクリックするか、または左側の列のタスクをダブルクリックします。

**i** **ヒント:** 列からすべてのタスクを削除するには、右側の列ヘッダーのボタンをクリックします。たとえば、割り当てられたすべてのプレインストールタスクを削除するには、実行するプレインストールタスク列の見出しバーで、すべてのプレインストールタスクの削除をクリックします。

6. **保存** をクリックします。

## 展開タスクの編集

システムイメージまたはスクリプト形式のインストール展開に関連付けられたタスクを編集できます。各タスクは、システムイメージまたはスクリプト形式のインストール展開を実行するためにアプライアンスが実行する手順を表します。プレインストールタスクはオペレーティングシステムのセットアップを開始する前に実行されます。ポストインストールタスクはオペレーティングシステムが展開され、ターゲットデバイスへの最初のログインが行われた後に実行されます。

**システムイメージ展開タスクのみ。** アプライアンス管理者コンソールを使用している場合、システムイメージ展開タスクのみを編集できます。KACEリモートサイトアプライアンスでは、タスクパラメータを編集できません。これは、KACEリモートサイトアプライアンスのシステムイメージ詳細ページには関連するアプライアンス

に存在するすべてのタスクが表示され、KAGE SDAの管理者コンソールでのみこれらのタスクを編集できるためです。

1. 次の手順のいずれかを実行します。
  - 左側のナビゲーションペインで、展開 > システムイメージ を選択し、システムイメージ ページを表示します。次に、システムイメージ名をクリックして、システムイメージ詳細 ページを表示します。
  - 左側のナビゲーションペインで、展開 > スクリプト形式のインストール を選択し、スクリプト形式のインストール ページを表示します。次に、スクリプト形式のインストール名をクリックし、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。
  - 左側のナビゲーションペインで、展開 > カスタム展開 の順に選択し、カスタム展開 ページを表示します。次に、カスタム展開名をクリックし、カスタム展開の詳細 ページを表示します。

2. インストールプラン で、編集するタスクを指定して  をクリックします。

 **ヒント:** フィルタは、タスクタイプごとに使用できます。たとえば、特定のプレインストールタスクを見つけるには、使用可能なプレインストールタスク 列の プレインストールタスクのフィルタ フィールドにタスク名を入力します。

 **ヒント:** インストールプランからタスクを削除するには、タスクを右の列にドラッグアンドドロップするか、マイナス記号をクリックするか、または左側の列のタスクをダブルクリックします。

ダイアログボックスが開き、タスクの詳細が表示されます。

3. 必要に応じてタスクを編集します。

| オプション | 説明                                               |
|-------|--------------------------------------------------|
| ファイル  | タスクに関連付けられたファイルを置き換えるには、置換 をクリックし、適切なファイルを選択します。 |
| パラメータ | 必要に応じて、タスクパラメータを編集します。                           |
| メモ    | タスクに関するメモを追加します。例: Johnのパーティション作成のタスク            |

4. **BAT スクリプトのみ。** BATスクリプト ボックスに、BATスクリプトの名前を入力します。
5. **DISKPART スクリプトのみ。** DISKPARTスクリプト ボックスに、DISKPARTスクリプトの名前を入力します。
6. 保存 をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
7. システムイメージ詳細 または スクリプト形式のインストール詳細 ページで、保存 をクリックします。

# 展開の自動化

アプライアンスブートアクションは、スクリプト形式のインストール、システムイメージ、およびマルチキャストWIMとDMGイメージの展開を自動化します。これは、次回、ターゲットデバイスがスケジュールされた時刻にKACEブート環境（KBE）またはNetBoot環境でネットワーク起動するときに、展開を開始することによって達成されます。

アプライアンスのブートプロセスでは、アプライアンスがデバイスをMACアドレスで識別するので、デバイスのネットワークインターフェイスカード（NIC）がBIOSのブート順に登録されている必要があります。

ブートアクションは1台のデバイス用または複数台のデバイス用に作成できます。また、ブートアクションのスケジュールを管理することにより、複数のブートアクションを同じデバイスに割り当てることもできます。

既存のブートアクションを変更すると、以前の情報を持つブートアクションが自動的に削除されます。

## ブートアクションの作成

ブートアクションを作成して、デバイスインベントリやネットワークインベントリにあるデバイス、スキャンされたデバイス、または既知のMACアドレスを持つ任意のデバイスに対するスクリプト形式のインストール、システムイメージ、KACEブート環境およびNetBoot環境の展開を自動化できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **自動展開** をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. **アクションの選択 > 新しいブートアクション** の順に選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。

**i** **注:** 展開のスケジュールを管理することにより、複数のブートアクションを同じデバイスに割り当てることができます。

3. ブートアクションの詳細 で以下を実行します。
  - a. ブートアクションに **名前** を割り当てます。
  - b. 取得元 ボックスで、アプライアンス、または自動化する展開を含んだリンク先RSAアプライアンスを選択します。
  - c. 展開 ドロップダウンリストから展開を選択します。

**システムイメージのみ。** システムイメージのリストは、取得元 ボックスでの選択内容に応じて異なります。

- アプライアンスを選択した場合、リストにはアプライアンスに存在するすべてのシステムイメージが表示されます。
- RSAを選択した場合、RSAと同期されたすべてのイメージと、RSAがキャプチャしたすべてのイメージが表示されます。

**Windowsマルチキャスト展開の場合はWIMイメージのみを使用し、Mac OS Xマルチキャスト展開の場合はDMGのみを使用してください。**

- d. **メモ** を追加し、ブートアクションを識別できるようにします。
4. **オプション > スケジュール** で、次のいずれかを選択して展開を実行します。
    - a. 次のブートで実行する: 次のネットワーク起動で展開を開始します。
    - b. 後で実行するようにスケジュールする: 日付と時刻を指定します。一度実行: 毎 (日)、特定時刻に実行: H (時)、M (分)。繰り返し実行する を選択すると、指定した時間に展開が毎日実行されます。
  5. **オプション > タイプ** で、ユニキャスト展開またはマルチキャスト展開を選択します。



注: マルチキャストASR展開を後で実行するようにスケジュールすることはできません。

6. マルチキャスト展開を選択する場合:
  - a. オプション: 接続の「受信準備完了」状態待機のタイムアウトでタイムアウト値を増やして、ターゲットデバイスがネットワーク起動するのに許容される時間を長くします。デフォルトは10分です。
  - b. 高度な設定の表示 をクリックして、デフォルトのマルチキャストアドレス、コントロールチャンネルポート、マルチキャストホップ、伝送速度、およびログレベルを変更します。
  - c. これらの設定を使用して自動展開を実行するには、これらをデフォルト設定にする チェックボックスを選択します。

マルチキャスト設定の詳細については、[デフォルトマルチキャスト設定の編集](#)を参照してください。

7. オプション: マルチキャスト展開の場合、接続の受信準備完了状態待機のタイムアウトでタイムアウト値を増やして、ターゲットデバイスがネットワーク起動するのに許容される時間を長くします。デフォルトは10分です。高度な設定の表示 をクリックして、この展開のデフォルトのマルチキャストアドレス、コントロールチャンネルポート、および伝送速度を変更します。
8. デバイスで、1つまたは複数のMACアドレスを入力するか、すべて表示 ドロップダウンリストからデバイスを選択して、デバイスを展開に追加します。

タイプ別にデバイスをフィルタリングして、指定された条件を満たすデバイスを表示できます。

9. 保存 をクリックします。  
自動展開 ページにブートアクションがリストされます。

## 次回のネットワーク起動での展開の実行

1台または複数台のターゲットデバイスが次回KACEブート環境 (KBE) で起動するときに、オペレーティングシステムのスクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開を開始できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に 自動展開 をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. 名前 で、ブートアクションを選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。
3. 次回のネットワーク起動時にイメージを展開するには、オプション > スケジュール で 次のブートで実行する を選択します。
4. 保存 をクリックします。

左側のナビゲーションペインで、進行状況 をクリックして現在実行中の自動展開のステータスを表示するか、[監査ログ](#) をクリックして完了した自動展開のステータスを表示します。

## ブートアクションの修正

デバイスへのブートアクションの追加、デバイスの削除、スケジュールオプションの変更、WIMとDMGイメージに関するユニキャスト展開とマルチキャスト展開の切り替え、およびブートアクションの名前変更を行うことができます。ブートアクションのイメージを変更することはできません。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に 自動展開 をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. 名前 で、ブートアクションを選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。
3. ブートアクションに必要な変更を行います。
4. 保存 をクリックします。

自動展開 ページにブートアクションがリストされます。

# デフォルトのブートアクションの設定

デフォルトでは、アプライアンスのデバイスインベントリにないデバイスは、KBEのメインメニューから起動します。例えば、スキャンされたネットワーク上のデバイスは、アプライアンスネットワークインベントリに表示されます。アプライアンスデバイスインベントリまたはアプライアンスネットワークインベントリにないデバイスに対してはハードドライブから起動するようにブートアクションを設定できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定> コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定 ページ** を表示します。
2. **PXEオプション** で、デフォルトのブートアクションを次のいずれかのオプションに設定します。
  - アプライアンスデバイスインベントリにないデバイスに対しては、KBEメインメニューで起動。
  - **KBEで起動したことのないデバイス**に対しては、ハードドライブで起動。ネットワークインベントリにないデバイスも同様です。
3. **保存** をクリックします。

# 新しい WIM イメージをサーバとの間で直接ストリーミングする設定

WIM のイメージをキャプチャまたは展開する場合に、ローカルドライブを使用するのではなく、サーバとの間でイメージを直接ストリーミングすることもできます。

イメージは、ローカルにキャプチャされた後、ネットワークソケットを介してサーバに送信されます。一部のネットワーク設定では、ファイルをこのように転送すると、問題が発生することがあります。イメージをサーバに直接ストリーミングすると、そのファイルは、ネットワークソケットを使用するのではなく、サーバ共有に直接コピーされます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定> コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定 ページ** を表示します。
2. 必要に応じて **イメージングオプション** を設定します。
  - デフォルト設定により WIM ファイルをサーバに直接キャプチャ（個別のキャプチャは KBE イメージキャプチャページで変更可能）：**KBE のデフォルト設定によりサーバに直接ストリーミングする場合は、このオプションを選択します。**
    - また、サーバに直接キャプチャされた WIM イメージは、サーバから直接展開する必要もありません。このオプションは、イメージの詳細ページでは変更できません。
    - このオプションを選択しない場合に、ローカルに十分なディスク容量がないと、イメージは直接サーバにストリーミングされます。
  - デフォルト設定により新しい WIM ファイルをサーバから直接展開（個別の展開はイメージの詳細ページで変更可能）：**新しくキャプチャしたイメージをデフォルト設定によりサーバから直接展開する場合は、このオプションを選択します。**



**注:** この設定は、サーバに直接キャプチャされた WIM イメージにのみ適用されます。

3. **保存** をクリックします。

# 展開オプションの指定

システムイメージ詳細 ページでは、イメージ設定の表示、ブートアクションの追加、イメージに関連付けられたログファイルのダウンロード、およびアプライアンスでのエラー対応方法のオプションの設定を行うことができます。また、展開オプションを指定することもできます。

1. 展開 で、表示する展開を選択して、システムイメージ詳細 ページを表示します。
2. 展開オプション で、必要に応じて次のオプションのいずれかを選択します。
  - サーバから直接展開：この WIM イメージをサーバから直接展開する場合は、このオプションを選択します。また、サーバに直接キャプチャされた WIM イメージは、サーバから直接展開する必要もありません。この場合、このオプションは選択された状態で表示され、変更することはできません。
  - エラー発生時に操作を続行：警告や致命的なエラーが発生しても、キャプチャとアップロードプロセスを続行する場合は、このオプションを選択します。
  - ログにデバッグ出力を含める：デバッグレベルのログ記録を有効にし、ログを アプライアンスログ ページにアップロードする場合に選択します。

**!** **注意:** このオプションを使用すると、展開にかかる時間が大幅に長くなります。トラブルシューティング時にものみ使用してください。

- ドライバフィードを使用 ( Sysprep を実行済みのイメージでのみ ) : Sysprep を実行済みのシステムイメージ用の ドライバフィード を有効にして、不足しているドライバを取得する場合に選択します。Windows K-Image および WIM イメージの場合、システムイメージ詳細 ページの Sysprep 実行済み フィールドに、イメージで sysprep が実行済みかどうかが表示されます。オプションで、このオプションをデフォルトで有効にします。
    1. 新しいブラウザインスタンスまたはタブで管理者コンソールを開きます。
    2. 左側のナビゲーションペインで、設定> コントロールパネル をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
    3. イメージ作成オプション で、新たにキャプチャされた sysprep された画像のドライバフィードを有効にする チェックボックスをオンにします。このオプションをオンにすると、新しくキャプチャした sysprep 実行済みシステムイメージを使用して展開されたターゲットシステムにドライバが自動的に追加されます。
    4. 保存 をクリックし、システムイメージ詳細 ページの 展開オプション に戻ります。
  - 最後のタスクの完了後にターゲットデバイスをシャットダウン：イメージがインストールされたらターゲットデバイスをオフにする場合に選択します。
  - アプライアンスで無人ファイルの自動ログオン数を計算できるようにする：アプライアンスでインストール時に実行される自動ログオンの試行回数を計算できるようにする場合は、このオプションを選択します。自動ログオンの試行回数は Unattend.XML ファイルに書き込まれます。このファイルには、Windows システムセットアップのパラメータが含まれています。このオプションを有効にした場合、アプライアンスでは、インストールプランに含まれるタスクで指定されたシステム再起動回数を追加して自動ログオン回数を計算します。
  - KBEからの展開を非表示にする：KACEブート環境 ( KBE ) からシステムイメージを非表示にする場合は、このオプションを選択します。
- i** **注:** KBEから非表示としてマークされたスクリプト化された展開は、起動アクションの作成時に自動展開の詳細 ページの 展開 ドロップダウンリストに表示されません。
- ライブラリからの無人ファイルの使用：アプライアンスに保存されている Sysprep 実行済みの unattend ファイルのいずれかを中間レベルのタスクとして使用し、目的の unattend ファイルを選択する場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、中間レベルのタスクが自

動的に有効になります。unattendファイルを選択できるようにするには、このファイルのOSとアーキテクチャがシステムイメージのものと同じしている必要があります。

- **自動ログオン回数の設定（変更しない場合は空白のままにしておきます）**：システムのインストール時に実行する自動ログオンの試行回数を制限する場合は、このオプションを選択します。0～99の値を入力できます。

## 展開のスケジュール

1台または複数台のデバイスに対して、システムイメージまたはスクリプト形式のインストール展開を後で実行するようにスケジュールできます。また、同一のデバイスに複数の展開をスケジュールすることもできます。Mac OS Xのイメージ展開を後で実行するようにスケジュールすることはできません。

展開をスケジュールするときに、デバイスを追加または削除できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **自動展開** をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. **アクションの選択 > 新しいブートアクション** の順に選択するか、既存のブートアクションを選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。
3. **オプション > スケジュール** で、次のいずれかを選択して展開を実行します。
  - a. 次のブートで実行する：次のネットワーク起動で展開を開始します。
  - b. 後で実行するようにスケジュールする：日付と時刻を指定します。一度実行：毎（日）、特定時刻に実行：H（時）、M（分）。繰り返し実行する を選択すると、指定した時間に展開が毎日実行されます。
4. **保存** をクリックします。

## ブートアクションの削除

ブートアクションが不要になった場合またはディスク領域を節約するために、ブートアクション展開を削除できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **自動展開** をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. 削除するブートアクション展開を選択します。
3. **アクションの選択 > 削除** の順に選択します。
4. **はい** をクリックして確定します。

## マルチキャストWIMイメージの展開の作成

WIMイメージのマルチキャスト展開を作成して、1つのイメージを複数のデバイスに同時に送信できます。ネットワーク上のルーターがマルチキャストに対応し、ターゲットデバイスのハードディスクにイメージを保持するための空き領域がある場合は、マルチキャスト展開によりネットワーク帯域幅が削減されます。マルチキャスト展開でサポートされているのは、シングルパーティションイメージだけです。

マルチキャストするWIMイメージごとにブートアクションを作成します。



**注**：マルチキャスト展開は、一度に1回のみ実行できます。

マルチキャストイメージがターゲットデバイスに到達できるようにするためのハードウェア設定変更が、使用しているネットワークで必要かどうかを確認します。マルチキャストDMGイメージ展開の作成の詳細については、[マルチキャストDMGイメージの展開の作成](#)を参照してください。



注: 固有のルーターおよびスイッチの詳細については、<http://www.itninja.com/community/dell-kace-k2000-deployment-appliance>を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **自動展開** をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. 名前 で、リストから展開を選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。リストに展開が表示されない場合は、[ブートアクションの作成および展開のスケジュール](#)を参照してください。
3. オプション : ブートアクションの詳細 で、ブートアクションを識別するために、名前を変更するか、メモを追加します。
4. オプション > タイプ で マルチキャスト を選択します。

オプション : 高度な設定の表示 をクリックして、この展開用にデフォルトのマルチキャスト設定を変更します。すべてのマルチキャスト展開の設定を変更するには、[デフォルトマルチキャスト設定の編集](#)を参照してください。

5. デバイス > 選択したデバイス で、MACアドレスをクリックするか選択します。複数のMACアドレスの貼り付けを選択して複数のアドレスを貼り付けたり、タイプ別にデバイスをフィルタして、すべて表示ドロップダウンリストから特定の基準に一致するデバイスを表示したりすることもできます。
6. 保存 をクリックします。

自動展開 ページにブートアクションがリストされます。

左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックします。次に **システムイメージ** をクリックし、ブートアクションに割り当てられているイメージを選択してプレインストールタスクとポストインストールタスクを追加し、エラー処理を設定します。

## デフォルトマルチキャスト設定の編集

デフォルトマルチキャスト設定に対して行った変更は、すべての新規マルチキャスト展開に適用されます。

マルチキャスト設定は、展開ごとに変更できます。展開 ページに移動し、ブートアクションを選択して 自動展開の詳細 ページを表示します。次に **高度な設定の表示** をクリックします。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **デフォルトマルチキャスト設定** をクリックして **デフォルトマルチキャスト設定** ページを表示します。
2. すべてのターゲットデバイスが接続するまでアプライアンスが待機する時間について、接続の受信準備完了状態待機のタイムアウトを変更します。デフォルトは10分です。



注: タスクの実行またはデバイスの起動に要する可能性のある接続時間を考慮します。タイムアウトを10分に設定し、5分後に1台のデバイスだけが接続した場合、アプライアンスは、残りのデバイスが接続するまで待機する時間を10分にリセットします。

3. **Multicast Protocol**は、ご使用の環境の必要に応じて以下のいずれかを選択します。
  - **Pragmatic General Multicast (PGM)**
  - **NACK-Oriented Reliable Multicast (NORM)**
    - Internet Group Management Protocol (IGMP) は NORM のサブセットであり、同様にサポートされます。

PGMでは高速のデータ転送が提供されるようですが、NORMでは通常、より高い伝送速度での処理が可能であり、一般的にはより信頼性が高くなります。適切なプロトコルを選択します。

4. 別のサービスがデフォルトアドレスを使用している場合は、別のIPv4マルチキャストアドレスを設定します。
5. ネットワーク上の別のデバイスがポート2112を使用している場合、コントロールチャンネルポート フィールドに別のポート番号を指定します。
6. マルチキャストホップ フィールドには、サブネットでのマルチキャストホップ数を入力します。デフォルト値は1ですが、必要に応じて変更できます。
7. 必要に応じて、伝送速度 をより低い値に設定します。

伝送速度によっては、展開が成功したり失敗したりします。デフォルトは8 MBです。

8. デフォルトのインストールの設定に戻すには、出荷時設定の再適用 をクリックします。
9. 次のいずれかのオプションを選択して、ログレベル を必要に応じて調整します。
  - 致命的なエラーのみ
  - 致命的なエラーと警告
  - トレースロギング
  - 詳細ロギング
  - Verboseロギング
10. 保存 をクリックします。

## 進行中の自動展開の表示

現在実行中の自動展開の進行状況、割り当てられたタスクのステータス、およびどのイメージがどのデバイスに展開されたかを表示できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**進行状況** をクリックし、次に **自動展開** をクリックして、**自動展開の進行状況** ページを表示します。
2. 名前 で、ブートアクションを選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。
3. デバイス メニューバーで、**詳細** をクリックして、割り当てられたタスクのステータスを表示します。

左側のナビゲーションペインで、**監査ログ** をクリックして、完了した自動展開の成功または失敗を表示します。

## 完了した自動展開の表示

完了した自動展開の成功または失敗、割り当てられたタスクのステータス、およびどのイメージがどのデバイスに展開されたかを表示できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**監査ログ** をクリックします。
2. 名前 で、ブートアクションを選択して、ブートアクションログの詳細 ページを表示します。
3. デバイス メニューバーで、**詳細** をクリックして、割り当てられたタスクのステータスを表示します。

展開が失敗したデバイスに対しては、イメージを個別に再展開する必要があります。

## 失敗したタスクの編集

タスクが失敗した場合、失敗したデバイスからタスクを編集できます。

VNCまたはリモートデスクトップ接続を使用して、ターゲットデバイスに接続します。



**注:** クライアントタスクエラー 画面が表示されるのは、Windowsオペレーティングシステムを搭載したターゲットデバイスのみです。

1. 次のいずれかのオプションを選択します。
  - コマンドプロンプトを開き、デバイスでコマンドを実行します。
  - メモ帳を開き、ファイルを修正します。
  - Tasks.xmlファイルのメモ帳による編集 を開き、Tasks.xmlファイルを変更します。
  - レジストリの編集 で、OS設定情報を変更します。
  - 失敗したタスクの再試行 で、タスクを再実行します。
  - タスク実行の再開 で、失敗したタスクにより展開を続行します。
  - マシンの再起動 で、展開を再開します。
  - マシンのシャットダウン で、デバイスの電源をオフにします。



**注:** アプライアンスの 監査ログ ページで失敗したタスクを表示することができます。

## 自動展開イメージ詳細の表示

自動ブートアクション展開に割り当てられているイメージの詳細を表示できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**進行状況** をクリックし、次に **自動展開** をクリックして、自動展開の進行状況 ページを表示します。
2. **展開** メニューオプションで、ブートアクション用のイメージを選択してシステムイメージ詳細 ページまたはスクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。

# 手動展開の実行

USBフラッシュデバイスを使用することにより、イメージを手動で展開できます。手動展開は、ターゲットデバイスがネットワークに接続されていない場合、ソースメディアから直接展開する場合、およびUEFIイメージを展開する場合に役立ちます。

KACEブート環境またはNetBoot環境をUSBデバイスに読み込んだ後に、イメージをアプライアンスからUSBデバイスにダウンロードできます。

ブート環境およびイメージをUSBデバイスに読み込んだ後に、USBデバイス上でアプライアンスドライバの共有ディレクトリ構造を作成し、必要なドライバを追加します。ブート環境、イメージ、およびドライバに関するUSBデバイスの設定が完了したら、ターゲットデバイスをブート環境で起動できます。

WindowsデバイスをKACEブート環境で起動すると、KBEのメインメニューがすぐに表示され、イメージのキャプチャおよび展開を行うためのメニューオプションが示されます。

Mac OS XデバイスをNetBoot環境で起動すると、アプライアンスイメージングユーティリティがすぐに表示され、イメージのキャプチャおよび展開を行うためのメニューオプションが示されます。

## ブート環境を起動可能なISOファイルとしてダウンロード

KACEブート環境（KBE）用またはNetBoot環境用の起動可能なISOをUSBフラッシュドライブにダウンロードできます。

KACEブート環境をダウンロードする場合、ダウンロードするKBEにすべての必須ドライバが含まれていることを検証します。KBEをダウンロードする前にドライバの追加または削除を行った場合、KBEを再構築する必要があります。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **ブート環境** をクリックして、ブート環境 ページを表示します。
2. USBフラッシュデバイスにインストールするブート環境を選択して、ブート環境詳細 ページを表示します。
3. このブート環境用の起動可能なUSBフラッシュドライブイメージの作成 チェックボックスをオンにして、ファイルを保存します。

このプロセスは起動可能なUSBイメージを作成し、ステータスに完了しましたと表示します。

4. ブート環境詳細 ページで この起動環境用の起動可能なUSBフラッシュドライブイメージのダウンロードを選択します。
5. （オプション）この環境を起動する方法を指定します。
  - ユーザーが memdisk ユーティリティを使用してPXEブートを選択するようにする場合は、**BIOSクライアントのこのブート環境をMemdiskを使用して起動** を選択します。レガシーBIOSブート環境で、PXEブートを有効にする場合は、このオプションを使用します。
  - このオプションをクリアすると、ブート環境では wimboot が使用されます。
6. このブート環境用の起動可能なISOのダウンロード をクリックして、ダウンロードを開始します。

# ターゲットデバイスのネットワーク起動

ターゲットデバイスをKACEブート環境（KBE）でネットワーク起動し、KBEのメインメニューにアクセスして、オペレーティングシステムを手動で展開する必要があります。

ターゲットデバイスをKBEで起動する前に、起動マネージャがターゲットデバイスでアクティブである時間を変更して、起動シーケンスが中断されるのを防ぐことができます。中断は、ユーザーがローカルドライブから起動するために起動シーケンスオプションを変更した場合などに発生します。詳細については、「[起動マネージャのタイムアウトの設定](#)」を参照してください。

1. ターゲットデバイスをKBEで起動します。
  - ローカルデバイスの場合は、ターゲットデバイスでBIOSに移動して、ネットワークコントローラを選択し、ターゲットデバイスをKBEでネットワーク起動します。
  - リモートデバイスの場合、リモートデスクトップ接続を開始するか、デバイスでVNC-Javaリモートコントロールセッションを開いて、ターゲットデバイスをKBEでネットワーク起動します。
2. デバイスのネットワークインターフェイスカード（NIC）が内蔵グラフィックスをサポートするかどうかに応じて、起動マネージャ（黒い画面）のインターフェイスを選択します。
  - グラフィカルメニュー: 矢印キーを使用してオプションを選択できます。
  - テキストメニュー: 内蔵グラフィックスには対応していないが方向キーの使用に対応している古いNICをサポートしています。
  - 基本メニュー: 内蔵グラフィックスに対応しておらず矢印キーを認識できないNICをサポートしています。
3. デバイスのハードウェアをサポートする、KBEのアーキテクチャを選択します。

デバイスはK2000ブート環境で起動し、KBEのメインメニューが表示されます。

## イメージの手動展開

KBEのメインメニューから、スクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開を手動で実行できます。

デバイスをKBEでネットワーク起動して、KBEのメインメニューを表示します。デバイスが起動したら、VNC-Javaリモートコントロールセッションを使用して、デバイスにリモートアクセスできます。詳細については、「[VNCセッション経由でのリモートデバイスへのアクセス](#)」を参照してください。



**注:** ネットワークの帯域幅、タスクの数、および展開するイメージのサイズにより、手動展開が完了するまで数分から数時間かかることがあります。

1. KBEのメインメニューから、展開タイプ（例えば、イメージ作成）をクリックします。
2. このデバイスにイメージを展開をクリックします。
3. イメージ名で、このマシンにインストールするイメージの名前をクリックします。

選択したKBEのアーキテクチャに関連するシステムイメージのみが、リストに表示されます。

- KACEシステム展開アプライアンスを使用してシステムイメージを展開する場合、表示されるリストにはKACEシステム展開アプライアンスによってキャプチャされた関連するイメージが表示されます。
  - RSA (リモートサイトアプライアンス) を使用してシステムイメージを展開する場合、表示されるリストにはRSAによってキャプチャされたイメージと関連するKACEシステム展開アプライアンスから同期されたイメージのみが表示されます。
4. 展開後に自動的に再起動 チェックボックスを選択して、イメージの適用後にデバイスが再起動されるようにします。

(オプション) このオプションは、一般設定 ページでデフォルトで有効にできます。

- a. 管理者コンソールを開きます。
  - b. 左側のナビゲーションペインで、設定> コントロールパネル をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
  - c. イメージ作成オプション で、手動展開後に自動的に再起動するデフォルト設定 チェックボックスを選択します。手動展開後にターゲットシステムを自動的に再起動する場合は、このチェックボックスをオンにします。
  - d. 保存 をクリックして、KBEメインメニューに戻ります。
5. 展開の開始 をクリックします。

ページ下部に進行状況表示バーが表示され、タスクがどの程度進行しているかが示されます。

KBEでタスクが実行されている間はVNC-Javaリモートコントロールセッションは開いた状態のままです。このセッションから、プレインストールタスクおよびイメージのインストールタスクの進行状況を表示できます。また、接続を再確立して、KBEで実行されるすべてのポストインストールタスクの進行状況を確認できます。

1つまたは複数の展開タスクが失敗した場合は、タスクエラー ページが開き、失敗の詳細が表示されます。問題の性質に応じて、失敗したタスクの実行を再試行または再開するか、または展開をキャンセルすることができます。また、必要に応じてデバイスを再起動またはシャットダウンすることもできます。メッセージボックスが表示され、選択した操作の結果が示されます。イメージの展開に失敗しました。詳細については、ログを参照してください。

ユーザー操作なしに導入が失敗した場合は、Windows イメージング ページに、ログエントリを含む 導入ログ フィールドが表示されます。ユーザーによって導入がキャンセルされた場合も、導入ログ フィールドは表示されますが、空欄になります。

## 進行中の手動展開の表示

進行中の手動展開のリストと展開に関して選択したブートアクションの詳細を表示して、どのイメージがどのデバイスに展開されたかを確認できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、進行状況 をクリックし、次に 手動展開 をクリックして、手動展開の進行状況 ページを表示します。
2. 名前 で、展開のブートアクションを選択して、展開の詳細 ページを表示します。
3. デバイス メニューバーで、デバイスのMACアドレスの隣の 詳細 をクリックして、実行中のタスクの進行状況を表示します。

# 完了した手動展開の表示

完了した手動展開のリストと選択したブートアクションの詳細を表示して、どのイメージがどのデバイスに展開されたかを確認できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**監査ログ** をクリックしてセクションを展開し、次に **手動展開** をクリックして **手動展開ログ** ページを表示します。
2. **名前** で、展開のブートアクションを選択して、**展開の詳細** ページを表示します。
3. **デバイス** メニューバーで、デバイスのMACアドレスの隣の **詳細** をクリックして、展開用に実行したタスクの成功または失敗を確認します。

# カスタム展開の管理

Windowsのカスタム展開を使用して、まったく新しいイメージをシステムに展開するのではなく（ターゲットデバイスのコンテンツの削除が必要になります）、ユーザーのシステムに適用する一連の特定のタスクをキャプチャおよび実行できます。

例えば、カスタム展開テンプレートを使用することで、USMT（ユーザー状態移行ツール）を用いて、ユーザーのシステムを起動してユーザーのプロファイルをキャプチャし、そのシステムをシャットダウンする前に、プロファイルを別のシステムに移行できます。また、カスタム展開を使用する別の例として、新しいイメージを適用することなく、システムのOSを簡単にアップグレードすることもできます。

## カスタム展開の作成または変更

Windowsのカスタム展開を作成または変更して、ターゲットデバイスで1つまたは複数の特定のタスクを実行できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **カスタム展開** をクリックして、カスタム展開ページを表示します。
2. 次の手順のいずれかを実行します。
  - カスタム展開 ページでカスタム展開名をクリックし、選択したアイテムの **カスタム展開の詳細** ページを表示します。
  - カスタム展開 ページで **アクションの選択 > 新規作成** の順にクリックして、新しいカスタム展開を作成します。
3. カスタム展開の詳細 ページの **カスタム展開名** フィールドに、このカスタム展開に割り当てる名前を入力します。
4. **アーキテクチャ** をクリックして、必要に応じてターゲットシステムのアーキテクチャを選択します。
5. （オプション）**メモ** フィールドに、このカスタム展開に関する追加情報を入力します。
6. **オプション：設定ファイルのみ**。
  - a. XMLの設定の横にある **表示** をクリックし、表示されるファイルの内容を確認します。ファイルの内容は読み取り専用です。
  - b. ファイルをダウンロードするには、ファイルの内容の下で **XMLファイルのダウンロード** をクリックします。
7. **オプション：タスクファイルのみ**。



**注:** 読み取り専用ユーザーはこのフィールドにアクセスできません。

- a. **タスクXML** の横にある **表示** をクリックし、表示されるファイルの内容を確認します。ファイルの内容は読み取り専用です。

- b. ファイルをダウンロードするには、ファイルの内容の下で **XMLファイルのダウンロード** をクリックします。
8. **タスクのエラー処理** をクリックして、タスクの実行中にエラーが発生した場合の処理方法を指定します。必要に応じて、エラー発生時に操作を続行 または エラー発生時のプロンプト を選択できます。詳細については、「[タスクのエラー処理オプションの設定](#)」を参照してください。
  9. **展開オプション** で、必要に応じて次のオプションのいずれかを選択します。
    - **エラー発生時に操作を続行**：警告や致命的なエラーが発生しても、キャプチャとアップロードプロセスを続行する場合は、このオプションを選択します。
    - **最後のタスクの完了後にターゲットデバイスをシャットダウン**：イメージがインストールされたらターゲットデバイスをオフにする場合に選択します。
    - **KBEからの展開を非表示にする**：KACEブート環境（KBE）からカスタム展開を非表示にする場合は、このオプションを選択します。
- i** | **注**: KBEから非表示としてマークされたカスタム展開は、起動アクションの作成時に 自動展開の詳細 ページの 展開 ドロップダウンリストに表示されません。
10. 必要に応じて、タスクをカスタム展開に割り当てます。詳細については、「[カスタム展開へのタスクの割り当て](#)」を参照してください。
  11. 編集が終了したら、**キャンセル** をクリックして変更内容を元に戻すか、**保存** をクリックして、変更内容をイメージに適用します。

# オフライン展開の管理

KACEシステム展開アプライアンスを使用すると、USBドライブに直接インストールできるISOとしてダウンロード可能なオフライン展開を作成できます。WIMファイルは3.5 Gbファイルに分割されるため、UEFI展開用のFAT32システムに配置できます。

オフライン展開 リストページには、アプライアンスに存在するすべてのオフライン展開が表示されます。ここから、新しいオフライン展開を作成できます。

## オフライン展開の作成

オフラインのWindows展開用のISOファイルを作成し、特定のシステムイメージ、起動環境、システムドライブ、ユーザープロファイル、ライセンスシートなどの目的の要素を追加できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **オフライン展開** をクリックして、オフライン展開 リストページを表示します。
2. オフライン展開 リストページで **アクションの選択 > 新規作成** の順にクリックして、新しいオフライン展開を作成します。
3. 表示される オフライン展開の作成 ウィザードの、システムイメージの選択 ページで、次の手順を実行します。
  - a. 次の情報を入力します。

| オプション    | 説明                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 名前       | オフライン展開の名前。これは、このオフライン展開の作成が完了するとダウンロードできる、ダウンロード可能なISOファイルの名前でもあります。                                                                                                                                                                                       |
| ライセンスシート | この展開に割り当てられている管理対象デバイスの数。KACEシステム展開アプライアンスのライセンスでは、管理できるシート数が定義されています。この展開に割り当てたすべてのシートは、残りのデバイス数に影響します。アプライアンスについてダイアログボックスで、ライセンスの使用率/容量を確認できます。アクセスするには、サポートが必要な場合 <b>パネルのバージョン情報</b> タブを開きます。このパネルの詳細については、「 <a href="#">製品ドキュメントへのアクセス</a> 」を参照してください。 |
| システムイメージ | この展開に関連付けられたシステムイメージ。アプライアンスで使用可能な任意のシステムイメージを使用できます。システムイメージのキャプチャの詳細については、「 <a href="#">イメージのキャプチャ</a> 」を参照してください。                                                                                                                                        |

- b. **次へ** をクリックします。
4. **ブート環境を選択** ページで、次の手順を実行します。
    - a. この展開で使用するブート環境を選択します。表示される選択可能な項目は、以前に選択したシステムイメージに基づいています。

ユーザープロファイルの展開ポストインストールタスクが選択したイメージに割り当てられている場合は、ウィザードのユーザープロファイルの選択ステップが表示され、以前にキャプチャした1つ以上のユーザープロファイルをオフライン展開に含めることができます。

- b. 次へ をクリックします。
5. ユーザープロファイルの選択ステップのみ。この展開に含める1つ以上のユーザープロファイルを指定します。
  - a. ユーザープロファイルのスキャン条件 をクリックして、キャプチャされたユーザープロファイルをバージョンでフィルタします。
  - b. 使用可能なユーザープロファイル セクションで、展開に追加する各ユーザープロファイルの左側にあるプラスアイコンをクリックします。

同様に、展開からユーザーを削除するには、選択されたユーザープロファイル セクションで、削除する各ユーザープロファイルの左側にあるマイナスアイコンをクリックします。

- c. 次へ をクリックします。
6. (オプション) 表示されたドライバの選択 (オプション) ページで、この展開環境に含める1つまたは複数のユーザードライバを指定します。
  - a. デフォルトでは、このページにはドライバフィールドからダウンロードされたすべてのドライバが一覧表示されます。特定のOSバージョンに関連付けられているドライバのみを表示する場合は、オペレーティングシステム をクリックし、OSバージョンを選択して、フィルタの適用 をクリックします。
  - b. 使用可能なドライバで、展開に追加する各ドライバの左側にあるプラスアイコンをクリックします。

同様に、展開からドライバを削除するには、選択されたドライバ セクションで、削除する各ユーザープロファイルの左側にあるマイナスアイコンをクリックします。

- c. 次へ をクリックします。
7. オフライン展開の概要 ページで、オフライン展開に含まれている要素を確認します。変更する場合は、前へ ボタンを使用してウィザードの目的のステップに戻ります。
8. ISOの作成 をクリックします。

オフライン展開の作成 ウィザードが閉じ、オフライン展開 リストページが更新され、新しく作成されたISOファイルに関する情報が表示されます。

このオフライン展開用のISOイメージの作成が完了すると、アプライアンスは、このオフライン展開が適用されるデバイスでデバイスインベントリを更新します。デバイスインベントリ ページで確認できます。これらの各デバイスは、デバイスモデルとして KACEオフラインノード を使用します。デバイスインベントリの詳細については、「[デバイスインベントリの管理](#)」を参照してください。

# Macデバイスのイメージ作成

アプライアンスでは、イメージのキャプチャとユニキャスト展開の実行を可能にするアプライアンスイメージングユーティリティが提供されています。ネットワーク設定がマルチキャストルーティングをサポートしている場合は、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールからマルチキャスト展開を実行できます。

KACEメディアマネージャを使用すると、アプライアンスがメモリに読み込む、Mac OS XハードディスクのNetBootイメージを作成できます。NetBootイメージを使用すると、展開用のシステムイメージとしてイメージをキャプチャできます。内蔵NetBootサーバを使用すると、アプライアンスと同じサブネット上に存在するMacデバイスにネットワーク経由でイメージを展開できます。リモートサイトアプライアンス (RSA) を使用して、別のサブネット上に存在するデバイスでイメージを起動できます。これは、RSAがアプライアンスとの間で同期されている場合に限ります。

Mac OS X展開では、ユーザープロファイルの移行、スクリプト形式のインストール、およびドライブ共有とドライブ互換性レポートはサポートされません。



**重要:** アプライアンスでは、バージョン10.13に導入された新しいAFPSファイルシステムはサポートされません。

## Mac OS X用のメディアマネージャのダウンロード

Mac OS X用のKACEメディアマネージャをアプライアンスからデバイスにダウンロードしてインストールできます。ただし、デバイスの管理者アカウントを使用する必要があります。メディアマネージャはMac OS Xインストールメディアをアプライアンスにアップロードし、Macデバイスをアプライアンスで起動するためのイメージとNetBoot環境を作成します。

メディアマネージャをアプライアンスにアップロードする必要があるソースメディアと共にデバイスにダウンロードします。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ソースメディア** をクリックしてソースメディア ページを表示します。
2. **アクションの選択 > メディアマネージャのダウンロード** の順に選択して、メディアマネージャ ページを表示します。
3. **Mac OS X用のダウンロード** をクリックします。  
メディアマネージャが **ダウンロードフォルダ** にダウンロードされます。
4. Macから **システム環境設定** を選択し、次に **セキュリティとプライバシー** をクリックおよびアンロックして、変更を行います。
5. **一般** タブを選択し、ダウンロードしたアプリケーションの実行許可: **すべてのアプリケーション** を許可チェックボックスをオンにします。
6. **メディアマネージャ アプリケーション** をクリックして実行します。

NetBoot環境イメージを作成します。

# NetBoot環境イメージの作成

Mac OS X用のKACEメディアマネージャを使用してNetBoot環境イメージを作成し、Macデバイスをアプライアンスで起動できます。

時刻の同期をオフにした状態でデバイスを再起動します。NetBootイメージ作成時のエラーを解決する方法の詳細については、<https://support.quest.com/kb/125875>を参照してください。

1. メディアマネージャを開いて、**NetBootイメージの作成** をクリックします。
2. KACE SDAホスト名 に、アプライアンスのホスト名またはIPアドレスを入力します。
3. ソースメディアの名前 に、Mac OSバージョンを識別する名前を割り当てます。

プロセスにより、その名前がアプライアンスで一意であることが最初に検証されます。アプライアンスにすでに同じ名前を持つ NetBoot イメージがある場合は、エラーメッセージが表示され、NetBoot イメージ名を変更するように指示されます。プロセスは、指定されたイメージ名の検証に成功した後のみ、イメージの作成を続行できます。

4. ソースメディアパス で **参照** をクリックし、Mac OS Xのインストールソースメディアに移動し、アプライアンスにアップロードします。例：/Applications/Install OS X Yosemite.app
5. **OS X Mavericks.app**のインストール を右クリックしてから、**パッケージコンテンツの表示** をクリックします。
6. **コンテンツ > SharedSupport** に移動し、**InstallESD.dmg** をダブルクリックして、イメージをデスクトップにマウントします。

デスクトップに OS X Install ESD アイコンが表示されます。

7. NetBootパスワード にパスワードを入力し、パスワードの確認入力 にパスワードを再入力します。
8. **構築の開始** をクリックします。

NetBootイメージのアップロードが完了すると、イメージが作成され、ソースメディア ページと ブート環境 ページで使用できるようになります。

NetBootサーバを有効にし、その後、システムイメージをキャプチャします。このイメージは、アプライアンスイメージングユーティリティを使用して展開するために使用します。詳細については、「[Mac OS Xイメージのキャプチャ](#)」を参照してください。

# NetBootサーバーを有効にする

NetBootイメージを作成した後に、NetBootサーバーを有効にできます。ビルトインのNetBootサーバーは、Mac OS Xネットワークブートプロセスを有効にします。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定 ページ** を表示します。
2. **ブート環境オプション** で、Mac OS X Intel ( NetBoot ) ドロップダウンリストからNetBootイメージを選択します。

リストにはさまざまなOS Xバージョンのイメージが表示されることがあるので、該当するイメージを選択していることを確認します。1つのOS X NetBootイメージしか使用できない場合、そのイメージはデフォルトで選択されます。

**i** **ヒント:** ブート環境詳細 ページで NetBoot イメージの詳細を確認すると、デフォルト フィールドに、選択した NetBoot イメージがデフォルトのブート環境であるかが示されます。

3. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **ネットワーク設定** をクリックして **ネットワーク設定 ページ** を表示します。
4. NetBootサーバー ( Mac OS Xクライアント用 ) を有効にする **チェックボックス** をオンにします。

2つのBSDPフィールドボックスが表示されます。

5. デフォルトのBSDP設定を受け入れて、**保存** をクリックします。

**Mac Boot Service Discovery Protocol ( BSDP )** はDHCPの標準拡張で、Macのネットワークブートプロセスを有効にします。

6. Macデバイスで、システム環境設定 アイコンをクリックし、**起動ディスク** を選択します。次に、該当するアプライアンスネットワークを選択して、NetBootイメージで起動し、OSを再起動します。

アプライアンスイメージングユーティリティ **が表示されます。**

7. NetBootパスワードを入力します。

イメージをキャプチャします。

## キャプチャ実行前のイメージのカスタマイズ

展開用システムイメージとしてイメージをキャプチャする前に、ソースMacデバイスでイメージをカスタマイズできます。標準企業イメージが必要とするあらゆるシステム指定ではないアプリケーションおよびファイルを、イメージに追加できます。

1. 展開用システムイメージとしてイメージをキャプチャする前に、システム指定ではないアプリケーションおよびファイルをイメージに追加します。例：AcrobatまたはOracle®アプリケーションを追加します。
2. 企業ユーザー向けの展開用システムイメージに含めたくないAppleアプリケーション（例えば、GuitarBand® GameCenter）をすべて削除します。
3. ディスク領域を節約するために、/ApplicationsディレクトリにMac OS Xインストーラが存在する場合は削除します。例えば、/Applications/Install OS X Mavericks.appなどです。

展開用システムイメージとしてイメージをキャプチャします。

## Mac OS Xイメージのキャプチャ

アプライアンスイメージングユーティリティを使用すると、KACEシステム展開アプライアンスまたはRSAでネットワーク起動されたデバイスから、展開用のMacイメージをキャプチャできます。

複数のMacハードウェアデバイス間で使用できるシステムイメージをキャプチャできます。Mac OSイメージの最新のバージョンを使用します。古いバージョンを使用すると、Appleからの証明書が無効になっているため

に、エラーが発生することがあります。NetBoot環境とイメージを作成するデバイスで、日付を有効期限前の日付に変更できます。

1. ターゲットデバイスをNetBootイメージで起動し、アプライアンスイメージングユーティリティを表示します。
2. Dockでアプライアンスイメージングユーティリティのアイコンをダブルクリックします。
3. イメージキャプチャ を選択します。
4. イメージ名 に、アプライアンスのイメージを識別する名前を入力します。例えば、アプライアンス上のイメージをMacイメージとして識別するために、「ASR」または「DMG」と入力します。
5. キャプチャするボリュームを選択します。通常、ボリュームはMacintosh® HDです。
6. Macシステム指定イメージ形式でイメージをキャプチャするには、**Apple ASRフォーマットイメージのキャプチャ** を選択します。
7. **キャプチャの開始** をクリックします。
  - キャプチャプロセスでは、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールのシステムイメージページにイメージエントリが追加されます。イメージがRSAを使用してキャプチャされた場合は、リモートサイトコンソールにも追加されます。
  - アプライアンスはキャプチャされた各システムイメージにIDを割り当てます。

**i** **ヒント:** KACEシステム展開アプライアンスでキャプチャした各システムイメージまたはリンク先RSAには一意のIDがあります。これにより、リンク先（KACEシステム展開アプライアンス）またはリモート（RSA）アプライアンスでキャプチャしたすべての異なるシステムイメージを追跡し、それらを編集する際、任意のイメージを同期できます。特定のシステムイメージのIDを確認するには、システムイメージ ページでシステムイメージ名をマウスオーバーします。IDは左下隅に表示されます。

8. **OK** をクリックします。

キャプチャが終了しました プロンプトが表示されます。その後、アプライアンスにより、イメージがシステムイメージ ページに表示されます。
9. イメージを選択し、その後、プレインストールタスクとポストインストールタスクを割り当てて、タスクシーケンスを作成します。また、独自のタスクをシェルスクリプトに追加して、スクリプトをプレインインストールタスクまたはポストインストールタスクとして実行することもできます。

## 展開実行前のイメージのカスタマイズ

ビルトインのプレインストールタスクを使用してMac OS Xイメージをカスタマイズしたり、プレインストールタスクとして実行するシェルスクリプトに独自のカスタマイズを追加したりすることができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. 該当するMac OS Xイメージを選択して、システムイメージ詳細 ページを表示します。
3. インストールプラン セクションの 使用可能なプレインストールタスク で、実行する必要のあるすべてのタスクを 実行するプレインストールタスク セクションに移動します。

他のタスク（例えば、デバイス名を収集するタスク）を追加できます。必要な場合は、システムイメージ詳細ページで任意のタスクを編集することもできます。タスクを追加および編集する作業が完了したら、イメージを展開します。

# シングルHFS+パーティションの作成

disk0上でのシングルHFS+パーティションの作成 プレインストールタスクを割り当てることにより、APMまたはGPTフォーマットのいずれかを使用して、HFS+フォーマットでシングルパーティションを作成できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. タスクの追加先となるイメージを選択します。  
システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. インストールプラン > 使用可能なプレインストールタスク で、disk0上でのシングルHFS+パーティションの作成 タスクを実行するプレインストールタスク 列に移動します。
4. **保存** をクリックします。

# Mac OS X ByHost環境設定の適用

Mac OS X ByHost環境設定の適用 ポストインストールタスクを追加して、MacデバイスのByhostディレクトリに格納されているアプリケーション環境設定ファイルを削除できます。

ファイル名に含まれる数字は、デバイスのMACアドレスまたはシステムのUUIDです。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. タスクの追加先となるイメージを選択します。  
システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. インストールプラン > 使用可能な中レベルのタスク で、Mac OS X ByHost環境設定の適用 タスクを 中レベルのタスクを実行する 列に移動します。
4. **保存** をクリックします。

# Mac OS Xコンピューター名の収集

Mac OS Xコンピューター名の収集 プレインストールタスクを割り当てて、Mac OS Xデバイスの名前をキャプチャできます。Mac OS Xのコンピューター名の適用 ポストインストールタスクを割り当てることにより、ホスト名をMACアドレスに関連付けることができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. タスクの追加先となるイメージを選択します。  
システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. インストールプラン > 使用可能なプレインストールタスク で、Mac OS Xコンピューター名の収集 タスクを実行するプレインストールタスク 列に移動します。
4. **保存** をクリックします。

# Mac OS Xコンピューター名の適用

Mac OS Xのコンピューター名の適用 ポストインストールタスクを割り当てて、Mac OS Xコンピューター名の収集 プレインストールタスクを使用して収集した名前を適用できます。タスクを複製および保存して、別の展開用に修正および使用することもできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、**システムイメージ ページ**を表示します。
2. タスクの追加先となるイメージを選択します。  
システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. **インストールプラン > 使用可能な中レベルのタスク** で、**Mac OS Xのコンピューター名の適用** タスクを **中レベルのタスクを実行する** 列に移動します。
4. **保存** をクリックします。

# Mac OS Xコンピューター名の変更

例: コンピューター名の変更 Mac OS X ポストインストールタスクを割り当てて、Mac OS Xコンピューターの名前を変更できます。ビルトインの 例: コンピューター名の変更 Mac OS X ポストインストールタスクテンプレートを、カスタマイズしてから使用できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、**システムイメージ ページ**を表示します。
2. タスクの追加先となるイメージを選択します。  
システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. **インストールプラン > 使用可能なポストインストールタスク** で、**例: コンピューター名の変更 Mac OS X** タスクを **ポストインストールタスクの実行** 列に移動します。
4. **保存** をクリックします。

# Active Directoryドメインへのデバイスの参加

例: Active Directoryドメインへの参加 Mac OS X ポストインストールタスクを割り当てて、Mac OS XデバイスをActive Directoryドメインに参加させることができます。ビルトインの 例: Active Directoryドメインへの参加 Mac OS X ポストインストールタスクテンプレートを、カスタマイズしてから使用できます。

1. **展開** で、表示する展開を選択して、**システムイメージ詳細 ページ**を表示します。
2. タスクの追加先となるイメージを選択します。  
システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. **インストールプラン > 使用可能なポストインストールタスク** で、**例: Active Directoryドメインへの参加 Mac OS X** タスクを **ポストインストールタスクの実行** 列に移動します。
4. **保存** をクリックします。

# ユニキャストMac OS Xイメージ展開の実行

ユニキャスト展開の場合、アプライアンスのイメージングユーティリティを使用して、Mac OS Xイメージをキャプチャし、アプライアンスと同じサブネット上に存在するデバイスに展開できます。リモートサイトアプライアンス（RSA）をKACEシステム展開アプライアンスにダウンロードすると、別のサブネット上のデバイスにイメージを展開できます。

1. ターゲットデバイスをNetBootイメージで起動し、アプライアンスのイメージングユーティリティを表示します。
2. Dock内で イメージングユーティリティ アイコンをクリックして、アプリケーションを起動します。
3. イメージの展開 をクリックします。
4. イメージ名 ドロップダウンリストからイメージを選択します。
5. 展開の開始 をクリックします。

## すべてのスクリプト用の環境変数

Quest KACEは、NetBoot環境のハードウェアドライブのフルパスにアクセスしたり、デバイスドライブのベース名にアクセスしたりするために、タスクエンジンで利用できる環境変数を提供します。

Quest KACE環境変数：

- `$KACE_SYSTEM_DRIVE_PATH`: /Volumes/SomeDriveなど、NetBoot環境のハードウェアドライブのフルパスにアクセスします。
- `$KACE_SYSTEM_DRIVE_NAME`: システムドライブのベース名。上記の例では、/Volumes/SomeDriveのSomeDriveです。

## マルチキャストMac OS Xイメージ展開の実行

ネットワーク設定がマルチキャストルーティングをサポートしている場合は、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールからマルチキャストMac OS Xイメージ展開を実行できます。アプライアンスは、El Capitan、Yosemite、Mavericks、Mountain Lion、およびLionのシステムイメージのバージョン10.11、10.10、10.9、10.8および10.7のマルチキャスト展開をサポートします。展開を開始するブートアクションを割り当てることができます。アプライアンスイメージングユーティリティからのマルチキャスト展開は、ブートアクションを開始できません。マルチキャスト展開でサポートされているのは、シングルパーティションイメージだけです。

Mountain Lionの場合、ソースメディアをDVDにコピーできます。詳細については、<http://www.itninja.com/question/how-to-create-mac-dvd-for-mountain-lion-10-8-for-k2000-netboot>を参照してください。

# マルチキャストDMGイメージの展開の作成

ブートアクションを作成して、Mac OS X DMGイメージの展開を、次のネットワーク起動時に開始できます。ターゲットデバイスはアプライアンスと同じネットワーク上に存在する必要があります。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **自動展開** をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. 名前 で、ブートアクションを選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。
3. 次回のネットワーク起動時にイメージを展開するには、オプション で **次のブートで実行する** を選択します。

**DMGイメージ用のマルチキャスト展開を、後で実行するようにスケジュールすることはできません。**

4. オプション : タイプ で、マルチキャスト を選択して、**高度な設定の表示** をクリックします。
  - 接続の「受信準備完了」状態待機のタイムアウト でタイムアウト値を増やして、ターゲットデバイスがネットワーク起動するのに許容される時間を長くします。デフォルトは10分です。
  - 伝送速度 で、伝送の信頼性を高めるために、伝送速度をデフォルトの8 MBからより低い値に設定します。

マルチキャスト設定の詳細については、[デフォルトマルチキャスト設定の編集](#)を参照してください。

5. デバイス で、1つ以上のMACアドレスを入力して、インベントリに存在しないデバイスを追加し、次へ をクリックします。
6. **保存** をクリックします。
7. 次のオプションのいずれかを使用して、デバイスを再起動します。
  - デバイスの電源がオンの場合: システム環境設定 で、**起動ディスク** を選択し、次に、**KACE NetBoot 環境** を選択します。
  - デバイスの電源がオンでない場合: デバイスの電源をオンにしてOptionキーを押し、**KACE NetBoot 環境** をクリックします。

展開の進行状況を確認できます。詳細については、「[Mac OS Xマルチキャスト展開の進行状況の表示](#)」を参照してください。

## Mac OS Xマルチキャスト展開の進行状況の表示

マルチキャスト展開のステータスと展開のために実行しているタスクの進行状況を、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールの **進行状況**、**自動展開** ページで表示できます。

ターゲットデバイスでのマルチキャスト展開のステータスは表示できません。

1. 左側のナビゲーションペインで、**進行状況** をクリックし、次に **自動展開** をクリックして、自動展開の進行状況 ページを表示します。
2. ブートアクションを選択して、ブートアクションの詳細 ページを表示します。
3. デバイス で、デバイスのMACアドレスの隣の **詳細** をクリックして、実行中のタスクの進行状況を表示します。

完了したマルチキャストMacイメージ展開の成功または失敗を、**監査ログ** > **自動展開** ページで表示できます。



注: 展開が失敗した場合、展開が失敗したデバイスに対してイメージを個別に再展開します。

## Mac OS Xマルチキャスト展開のログファイルの表示

Mac OS Xマルチキャスト展開のログファイルを表示できます。

1. 左側のナビゲーションペインで **設定** をクリックし、次に **アプライアンスログ** をクリックして **アプライアンスログ ページ** を表示します。
2. SDAサーバで、**マルチキャストログ** をクリックしてマルチキャスト展開のログファイルを表示します。

# リモートサイトアプライアンスについて

リモートサイトアプライアンス (RSA) は、ローカルブートサーバーとして機能し、リモートサイトへの展開用にデバイスのネットワーク起動を可能にします。イメージをRSAとの間で同期したり、RSAにアップロードしたりできます。また、RSAからシステムイメージやユーザープロファイルをキャプチャすることもできます。

RSAはKACEシステム展開アプライアンスから直接インストールできます。また、KACEシステム展開アプライアンスに同梱されているライセンスキーを使用してRSAをリンクすることもできます。RSAをKACEシステム展開アプライアンスにリンクすると、RSAはアプライアンスの管理者コンソールから利用できるようになります。ライセンスキーを使用してインストールできるRSAの数に制限はありません。

KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールの **リモートサイト** タブを使用すると、アプライアンスをRSAに同期して、リモートサイトに展開するコンポーネントにアクセスできます。例えば、ブート環境、タスク、ドライバ、およびキャプチャしたユーザープロファイルを同期できます。

## リモートサイトアプライアンスセットアップの要件

RSAは、RSAに割り当てることができる未割り当てのIPアドレスと、VMware ESXi™、VMware vSphere®、Microsoft® Windows® Hyper-Vなどの、VMware®またはHyper-V®ホストソフトウェアを必要とします。RSAを設定できるDHCPサーバーのスコープを使用することにより、デバイスをRSAにネットワーク起動できます。ネットワーク起動できないデバイスでは、起動可能なISOファイルまたはUSB KACEブート環境 (KBE) が必要になります。起動DVDを使用するときは、オプション066または244を使用してアプライアンスを認識できるようにする必要があります。

### RSAセットアップの要件

#### RSAセットアップの要件

| 要件                | 説明                                                            |
|-------------------|---------------------------------------------------------------|
| KACEシステム展開アプライアンス | アプライアンスをインストールおよび設定して、RSAをダウンロードします。                          |
| RSAライセンス          | Quest KACEから送付されたのと同じアプライアンスライセンスキーを使用します。                    |
| 仮想マシンホスト          | 「RSAホストのシステム要件」を参照してください。                                     |
| ネットワーク設定          | RSAに静的IPアドレスとオプションでホスト名を割り当てます。<br>RSAデータをRSAまたは仮想ディスクに保存します。 |

| 要件           | 説明                                                                                                                    |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オプション : LDAP | LDAPサーバーのIPアドレスまたはホスト名を使用します。                                                                                         |
| ネットワーク起動設定   | Windowsデバイスの場合: リモートDHCPスコープ上のRSAにネットワーク起動を指示するDHCPサーバーを指定。<br>Macデバイスの場合: リモートデバイスからのMac BSCP要求をRSAに指示するNetBootサーバー。 |

#### RSAホストのシステム要件

RSAホストとなるリモートサイトのデバイスは、推奨される要件を満たす必要があります。詳細については、『仮想アプライアンスの技術仕様』を参照してください。

## ホストデバイスへのRSAのインストール

RSAは、仮想ホストソフトウェアがインストールされているホストデバイスにインストールできます。ただし、同じサブネット上に他のRSAが存在しない場合にのみインストールできます。

RSAをホスティングするリモートサイトのデバイスに、サポートポータルからRSAインストールパッケージをダウンロードします。

VMware®、Microsoft® Windows® Hyper-V®、またはNutanixホストにRSAをインストールする方法の詳細については、該当するセットアップガイドを参照してください。他のホストソフトウェアでアプライアンスファイルを開く方法については、VMware、Windows、またはNutanixのマニュアルも参照してください。

コンソールから、RSAネットワーク設定を構成します。

## RSAのネットワーク設定の構成

ブラウザを開いて初期設定コンソールにアクセスして、RSAにIPアドレスとホスト名を設定できます。

RSAでは、SSHはデフォルトで有効になっており、無効にすることができません。

1. VMwareホストソフトウェアで、RSAの電源をオンにして、RSAを起動します（再起動は5〜10分ほどかかります）。その後、ネットワークの初期設定を続けます。
2. ログインプロンプトのログインとパスワードの両方に konfig と入力します。
3. 上矢印キーと下矢印キーを使用してフィールド間を移動して、ネットワーク設定を構成します。
4. 保存 が選択されるまで下矢印キーを押して、Enterキーを押します。

**RSAが再起動します。ネットワーク設定を構成します。**

5. 左側のナビゲーションペインで、設定 > コントロールパネル をクリックして コントロールパネル を表示し、次に ネットワーク設定 をクリックして ネットワーク設定 ページを表示します。
6. オンボードDHCPサーバーを有効にする チェックボックスをオンにします。

オンボードDHCPサーバーによって、ネットワークデバイスに特定の範囲のIPアドレスが割り当てられ、アプライアンスへのWindowsデバイス起動要求の転送が自動的にセットアップされます。

設定 > ユーザー認証 の順に移動して、RSAでLDAP認証をセットアップします。RSAとアプライアンスはユーザーを別々に管理するため、アプライアンスのユーザーに対してはアクセスを許可し、RSAのユーザーに対してはアクセスを拒否することができます。

# KACEシステム展開アプライアンスのRSAへのリンク

アプライアンスをリモートサイトアプライアンス (RSA) にリンクすると、KACEシステム展開アプライアンスはRSAに対応できるようになります。したがって、リンクを使用すると、リンク先アプライアンス間でユーザー名とパスワードが一致すれば、同一のセッションからRSAとKACEシステム展開アプライアンスにアクセスできます。

ほとんどの場合、インストール時にRSAをKACEシステム展開アプライアンスにリンクできます。ただし、RSAで構成をクリアして、KACEシステム展開アプライアンスを認識しなくなった場合は、この手順を使用してRSAにリンクします。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **KACEリンク** をクリックして KACEリンク ページを表示します。
2. **KACEリンクを有効にする** をクリックして、接続設定を表示します。
3. **ホスト名** で、このアプライアンスの固有のロジカルネームを入力します。アプライアンスがリンクされている場合、この名前がページの右上隅にあるドロップダウンリスト (ログイン情報の隣) に表示されます。
4. **リモートログインの有効期限** に、リンクを開いたままにする期間を分単位で入力します。この期間が終了した後にリンク先アプライアンスに切り替える場合は、ログイン資格情報を入力します。デフォルトは120分です。
5. **要求タイムアウト** に、リンク先アプライアンスがリンク要求に応答するまで、このアプライアンスが待機する時間を秒単位で入力します。デフォルトは10秒です。
6. **保存** をクリックして、KACEリンクキーフィンガープリント フィールドと KACEリンクキー (このサーバー) フィールドを表示します。
7. **名前** フィールドのテキストと **キー** フィールドのテキストをコピーして、メモ帳ファイルなどの中央的な場所に貼り付けます。

メモ帳に貼り付けるテキストは、1つのアプライアンスの **名前** および **キー** からコピーして、別のリンク先アプライアンスの対応するフィールドに貼り付けるテキストです。

8. リンク先の各RSAで、上記の手順を繰り返します。

複数のKACEシステム展開アプライアンスをリンクすることもできます。詳細については、「[アプライアンスリンクの有効化](#)」を参照してください。

RSAを **リモートサイト** タブに追加して、RSAに同期するコンポーネントを設定します。

## RSA 用のデフォルトの KBE の設定

リモートサイトアプライアンス (RSA) 用のデフォルトの KACE ブート環境 (KBE) を設定できます。

RSA 用のデフォルトの KBE を選択すると、それが **リモートサイト詳細** ページの **ブート環境** に表示されます。このページの詳細については、関連するヘルプページを参照してください。

**i** **注:** また、リンクされているアプライアンス用にもデフォルトのKBEを設定できます。詳細については、「[新しい KBE をアプライアンスのデフォルトとして設定](#)」を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **リモートサイト設定** をクリックして **リモートサイト設定** ページを表示します。
2. デフォルトの RSA ブート環境で、必要に応じて、各 OS アーキテクチャ用のデフォルトの KBE を選択します。
3. **保存** をクリックします。

# RSA設定の確認

RSAをKACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールに追加して、リモートサイトに展開するコンポーネントを同期できます。RSAは1台のKACEシステム展開アプライアンスに対してのみリンク相手となることができますが、KACEシステム展開アプライアンスに追加できるRSAの数に制限はありません。

スクリプト形式のインストール、システムイメージ、ブート環境、およびユーザープロファイルをRSAに同期できます。

リンクされたRSAをKACEシステム展開アプライアンスと同期すると、アプライアンス上のすべてのユーザープロファイルがKACEリモートアプライアンス管理者コンソールのユーザープロファイルリストページにも表示されます。個々のユーザープロファイルの内容を確認する場合、該当するフィールドとログの内容を編集できるのは、ローカルでキャプチャされたユーザープロファイルだけで、リンクされたアプライアンスでキャプチャされたユーザープロファイルには適用できません。RSA上でキャプチャされたユーザープロファイルをエクスポートできます。

展開で使用するプレインストールタスクおよびポストインストールタスクは依存関係とみなされ、自動でRSAにプッシュされます。



**注:** RSA同期は、オフボードストレージの移行中は使用できません。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **リモートサイト** をクリックして、リモートサイトアプライアンス ページを表示します。
2. リモートサイトアプライアンス ページで、設定を確認するRSAの **ホスト名** 列をクリックします。
3. リモートサイト詳細 ページで **ブート環境** まで下にスクロールします。リモートデバイスをRSAでネットワーク起動し、RSA設定をテストするために、**ブート環境** を同期します。次に、RSAに同期する必要がある他のコンポーネントを選択します。

このセクションで無効になっているチェックボックスは追加または削除できないコンポーネントを表しています。例えば、チェックボックスが無効であることを示しているため特定のブート環境を削除できないのは、同期されたイメージがデフォルトでその環境を必要とするためです。

4. スクリプト形式のインストール、システムイメージ、およびユーザープロファイル にリストされたオプションを確認し、展開するコンポーネントのみが選択されていることを確認します。
  - KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールでこのページを表示すると、KACEシステム展開アプライアンスではなくRSAによってキャプチャされたシステムイメージがシステムイメージ にリストされますが、これらのオプションは無効になっています。これは、これらのイメージが既にRSAに存在し、KACEと同期しているオプションをクリアしただけでは削除できないためです。
  - 関連するKACEシステム展開アプライアンスによってキャプチャされたすべてのイメージがリストに表示され、必要に応じて選択またはクリアできます。
5. 依存関係 まで下にスクロールします。ここでリストされたオプションを確認し、展開するコンポーネントのみが選択されていることを確認します。

例えば、このセクションでは **USMTツールキット オプション**が無効になっています。USMTツールキットを使用すると、ユーザープロファイルをキャプチャできます。RSAとKACEシステム展開アプライアンスを同期させ、KACEシステム展開アプライアンスにUSMTツールキットがアップロードされると、USMTツールキットがRSAに追加され、ユーザープロファイルをキャプチャできます。このオプションはクリアできません。KACEシステム展開アプライアンスにUSMTツールキットをアップロードする方法の詳細については、「[メディアマネージャからのUSMTソフトウェアのアップロード](#)」を参照してください。

6. RSAのバージョンがKACEシステム展開アプライアンスのバージョンと一致するかどうかを確認し、必要に応じてアップグレードします。

- a. リモートサイトのアップグレード に表示される詳細を確認します。
  - ステータスをアップグレードする：RSAが最新かどうかを示します。
  - 現在のバージョン：現在のRSAバージョンを表示します。
  - 前回のチェック：RSAバージョンがチェックされた日時が表示されます。
  - ライセンスの同期：RSAライセンスが、関連付けられたKACEシステム展開アプライアンスで指定されたライセンスと一致するかどうかを示します。
- b. RSAのバージョンを確認するには、リモートサイトのバージョンの確認 をクリックします。
- c. RSAを最新バージョンにアップグレードするには、リモートサイトのアップグレード をクリックします。

**i** **ヒント:** リモートサイトアプライアンスページでリストから1つまたは複数のアプライアンスを選択し、アクションの選択 > アップグレードを選択することによって、1つまたは複数のRSAをアップグレードすることもできます。

- d. リンク先のKACEシステム展開アプライアンスライセンスをRSA（該当する場合）と同期するには、ライセンスの同期 をクリックします。

**i** **ヒント:** リストで1つまたは複数のアプライアンスを選択し、アクションの選択 > ライセンスの同期を選択することによって、リモートサイトアプライアンスページでライセンスを同期することもできます。同様に、1つまたは複数のRSAのデータを、関連付けられたKACEシステム展開アプライアンスのデータと同期するには、アクションの選択 > データの同期を選択します。

7. このページの設定を変更した場合は、保存して同期する をクリックします。

以下の場合、保存して同期する は無効になります。

- オフボードストレージの移行が進行中の場合。
- RSAおよびリンクされたKACEシステム展開アプライアンスに一致するライセンスがない場合。有効にするには、リモートサイトのアップグレード でライセンスの同期 をクリックします。ライセンスが正常に同期されたら、保存して同期する をクリックします。リモートサイトアプライアンス リストページで、複数のRSAのライセンスを同期することもできます。これを行うには、リストでそれらを選択し、アクションの選択 > ライセンスの同期 をクリックします。
- RSAがリンク先KACEシステム展開アプライアンスと同じバージョンではない場合。更新するには、リモートサイトのアップグレード をクリックします。RSAが正常にアップグレードされたら、保存して同期する をクリックします。リモートサイトアプライアンスリストページで複数のRSAをアップグレードすることもできます。これを行うには、リストでそれらを選択し、アクションの選択 > アップグレード をクリックします。

同期が完了するまで、RSAはロックされます。

## 次の手順

新たに追加したRSAを使用すると、システムイメージのキャプチャまたは展開、ユーザープロファイルのスキヤンとUSMTテンプレートの作成、ブートアクションの作成、またはシステムイメージを含むパッケージのインポート/エクスポートができます。

詳細については、次のトピックをお読みください。

- システムイメージのキャプチャ
- Mac OS Xイメージのキャプチャ
- システム展開へのタスクの割り当て
- イメージの手動展開
- ユーザープロファイルのスキャン
- USMTスキャンテンプレートの作成
- アプライアンスコンポーネントのインポートとエクスポート



**ヒント:** 特定のRSAに割り当てられたブートアクションも使用できます。詳細については、「[ブートアクションの作成](#)」を参照してください。

# アプライアンスコンポーネントのインポートとエクスポート

パッケージングを使用することにより、ドライバ、ネットワークインベントリ、ブート環境、およびタスクなどのKACEシステム展開アプライアンスまたはリモートサイトアプライアンス（RSA）コンポーネントを、別のネットワーク上の場所または別のアプライアンスまたはRSAとの間でインポートおよびエクスポートすることができます。

**i** **重要:** RSAからはシステムイメージのみインポートおよびエクスポートできます。RSAからインポートまたはエクスポートされたシステムイメージに含まれているタスクは削除されます。

コンポーネントをインポートおよびエクスポートする場合、アプライアンスはパッケージをアプライアンスのrestore共有ディレクトリから取得します。パッケージを作成すると、.pkgファイルには、パッケージのメタデータが格納されたindex.xmlファイルが含まれます。パッケージファイルは、`\appliance_host_name\restore`共有ディレクトリに保存されます。

パッケージは、ディスク全体のイメージまたはオペレーティングシステム全体が格納されるので、サイズが非常に大きくなることがあります。パッケージファイルをアプライアンスから他のネットワーク上の場所に保存したりコピーしたりするときは、まとめて行ってください。

## コンポーネントのエクスポートのスケジュール

コンポーネントのパッケージを作成してアプライアンスまたはRSAのrestoreディレクトリに格納すると、コンポーネントをアプライアンスまたはリモートサイトアプライアンス（RSA）から定期的にエクスポートするスケジュールをセットアップできます。

データベースはエクスポートできますが、データベースを再インポートしてアプライアンスに戻すことができるのはQuest KACEテクニカルサポートチームだけです。

**i** **重要:** RSAからエクスポートできるのはシステムイメージのみです。RSAからエクスポートされたシステムイメージに含まれるすべてのタスクは削除されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **パッケージ管理** をクリックして **パッケージ管理** ページを表示します。
2. **SDAパッケージのエクスポート** をクリックして、**エクスポートリスト** ページを表示します。
3. 定期的にエクスポートするコンポーネントを選択します。
4. **アクションの選択** > **選択内容のエクスポートのスケジュール** を選択して、エクスポートのスケジュールページを表示します。
5. エクスポートを実行する日付と時刻を選択します。
6. **保存** をクリックします。

ジョブが、**パッケージ管理キュー** ページのキューに表示され、指定した時刻に実行されます。

**i** **注:** ジョブをキューから削除すると、エクスポートリスト ページのスケジュールからも削除されます。

# オフボードパッケージ転送の使用

オフボードパッケージ転送機能を使用して、アプライアンスまたはリモートサイトアプライアンス（RSA）のrestoreディレクトリにエクスポートされているパッケージをリモートのFTP/SFTPサーバまたはSambaファイル共有に自動で転送できます。転送で使用するディレクトリを指定できます。転送プロセスは、リモートサーバー上にそのディレクトリを作成し、すべての.xmlファイルおよび.pkgファイルを/Path/data\_<timestamp>命名規則を使用してその場所にコピーします。また、転送済みのファイルをrestoreディレクトリから削除することもできます。



**注:** オフボードパッケージ転送の進行中はパッケージをインポートできません。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **パッケージ管理** をクリックして **パッケージ管理** ページを表示します。
2. **オフボードパッケージ転送** をクリックして、オフボードパッケージ転送 ページを表示します。
3. **オフボードパッケージ転送を有効にする** をクリックして、転送の詳細を設定します。

| オプション             | アクション                                                                                               |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実行のスケジュール         | 転送の間隔と時刻を選択します。                                                                                     |
| オフボードパッケージ転送プロトコル | どのファイル転送プロトコルを使用してリモートサイトにファイルを配置するかを選択します。SFTPプロトコルを使用する場合は、ファイルサーバーで明示的にパスワードベースの認証を有効にする必要があります。 |
| オフボードパッケージ転送サーバ   | ファイルの転送先となるデバイスのホスト名またはIPアドレスを入力します。                                                                |
| パスまたは共有名          | 転送用のディレクトリのパスまたは共有名を入力します。Samba共有名をスラッシュもバックスラッシュも使用せずに入力します。                                       |
| ユーザー名             | アプライアンスで使用するユーザー名を入力します。リモートサイトへの書き込み権限を持つユーザー名を入力します。                                              |
| ユーザーパスワード         | リモートサイトへのアクセスに必要なパスワードを入力します。                                                                       |
| 復元のクリーンアップ        | 転送が正常に完了した後に、アプライアンスまたはRSA上のrestore共有ディレクトリからファイルを自動的に削除します。                                        |

4. **保存** をクリックします。

ジョブが、パッケージ管理キュー ページのキューに表示され、指定した時刻に実行されます。



**注:** ジョブをキューから削除すると、エクスポート ページのスケジュールからも削除されます。

左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックし、次に **アプライアンスログ** をクリックしてセクションを展開します。次に、**スケジュール済みアクションサーバー** をクリックし、**出力ログ** を選択して転送結果を表示します。

# インポート対象のパッケージのアップロード

外部デバイスまたはサーバに格納されているパッケージを、KACEシステム展開アプライアンスまたはリモートサイトアプライアンス (RSA) のrestoreディレクトリにアップロードし、その後、そのパッケージをアプライアンスにインポートできます。

1.5 GBより大きなパッケージをインポートするには、まず、\\[appliance|RSA]\_host\_name\restore共有ディレクトリにパッケージを配置します。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **パッケージ管理** をクリックして **パッケージ管理** ページを表示します。
2. 次の手順のいずれかを実行します。
  - **パッケージ管理** ページで、**パッケージのアップロード** をクリックします。
  - **パッケージ管理** ページで、表示される **インポートリスト** ページの **KACE SDA パッケージのインポート** をクリックし、**アクションの選択 > インポート対象のパッケージのアップロード** を選択します。
3. **パッケージのインポート** ページで、**ファイルの選択** をクリックし、インポートする .pkg ファイルを指定するか、指定された領域にそのままファイルをドロップします。
4. **パッケージのインポート** をクリックします。

アプライアンスにより、コンポーネントのコピーがライブラリに追加されます。

パッケージにドライバが含まれている場合は、ドライバを再キャッシュします。左のナビゲーションペインで、**ライブラリ**、**ドライバ** の順にクリックし、**アクションの選択 > ドライバの再キャッシュ** を選択して、**ドライバの管理** ページを表示します。

# アプライアンスコンポーネントのインポート

別の場所または別のアプライアンスに格納されているコンポーネントを直接インポートすることも、リモートサイトアプライアンス (RSA) にインポートすることもできます。ただし、コンポーネントを含むパッケージのサイズが1.5 GB未満の場合に限ります。

データベースをエクスポートした場合、データベースを再インポートしてアプライアンスに戻すことができるのはQuest KACEテクニカルサポートチームだけです。



**重要:** RSAにインポートできるのはシステムイメージのみです。RSAにインポートされたシステムイメージに含まれるすべてのタスクは削除されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **パッケージ管理** をクリックして **パッケージ管理** ページを表示します。
2. **SDAパッケージのインポート** をクリックして、**インポートリスト** ページを表示します。
3. インポートするパッケージの隣のチェックボックスをオンにします。
4. **アクションの選択 > 選択内容をインポート** を選択します。

インポートプロセスが開始されます。インポート操作は、必ず、いずれのパッケージまたはデータベース設定の変更よりも前に完了してください。



**注:** パッケージ内のコンポーネントのサイズと個数により、インポートプロセスが完了するまで数分から数時間かかることがあります。イメージのインポート処理は、イメージのエクスポート処理よりも長くかかります。イメージをエクスポートすると、アプライアンスはそのイメージに関連するすべてのファイルを見つけて、1つの.pkgファイルにパッケージ化します。このプロセスを取り消すと、イメージファイルがアプライアンスイメージストアに対してチェックされ、新しいファイルだけがアップロードされていることが確認されます。

パッケージ管理 > インポートリスト ページに新しいコンポーネントが表示されます。

## エクスポート対象のコンポーネントのパッケージ

ドライバ、ネットワークインベントリ、ブート環境、およびタスクなど、アプライアンスに格納されているコンポーネントを、別のネットワーク上の場所にエクスポートできます。また、システムイメージとユーザープロフィールをリモートサイトアプライアンス (RSA) からエクスポートすることもできます。この機能は、コンポーネントをバックアップおよび復元するのに役立ちます。



**重要:** RSAからエクスポートできるのはシステムイメージとユーザープロフィールのみです。RSAからエクスポートされたシステムイメージに含まれるすべてのタスクは削除されます。

データベースはエクスポートできますが、再インポートすることはできません。アプライアンスからコンポーネントをエクスポートする処理は内部タスクにより実行されるので、ドライバの再キャッシュ、スクリプト形式のインストールの作成、またはブート環境の再構築など他の内部タスクと並行して実行することはできません。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **パッケージ管理** をクリックして **パッケージ管理** ページを表示します。
2. **SDAパッケージのエクスポート** をクリックして、**エクスポートリスト** ページを表示します。
3. 同時に選択するコンポーネントの数は少なくしてください。そうしないと、エクスポートが完了しないことがあります。

緑色のパッケージは、そのままではエクスポートできません。エクスポートするには、パッケージのバージョン番号を変更し、ドライバを再キャッシュして、パッケージへの変更箇所を保存します。

選択したエクスポートアイテムは圧縮されて、`\[appliance|RSA]_hostname\restore` 共有ディレクトリに保存されます。選択したコンポーネントごとに、.pkgファイルが作成されます。



**注:** エクスポートの進行中に、ネットワーク、セキュリティ、または日付と時刻の設定を変更すると、アプライアンスが再起動し、エクスポートプロセスが停止して、エクスポート機能がロックされます。

4. **アクションの選択 > 選択内容をエクスポート** を選択します。

エクスポートが完了していることを確認してから、次のエクスポートを選択してください。

パッケージングプロセスが開始されます。パッケージのエクスポートは、ファイルのサイズにより、数分で完了することもあれば、数時間かかることもあります。各エクスポートが完了すると、ステータス列に完了したことが表示されます。



**注:** 各コンポーネントの隣のステータス列に完了しましたまたはエクスポートしていますが表示され、右上隅の現在: ステータスにアイドルが表示される場合は、Quest KACEテクニカルサポートに問い合わせ、tetherを通してアプライアンスにアクセスし、エラーを解消するように依頼してください。

エクスポートされたパッケージのサイズはアプライアンス上でのサイズより小さく、ファイルエクスポートの圧縮およびパッケージの添付ファイルによってサイズが異なる場合があります。

# パッケージファイル名

KACEシステム展開アプライアンスまたはリモートサイトアプライアンス（RSA）のコンポーネントを、パッケージにインポートまたはエクスポートできます。次の構文規則が、パッケージファイル名に適用されます。特定のコンポーネントを迅速に見つけることができるように、アプライアンスのパッケージをインポートまたはエクスポートするときには、これらのガイドラインに従います。

| ファイルの内容           | ファイル名                                                                   |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| プレインストールタスク       | 構文：PR<ID><Unix_time_stamp>_<microseconds><br>例：PR33_1519839187_5248.pkg |
| 中レベルのインストールタスク    | 構文：MI<ID><Unix_time_stamp>_<microseconds><br>例：MI26_1519792380_3567.pkg |
| ポストインストールタスク      | 構文：PO<ID><Unix_time_stamp>_<microseconds><br>例：PO17_1519831620_4922.pkg |
| データベースパッケージ       | 構文：DB<ID><Unix_time_stamp>_<microseconds><br>例：DB12_1519822800_1546.pkg |
| KImage            | 構文：KI<ID><Unix_time_stamp>_<microseconds><br>例：KI56_1519827865_4213.pkg |
| スクリプト形式のインストール    | 構文：SI<ID><Unix_time_stamp>_<microseconds><br>例：SI59_1519834064_2984.pkg |
| ドライバパッケージ         | 構文：DR<ID><Unix_time_stamp>_<microseconds><br>例：DR15_1519823348_3284.pkg |
| ネットワークインベントリパッケージ | 構文：NI<ID><Unix_time_stamp>_<microseconds><br>例：NI36_1519814733_1976.pkg |
| カスタム展開            | 構文：CU<ID><Unix_time_stamp>_<microseconds><br>例：CU88_1519794461_5889.pkg |
| ブート環境             | 構文：BE<ID><Unix_time_stamp>_<microseconds><br>例：BE52_1519798711_2802.pkg |
| ネットワークスキャン        | 構文：NS<ID><Unix_time_stamp>_<microseconds><br>例：NS37_1519818962_3011.pkg |
| ユーザー状態            | 構文：US<ID><Unix_time_stamp>_<microseconds><br>例：US27_1519805822_2846.pkg |
| タスクグループ           | 構文：TG<ID><Unix_time_stamp>_<microseconds><br>例：TG16_1519811097_1390.pkg |

| ファイルの内容                       | ファイル名                                                                       |
|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| USMT (ユーザー状態移行ツール) スキャンテンプレート | 構文 : ST<ID><Unix_time_stamp>_<microseconds><br>例 : ST39_1519808167_5225.pkg |

# ディスク容量の管理

アプライアンスのダッシュボードで、ディスク使用率円グラフを表示して、アプライアンスで使用可能なストレージ領域を検証できます。アプライアンスのデータをオフボードストレージデバイスに移行して、仮想アプライアンスまたはリモートサイトアプライアンス（RSA）に保存されたデータを追加の仮想ディスクに移行することで、ディスク領域を解放できます。また、不要なイメージ、ブート環境、ソースメディア、およびタスクを削除することもできます。

## 使用可能なディスク容量の確認

アプライアンスがパフォーマンスを最大に発揮するには、約20%の空き領域が必要です。ダッシュボードのディスク使用率円グラフで、使用可能なディスク領域を検証できます。

1. KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールにログインします。
2. 左側のナビゲーションペインで、ホーム > ダッシュボード を選択します。

ディスク使用率に、ストレージ情報の円グラフビューが表示されます。この円グラフビューは、ストレージがオフボードの場合、10分および60分ごとに更新されます。

3. ディスク使用率円グラフの任意のセクションをマウスでポイントすると、コンポーネントで使用可能なディスク領域の割合が表示されます。

## デバイスに関連付けられていないイメージの削除

アプライアンスから起動されたライセンス済みデバイスに関連付けられていないシステムイメージ、およびキャプチャ後に置換されたイメージを削除できます。

不要なシステムイメージファイルを削除する前に、システムイメージのバックアップを検討してください。詳細については、「[コンポーネントのエクスポートのスケジュール](#)」を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に アプライアンスのメンテナンス をクリックして アプライアンスのメンテナンス ページを表示します。

**i** **注:** アプライアンスは、ライセンスが最新の場合にのみアップデートできます。ライセンスの有効期限が切れると、ページ上部にライセンスを更新するよう指示するメッセージが表示されます。このページのライセンスのメンテナンスステータスフィールドには、ライセンスの状態が示されます。ライセンスを更新するには、KACEの営業担当者から新しいキーを入手し、登録とライセンスページで更新します。1つ以上のリモートサイトアプライアンス（RSA）がこのアプライアンスに関連付けられている場合は、同期後に新しいライセンスキーがこれらのRSAで自動的に更新されます。

2. ユーティリティ、不要なシステムイメージファイルの削除 で、削除 をクリックします。

アプライアンスにより、不要なシステムイメージファイルがすべて、ファイルサーバから削除されます。

選択したアイテムがアプライアンスから永続的に削除され、使用可能なディスク領域がダッシュボードページに表示されます。

# デバイスに関連付けられたイメージの削除

古くなった、サイズの大きい、または無効なシステムイメージを削除することで、ディスク領域を解放できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. 削除するアイテムを選択します。
3. **アクションの選択 > 削除** の順に選択します。

選択したアイテムがアプライアンスから永続的に削除され、使用可能なディスク領域が **ダッシュボード** ページに表示されます。

# 未割り当てのスクリプト形式のインストールの削除

オペレーティングシステムのタイプが古くなった場合や、環境内で不要になった場合は、スクリプト形式のインストールを削除します。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **スクリプト形式のインストール** をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
2. 削除するアイテムを選択します。
3. **アクションの選択 > 削除** の順に選択します。

選択したアイテムがアプライアンスから永続的に削除され、残りのディスク領域が **ダッシュボード** ページに表示されます。

# 未割り当てのブート環境の削除

新しいKACEブート環境 (KBE) またはNetBoot環境を構築すると、以前のブート環境がアプライアンスに残ります。これらの累積したブート環境は削除できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **ブート環境** をクリックして、ブート環境 ページを表示します。
2. 削除するアイテムを選択します。
3. **アクションの選択 > 削除** の順に選択します。

ブート環境は、ブート環境 ページから削除されますが、アプライアンスデータベースに残ります。ブート環境は、ソースメディア ページから永久に削除できます。

# ソースメディアの削除

使用しなくなったアプライアンスのソースメディアを削除することで、ディスク領域を解放できます。ブート環境に接続しているソースメディアは削除できません。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ソースメディア** をクリックしてソースメディア ページを表示します。
2. 削除するソースメディアの隣のチェックボックスをオンにします。
3. **アクションの選択 > 削除** の順に選択します。

選択したアイテムがアプライアンスから永続的に削除され、使用可能なディスク領域が **ダッシュボード ページ** に表示されます。

# 未割り当てのプレインストールタスクの削除

不要なプレインストールタスクを削除することにより、ディスク領域を解放できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **プレインストールタスク** をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. 削除するアイテムを選択します。
3. **アクションの選択 > 削除** の順に選択します。

選択したアイテムがアプライアンスから永続的に削除され、使用可能なディスク領域が **ダッシュボード ページ** に表示されます。

# 未割り当てのポストインストールタスクの削除

不要なポストインストールタスクを削除することにより、ディスク領域を解放できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **ポストインストールタスク** をクリックしてポストインストールタスク ページを表示します。
2. 削除するアイテムを選択します。
3. **アクションの選択 > 削除** の順に選択します。

選択したアイテムがアプライアンスから永続的に削除され、使用可能なディスク領域が **ダッシュボード ページ** に表示されます。

# オフボードストレージの有効化

物理アプライアンスに保存されたデータを外部ネットワーク接続ストレージ (NAS) デバイスに移動することで、アプライアンスのディスク領域を解放できます。また、仮想アプライアンスまたはリモートサイトアプライアンス (RSA) に保存されたデータを追加の仮想ディスクに移動することもできます。

オフボードストレージを有効にすると、内部ドライブから、イメージ、プレインストールタスクとポストインストールタスク、ユーザープロファイル、ソースメディア、ブート環境、およびドライバなどのすべてのデータが

オフボードストレージデバイスにコピーされます。データがアプライアンスに残った場合でも、展開アクティビティは、オフボードストレージデバイスを対象とします。

オフボードストレージデバイスに保存されたデータがオンボードストレージ容量を超えない場合、データをアプライアンスまたはRSAに移行できます。

## オフボードストレージ用の仮想ディスクの追加

仮想ディスクを追加して、仮想KACEシステム展開アプライアンスまたはリモートサイトアプライアンス（RSA）に保存されたデータを追加の仮想ディスクに移行することで、ディスク領域を解放できます。

アプライアンスの電源をオフにして仮想ディスクを追加した後、アプライアンスの電源をオンにします。

KACEシステム展開アプライアンスまたはRSAに仮想ディスクを設定するには、以下のことが必要です。

- 仮想ディスクの容量が250 GB以上であることを確認します。KACEシステム展開アプライアンスまたはRSAのオンボードストレージより少ないストレージ容量の仮想ディスクを使用することはできません。例えば、250 GBのオンボードデータがある場合、仮想ディスクには使用可能なストレージ容量が250 GB以上なければなりません。

- データ移行は、データ量やネットワーク速度によって数時間かかることもあるため、移行計画を立てます。移行中、KACEシステム展開アプライアンスまたはRSAは、使用できません。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **データストレージ** をクリックして **データストレージ** ページを表示します。
2. **オフボードストレージに変更** をクリックして、**データストレージの設定** を表示します。



- 仮想ディスクが追加されていない場合、または適切に接続されていない場合、データ移行を実行できません。
- 複数の仮想ディスクが接続されている場合は、接続されている仮想ディスクが1つだけになるよう、余分な仮想ディスクを削除します。データストレージの設定 ページに戻り、手順を再開します。

3. **デバイスの確認** をクリックします。

KACEシステム展開アプライアンスが、デバイスの到達可能性と設定可能性の確認を開始します。詳細の表示に確認のステータスが表示されます。

4. **移行** をクリックして、データをオフボードストレージにコピーします。

プログレスバーに進行状況が表示されます。

5. 移行が完了したら、**閉じる** をクリックします。

6. ストレージタイプが変更されていることを確認します。

エラーが発生した場合は、**設定** をクリックしてセクションを展開します。次に **アプライアンスログ** をクリックして **アプライアンスログ** ページを表示し、**データストレージの設定** ログを選択します。

## オフボードデータをオンボードストレージに戻す

オフボードストレージデバイスに保存されたデータがオンボードストレージ容量を超えない限り、データをアプライアンスまたはRSAに移行できます。アプライアンスは、データに対して十分な領域があるかどうかを検証し

ます。デバイス上のデータのサイズがアプライアンスの空き領域を超えている場合、オフボードデータは移行されません。

アプライアンスのデータストレージ容量に関する情報については、<http://documents.quest.com/kace-systems-deployment-appliance/technical-specifications-for-virtual-appliances/>を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **データストレージ** をクリックして **データストレージ** ページを表示します。
2. **オフボードストレージに変更** をクリックして、データストレージの設定ウィザードを表示します。
3. 次のいずれかの方法でオフボードデータをオンボードストレージに復元します。
  - **新しいデータをオフボードストレージデバイスに追加する。**
    - a. **オフボードストレージに移行する前に、アプライアンス上にあった元データに戻る** をクリックします。オンボードデータをオフボードストレージへ移行した後、オフボードストレージデバイス上に保存された新しいデータは失われます。
    - b. **次へ** をクリックし、**はい、オンボードストレージに戻ります** を選択します。
  - **新しいデータをオフボードストレージデバイスに追加しない。**
    - a. **データをオフボードストレージからアプライアンスにコピー** をクリックします。
    - b. **ストレージの空き領域を確認** をクリックします。

デバイスからデータを受け取るための十分な空き領域があるかどうかをアプライアンスが検証したら、移行を続行することを確認します。

- c. **移行** をクリックします。
- **RSAデータを仮想ディスクに移行する場合は、データを仮想ディスクに移行する前にRSAとアプライアンスを同期** します。

**i** **注:** オフボードストレージからオンボードストレージへの逆方向の移行中にRSAを再起動すると、RSAにアクセスできなくなります。

- a. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックして、**リモートサイト** をクリックし、**リモートサイトアプライアンス** ページを表示します。
- b. **RSA** を選択し、**アクションの選択 > 同期** を選択します。

## オフボードストレージデバイスの設定

外部ネットワーク接続ストレージ (NAS) デバイスを追加して、物理アプライアンスに保存されたデータを移行することで、アプライアンスのディスク領域を解放できます。データをオフボードストレージデバイスに移行すると、アプライアンスに保存されたデータにはアクセスできなくなります。

データ移行は、データ量やネットワーク速度によって数時間かかることもあるため、移行計画を立てます。データの移行中は、アプライアンスにアクセスすることはできません。

アプライアンスから使用できないデバイス固有の設定手順については、Webサイト<http://www.itninja.com/community/dell-kace-k2000-deployment-appliance>を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定 > コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **データストレージ** をクリックして **データストレージ** ページを表示します。
2. **オフボードストレージに変更** をクリックして、データストレージの設定ウィザードを表示します。
3. アプライアンスのストレージデバイスを選択します。

デバイスのストレージ容量が**250 GB**以上であることを確認します。オフボードストレージデバイスには、アプライアンスオンボードストレージより大きいストレージ容量が必要です。例えば、**250 GB**のオンボードデータがある場合、オフボードストレージデバイスには使用可能なストレージ容量が**250 GB**以上なければなりません。

4. **アドレス** に、オフボードストレージデバイスのホスト名またはIPアドレスを入力します。

共有バスに、オフボードストレージデバイスに設定されている共有の完全なバスを入力します。

5. デバイス設定項目を設定して、**デバイスの設定の確認** をクリックします。

デバイスの説明を読んで、オフボードストレージデバイス用に記載されている設定項目が適切に設定されていることを確認します。プライベートネットワークを使用し、可能な場合には、IPアドレスによってアクセス制限することで、セキュリティの脆弱性を防止します。

アプライアンスにより、デバイスが到達可能か、また設定可能かどうかの確認が行われます。詳細の表示に確認のステータスが表示されます。

6. **移行** をクリックして、データをオフボードストレージにコピーします。

プログレスバーに進行状況が表示されます。

7. 移行が完了したら、**閉じる** をクリックします。

8. ストレージタイプが変更されていることを確認します。

エラーが発生した場合は、**設定** をクリックしてセクションを展開します。次に **アプライアンスログ** をクリックして **アプライアンスログ** ページを表示し、データストレージの設定 **ログ** を選択します。

## 外付けストレージを使用するためのベストプラクティス

外付けストレージに移動すると、すべての展開、イメージキャプチャ、メディアアップロード、ダウンロードは、外部サーバおよびそのアプライアンスとのネットワーク接続の安定性と速度に依存します。このため、いくつかの推奨事項に従ってください。

### 外付けストレージサーバが専用デバイスである

リソースの競争を避けるため、他のマシンまたはデバイスに共有またはその他の機能を提供しないでください。データは、ストレージサーバが提供できる速度でのみアプライアンスに（クライアントマシンから）渡すことができます。ストレージサーバが他のデバイスへのデータ送信に拘束されると、展開/キャプチャ時間に影響し、展開の失敗につながる可能性もあります。

### 外付けストレージサーバが独自のプライベートネットワークで物理アプライアンスに接続されている

アプライアンスには2個のネットワークポートがあり、2番目のネットワークポートは、アプライアンスフロントエンドネットワークから分離されている独自のプライベートネットワークで外付けストレージサーバを接続するために使用する必要があります。アプライアンスフロントエンドネットワーク経由でストレージサーバを接続すると、実質的にネットワーク帯域幅が半分になり、1 GBネットワークが500 MBネットワークになります。キャプチャ/展開時に、データはストレージサーバからアプライアンスに、その後アプライアンスからクライアントに移動する必要があります。フロントエンドネットワークを使用する場合は、データがフロントエンドNICを2回経由する必要があります。これはパフォーマンスに大きな影響を与え、ネットワークの輻輳により展開が失敗する可能性があります。また、ストレージサーバとアプライアンスは同じ物理スイッチ（VLAN/サブネット）に接続されている必要があります。パケットが複数のスイッチ/ルーターを経由すると遅延が発生し、展開に時間がかかったり失敗したりするため、この構成は避ける必要があります。

### 外付けストレージサーバはエンタープライズクラスハードウェアにする

アプライアンスの展開速度は、ストレージサーバの負荷処理能力に依存するため、低速なストレージサーバによって遅延が発生すると、展開に時間がかかったり失敗したりします。このため、例えばネットワーク接続ストレージ（NAS）デバイスを使用する場合は、デスクトップまたはSOHO（スモールオフィス/ホームオフィス）モデルは適していません。同様に仮想マシンをストレージサーバとして使用することはお勧めしません。インフラストラクチャがどれほど堅牢でも、負荷が大きい場合は仮想サーバ、特にNFS（ネットワークファイルシステム）の信頼性が低いことは、テストや現場での結果によって明らかです。

### ストレージサーバ上のドライブが高速で高性能なドライブである

ドライブを読もうとして、ストレージサーバがアプライアンスへのデータ送信を遅延させる必要が生じたときは、いつでも、展開に長い時間がかかったり展開に失敗したりする原因になります。多数のさまざまなドライ

ブメーカーがあるので格付けするのは不可能ですが、ほんの一例としてWestern Digital®のドライブには、緑色（環境に優しい）、青色（コンシューマ）、赤色（低グレードRAID）、黒色（ハイパフォーマンス）の4つのタイプがあります。黒色の高パフォーマンスドライブのみの使用をお勧めします。ストレージサーバーでSAN（ストレージエリアネットワーク）ドライブを使用している場合は、ハイパフォーマンス物理ドライブと同等かそれ以上のパフォーマンスを出せることを確認します。一部のオペレーティングシステムは、SANの定格スループットを利用できないため、SANドライブのベンチマークテストをお勧めします。

#### アンチウイルスソフトウェアがストレージサーバーにインストールされていない

ストレージサーバにアンチウイルスソフトウェアをインストールする必要がある場合は、アプライアンス共有を完全に無視するように設定する必要があります。ほとんどのアンチウイルスソフトウェアソリューションはアクセス時のスキャンを使用します。これは、アクセスされたファイルはネットワークに送出される前にスキャンされることを意味します。WIMファイルのサイズは数GBになり、スキャンには非常に長い時間がかかり、展開タイムアウトの問題の原因になります。また、多くのアンチウイルスソフトウェアソリューションは、アップロードされたファイルが危険にさらされていると思われる場合、隔離を選択します。これは、隔離されると致命的なドライバファイルに特に当てはまり、展開に必要なドライバがイメージの一部ではなくなるため、展開に失敗してブルースクリーンが表示されます。さらに、アンチウイルスとセキュリティポリシーは、ファイル権限または所有権を変更または変更を強制して、アプライアンスがアクセスできなくなる可能性があります。

詳細については、<https://support.quest.com/kace-systems-deployment-appliance/kb/111864>を参照してください。この文書には、テスト済みのNASデバイスのリストが記載されていますが、十分な機能が得られるデバイスは他にもあります。KACEでは、Windowsベースのストレージサーバーのための仕様を公開していないため、Windowsマシンを使用する場合は、最新のエンタープライズクラスハードウェアで動作することを確認することが重要です。

# アプライアンスの問題のトラブルシューティング

アプライアンスサポートポータルにアクセスして、アプライアンスへのサポートチームのtetherを要求できます。また、起動マネージャのテスト、デバイスの回復、およびログファイルのダウンロードを管理者コンソールから行うことができ、これらはトラブルシューティングの際に役立ちます。

また、アプライアンスのデータベースを照会するユーティリティであるアプライアンスAdvisorをダウンロードして、HTMLレポートでアプライアンスについての情報を収集することができ、データの収集またはアプライアンスのトラブルシューティングに役立てることができます。詳細について参照する場合、またはアプライアンスAdvisorをダウンロードする場合は、<http://www.itninja.com/blog/view/k2-advisor>に移動してください。

## ネットワーク上でのデバイス接続のテスト

pingプログラムを使用して、ネットワーク接続をテストできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、サポート > サポートポータル をクリックして、KACEサポートポータルパネルを表示します。
2. **トラブルシューティング** をクリックして、サポートトラブルシューティングツール ページを表示します。
3. ツール ドロップダウンリストから、**ping** を選択します。
4. デバイスのIPアドレスを入力して、**テスト** をクリックします。

結果が表示されます。

5. (オプション) 必要に応じて、他のプログラムを使用します。そのプログラムをドロップダウンリストから選択して、**テスト** をクリックするだけです。

使用可能なプログラムは以下の通りです。

- **nslookup** : 多くのコンピューターオペレーティングシステムで、ドメイン名や IP アドレスマッピングを取得するためのドメインネームシステムの照会用、または他の特定の DNS レコード用に使用できる、ネットワーク管理コマンドラインツールです。
- **arp** : アドレス解決プロトコル ( arp ) は、所定の IPv4 アドレスに関連付けられたリンクレイヤーアドレスの検出に使用される通信プロトコルで、インターネットプロトコルスイートの重要な機能です。
- **dig** : ドメインネームシステムサーバを照会するためのネットワーク管理コマンドラインツールです。dig は、ネットワークのトラブルシューティングおよび教育用に役立ちます。
- **ifconfig** : UNIX 系オペレーティングシステムのネットワークインターフェイス設定用のシステム管理ユーティリティです。このユーティリティはコマンドラインインターフェイスツールで、多くのオペレーティングシステムのシステムスタートアップスクリプトでも使用されます。
- **iostat** : オペレーティングシステムストレージの入出力統計の収集および表示に使用される、コンピューターシステム監視ツールです。
- **traceroute** : インターネットプロトコルネットワーク経由のパケットの経路を表示し、転送遅延を測定するための、コンピューターネットワーク診断ツールです。
- **curl** : cURL は、各種のプロトコルを使用してデータを転送するためのライブラリおよびコマンドラインツールを提供する、コンピューターソフトウェアプロジェクトです。cURL プロジェクトでは、libcurl と cURL の 2 つの製品を生み出しています。
- **Service Status** : アプライアンスで実行されているサービスのリストを表示します。
- **showmount** : 特定の IP アドレスで使用可能な共有を表示します。
- **tcpdump** : コマンドラインで実行される一般的なパケットアナライザです。このプログラムを使用すると、コンピューターが接続されているネットワーク経由で送受信される TCP/IP パケットや他のパケットを表示できます。
- **netcat** : TCP または UDP を使用してネットワーク接続に対する読み取り / 書き込みを行うためのコンピューターネットワークユーティリティです。Netcat は、直接使用することも、他のプログラムやスクリプトから簡単に操作することもできる、信頼性の高いバックエンドとして設計されています。
- **Display Free Disk Space** : アプライアンスで使用可能なディスク容量を表示します。
- **database** : データベースの応答メトリックを提供します。
- **netstat** : 伝送制御プロトコル ( TCP : 着信と送信の両方 ) のネットワーク接続、ルーティングテーブル、およびいくつかのネットワークインターフェイス ( ネットワークインターフェイスコントローラまたはソフトウェアデファインドネットワークインターフェイス ) とネットワークプロトコル統計を表示します。
- **smbstatus** : Samba のステータスと現在の Samba 接続のリストを表示する非常にシンプルなプログラムです。
- **smbversion** : Samba のバージョンを表示します。
- **top** : 多くの UNIX 系オペレーティングシステムに備わっているタスクマネージャプログラムです。ユーザーが指定した条件によって選択された実行中のプロセスの順序付きリストを生成して、定期的に更新します。

## Quest KACEテクニカルサポートへのtetherを有効にする

Questサポートポータルにアクセスして、アプライアンスへのtetherを要求し、Quest KACEテクニカルサポートが問題をトラブルシューティングできるようにすることができます。

<https://support.quest.com/contact-support>でQuest KACEテクニカルサポートに問い合わせ、tetherキーを取得します。

セキュリティを確保するために、サポートチームがアプライアンスへのリモートアクセスを有効にすることを承認した後、アプライアンスへのリモートアクセスを有効にします。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 > コントロールパネル をクリックして コントロールパネル を表示し、次に セキュリティ をクリックして セキュリティ設定 ページを表示します。
2. SSHルートログインの許可 ( KACEサポート ) チェックボックスをオンにします。
3. 保存 をクリックします。
4. 左側のナビゲーションペインで、サポート > サポートポータル をクリックして、KACEサポートポータルパネルを表示します。
5. Quest KACEへの問い合わせ で、tetherキーの入力 をクリックして、Support Tetherキー ページを表示します。
6. ページ上部の警告を確認します。

Tetherを有効にすると、KACEテクニカルサポートがアプライアンスにアクセスできるようになります。このプロセスが組織のセキュリティガイドラインに準拠していることを確認します。デフォルトでは、tetherは21日後に期限切れになりますが、有効なtetherはいつでも無効にできます。

7. テキストフィールドに問題の説明を入力し、次のいずれかの手順を実行します。
  - tether キーを自動的に取得してテクニカルサポートにメッセージを送信するには、tether を有効にする をクリックします。

このプロセスが失敗した場合は、tether を有効にする を選択し、指示に従って tether キーを入力します。保存 をクリックします。
  - テクニカルサポートから提供される tether キーを使用するには、すでに tether キーを保持している をクリックし、tether を有効にする を選択して、指示に従って tether キーを入力します。保存 をクリックします。

Tetherキーのサポート ページには、tetherキーの有効期限が切れる日時とtetherログが表示されます。これでQuest KACEテクニカルサポートがアプライアンスにリモートアクセスできるようになりました。Tetherを無効にするには、Tetherを無効にする をクリックします。

## サポートチケットを開く

アプライアンス内からサポートチケットを開くことにより、アプライアンス関連の問題をトラブルシューティングするための詳細情報の入力、バグレポートの送信、および機能拡張の要求を行うことができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、サポート > サポートポータル をクリックして、KACEサポートポータルパネルを表示します。
2. Quest KACEへの問い合わせ で、チケットの送信 をクリックして、新しいサポートチケット ページを表示します。
3. 必要な情報を入力し、送信 をクリックします。

## 起動マネージャのトラブルシューティング

KBEを読み込むのに必要な内蔵グラフィックスをサポートしていないデバイス用に、起動マネージャインターフェイスを変更したり、起動マネージャがターゲットデバイスで表示される期間を設定したりできます。また、アプライアンスがDHCPサーバーの応答を待機する時間を設定したり、デバイスのネットワーク接続をテストしたりできます。

# ターゲットデバイスがネットワーク起動できるかどうかをテストする

ターゲットデバイスのネットワークインターフェイスカード（NIC）がネットワーク起動をサポートする場合、ターゲットデバイスをアプライアンスで起動できるかどうかをテストできます。

1. ネットワーク経由で起動するように、ターゲットデバイスのBIOSを設定します。
2. ターゲットデバイスを再起動します。  
ターゲットデバイスがネットワーク起動サーバーを検索します。
3. 起動マネージャから、デバイスのハードウェアをサポートする、KBEのアーキテクチャを選択します。  
ターゲットデバイスがKBEから起動します。

ターゲットデバイスが正常に起動されます。

## 起動マネージャのタイムアウトの設定

デバイスをKACEブート環境（KBE）でネットワーク起動する場合、起動マネージャがターゲットデバイス上で表示される時間を指定できます。

通常、デバイスのセットアップおよびトラブルシューティングを行うテスト環境では、タイムアウト時間を長くすることができます。ただし、本番環境では、タイムアウト時間を数秒に短縮して、ユーザーによる起動シーケンスの中断を防ぐ必要があります。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定> コントロールパネル をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
2. PXEオプションの 起動マネージャのタイムアウト に、秒単位で期間を入力します。  
デフォルト値は15秒です。タイムアウトは最大15分（900秒）まで延長することができます。タイムアウト期間を延長すると、ユーザーが起動シーケンスの変更や中断を行ってしまう可能性があります。
3. 保存 をクリックします。

アプライアンスからのすべてのPXE起動について、起動マネージャのタイムアウトが変更されます。

## ローカルハードディスク起動方法の選択

ハードドライブからデバイスを起動するとき、そのデバイスを起動する方法を指定できます。

ローカル起動と連鎖起動の両方の方法が使用できませんが、連鎖起動を推奨します。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定>コントロールパネル** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定** ページを表示します。
2. PXEオプションで **ローカルハードディスク起動方法 (BIOS)** をクリックして、BIOSデバイスの起動方法を選択します。
  - **連鎖起動**：iPXE を使用してデバイスをハードドライブに連鎖起動する場合は、このオプションを選択します。
  - **ローカル起動**：ビルトインiPXEコマンドを使用してハードドライブから起動を行う場合は、このオプションを選択します。
3. また、PXEオプションで、**ローカルハードディスク起動方法 (UEFI)** をクリックして、UEFIデバイスの起動方法を選択します。
  - **連鎖起動**：UEFIスクリプトを実行してWindows UEFI起動マネージャをロードする場合は、このオプションを選択します。
  - **ローカル起動**：ビルトインiPXEコマンドを使用してハードドライブから起動を行う場合は、このオプションを選択します。
4. **保存** をクリックします。

## デバイスの回復

KBEのメインメニューには、回復メニューオプションがあります。KBEのメインメニューは、デバイスをアプライアンスでネットワーク起動するとターゲットデバイスに読み込まれます。ファイルの修正または置き換え、およびレジストリの編集を行って、応答がないデバイスを起動できます。

## 破損したデバイスの回復

破損したデバイスまたはハードドライブから起動できないデバイスを復元できます。

1. ターゲットデバイスのKBEのメインメニューから、**回復** をクリックします。  
**回復ツールが表示されます。**
2. 実行する回復ツールをクリックします。  
**レジストリ編集ウィンドウを閉じ、行った変更を保存します。**
3. **メインメニューに戻る** をクリックしてツールを終了します。

## アプライアンスログファイルのダウンロード

ログファイルを管理者コンソールから直接ダウンロードでき、トラブルシューティングのときに活用できます。

## すべてのアプライアンスログファイルのダウンロード

すべてのアプライアンスログファイルをダウンロードして、アプライアンスで発生していることを追跡および確認し、発生する可能性のある問題を識別するのに役立てることができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **アプライアンスログ** をクリックして **アプライアンスログ** ページを表示します。
2. ページの下部までスクロールして **すべてのログのダウンロード** をクリックし、**アプライアンスログ** ページを表示します。
3. **OK** をクリックします。

ログファイルは、1つの.tgzファイルとしてダウンロードされます。

4. ファイルを抽出して、そのコンテンツを表示します。

問題のログファイルまたはスクリーンショットにアクセスできるようにすることで、Quest KACEテクニカルサポートによる問題の診断と解決が行いやすくなります。

Quest KACEテクニカルサポートへのtetherを有効にして、Quest KACEの担当者がトラブルシューティングのためにアプライアンスに接続できるようにすることができます。詳細については、「[Quest KACEテクニカルサポートへのtetherを有効にする](#)」を参照してください。

## アプライアンスログファイルの表示

アプライアンスにより自動的に作成および保持されるログファイルを表示できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **アプライアンスログ** をクリックしてアプライアンスログ ページを表示します。
2. 表示するログファイルの名前をクリックします。

日付の古い順に、ログの内容がページに表示されます。表示方法として 古いものを上に表示 または 新しいものを上に表示 を選択できます。

## アプライアンスログのタイプと説明

システム、Webサーバ、アプライアンスサーバ、ファイルサーバ、タスクプロセッサ、特権のあるアクションサーバ、スケジュール済みアクションサーバ、ユーザープロファイルの移行、インポートとエクスポート、REST API、および更新のログファイルの説明を表示できます。

### アプライアンスログ

| ログタイプ        | ログ名         | 説明                                                                    |
|--------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------|
| システム         | システムメッセージ   | アプライアンスを実行しているオペレーティングシステムのシステムメッセージを表示します。                           |
|              | 送信メールログ     | アプライアンスから送信されたEメールメッセージのログが表示されます。                                    |
|              | データストレージの設定 | アプライアンスの外部ストレージの設定が表示されます。                                            |
| Webサーバー      | アクセスログ      | Apache™ Webサーバーの要求ログファイルが表示されます。                                      |
|              | エラーログ       | Apache Webサーバーのエラーログファイルが表示されます。                                      |
| KACE SDAサーバー | 出力ログ        | システム更新、クリーンアップタスク、オフボードストレージ更新、ドライバフィード、およびドキュメンテーション更新のメッセージが表示されます。 |
|              | エラーログ       | システム更新、クリーンアップタスク、オフボードストレージ更新、ドライバフィード更新、および                         |

| ログタイプ          | ログ名             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                |                 | びドキュメンテーション更新のエラーが表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                | マルチキャストログ       | マルチキャストイメージ作成ジョブに関するプログラム実行の詳細を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| ファイルサーバー       | TFTP転送ログ        | アプライアンスブートエラーと要求が表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|                | NETBIOSネームサーバー  | アプライアンス上のNetBIOSサーバからのメッセージを表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|                | Windowsファイルサーバー | アプライアンスでフォルダを共有するSAMBASサービスからのメッセージが表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| タスクプロセッサ       | 出力ログ            | <p>バックグラウンドでタスクを実行するアプライアンスサーバタスクプロセッサからのメッセージが表示されます。処理可能なタスクを以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メディアマネージャがアップロードするソースメディアのインポート。</li> <li>WIMまたはK-Imageのインポート。</li> <li>ドライバキャッシュの再構築。</li> <li>KBE環境の再構築。</li> <li>スクリプト形式のインストールの作成と更新。</li> <li>RSA (リモートサイトアプライアンス) とのデータの同期</li> </ul> |
|                | エラーログ           | アプライアンスサーバタスクプロセッサが実行するタスクのエラーが表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 特権のあるアクションサーバー | 出力ログ            | <p>特権のあるアクションサーバーからの出力が表示されます。特権のあるアクションとは、実行に高い権限を必要とするタスクです。これらのタスクには、以下が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク、地域とロケール、日付と時刻、また</li> </ul>                                                                                                                                                |

| ログタイプ             | ログ名         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                   |             | <p>はSSLなどのアプライアンス設定の変更。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アップグレードの実行。</li> <li>• 再起動または電源オフコマンドの実行。</li> <li>• 外部ストレージへの移行、外部ストレージからのインポート。</li> <li>• インポートされたメディアへのファイル権限の設定。</li> <li>• ライセンスキーとRSAの同期。</li> </ul>                                                        |
|                   | エラーログ       | 特権のあるアクションサーバーの実行時に発生するエラーを表示します。                                                                                                                                                                                                                                                       |
| スケジュール済みアクションサーバー | 出力ログ        | <p>アプライアンススケジュール済みタスクからのメッセージが表示されます。スケジュール済みタスクには、以下が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ドライバ障害の確認。</li> <li>• ディスク使用状況チャートおよび外部ストレージステータスの更新。</li> <li>• Quest KACEからのドライバフィード更新の確認。</li> <li>• サーバー更新の確認。</li> <li>• ログのローテーション。</li> <li>• ディスクのクリーンアップ。</li> </ul> |
|                   | エラーログ       | スケジュール済みタスクのエラーを表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ユーザープロファイルの移行     | 失敗に関するエラーログ | オンラインUSMTスキャンプロセスの失敗を表示します。                                                                                                                                                                                                                                                             |
| インポートとエクスポート      | インポートログ     | すべてのインポートジョブの出力とエラーを表示します。                                                                                                                                                                                                                                                              |
|                   | エクスポートログ    | すべてのエクスポートジョブの出力とエラーを表示します。                                                                                                                                                                                                                                                             |
|                   | ログのダウンロード   | アプライアンスのログファイルを単一の.tgzファイルとしてダウンロードします。                                                                                                                                                                                                                                                 |

| ログタイプ      | ログ名                 | 説明                               |
|------------|---------------------|----------------------------------|
| 夜間アップデート   | 出力ログ                | 夜間アップデートからシステムへのメッセージを表示します。     |
|            | エラーログ               | 夜間アップデートからのエラーをすべて表示します。         |
| REST API   | APIログ               | REST APIから出力とエラーを表示します。          |
| アプライアンスの更新 | 更新ログ                | アプライアンスの適用されたすべての更新から出力を表示します。   |
| FreeBSDログ  | FreeBSD日次出力ログ       | FreeBSDから取得した日次実行出力を表示します。       |
|            | FreeBSD日次セキュリティ出力ログ | FreeBSDから取得した日次セキュリティ実行出力を表示します。 |
|            | FreeBSD週次出力ログ       | FreeBSDから取得した週次実行出力を表示します。       |
|            | FreeBSD週次セキュリティ出力ログ | FreeBSDから取得した週次セキュリティ実行出力を表示します。 |
|            | FreeBSD月次出力ログ       | FreeBSDから取得した月次実行出力を表示します。       |
|            | FreeBSD月次セキュリティ出力ログ | FreeBSDから取得した月次セキュリティ実行出力を表示します。 |

## アプライアンスのシャットダウンと再起動

トラブルシューティングやメンテナンスタスクの実行時には、アプライアンスのシャットダウンや再起動が必要になることがあります。

アプライアンスをシャットダウンまたは再起動する前に、次のプロセスのいずれもアクティブになっていないことを確認してください。

- パッケージのインポートまたはエクスポート
- ソースメディアのアップロード
- システムイメージのアップロードまたは再構築
- スクリプト形式のインストールの再構築
- 展開
- RSAの同期
- ドライバフィードによるドライバのダウンロード
- ユーザープロファイルのスキャン

## アプライアンスの電源をオフにする

展開が停止した場合、またはネットワーク接続に問題がある場合、アプライアンスの電源をオフにして、再起動できます。アプライアンスの電源をオフにするには、電源 ボタンを押し、オンにするには再度押します。

アプライアンスをシャットダウンする前に、アクティブなプロセスがないことを確認します。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **アプライアンスのメンテナンス** をクリックして アプライアンスのメンテナンス ページを表示します。

**i** **注:** アプライアンスは、ライセンスが最新の場合にのみアップデートできます。ライセンスの有効期限が切れると、ページ上部にライセンスを更新するよう指示するメッセージが表示されます。このページの **ライセンスのメンテナンスステータス フィールド** には、ライセンスの状態が示されます。ライセンスを更新するには、KACE の営業担当者から新しいキーを入手し、登録とライセンス ページで更新します。1つ以上のリモートサイトアプライアンス (RSA) がこのアプライアンスに関連付けられている場合は、同期後に新しいライセンスキーがこれらのRSAで自動的に更新されます。

2. **ユーティリティ > 電源管理** で、**電源オフ** をクリックします。

アプライアンスがシャットダウンします。

アプライアンスを有効にするには、電源スイッチを押します。

## アプライアンスの再起動

展開が停止した場合、またはネットワーク接続に問題がある場合、アプライアンスを再起動して処理を再実行できます。アプライアンスを再起動すると、アプライアンスの電源が自動的にオンになります。

アプライアンスを再起動する前に、アクティブなプロセスがないことを確認します。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **アプライアンスのメンテナンス** をクリックして アプライアンスのメンテナンス ページを表示します。

**i** **注:** アプライアンスは、ライセンスが最新の場合にのみアップデートできます。ライセンスの有効期限が切れると、ページ上部にライセンスを更新するよう指示するメッセージが表示されます。このページの **ライセンスのメンテナンスステータス フィールド** には、ライセンスの状態が示されます。ライセンスを更新するには、KACE の営業担当者から新しいキーを入手し、登録とライセンス ページで更新します。1つ以上のリモートサイトアプライアンス (RSA) がこのアプライアンスに関連付けられている場合は、同期後に新しいライセンスキーがこれらのRSAで自動的に更新されます。

2. **ユーティリティ セクション** で、**再起動** をクリックします。

3. 数分後、ブラウザを最新の表示に更新します。

ログイン ページに戻ります。

# アプライアンスデータをバックアップするためのベストプラクティス

故障したハードウェアまたは失敗したアップグレードが原因になるデータの喪失を防止するためには、バックアッププランを計画して実施することが重要です。アプライアンス自体はバックアップできませんが、重要データ（イメージ、タスク、スクリプト形式のインストールなど）はバックアップでき、定期的にバックアップする必要があります。

データのバックアップは次の2つのタスクで構成されます。

1. データを\\<アプライアンス>\restore共有にエクスポートする。
2. データをrestore共有から外付けストレージサーバーにコピーする。

これらのタスクはいずれも、ビジネスニーズに応じて、手動でまたはスケジュールジョブとして実行できます。いずれの方法でも問題ありませんが、それぞれの方法に対応が必要な短所があります。

手動でバックアップを実行する場合の主な問題は、忘れずに定期的に行う必要があることです。作業対象のデータ量によっては、オフサイトストレージへのエクスポートやコピーに数時間かかる場合があります。手動で実行するには問題があります。スケジュールバックアップの場合は、オフサイトストレージサーバーに十分なディスク容量があることを確認する、エクスポートとオフサイト転送ジョブのプロセスが重複して応答を妨げないようにスケジュールする、オフサイトストレージサーバーのID、パスワード、およびアドレスを管理するなどの問題があります。

## データエクスポートのセットアップ

データエクスポートをセットアップする手順の詳細については、<https://support.quest.com/kace-systems-deployment-appliance/kb/115080>を参照してください。

エクスポートがスケジュールされているアイテムは、バージョンとバックアップされたバージョン（エクスポートページに表示されます）が異なる場合にのみエクスポートされます。アイテムを表示する行は、該当する場合、白色または黄色です。このメカニズムにより、同じバージョンの複数のコピーがrestore共有に継続的にエクスポートされることはありません。これでrestore共有（および結果的にリモートストレージサーバー）の容量を節約できますが、バックアップファイルはストレージサーバーからすぐに削除しないでください。オブジェクト（イメージ、スクリプトインストール、またはポストインストールタスク）は、バージョン番号が変更されるまで再度エクスポートされないためです。これは、オブジェクトがエクスポートされ、オフサイトストレージにコピーされ、復元共有から削除され、その後で何らかの理由でオフサイトストレージから削除された場合、そのオブジェクトのバックアップがなくなり、編集して保存され、バージョン番号が増え（これにより、オブジェクトはエクスポートリストに黄色で表示されます）ない限り再度エクスポートされることはない、という意味です。このように、最初からやり直してすべてをエクスポートするようにアプライアンスに指示する容易な方法はないため、オフサイトストレージサーバーの管理は、バックアップされた必要なオブジェクトが誤って削除されないようにするために必要です。

## エクスポートする内容

- エクスポートする：ASR（MAC）、K-image、ブート環境、WIMイメージ、スクリプト形式のインストール、タスク、およびユーザー状態。
- エクスポートしない（必要なことがわかっている場合を除く）：データベース、ネットワークインベントリ、およびネットワークスキャン。
- エクスポートしない：ドライバのフォルダ（中に必要なものがあることがわかっている場合を除く）。



**注:** ここにリストされているドライバは、\\<アプライアンス>\drivers共有にリストされているフォルダに対応します。ドライバフィールドドライバ（および手動で構築したドライバフィールド）は、\\<アプライアンス>\driversではなく、\\<アプライアンス>\drivers\_postinstallにあるため、これらのフォルダの中には少数のアイテムのみがあります。

## 考慮事項

エクスポートされるアイテムの合計サイズとアプライアンスで使用可能なディスク容量を評価します。エクスポートされた各オブジェクトは、アプライアンス復元共有に、データを含む.pkgファイルとパッケージファイルの内容を説明する.xmlファイルという、2つのファイルとして配置されます。両方のファイルを一緒にしておく必要があります。オブジェクトを復元するために必要です。これらのファイルは復元共有に書き込まれるため、そのサイズはアプライアンスの合計空き容量からマイナスされます。使用可能な空き容量が20 GBより少なくなると、完了するための容量不足のため、アプライアンスの多くの標準動作が失敗し始めます。そのため、エクスポートされるオブジェクトの合計サイズが使用可能な空き容量（から正常なアプライアンスに必要な予約容量の20 GBをマイナスした数値）を超えないことが重要です。

バックアップされるデータの合計サイズが使用可能な空き容量より大きい場合は、エクスポート/オフボード転送を4つのタスク（2つのエクスポート/転送ペア）に分割し、週の別の時に実行することをお勧めします。これには、オフボード転送のセットアップページで、クリーンアップ復元 ボックスを選択する必要があります。

修正にレベル3チケットが必要な転送タスクのハングを避けるために、転送タスクが開始する前にエクスポートが完了しているようにするために、エクスポートジョブと転送タスクの間に十分な時間を空けることが重要です。そのためには、エクスポートタスクの完了が予想される時刻と転送タスクの開始の間に24時間開けることをお勧めします。これにより、遅いエクスポートタスクが転送タスクと衝突しないように安全マージンが得られます。

#### エクスポートされたオブジェクトにオフボードパッケージ転送をセットアップする

オフボードパッケージ転送をセットアップする手順の詳細については、<https://support.quest.com/kace-systems-deployment-appliance/kb/115080>を参照してください。

#### 考慮事項

オフボードストレージサーバには、アプライアンス上のすべてのデータを含むために使用されるIDのための十分なサイズが（ディスク容量の観点で）必要です。実際には、何らかの理由でオブジェクトを古いバージョンに戻す場合のため、複数のバージョンのタスクをバックアップする必要があるため、合計データよりかなり大きい空き容量が必要です。

バックアップデータのプッシュが利用可能なネットワーク帯域幅にどれほどの影響があるか、またその他のどのリソースに影響するかを判断します。オフボードストレージサーバが他のアプリケーションに使用される場合、転送期間に影響するでしょうか、または転送処理中に有害な影響を受けるでしょうか？

オフボードパッケージ転送のセットアップページで、クリーンアップ復元 ボックスにチェックが入っている場合は、各オブジェクトがリモートストレージサーバ（オフボードサーバ）にコピーされた後、アプライアンス復元共有から削除され、ディスクで必要な容量を解放します。このオプションを使用するのは、アプライアンスで容量を節約するために推奨される方法ですが、必要なバックアップが削除されないように、オフボードストレージサーバに保存されているファイルの慎重な管理が求められます。

バックアップが必要な頻度は、経過時間中にアプライアンスに加えられる変更の量に直結しています。ほとんどの場合、週1回のバックアップで十分ですが、ユーザーの環境とユーザーが受け入れるリスクによってのみ決められることです。多くの人は、金曜日の夜にエクスポートを開始し、日曜日の早朝（2:00 AMなど）にオフボード転送を開始しますが、前述のとおりこれは環境により異なります。

自動エクスポート/オフボード転送のセットアップを選択する場合は、必要に応じて、時折手動でデータをバックアップする必要がある可能性があることに留意してください。

# アプライアンスソフトウェアの更新

アプライアンスソフトウェア更新を確認してインストールできます。アプライアンスを更新する場合、ブート環境、起動マネージャ、およびデフォルトのブートアクションなどのカスタム設定は保持されます。アプライアンスソフトウェアを更新するたびに、リモートサイトアプライアンス (RSA) OVFイメージを更新します。

## アプライアンスバージョンの表示

すべてのページで、アプライアンスのバージョンを表示できます。また、アプライアンスソフトウェアの更新をアプライアンスのメンテナンス ページで確認および適用できます。

次のいずれかの方法を使用して、アプライアンスバージョンを表示します。

- 任意のページからアプライアンスバージョンを表示する。
  1. バージョンと著作権情報を表示するには、サポートが必要な場合 パネルの右下隅にある **アプライアンス** についてリンクをクリックします。
- 現在のソフトウェアバージョンを表示し、アプライアンスソフトウェアの更新を確認および適用します。
  1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **アプライアンスのメンテナンス** をクリックして **アプライアンスのメンテナンス** ページを表示します。

**i** **注:** ライセンスの有効期限が切れると、ページ上部にライセンスを更新するよう指示するメッセージが表示されます。このページの **ライセンスのメンテナンスステータス** フィールドには、ライセンスの状態が示されます。ライセンスを更新するには、KACE の営業担当者から新しいキーを入手し、登録とライセンス ページで更新します。1つ以上のリモートサイトアプライアンスがこのアプライアンスに関連付けられている場合は、同期後に新しいライセンスキーがこれらのRSAで自動的に更新されます。
  2. **SDA アプライアンスの更新 > 現在のバージョン** の下にある現在のソフトウェアバージョン番号を確認します。

## 自動更新の確認および適用

より新しいバージョンのアプライアンスソフトウェアが使用できるかどうかを確認できます。

- i** **注:** 更新のインストールまたはアプライアンスソフトウェアのアップグレードを行う前には、必ずアプライアンスコンポーネントをバックアップしてください。手順については、[オフボードパッケージ転送の使用](#)を参照してください。

アップグレードする前にアプライアンスを再起動します。アプライアンスの以前のバージョンをお使いの場合は、インストールに進む前に、最小バージョンにアップグレードし、SSHを有効にする必要があります。RSAを使用している場合、RSA OVFイメージを最新のバージョンにアップグレードします。アプライアンスでソフトウェア更新を適用するには、インターネットアクセスが必要です。

一部の更新は適用に数時間かかります。また、完了後にアプライアンスの再起動が必要なことがあります。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **アプライアンスのメンテナンス** をクリックして **アプライアンスのメンテナンス** ページを表示します。



**注:** アプライアンスは、ライセンスが最新の場合にのみアップデートできます。ライセンスの有効期限が切れると、ページ上部にライセンスを更新するよう指示するメッセージが表示されます。このページのライセンスのメンテナンスステータス フィールドには、ライセンスの状態が示されます。ライセンスを更新するには、KACE の営業担当者から新しいキーを入手し、登録とライセンス ページで更新します。1つ以上のリモートサイトアプライアンス (RSA) がこのアプライアンスに関連付けられている場合は、同期後に新しいライセンスキーがこれらのRSAで自動的に更新されます。

2. KACE SDAアップデート セクションには、アプライアンスソフトウェアのステータスが表示されます。ソフトウェアが最新ではない場合、自動更新で、サーバーの更新の確認 をクリックします。

アプライアンスライセンスの有効期限が切れている場合は、ステータスの更新 フィールドに新しいライセンスを取得し、登録するよう指示するメッセージが表示されます。このためには、KACE の営業担当者に新しいキーをリクエストし、登録とライセンス ページに入力します。

3. 更新が使用できる場合は、更新を適用する前にアプライアンスコンポーネントを別の場所にバックアップします。詳細については、「[オフボードパッケージ転送の使用](#)」を参照してください。

アプライアンスソフトウェアを更新するたびに、RSA OVFイメージを更新します。

## アプライアンスの手動更新

アプライアンスがインターネットにアクセスできない場合は、アプライアンスソフトウェアとデータベースに対してパッチと更新を手動で適用できます。

最新のkbinファイルを、アプライアンスからアクセスできるデバイスにダウンロードします。アップグレードする前にアプライアンスを再起動します。アプライアンスの以前のバージョンをお使いの場合は、インストールに進む前に、最小バージョンにアップグレードし、SSHを有効にする必要があります。アプライアンスソフトウェアを更新するたびに、RSA ( リモートサイトアプライアンス ) OVFイメージを更新します。

一部の更新は完了するまで数時間かかります。また、完了後にアプライアンスの再起動が必要なことがあります。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に アプライアンスのメンテナンス をクリックして アプライアンスのメンテナンス ページを表示します。



**注:** アプライアンスは、ライセンスが最新の場合にのみアップデートできます。ライセンスの有効期限が切れると、ページ上部にライセンスを更新するよう指示するメッセージが表示されます。このページのライセンスのメンテナンスステータス フィールドには、ライセンスの状態が示されます。ライセンスを更新するには、KACE の営業担当者から新しいキーを入手し、登録とライセンス ページで更新します。1つ以上のリモートサイトアプライアンス (RSA) がこのアプライアンスに関連付けられている場合は、同期後に新しいライセンスキーがこれらのRSAで自動的に更新されます。

2. アプライアンスの更新 セクションの手動更新で、更新ファイルを選択します。

アプライアンスのライセンスの有効期限が切れている場合：

- セキュリティパッチと修正プログラムは、必要に応じて適用できます。
- ライセンスを更新するには、KACE の営業担当者に新しいキーをリクエストし、登録とライセンス ページに入力します。

3. サーバの更新 をクリックします。

アプライアンスライセンスの有効期限が切れている場合、サーバを更新しようとする、上記の手順で説明したように、メンテナンスの有効期限が切れています というメッセージボックスが表示されます。それ

以外の場合は、KACE アプライアンスアップグレードコンソールページが開き、アップグレードログが表示されます。

4. アプライアンスのアップグレード中にログの内容を確認します。
  - アプライアンス上のシステムイメージの数によっては、アップグレードに一定の時間がかかる場合があります。
  - アップグレード中にデータベースがバックアップされます。ディスクにデータベースをバックアップするための十分な容量がない場合、アップグレードは停止します。
  - アップグレードプロセスの実行中、アプライアンスは数回再起動します。これは、ページ上部のメッセージで示され、その後ページが更新されます。
  - アップグレードプロセスにより PXE Linux が削除されるため、K2000.0 および kbox2000.0 ファイルは削除されます。アップグレードの後、新しいファイル undionly.kpxe および ipxe.efi を使用して、DHCP の設定を更新する必要があります。
  - アップグレード中に問題が発生した場合は、エラーメッセージが表示され、Quest サポートに問い合わせるように案内されます。

アップグレードの完了後、ソフトウェア取引契約書 ( STA ) ページ ( EULA、エンドユーザー使用許諾契約とも呼ばれます ) に自動的にリダイレクトされます。

5. EULA に同意してから、管理 ID とパスワードを使用してログインします。

更新が適用されます。

## A

### アクションアイコン

KACEシステム展開アプライアンス（アプライアンス）に組み込まれたリモート接続プログラム。

### 管理者コンソール

アプライアンスを制御するためのWebベースインターフェイス。

### 応答ファイル

オペレーティングシステムをインストールするための設定を定義するファイル。応答ファイルは、無人のスクリプト形式のインストールで使用されます。

## B

### 起動マネージャ

ターゲットデバイスがアプライアンスで起動した直後にターゲットデバイスに表示されるブートメニューで、KACEブート環境（KBE）の選択を可能にします。

### 起動マネージャのタイムアウト期間

起動マネージャがターゲットデバイス上でアクティブであり続ける時間の長さ。

### BSCP

Macコンピューターに組み込まれているBSCP（Base Station Control Protocol）と、ローカルハードドライブまたはサーバーから起動するためのオプションを表示するブートストラップファイル。

### BDSP（Boot Server Discovery Protocol）

ローカルストレージメディアからではなくネットワーク上の起動可能イメージからMacコンピューターを起動できるようにする、Appleが開発した標準準拠のDHCP拡張プロトコル。

## C

### クリーンインストール

データが消去されたハードドライブへのオペレーティングシステムのインストール。

## D

### DHCPスコープ

DHCPサーバーがアプライアンスと同じサブネットに存在するデバイスにリース可能なIPアドレスの範囲。

### ディスクイメージ作成

デバイスのハードディスクにあるすべての内容をセクター単位またはファイル単位でイメージファイルに正確にコピーしたものを提供します。

### DISKPART

アプライアンスに組み込まれているWindowsユーティリティで、スクリプトを使用してディスクまたはパーティションなどのオブジェクトを管理します。

### ドライバフィード

ダウンロードしてアプライアンスにインストールできる最新のドライバを、drivers\_postinstall共有ディレクトリに追加するビルトインツール。

### ドライバの再キャッシュ

ブート環境およびスクリプト形式のインストール用のdrivers共有ディレクトリに手動で追加されたドライバを更新します。

## ドライバ共有ディレクトリ

drivers共有フォルダからKACEブート環境を構築するために必要なネットワークドライバと大容量ストレージドライバ、およびオペレーティングシステムがdrivers\_postinstallフォルダから必要とするドライバを管理するローカルアプライアンスディレクトリ。

## ドライバの組み込み

適切なドライバを使用してOSを自動的にインストールします。また、パッチやサービスパックをインストールに統合し、ソフトウェアを直接更新できるようにします。

## H

### ハードウェア抽象レイヤ

K-Imageの展開後にターゲットデバイスのHAL（ハードウェア抽象レイヤ）をカスタマイズできるようにします。

### ハードウェア非依存の展開

単一のスクリプト形式のインストールを使用して、多数のハードウェア構成にプロビジョニングする機能。アプライアンスは、スクリプト形式のインストールと共に適切なドライバを自動的に追加します。

## I

### ImageX

ファイルベースのディスクイメージをキャプチャ、変更、および適用する機能を提供し、Windowsイメージ（.wim）ファイルをネットワークにコピーして迅速に展開できるツール。ImageXは、Windowsセットアップ、Windows展開サービス（Windows DS）、System Management Server（SMS）Operating System Feature Deployment Packなど、.wimイメージを使用するその他の技術とも連携します。

### 初期設定コンソール

モニタをアプライアンスに接続した後に表示されるコマンドラインインターフェイスで、ネットワーク設定を構成するために使用します。

### ITNinja

Quest KACEがスポンサーとなっているITNinja.com（以前のAppDeploy.com）は、ITに焦点を絞った製品不問のコミュニティウェブサイトです。ITプロフェッショナルはこのサイトを使用して、システム展開関連のトピックについて情報を共有したり、質問したりします。

## G

### ゴールドマスター

イメージのキャプチャ元として使用される参照マシン。アプライアンスは、スクリプト形式のインストールを通じてゴールドマスターの作成プロセスを自動化します。

## K

### KACEブート環境（KBE）

ターゲットデバイス上でさまざまなWindowsベースのタスクを実行するためのオペレーティングシステムの簡易版のブート環境。KBEでは、ディスクイメージの作成、スクリプト形式のインストール、回復、ファイルの参照、インベントリの収集を行えます。

### KBEのメインメニュー

イメージのキャプチャ、スクリプト形式のインストールとシステムイメージの展開、およびデバイスの回復を実行できる、KACEブート環境のユーザーインターフェイス。

### K-Image

コンピューターおよびサーバーのイメージを容易に編集でき、イメージの再構築を不要にするファイルベースの形式。

### サポート技術情報

管理者が経験した実際のKACEシステム展開アプライアンスの問題に関する最新の解決策が掲載されているQuest KACEサポート技術情報記事。 <https://support.quest.com/resources/kb>にアクセスしてください。

## L

## リンク

各アプライアンスの管理者ユーザーアカウントが同じパスワードを持つ場合に、1台の管理者コンソールから、複数のKシリーズアプライアンスを接続し、リンク先アプライアンスにアクセスできるようにするプロセス。

## 状態読み込みユーティリティ

データと設定を .mig ファイルからターゲットデバイスに手動で移行できるようにする Microsoft ユーザー状態移行ツールユーティリティ。

## ログインフック

ユーザーログイン直後の他のログインプロセスが実行される前に、特定のスクリプトを実行するようMac OS Xに指示する機能。

## M

### 中レベルのタスク

KACEブート環境の実行時環境で実行するポストインストールタスク。

### メディアマネージャ

KACEブート環境を構築し、Windows用のアプライアンスにオペレーティングシステムのソースファイルとWindowsユーザー状態移行ツール (USMT) をアップロードするアプライアンスユーティリティ。Mac OS X用のメディアマネージャは、NetBoot環境を構築します。

## O

### OEMキー

工場でのWindows 7以上のインストールに使用する単一のコンピューターライセンス。通常、中規模企業は、このライセンスを使用してデバイスに含まれている初期ソフトウェアライセンスを活用します。

### オフボードデータベースアクセス

外部レポートプログラムのアプライアンスデータベースに接続し、クエリを実行できるようにするアプライアンス設定。

### オフボードストレージ

外付NASデバイスを使用して、アプライアンスの内部ストレージ容量を拡張します。オフボードストレージは、追加の仮想ディスクを使用することにより、リモートサイトアプライアンス (RSA) と仮想アプライアンスのストレージ容量も拡張します。外部ストレージが有効になると、内部ストレージは使用できなくなります。

### オフラインユーザー移行スキャン

アプライアンスは、ユーザープロファイルのオフラインスキャン プレインストールタスクを使用して、ユーザープロファイルをキャプチャします。

### オンラインユーザー移行スキャン

アプライアンスは ユーザープロファイルの展開 ポストインストールタスクを使用して、キャプチャされたユーザープロファイルを移行します。

## P

### パッケージ管理

アプライアンスコンポーネントと別の場所との間でインポート、エクスポート、および転送を実行できるようにするアプライアンス機能。

### ポストインストールタスク

コンピューター名の設定、ドメインへの参加、およびドライバのインストールなど、オペレーティングシステムの展開後に実行されるタスク。

### PXEブート

オペレーティングシステムがインストールされているターゲット環境を使用しないネットワークからのブート。PXEブートでは、USB、CD、DVDドライブなどの外部ストレージデバイスは不要です。

## R

## リモートサイトアプライアンス (RSA)

RSAは、KACEシステム展開から直接ダウンロードして同じライセンスキーを使用する、KACEシステム展開アプライアンスの仮想インスタンスです。RSAは、デバイスをネットワーク起動してリモートサイトへ展開できるようにします。リンク機能を使用すると、管理者コンソールにRSAを表示できます。

## リモートサイト管理

リモート施設で専用のハードウェアや担当者を必要とせずに、リモートサイトに展開することを可能にします。

## リテールキー

コンピューター用キーの1つ。通常は、大量のインストールを必要としない小規模な組織がこのキーを使用します。

## S

### スクリプト形式のインストール

オペレーティングシステムのインストールを自動化し、デスクトップ、ノートPC、およびサーバーのハードウェアに依存しないプロビジョニング機能を提供します。

### 状態スキャンユーティリティ

ユーザープロファイルと設定をスキャンおよびキャプチャしてデータの包含または除外を可能にするMicrosoft Windows ユーザー状態移行ツール (USMT) ユーティリティ。

## Sysprep

Microsoft Sysprepツールは、すべてのシステム固有情報を削除し、デバイスをリセットします。

## システム指定のイメージング

アプライアンスと互換性のあるMicrosoft WIMイメージおよびApple DMGイメージなどのOS固有フォーマット。

## T

### tether

トラブルシューティングするためにユーザーのデバイスにQuest KACEテクニカルサポートチームが行う接続。

## U

### ユーザープロファイル

マイクロソフトのWindowsユーザー状態移行ツール (USMT) を使用して、スキャン、キャプチャ、およびアプライアンスへのアップロードを行う対象となることが可能な、デバイス上のユーザー固有のファイルおよび設定。

### ユーザープロファイルの移行

ユーザー固有のファイルと設定を、オペレーティングシステムとアプリケーションと共にターゲットデバイスに転送します。

### USMTスキャンテンプレート

スキャンから除外するユーザー固有のファイルと設定を定義するテンプレート。

## V

### VNCパスワード

アプライアンスから起動中のターゲットデバイスへの接続を可能にする、アプライアンスに含まれているJava VNCクライアント。

### ボリュームKMS

KMSサーバーが管理およびホストするマルチシートライセンス。通常は、大企業がこのキーを使用します。

### ボリュームMAK

Microsoftが有効化および管理するマルチシートライセンス。ライセンス認証を完了するには、インターネットアクセスが必要です。通常は、中堅規模企業がこのキーを使用します。

## W

### **WIM ( Windowsイメージファイル形式 )**

Windowsオペレーティングシステムの標準インストール手順の一部で使用される、アプライアンスでサポートされるファイルベースのディスクイメージ形式。

### **Windows PE**

Windowsをインストールするコンピューターを準備し、ネットワークファイルサーバーからディスクイメージをコピーし、Windowsのセットアップを開始します。

### **WSName.exe**

テキストファイルを使用してWindowsターゲットデバイスの名前を変更する、アプライアンスでサポートされるユーティリティ。

### **Windows ADK**

Windowsアセスメント&デプロイメントキット ( Windows ADK ) は、Windows 7以上およびWindows Server 2012コンピューターでKACEブート環境 ( KBE ) を構築するのに必要な一連のツールです。

# 当社について

---

Quest は、複雑化する IT 環境において、新しいテクノロジーの利点を現実のものにするソフトウェアソリューションを生み出しています。データベースとシステム管理から Active Directory と Office 365 の管理、サイバーセキュリティの回復力まで、Quest はお客様の次の IT の課題を今すぐ解決できるように支援します。世界中で、130,000 社以上の企業と Fortune 500 企業の 95% が、次の企業イニシアチブのプロアクティブな管理と監視を実施し、複雑なマイクロソフトの課題に対応する次のソリューションを見つけ、次の脅威に先んじるために、Quest を頼りにしています。Quest Software。今「次」に備える。詳細に関しては、「[www.quest.com](http://www.quest.com)」を参照してください。

## テクニカルサポートのリソース

Quest の有効なメンテナンス契約をお持ちのお客様、および試用版をお持ちのお客様は、テクニカルサポートをご利用いただけます。Quest サポート ポータルは、<https://support.quest.com> からアクセスできます。

サポートポータルは、問題を迅速に自身で解決するのに使用できるセルフヘルプツールを提供しており、毎日24時間アクセスできます。このサイトでは、以下の操作を実行できます。

- サービスリクエストの送信と管理
- サポート技術情報記事の表示
- 製品情報への登録
- ソフトウェアと技術文書のダウンロード
- 説明ビデオの再生
- コミュニティの討論への参加
- サポートエンジニアとのオンラインチャット
- 製品のサポートサービスの表示

© 2022 Quest Software Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

This guide contains proprietary information protected by copyright. The software described in this guide is furnished under a software license or nondisclosure agreement. This software may be used or copied only in accordance with the terms of the applicable agreement. No part of this guide may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying and recording for any purpose other than the purchaser's personal use without the written permission of Quest Software Inc.

The information in this document is provided in connection with Quest Software products. No license, express or implied, by estoppel or otherwise, to any intellectual property right is granted by this document or in connection with the sale of Quest Software products. EXCEPT AS SET FORTH IN THE TERMS AND CONDITIONS AS SPECIFIED IN THE LICENSE AGREEMENT FOR THIS PRODUCT, QUEST SOFTWARE ASSUMES NO LIABILITY WHATSOEVER AND DISCLAIMS ANY EXPRESS, IMPLIED OR STATUTORY WARRANTY RELATING TO ITS PRODUCTS INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTY OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NON-INFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL QUEST SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, CONSEQUENTIAL, PUNITIVE, SPECIAL OR INCIDENTAL DAMAGES (INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, DAMAGES FOR LOSS OF PROFITS, BUSINESS INTERRUPTION OR LOSS OF INFORMATION) ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS DOCUMENT, EVEN IF QUEST SOFTWARE HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. Quest Software makes no representations or warranties with respect to the accuracy or completeness of the contents of this document and reserves the right to make changes to specifications and product descriptions at any time without notice. Quest Software does not make any commitment to update the information contained in this document.

If you have any questions regarding your potential use of this material, contact:

Quest Software Inc.

Attn: LEGAL Dept

4 Polaris Way

Aliso Viejo, CA 92656

Refer to our Web site (<https://www.quest.com>) for regional and international office information.

## Patents

Quest Software is proud of our advanced technology. Patents and pending patents may apply to this product. For the most current information about applicable patents for this product, please visit our website at <https://www.quest.com/legal>.

## Trademarks

Quest, the Quest logo, Join the Innovation, and KACE are trademarks and registered trademarks of Quest Software Inc. For a complete list of Quest marks, visit <https://www.quest.com/legal/trademark-information.aspx>. All other trademarks and registered trademarks are property of their respective owners.

## 凡例

-  **注意:** 注意アイコンは、指示に従わなかった場合に、ハードウェアの損傷やデータ損失につながる可能性があることを示します。
-  **重要、注、ヒント、モバイル、またはビデオ:** 情報アイコンは、補足情報を表しています。

KACEシステム展開アプライアンス管理者ガイド

更新日 - 2022年3月30日

ソフトウェアバージョン - 9.0

## A

### Apple証明書エラー

有効期限切れ証明書エラーの解決 165

## D

### DHCP

DHCPサーバーの有効化 54  
オフボードサーバーの設定 55

### DiskPartスクリプト

共通コマンドの使用 129

## I

### iPXEコンソール

iPXEコンソールへのカスタムバックグラウンドイメージの追加 29  
カスタムバックグラウンドイメージの追加 29

## K

### KACEシステム管理アプライアンス

KUIDをエージェントに適用 71  
インベントリへの展開 70

### KACEペータプログラム

通知を有効にする 38

### KBE

Linux KBEの構築 78  
PXEブートメニューからブート環境を非表示にする 79  
Windows KBEの構築 77  
Windows KBEの構築、ベストプラクティス 80  
デフォルトの設定 79, 175  
必要なツール 77

### KUID

ポストインストールタスクとして適用 71

## L

### LDAP

サーバー設定 45

### LDAPサーバー

外部LDAPサーバーの使用 44

## M

### Macイメージ

キャプチャ 166  
キャプチャ実行前のイメージのカスタマイズ 166  
展開前のカスタマイズ 167

### Macイメージの展開

ByHost環境設定ポストインストールタスクの追加 168  
KACE環境変数の実行 170  
Mac OS X用のメディアマネージャのダウンロード 164  
NetBootイメージの作成 165  
NetBootサーバーの有効化 165  
ユニキャスト展開の実行 170

### Macデバイス

Active Directoryドメインへの参加 169  
コンピューター名の収集 168, 168  
コンピューター名の適用 169  
サブネットをまたがる起動 164  
次回起動時に展開の開始 171  
デバイス名の変更 169  
展開の進行状況の表示 171  
展開へのデバイスの追加 171  
マルチキャストOS Xログファイルの表示 172  
マルチキャストタイムアウトの変更 171  
マルチキャスト展開について 170  
マルチキャスト伝送速度の変更 171

## R

### RSA

リンク 38

## S

### SSL

証明書 50

Sysprep実行済みのunattend.xmlのコンテンツの表示 105

## U

### UEFIデバイス

UEFIパーティションの作成 97  
UEFIパーティションの適用 98

### USMT

アプライアンスからのアップロード 110  
メディアマネージャからのアップロード 110

## V

### VNC

パスワードの設定 28

## W

### WIM イメージ

新しいイメージをサーバから展開 150, 151  
新しいイメージをサーバにキャプチャ 150

### Windowsアセスメント&デプロイメントキット (ADK)

ダウンロードとインストール 62

## あ

### アクションアイコン

- アクションアイコンによるVNCセッションの開始 74
- デバイスでのアクションの実行 74
- デフォルトプログラムの設定 74
- ビルトインプログラムについて 73

### アップロード

- OSインストールのソースメディア 62

### アプライアンス

- 移行 41, 41

### アプライアンスの移行 41, 41

### アプライアンスの更新 204

- 自動での更新の確認と適用 204
- 手動更新の実行 205
- ソフトウェアバージョンの表示 204
- ダウンロードしたファイルから更新 205

### アプライアンスの設定 22

- Eメール通知の設定 31
- アプライアンスシステムクロックの同期 29
- 基本的なデータ使用率の共有 37
- 詳細な使用率データの共有 37
- データ共有について 37
- デフォルトパスワードの変更 25
- ネットワーク設定の構成 22
- ネットワークの初期設定の修正 23
- 日付と時刻の変更 29
- ファイルの管理 30
- ベータ版の通知を受信 38
- ユーザーインターフェイス通知の設定 34
- リンクアグリゲーションを有効にする 36

### アプライアンスファイルシステム

- 管理 30

## い

### イメージ

- KBEメインメニューからのキャプチャ 95
- K-Imageの編集 99
- Sysprep実行 102, 102, 105
- unattend.xmlのコンテンツの表示 105
- unattend.xmlの作成 102
- WIMイメージのインポート 100, 100
- WIMイメージのキャプチャ 95, 98
- WIMイメージの編集 99
- キャプチャ 95
- キャプチャの準備 95
- システムイメージのキャプチャ、Windowsのためのベストプラクティス 106, 106

### イメージのSysprepを実行 102

- unattend.xmlのコンテンツの表示 105
- イメージのSysprepを実行するためのunattend.xmlの作成 102

### イメージのSysprepを実行するためのunattend.xmlの作成 102, 102

### インストール

- RSA 174
- 仮想ディスク領域の設定 174

### インストール中のタスク

- ターゲットデバイスの名前変更 133

### インポート

- コンポーネント 181

- ファイル命名規則 183

## え

### エクスポート

- コンポーネント 182
- ファイル命名規則 183
- スケジュール 179
- リモートサイトへのパッケージの転送 180

### エラー処理

- エラー発生時の処理の続行の設定 142
- エラー発生時のプロンプトの表示の設定 142
- ターゲットデバイスでのキャンセルボタンの表示 142

## お

### オフボードアクセス

- 有効化 52

### オフボードストレージ

- KACEシステム展開アプライアンスとRSAデータの移行 188
- 仮想アプライアンスデータの移行 187
- 仮想ディスクの追加 188
- 仮想ディスクの容量について 188
- データの復元 188
- ネットワークストレージデバイスの設定 189
- ベストプラクティス 190

### オフライン展開 162

- オフライン展開の作成 162

### オフライン展開の作成 162

## か

### 外部ストレージ

- アプライアンスデータの移行 189
- 仮想アプライアンスデータの移行 188
- データの復元 188
- デバイスのストレージ容量について 189, 190
- ベストプラクティス 190

### カスタムHAL置換タスク

- 中レベルのタスクとして追加 127

### カスタム展開 160

- カスタム展開の作成 160
- カスタム展開の変更 160

### カスタム展開の作成 160

### カスタム展開の変更 160

## き

### 起動マネージャ

- インターフェイスの選択 157
- タイムアウトの変更 157, 195
- デバイスネットワーク起動のテスト 195
- デフォルトのタイムアウトについて 195
- トラブルシューティング 194

## け

### 言語設定

- オプションフォントサポート 19

### 検索

- オンラインヘルプ 17
- マニュアル 17
- リスト 16

## こ

### コマンドラインコンソール

パスワードの変更 26

### コミュニティ文字列

固有の文字列の作成 50

### コンポーネント

インポートとエクスポート 179

## さ

### サービスバック

ポストインストールタスクとしてインストール 137

### 削除

システムイメージ 186

ソースメディア 187

ブート環境 186

プレインストールタスク 187

ポストインストールタスク 187

割り当て済みのスクリプト形式のインストール 186

## し

### システムイメージ

K-Imageについて 65

UEFIイメージについて 65

WIMイメージについて 65

削除 186

使用されていないものの削除 185

### システムイメージのキャプチャ 95

### システムイメージのキャプチャ、Windowsのためのベストプラクティス 106

### 実行時環境

概要 141

### 失敗したタスク

Tasks.xmlファイルの編集 154

再試行 154

編集 154

### 自動展開

イメージ詳細の表示 155

展開の進行状況の表示 154

展開ログの表示 154

### 手動展開 156

KBEからのイメージの展開 157

完了した展開の表示 159

起動可能なフラッシュデバイスの作成 156

起動マネージャのタイムアウトの変更 157

進行中の展開の表示 158

デバイスのネットワーク起動 157

## す

### スクリプト形式のインストール

KBEから非表示 122

新しいスクリプト形式のインストールの追加 116

応答ファイルの作成 117

設定ファイルの作成 117

ソースメディアの変更 122

ベストプラクティス 116

編集 116

割り当ての削除 186

### スクリプト形式のインストールのセットアップファイル

Windowsコンポーネント設定について 122

一般設定の構成 120

管理者アカウント設定の追加 120

設定ファイルの修正 123

登録データの設定の追加 119

ネットワーク設定の構成 121

### スケジュール

エクスポート 179

## せ

### セキュリティ設定 50

SNMP監視の有効化 50

SSHの有効化 52

SSLの無効化 52

SSLの有効化 50

オフボードアクセスの有効化 52

証明書の生成 51

総当たり攻撃の防止 53

プライベートSSLキーの生成 51

## そ

### 総当たり攻撃

回避 53

### ソースメディア

clientdrop共有からアップロード 63

ISOファイルclientdrop共有からアップロード 63

OSのフィンガープリント 64

削除 187

ソースメディアOSのフィンガープリント 64

ソースメディア詳細の表示 64

ソースメディア名の修正 64

ソースメディアメタデータの修正 64

ソースメディアメタデータの表示 64

### ソフトウェアバージョン

アプライアンスの表示 204

## た

### ターミナルウィンドウインタフェース 26

### タスクグループ

カスタム展開への割り当て 145

システムの展開への割り当て 142

スクリプト形式のインストール展開への割り当て 144

追加 140, 140

### タスクシーケンス

作成 124

タスクグループの追加 140

ビルトインの中レベルタスクの追加 124

ビルトインプレインストールタスクの追加 124

ビルトインポストインストールタスクの追加 124

### ダッシュボード

概要 21

カスタマイズ 21

## ち

### チケット

拡張機能の要求 194

作成と送信 194

## 中レベルのタスク

- PowerShellタスクの追加 136
- Windowsスクリプトの追加 139
- アプリケーションの追加 125
- カスタムHAL置換タスクの追加 127
- カスタム展開への割り当て 145
- 管理対象インストールの追加 129, 131
- シェルスクリプトの追加 138
- システムの展開への割り当て 142
- スクリプト形式のインストール展開への割り当て 144
- バッチスクリプトとして追加 126

## つ

### 通知

- Eメール通知の設定 31
- ユーザーインターフェイス通知の設定 34

## て

### ディスク容量の管理

- Cドライブのフォーマット 97
- システムイメージの削除 186
- ソースメディアの削除 187
- ブート環境の削除 186
- プレインストールタスクの削除 187
- ポストインストールタスクの削除 187

### ディスク領域

- 空き領域の表示 185

### データ

- エクスポートとインポート 179

### デバイス

- csvファイルからのデバイスの追加 67
- KACEシステム管理アプライアンスインベントリ内のデバイスへの展開 70
- MACアドレスを使用しての追加 68
- Wake On LANの送信要求の発行 69
- 詳細の表示 70
- すべてのデバイスに対してネットワークをスキャン 67
- デバイスインベントリについて 67
- デバイスインベントリの削除 72
- デバイスの登録解除 72
- 展開への追加 68
- 電源のオン 69
- ドライバ互換性レポートについて 70
- ネットワークインベントリについて 67
- ネットワークインベントリのアップロード 67
- ネットワークインベントリの削除 72
- ネットワーク上のすべてのデバイスをスキャン 68
- ネットワークスキャンの実行 67

### 展開

- Macデバイスのイメージ作成 164
- システムイメージの展開 65
- 自動展開について 65
- 手動展開について 65
- スクリプト形式のインストールの展開 65
- スケジュール 152
- 展開タイプの選択 65
- ブートアクションの削除 152
- マルチキャストWIM展開の作成 152

### 展開の準備

- DHCPサーバーの有効化 54
- 展開環境のセットアップ 54
- 展開ツールのダウンロード 54
- メディアマネージャのダウンロード 55

## と

### ドメイン

- デバイスの参加 69

### ドライバ

- KBEドライバ 86
  - ZIPファイルとしてアップロード 88, 94
  - アプライアンスへ 84
  - アプライアンスへのインストール 84
  - インポート 86, 90
  - エクスポート 91
  - 大きいファイルのインポート 85
  - オペレーティングシステムについて 92
  - 更新 79
  - 互換性レポートの表示 90
  - 再キャッシュ 87, 91
  - システムイメージに不足しているドライバのインストール 93
  - システムイメージへの追加 83
  - スクリプト形式のインストール展開への追加 83
  - ストレージドライバ
    - 手動で追加 86
    - デバイス固有のドライバ用のフォルダの作成 85
  - ドライバのインストール 84, 85, 88, 94
  - ドライバの追加
    - ストレージドライバ 86
    - ネットワークドライバ 86
  - ドライバフィードを有効にして更新を自動化する 84
  - ドライバを必要とするデバイスの表示 90
  - ネットワークおよびOSの管理 82
  - ネットワークドライバ
    - 手動で追加 86
    - ネットワークドライバのダウンロード 89
  - ネットワークについて 88
  - 不足しているドライバの表示 88
  - ポストインストールタスクとしてインストール 88, 94
  - モデルおよび製造元の名前の取得 92
- ### ドライバフィード
- システムイメージ用のドライバフィードの有効化 93
  - スクリプト形式のインストール用に有効化 92
  - ドライバパッケージのダウンロード 94
  - ドライバフィードを有効にして更新を自動化する 84
  - フォルダ構造 92
  - 無効化 85, 93

## トラブルシューティング 196

- KBEの回復メニューの使用 196
- PXEブート中断の防止 195
- tetherキーの取得 193
- アプライアンスデータのバックアップ 202
- アプライアンスの再起動 201
- アプライアンスのシャットダウンと再起動 200
- アプライアンスの電源をオフにする 201
- アプライアンスログファイルのダウンロード 196
- アプライアンスログファイルの表示 197
- 起動マネージャ 194
- チケットの作成と送信 194
- デバイスネットワーク起動のテスト 195
- デバイスの回復 196
- トラブルシューティングについて 192
- ネットワーク上のデバイスの検証 192
- 破損したデバイスの回復 196
- リモートテクニカルサポートの有効化 193
- ローカルハードディスク起動方法の選択 195

## に

### 認証

- LDAPサーバーの設定 45
- LDAPのテスト 47

## ね

### ネットワークスキャン

- IP範囲の設定 67
- 実行中 67
- ネットワーク上のアクティブなデバイスのみをスキャン 68
- ネットワーク上のすべてのデバイスをスキャン 68

## は

### パーティション

- 1つの起動パーティションの作成 128
- 新しいドライブの割り当て 128
- 新しいパーティションの作成 128
- データを消去するDiskPartスクリプトの実行 128

### はじめに

- アプライアンスコンポーネントについて 13
- アプライアンスの 19
- アプライアンスのデフォルトテーマ 19
- アプライアンスのデフォルトテーマの変更 19, 19
- アプライアンスへのログイン 14
- アプライアンスを使用するためのタスク 12
- 管理者パスワードの追加 14
- 言語設定の構成 19
- タイムゾーンの追加 14
- テーマ 19
- デフォルトテーマ 19
- 展開の準備 12
- 登録データの追加 14
- ネットワーク接続について 14
- ライセンスキーについて 14

### パスワード

- Samba共有の変更 27
- VNCの設定 28
- 管理者パスワードの変更 25
- 起動マネージャの認証を有効にする 28
- デフォルトパスワードの変更 25

## パッケージ

- サイズ制限 181
- 自動転送 180
- ドライバのダウンロードとインストール 94
- ドライバを含むパッケージについて 181
- ファイルの削除 180

### パッケージ管理

- index.xmlファイルについて 179
- アプライアンスコンポーネントのインポートとエクスポート 179
- インポート対象のパッケージのアップロード 181
- オフボードパッケージ転送の有効化 180
- コンポーネントのインポート 181
  - ファイル命名規則 183
- コンポーネントのエクスポート 179, 182
  - ファイル命名規則 183
- 使用できるパッケージの表示 181

### パッケージ管理キュー

- スケジュールされたジョブの表示 179
- ファイルの削除 180

## ひ

### 日付と時刻

- 設定 29

## ふ

### フィルタ

- リスト 16

### ブートアクション

- KBEでの起動 148
- イメージの削除 152
- 次のネットワーク起動時に実行 149
- デフォルトのブートアクションの設定 150
- 動作の定義 150
- ブートアクションの作成 148, 148
- ブートアクションの展開 148
- 変更 149

### ブート環境

- KBEまたはNetBootの削除 186

### ブレインストールタスク

- CドライブをNTFSとしてフォーマット 97
- DiskPartスクリプトの追加 128
- PowerShellタスクの追加 136
- Windows MBRのインストール 123
- Windowsスクリプトの追加 139
- XP MBRのインストール 123
- アプリケーションの追加 125
- カスタム展開への割り当て 145
- 削除 187
- シェルスクリプトの追加 138
- システムイメージ展開での編集 146
- システムの展開への割り当て 142
- シングルパーティションの作成 97
- スクリプト形式のインストール展開での編集 146
- スクリプト形式のインストール展開への割り当て 144
- ターゲットデバイス名の取得 133
- バッチスクリプトとして追加 126
- ファイルサイズの制限 141
- ファイルのアップロード 141
- ポストインストールタスク
  - システムイメージ展開での編集 146

スクリプト形式のインストール展開での編集 146

## へ

### ベータプログラム

通知を有効にする 38

ヘルプシステムおよびPDF 17

ヘルプシステムのPDF 17

## ほ

### ポストインストールタスク

KACEエージェントインストーラーの追加 138

KUIDをKACEエージェントに適用 71

PowerShellタスクの追加 136

Windowsスクリプトの追加 139

アプライアンスのリンク 130

アプリケーションの追加 125

カスタム展開への割り当て 145

管理対象インストールの追加 130, 130

管理対象インストールの表示 130

サービスパックのインストール 137

削除 187

シェルスクリプトの追加 138

システムの展開への割り当て 142

スクリプト形式のインストール展開への割り当て 144

ターゲットデバイスの名前変更 133

デバイスでのユーザープロファイルの読み込み 114

ドメインへの参加 69

バッチスクリプトとして追加 126

ファイルのアップロード

ファイルサイズの制限 141

プロビジョニングパッケージの追加 136

## ま

### マニュアル

ヘルプシステムの検索 17

### マルチキャスト展開

デフォルトマルチキャスト設定の編集 153

## め

### メディアマネージャ

OSインストールファイルのアップロード 62

概要 56

実行中 110

ダウンロード 55

メディアマネージャについて 56

## ゆ

### ユーザー

認証 44

### ユーザーアカウント

削除 47

認証 44

ローカル管理者の追加 44

### ユーザーセッション

確認 47, 49

場所 48

### ユーザープロファイル

.migファイルについて 115

USMTスキャンテンプレートの作成 111

オフラインでのキャプチャ 113

オンラインスキャン 112

キャプチャからのデータの除外 111

デバイスでの手動読み込み 115

デバイスでの読み込み 114

### ユーザープロファイルの管理

USMTスキャンテンプレートの作成 111

アプライアンスからのUSMTのアップロード 110

オンラインおよびオフラインのユーザープロファイル移行について 110

メディアマネージャからのUSMTのアップロード 110

## ら

### ライセンスキー

取得 14

### ラベル

アプライアンスからの削除 76

コンポーネントの削除 75

コンポーネントの整理 75

コンポーネントへの適用 75

ラベル別のコンポーネントの表示 76

## り

### リスト

検索 16

### リモートサイトアプライアンス (RSA)

KACEシステム展開アプライアンスのリンク相手の設定 176

KACEシステム展開アプライアンスへのリンク 175

インストール 174

機能 177

セットアップ 173, 173

ネットワーク設定の構成 174

要件 173, 173

### リンキングハッシュ文字列の生成 40

### リンク

RSAへのリンク 38

アプライアンスリンクの有効化 39

名前とキーの追加 40

リンク先アプライアンスの無効化 41

### リンクアグリゲーション

有効化 36

## ろ

### ローカル管理者

アカウントの追加 44

### ローカルドライブでの起動 148

### ローカル認証

デフォルトの使用 44

### ログファイル

表示 197